下田遺跡（2）

北関東自動車道（伊勢崎～県境）地域
埋蔵文化財発掘調査報告書

2008

東日本高速道路株式会社
財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団

下田遺跡（2）
北関東自動車道（伊勢崎～県境）地域
埋蔵文化財発掘調査報告書
二〇〇八
東日本高速道路株式会社
財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団

下田遺跡（2）

北関東自動車道（伊勢崎～県境）地域
埋蔵文化財発掘調査報告書

2008

東日本高速道路株式会社
財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

下田遺跡は伊勢崎市田部井町に所在し、北関東自動車道（伊勢崎～県境）建設に伴って平成１３年度から１５年度にかけて発掘調査が行われました。本遺跡の整理業務は平成１７年度から開始され、平成１８年度には隣接する下元屋敷遺跡や側道部分との合本で第１分冊が刊行されました。本書は二分冊中の第２分冊として、縄文時代の遺構・遺物を対象としております。

本遺跡は、大間々扇状地の第Ⅰ面と第Ⅱ面を分ける早川の低地帯に立地しています。この低湿地に縄文時代の集落が埋もれているとは、当初はまったく予期していませんでした。ところが発掘調査をしてみると大量の縄文土器が出土し、６３軒の住居跡が検出されました。側道部分を含めると７３軒になります。これらはすべて縄文時代中期後半から後期初頭のもので、まさに集落が各地で急増する時期に当たります。本遺跡は、伊勢崎市東部では曲沢遺跡や天ヶ堤遺跡に迫る規模を誇り、柄鏡形住居等の特徴的な遺構、遺物も多く検出されていて、縄文時代の集落を研究する上で貴重な遺跡です。

本報告書の刊行に至るまでには、東日本高速道路株式会社、群馬県教育委員会、伊勢崎市教育委員会、旧佐波郡東村教育委員会をはじめとする関係諸機関並びに地元関係者の方々に大変なご尽力を賜りました。ここに心から感謝申し上げますとともに、本書が地域史の解明と県民文化の振興に資するよう、学術研究や学習、教育の場で広く活用されますことを念願し、序といたします。

平成２０年７月

財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団
理 事 長　　高橋　勇夫

例　言

1．本報告書は、北関東自動車道（伊勢崎～県境）の建設工事に伴う、下田遺跡（遺跡略号ＫＴ－４２０）の発掘調査報告書であり、今回は二分冊中の第２分冊となる。

本整理事業では、下元屋敷・下田両遺跡の本線と側道を含めた全範囲の中で、二分冊で刊行することとなった。対象範囲の旧石器から中近世までの全時期の遺構・遺物の出土量を総合的に按分した結果、第２分冊でⅠ区・Ⅱ区の谷地以南の縄文時代を扱い、それ以外を第１分冊で扱うこととした。したがって「調査に至る経緯」、「調査の概要」、「遺跡の立地と環境」等について、本書に関わる部分もすでに第１分冊で記述されているため、本書では割愛する。

2．下田遺跡は、群馬県伊勢崎市田部井町３丁目（旧佐波郡東村大字田部井）に所在する。

3．事業主体　　東日本高速道路株式会社

4．調査期間　　平成１３年４月１日～平成１３年７月３１日、平成１３年１０月１日～平成１５年７月３１日

5．整理期間　　平成１７年４月１日～平成２０年３月３１日

6．調査・整理組織

事務担当：小野宇三郎、高橋勇夫、赤山容造、吉田　豊、木村裕紀、神保侑史、津金沢吉茂、水田　稔、能登　健、平野進一、住谷　進、萩原利通、矢崎俊夫、萩原　勉、西田健彦、中束耕志、真下高幸、大島信夫、植原恒夫、宮前結城雄、笠原秀樹、相京建史、関　晴彦、小山健夫、高橋房雄、竹内　宏、石井　清、須田朋子、吉田有光、柳岡良宏、森下弘美、片岡徳雄、田中賢一、今泉大作、佐藤聖行、栗原幸代、北野勝美、清水秀紀、齋藤恵利子、矢島一美、齋藤陽子、吉田恵子、並木綾子、内山佳子、本間久美子、北原かおり、狩野真子、佐藤美佐子、今井もと子、中澤恵子、金子三枝子、若田　誠、武藤秀典、松下次男、吉田　茂、蘇原正義

調査担当：山口逸弘、大西雅広、金子伸也、春山秀幸、渡辺弘幸、本間　昇、津島秀章、小室綾子、小暮育秀、齋藤　聡、齋藤幸男

整理担当：春山秀幸、齋藤幸男、小林　徹（本文執筆および編集）

整理補助：藤井文江、田中富美子、高橋尚子、小島佐恵子、高橋美恵子、大沢知代、山本千晶、星野幸江、石川裕美、荻野恵子、針谷友規、小川直子、桜井次男、湯浅美枝子、高見壽美子、巾千恵子、櫻澤幸直

遺構写真：発掘調査担当者

遺物写真：山際哲章、(有)アルケーリサーチ、佐藤元彦（当事業団）、小林　徹、藤井文江、高橋尚子

保存処理：関　邦一、土橋まり子、小材浩一、津久井桂一、多田ひさ子、森田智子、長岡久幸、小池　縁、生方茂美、田中のぶ子、野沢　健

機械実測：友廣裕子、酒井史恵、廣津真希子、田所順子、伊東博子、岸　弘子

デジタルトレース：小島佐恵子、高橋美恵子、山本千晶、小川直子、高梨由美子、下川陽子

デジタル組版：小島佐恵子、五十嵐由美子、牧野裕美

下記事項については、各氏にご教示をいただいた。(敬称略)

石材鑑定：飯島静男（群馬県地質研究会）　　石器分類：羽石智治（現つがる市教育委員会）

縄文土器分類：山口逸弘（当事業団）

石器実測・デジタルトレースの一部を（有）アルケーリサーチと（株）技研測量設計に、遺構図のデジタル編集並びに土器実測・トレースの一部を（株）シン技術コンサルに、それぞれ委託した。

7．発掘調査資料、出土遺物は群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。学術研究および学習・教育等の場での、幅広い活用が望まれる。

8．発掘調査および報告書作成には以下の方々にご指導、ご協力をいただきました。記して謝意を表します。

東日本高速道路株式会社、群馬県教育委員会、伊勢崎市（旧佐波郡東村）教育委員会ほか関係各機関、地元関係者各位、梅澤重昭、秋山道生、青木利文、小島通悦、中村真理、寒川　旭、穴澤義功、三奈木義博、松尾充晶、藤原尚樹、吉田利江、東山信治、鹿又喜隆（敬称略、順不同）

特に山際哲章氏には、デジタル編集全般について懇切丁寧なご指導、ご支援をいただきました。

富士見村立富士見中学校２年生（19年度）の片貝拓輝君、佐藤博紀君の両名には、学校の職場体験学習として、石器計量業務の一部を担ってもらいました。

また、発掘調査に従事していただいた皆様にも、あらためて謝意を表します。

凡　例

1．挿図中に使用した方位は、磁北ではなく座標北を示す。座標系は、国家座標第Ⅳ系である。個別遺構図中では座標値の下３桁を表記しているが、５桁表記の全体図と対応する。

なお、調査時には日本測地系を使用したため、本書も日本測地系を使用している。

2．遺構断面図下部に付した数値は測量の基準線（A-A' 等）の標高を表し、単位は「m」である。

3．遺構名称は、調査区（本線と測道は同じ区とみなす）ごとに種別により通し番号を付している。したがって、本書で報告するⅠ区、Ⅱ区については、第１分冊分も含めての通し番号である。

4．遺物番号は、遺構ごとに付している。

なお、遺構外出土遺物（グリッド、表採）については、第１分冊からの続き番号としている。

5．本書における遺構・遺物図にはそれぞれスケールを付したが、以下の縮尺を基本としている。

遺構・・炉、埋甕、遺物出土状況：１／３０　　・配石、集石、遺物集中：１／４０

・住居、土坑、柱穴：１／６０　　・住居周辺遺構：１／８０

遺物・・土器については、無表記のものは１／３とし、これ以外については挿図内に縮尺を記した。

石器については、種類によって以下の縮尺とし、原則は無表記としている。しかしこれと異なるものの他、紛らわしいものについても縮尺を記した。

・石鏃、ドリル、楔、コア（小）：１／１　　・　スクレイパー：１／２

・打製石斧、磨製石斧、コア（大）：１／３

・凹石、敲石、棒状礫、石棒：１／４　　・　台石、多孔石、石皿：１／６

遺物写真図版の縮尺は原則として遺物実測図に準ずるが、状況により変更している。

6．遺構図では、遺構の上端を太線、下端を細線で表している。

7．遺構図中に使用したスクリーントーン等は、下記の通りである。

焼土　　地山

8．遺構図中に使用したスクリーントーン等は、下記の通りである。

節理面　　磨面　　敲打痕面　　赤色塗彩　　摩耗痕　　砥面

9．遺物観察表の型式、胎土等、諸表で用いられる略称については、それぞれの表の末尾に凡例を記した。

目　　次

序
例言　凡例
目次
報告書抄録

第１章　下田遺跡の調査
　第１節　基本層序 …… 1
第２章　検出された遺構と遺物
　第１節　本文
　　第１項　住居 …… 8　　第２項　配石 …… 31
　　第３項　埋甕 …… 35　　第４項　土坑 …… 37
　　第５項　柱穴 …… 38　　第６項　遺物集中 …… 38
　　第７項　集石 …… 38　　第８項　遺構外出土遺物 …… 38
　第２節　図版
　　・Ⅰ区住居 …… 41　　・Ⅱ区住居 …… 80
　　・Ⅰ区・Ⅱ区配石 …… 162　　・Ⅰ区・Ⅱ区埋甕 …… 171
　　・Ⅰ区土坑 …… 176　　・Ⅱ区土坑 …… 192
　　・Ⅰ区・Ⅱ区柱穴、遺物集中、集石 …… 260
　　・遺構外出土土器 …… 266　　・遺構外出土石器 …… 360
　第３節　遺構計測表
　　・土坑一覧表 …… 374　　・柱穴、住居柱穴・住居内土坑計測表 …… 383
　第４節　遺物観察表
　　・土器観察表 …… 386　　・石器観察表 …… 444
第３章　まとめ
　第１節　下田遺跡の出土石器について …… 450
　第２節　下田遺跡の埋設土器について …… 459
　第３節　下田遺跡の住居の変遷について …… 461

付　編　分析結果
・下田遺跡の自然科学分析 …… 469

写真図版
奥付

表　目　次

表 1　配石分類一覧表 …… 31
表 2　埋甕分類一覧表 …… 35
表 3　遺構外土器型式別比率表 …… 40
表 4　土坑一覧表 …… 374
表 5　柱穴計測表 …… 383
表 6　住居柱穴・住居内土坑計測表 …… 383
表 7　土器観察表 …… 386
表 8　石器観察表 …… 444
表 9　住居出土石器総点数表 …… 451
表 10　掲載石器　器種・石材集計表 …… 452
表 11　出土石器組成表 …… 453
表 12　Ⅰ区・Ⅱ区出土石器組成表 …… 453
表 13　Ⅰ区・Ⅱ区遺構別・グリッド別出土石器組成表 …… 454
表 14　埋設土器一覧表 …… 459
表 15　Ⅰ区・Ⅱ区・2区住居一覧表 …… 467

挿図目次

第 1 図　下田遺跡基本土層 …… 1
第 2 図　下田遺跡縄文時代遺構全体図 …… 1
第 3 図　下田遺跡Ⅰ区・Ⅱ区遺構全体図 (1/800) …… 2
第 4 図　下田遺跡住居、配石、埋甕等全体図 (1)(1/300) …… 3
第 5 図　下田遺跡住居、配石、埋甕等全体図 (2)(1/300) …… 4
第 6 図　下田遺跡主要部遺構全体図 (1)(1/200) …… 5
第 7 図　下田遺跡主要部遺構全体図 (2)(1/200) …… 6
第 8 図　下田遺跡主要部遺構全体図 (3)(1/200) …… 7
第 9 図　遺構外土器出土状況 …… 39
第 10 図　Ⅰ区 1 号住居跡 (1) 及び出土遺物 (1) …… 41
第 11 図　Ⅰ区 1 号住居跡 (2) 及び炉、出土遺物 (2) …… 42
第 12 図　Ⅰ区 2 号住居跡 (1) 及び出土遺物 (1) …… 43
第 13 図　Ⅰ区 2 号住居跡 (2) 及び出土遺物 (2) …… 44
第 14 図　Ⅰ区 2 号住居跡出土遺物 (3) …… 45
第 15 図　Ⅰ区 3 号住居跡 (1) 及び住居内埋甕 …… 46
第 16 図　Ⅰ区 3 号住居跡 (2) …… 47
第 17 図　Ⅰ区 3 号住居跡出土遺物 (1) …… 48
第 18 図　Ⅰ区 3 号住居跡出土遺物 (2) …… 49
第 19 図　Ⅰ区 4 号住居跡 (1) 及び炉、敷石 …… 50
第 20 図　Ⅰ区 4 号住居跡 (2) 及び出土遺物 (1) …… 51
第 21 図　Ⅰ区 5 号住居跡 …… 52
第 22 図　Ⅰ区 5 号住居跡炉・下部土坑及び出土遺物 (1) …… 53
第 23 図　Ⅰ区 5 号住居跡出土遺物 (2) …… 54
第 24 図　Ⅰ区 6 号住居跡及び出土遺物 (1) …… 55
第 25 図　Ⅰ区 6 号住居跡出土遺物 (2) …… 56
第 26 図　Ⅰ区 6 号住居跡出土遺物 (3) …… 57
第 27 図　Ⅰ区 6 号住居跡出土遺物 (4) …… 58
第 28 図　Ⅰ区 7 号住居跡 …… 59
第 29 図　Ⅰ区 7 号住居跡炉及び出土遺物 …… 60
第 30 図　Ⅰ区 8 号住居跡 …… 61
第 31 図　Ⅰ区 8 号住居跡炉及び出土遺物 (1) …… 62
第 32 図　Ⅰ区 8 号住居跡出土遺物 (2) …… 63
第 33 図　Ⅰ区 9 号住居跡及び炉 …… 64
第 34 図　Ⅰ区 9 号住居跡出土遺物 (1) …… 65
第 35 図　Ⅰ区 9 号住居跡出土遺物 (2) …… 66
第 36 図　Ⅰ区 9 号住居跡出土遺物 (3) …… 67
第 37 図　Ⅰ区 11 号住居跡炉及び出土遺物 (1) …… 68
第 38 図　Ⅰ区 11 号住居跡出土遺物 (2)、11 号・16 号住居跡周辺遺構図 …… 69
第 39 図　Ⅰ区 13 号住居跡及び遺物分布図 …… 70
第 40 図　Ⅰ区 13 号住居跡炉及び出土遺物 (1) …… 71
第 41 図　Ⅰ区 13 号住居跡出土遺物 (2) …… 72
第 42 図　Ⅰ区 13 号住居跡出土遺物 (3)、13 号住居跡周辺遺構図 …… 73
第 43 図　Ⅰ区 14 号住居跡 …… 74
第 44 図　Ⅰ区 14 号住居跡炉及び出土遺物 (1) …… 75
第 45 図　Ⅰ区 14 号住居跡出土遺物 (2) …… 76
第 46 図　Ⅰ区 15 号住居跡炉及び出土遺物、15 号住居跡周辺遺構図 …… 77
第 47 図　Ⅰ区 16 号住居跡及び炉、出土遺物 (1) …… 78
第 48 図　Ⅰ区 16 号住居跡出土遺物 (2) …… 79
第 49 図　Ⅱ区 1 号住居跡及び炉、出土遺物 (1) …… 80
第 50 図　Ⅱ区 1 号住居跡出土遺物 (2) …… 81
第 51 図　Ⅱ区 1 号住居跡出土遺物 (3) …… 82
第 52 図　Ⅱ区 1 号住居跡出土遺物 (4) …… 83
第 53 図　Ⅱ区 2 号住居跡及び炉、出土遺物 (1) …… 84
第 54 図　Ⅱ区 2 号住居跡出土遺物 (2) …… 85
第 55 図　Ⅱ区 3 号住居跡 (1) 及び住居内埋甕 …… 86
第 56 図　Ⅱ区 3 号住居跡 (2) 及び炉・炉掘り方 …… 87
第 57 図　Ⅱ区 3 号住居跡 (3) 及び遺物出土状況、出土遺物 (1) …… 88
第 58 図　Ⅱ区 3 号住居跡出土遺物 (2) …… 89
第 59 図　Ⅱ区 4 号住居跡及び炉、出土遺物 …… 90
第 60 図　Ⅱ区 5 号住居跡 …… 91
第 61 図　Ⅱ区 5 号住居跡炉及び、出土遺物 …… 92
第 62 図　Ⅱ区 6 号住居跡 (1) 及び炉・住居内埋甕 …… 93
第 63 図　Ⅱ区 6 号住居跡 (2) 及び出土遺物 (1) …… 94
第 64 図　Ⅱ区 6 号住居跡 (3) 及び出土遺物 (2) …… 95
第 65 図　Ⅱ区 6 号住居跡出土遺物 (3) …… 96
第 66 図　Ⅱ区 6 号住居跡出土遺物 (4) …… 97
第 67 図　Ⅱ区 7 号住居跡及び炉・住居内埋甕 …… 98
第 68 図　Ⅱ区 7 号住居跡出土遺物 …… 99
第 69 図　Ⅱ区 9 号住居跡 …… 100
第 70 図　Ⅱ区 9 号住居跡炉・住居内埋甕及び出土遺物 (1) …… 101
第 71 図　Ⅱ区 9 号住居跡出土遺物 (2) …… 102
第 72 図　Ⅱ区 10 号住居跡 …… 103
第 73 図　Ⅱ区 10 号住居跡炉及び出土遺物 (1) …… 104
第 74 図　Ⅱ区 10 号住居跡出土遺物 (2) …… 105
第 75 図　Ⅱ区 10 号住居跡出土遺物 (3) …… 106

第 76 図　Ⅱ区 12 号住居跡及び出土遺物 …… 107
第 77 図　Ⅱ区 15 号住居及び炉、出土遺物 …… 108
第 78 図　Ⅱ区 16 号住居跡及び炉、出土遺物 (1) …… 109
第 79 図　Ⅱ区 17 号住居跡及び炉・住居内理畫、
出土遺物 …… 110
第 80 図　Ⅱ区 18 号住居跡及び住居内理畫 …… 111
第 81 図　Ⅱ区 18 号住居跡出土遺物・
16 号住居跡出土遺物 (2) …… 112
第 82 図　Ⅱ区 19 号住居跡 (1) 及び炉・住居内理畫　113
第 83 図　Ⅱ区 19 号住居跡 (2) 及び周辺遺構 …… 114
第 84 図　Ⅱ区 19 号住居跡出土遺物 (1) …… 115
第 85 図　Ⅱ区 19 号住居跡出土遺物 (2) …… 116
第 86 図　Ⅱ区 19 号住居跡出土遺物 (3) …… 117
第 87 図　Ⅱ区 20 号・21 号住居跡 …… 118
第 88 図　Ⅱ区 20 号住居跡炉・住居内理畫及び
出土遺物 (1) …… 119
第 89 図　Ⅱ区 20 号住居跡出土遺物 (2) …… 120
第 90 図　Ⅱ区 20 号住居跡出土遺物 (3)、
21 号住居跡出土遺物 (1) …… 121
第 91 図　Ⅱ区 21 号住居跡出土遺物 (2) …… 122
第 92 図　Ⅱ区 22 号住居跡及び炉、出土遺物 …… 123
第 93 図　Ⅱ区 23 号住居跡及び住居内理畫、
出土遺物 …… 124
第 94 図　Ⅱ区 24 号住居跡炉・住居内理畫及び出土遺物、
周辺遺構図 …… 125
第 95 図　Ⅱ区 25 号住居跡及び炉、出土遺物 (1) …… 126
第 96 図　Ⅱ区 25 号住居跡出土遺物 (2)、
周辺遺構図 …… 127
第 97 図　Ⅱ区 26 号住居跡及び炉、出土遺物 …… 128
第 98 図　Ⅱ区 27 号住居跡及び炉・遺物出土状況、
出土遺物 …… 129
第 99 図　Ⅱ区 28 号住居跡 …… 130
第 100 図　Ⅱ区 28 号住居跡炉及び出土遺物 (1) …… 131
第 101 図　Ⅱ区 28 号住居跡出土遺物 (2) …… 132
第 102 図　Ⅱ区 28 号住居跡出土遺物 (3) …… 133
第 103 図　Ⅱ区 29 号住居跡及び炉、出土遺物 …… 134
第 104 図　Ⅱ区 30 号住居跡及び炉 …… 135
第 105 図　Ⅱ区 30 号住居跡出土遺物 (1) …… 136
第 106 図　Ⅱ区 30 号住居跡出土遺物 (2) …… 137
第 107 図　Ⅱ区 30 号住居跡出土遺物 (3) …… 138
第 108 図　Ⅱ区 30 号住居跡出土遺物 (4) …… 139
第 109 図　Ⅱ区 31 号住居跡及び床下、上面遺物出土状況、
出土遺物 (1) …… 140
第 110 図　Ⅱ区 31 号住居跡出土遺物 (2) …… 141
第 111 図　Ⅱ区 31 号住居跡出土遺物 (3) …… 142
第 112 図　Ⅱ区 32 号住居跡及び炉、出土遺物 …… 143
第 113 図　Ⅱ区 33 号住居跡及び炉・住居内理畫 …… 144
第 114 図　Ⅱ区 33 号住居跡出土遺物、周辺遺構図 …… 145
第 115 図　Ⅱ区 44 号住居跡及び炉・出土遺物 …… 146
第 116 図　Ⅱ区 45 号住居跡及び炉・出土遺物 …… 147
第 117 図　Ⅱ区 46 号住居跡及び炉・住居内理畫、
出土遺物 (1) …… 148
第 118 図　Ⅱ区 46 号住居跡出土遺物 (2)、
周辺遺構図 …… 149
第 119 図　Ⅱ区 47 号住居跡及び住居内理畫、
出土遺物 …… 150
第 120 図　Ⅱ区 48 号・49 号住居跡周辺及び炉 …… 151
第 121 図　Ⅱ区 48 号住居跡 …… 152
第 122 図　Ⅱ区 48 号住居跡出土遺物、
Ⅱ区 12 号配石 …… 153
第 123 図　Ⅱ区 49 号住居跡及び出土遺物 …… 154
第 124 図　Ⅱ区 50 号住居跡及び住居内理畫、
出土遺物 (1) …… 155
第 125 図　Ⅱ区 51 号住居跡及び炉、出土遺物 …… 156
第 126 図　Ⅱ区 52 号住居跡及び炉 …… 157
第 127 図　Ⅱ区 52 号住居跡出土遺物、
50 号住居出土遺物 (2) …… 158
第 128 図　Ⅱ区 53 号住居跡及び炉・住居内理畫、
出土遺物 (1) …… 159
第 129 図　Ⅱ区 54 号住居跡 …… 160
第 130 図　Ⅱ区 54 号住居跡出土遺物、
53 号住居跡出土遺物 (2) …… 161
第 131 図　Ⅰ区配石 …… 162
第 132 図　Ⅰ区配石出土遺物及び 6 号配石周辺遺構 …… 163
第 133 図　Ⅱ区配石及び出土遺物 (1) …… 164
第 134 図　Ⅱ区配石及び出土遺物 (2) …… 165
第 135 図　Ⅱ区配石及び出土遺物 (3) …… 166
第 136 図　Ⅱ区配石及び出土遺物 (4) …… 167
第 137 図　Ⅱ区配石及び出土遺物 (5) …… 168
第 138 図　Ⅱ区配石 (6) …… 169
第 139 図　Ⅱ区配石及び出土遺物 (7) …… 170
第 140 図　Ⅰ区理畫及び出土遺物 (1) …… 171
第 141 図　Ⅰ区理畫及び出土遺物 (2)、
Ⅰ区西部遺構全体図 …… 172
第 142 図　Ⅱ区理畫及び出土遺物 (1) …… 173
第 143 図　Ⅱ区理畫及び出土遺物 (2) …… 174
第 144 図　Ⅱ区理畫及び出土遺物 (3)、Ⅲ区理畫出土遺物
…… 175
第 145 図　下田遺跡土坑・柱穴全体図 (1)(1/200) …… 176
第 146 図　下田遺跡土坑・柱穴全体図 (2)(1/200) …… 177
第 147 図　下田遺跡土坑・柱穴全体図 (3)(1/200) …… 178
第 148 図　Ⅰ区縄文時代土坑 (1) …… 179
第 149 図　Ⅰ区縄文時代土坑 (2) …… 180
第 150 図　Ⅰ区縄文時代土坑 (3) …… 181
第 151 図　Ⅰ区縄文時代土坑 (4) …… 182
第 152 図　Ⅰ区縄文時代土坑 (5) …… 183
第 153 図　Ⅰ区縄文時代土坑 (6) …… 184
第 154 図　Ⅰ区縄文時代土坑出土遺物 (1) …… 185
第 155 図　Ⅰ区縄文時代土坑出土遺物 (2) …… 186
第 156 図　Ⅰ区縄文時代土坑出土遺物 (3) …… 187
第 157 図　Ⅰ区縄文時代土坑出土遺物 (4) …… 188
第 158 図　Ⅰ区縄文時代土坑出土遺物 (5) …… 189

第159図　Ⅰ区縄文時代土坑出土遺物(6)……190
第160図　Ⅰ区縄文時代土坑出土遺物(7)……191
第161図　Ⅱ区縄文時代土坑(1)……192
第162図　Ⅱ区縄文時代土坑(2)……193
第163図　Ⅱ区縄文時代土坑(3)……194
第164図　Ⅱ区縄文時代土坑(4)……195
第165図　Ⅱ区縄文時代土坑(5)……196
第166図　Ⅱ区縄文時代土坑(6)……197
第167図　Ⅱ区縄文時代土坑(7)……198
第168図　Ⅱ区縄文時代土坑(8)……199
第169図　Ⅱ区縄文時代土坑(9)……200
第170図　Ⅱ区縄文時代土坑(10)……201
第171図　Ⅱ区縄文時代土坑(11)……202
第172図　Ⅱ区縄文時代土坑(12)……203
第173図　Ⅱ区縄文時代土坑(13)……204
第174図　Ⅱ区縄文時代土坑(14)……205
第175図　Ⅱ区縄文時代土坑(15)……206
第176図　Ⅱ区縄文時代土坑(16)……207
第177図　Ⅱ区縄文時代土坑(17)……208
第178図　Ⅱ区縄文時代土坑(18)……209
第179図　Ⅱ区縄文時代土坑(19)……210
第180図　Ⅱ区縄文時代土坑(20)……211
第181図　Ⅱ区縄文時代土坑(21)……212
第182図　Ⅱ区縄文時代土坑(22)……213
第183図　Ⅱ区縄文時代土坑(23)……214
第184図　Ⅱ区縄文時代土坑(24)……215
第185図　Ⅱ区縄文時代土坑(25)……216
第186図　Ⅱ区縄文時代土坑(26)……217
第187図　Ⅱ区縄文時代土坑(27)……218
第188図　Ⅱ区縄文時代土坑(28)……219
第189図　Ⅱ区縄文時代土坑(29)……220
第190図　Ⅱ区縄文時代土坑(30)……221
第191図　Ⅱ区縄文時代土坑(31)……222
第192図　Ⅱ区縄文時代土坑(32)……223
第193図　Ⅱ区縄文時代土坑(33)……224
第194図　Ⅱ区縄文時代土坑(34)……225
第195図　Ⅱ区縄文時代土坑(35)……226
第196図　Ⅱ区縄文時代土坑(36)……227
第197図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物(1)……228
第198図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物(2)……229
第199図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物(3)……230
第200図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物(4)……231
第201図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物(5)……232
第202図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物(6)……233
第203図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物(7)……234
第204図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物(8)……235
第205図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物(9)……236
第206図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物(10)……237
第207図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物(11)……238
第208図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物(12)……239
第209図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物(13)……240
第210図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物(14)……241
第211図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物(15)……242
第212図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物(16)……243
第213図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物(17)……244
第214図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物(18)……245
第215図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物(19)……246
第216図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物(20)……247
第217図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物(21)……248
第218図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物(22)……249
第219図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物(23)……250
第220図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物(24)……251
第221図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物(25)……252
第222図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物(26)……253
第223図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物(27)……254
第224図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物(28)……255
第225図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物(29)……256
第226図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物(30)……257
第227図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物(31)……258
第228図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物(32)……259
第229図　Ⅱ区縄文時代柱穴(1)……260
第230図　Ⅱ区縄文時代柱穴(2)……261
第231図　Ⅱ区縄文時代柱穴出土遺物……262
第232図　Ⅰ区遺物集中、南壁トレンチ出土遺物……263
第233図　Ⅱ区集石及び出土遺物(1)……264
第234図　Ⅱ区集石及び出土遺物(2)……265
第235図　Ⅰ区縄文時代遺構外出土遺物(1)……266
第236図　Ⅰ区縄文時代遺構外出土遺物(2)……267
第237図　Ⅰ区縄文時代遺構外出土遺物(3)……268
第238図　Ⅰ区縄文時代遺構外出土遺物(4)……269
第239図　Ⅰ区縄文時代遺構外出土遺物(5)……270
第240図　Ⅰ区縄文時代遺構外出土遺物(6)……271
第241図　Ⅰ区縄文時代遺構外出土遺物(7)……272
第242図　Ⅰ区縄文時代遺構外出土遺物(8)……273
第243図　Ⅰ区縄文時代遺構外出土遺物(9)……274
第244図　Ⅰ区縄文時代遺構外出土遺物(10)……275
第245図　Ⅰ区縄文時代遺構外出土遺物(11)……276
第246図　Ⅰ区縄文時代遺構外出土遺物(12)……277
第247図　Ⅰ区縄文時代遺構外出土遺物(13)……278
第248図　Ⅰ区縄文時代遺構外出土遺物(14)……279
第249図　Ⅰ区縄文時代遺構外出土遺物(15)……280
第250図　Ⅰ区縄文時代遺構外出土遺物(16)……281
第251図　Ⅰ区縄文時代遺構外出土遺物(17)……282
第252図　Ⅰ区縄文時代遺構外出土遺物(18)……283
第253図　Ⅰ区縄文時代遺構外出土遺物(19)……284
第254図　Ⅰ区縄文時代遺構外出土遺物(20)……285
第255図　Ⅰ区縄文時代遺構外出土遺物(21)……286
第256図　Ⅰ区縄文時代遺構外出土遺物(22)……287
第257図　Ⅰ区縄文時代遺構外出土遺物(23)……288
第258図　Ⅰ区縄文時代遺構外出土遺物(24)……289
第259図　Ⅰ区縄文時代遺構外出土遺物(25)……290
第260図　Ⅰ区縄文時代遺構外出土遺物(26)……291

第261図　Ⅰ区縄文時代遺構外出土遺物(27)……292
第262図　Ⅰ区縄文時代遺構外出土遺物(28)……293
第263図　Ⅰ区縄文時代遺構外出土遺物(29)……294
第264図　Ⅰ区縄文時代遺構外出土遺物(30)……295
第265図　Ⅰ区縄文時代遺構外出土遺物(31)……296
第266図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(1)……297
第267図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(2)……298
第268図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(3)……299
第269図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(4)……300
第270図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(5)……301
第271図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(6)……302
第272図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(7)……303
第273図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(8)……304
第274図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(9)……305
第275図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(10)……306
第276図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(11)……307
第277図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(12)……308
第278図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(13)……309
第279図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(14)……310
第280図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(15)……311
第281図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(16)……312
第282図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(17)……313
第283図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(18)……314
第284図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(19)……315
第285図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(20)……316
第286図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(21)……317
第287図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(22)……318
第288図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(23)……319
第289図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(24)……320
第290図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(25)……321
第291図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(26)……322
第292図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(27)……323
第293図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(28)……324
第294図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(29)……325
第295図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(30)……326
第296図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(31)……327
第297図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(32)……328
第298図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(33)……329
第299図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(34)……330
第300図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(35)……331
第301図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(36)……332
第302図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(37)……333
第303図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(38)……334
第304図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(39)……335
第305図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(40)……336
第306図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(41)……337
第307図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(42)……338
第308図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(43)……339
第309図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(44)……340
第310図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(45)……341
第311図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(46)……342
第312図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(47)……343
第313図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(48)……344
第314図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(49)……345
第315図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(50)……346
第316図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(51)……347
第317図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(52)……348
第318図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(53)……349
第319図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(54)……350
第320図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(55)……351
第321図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(56)……352
第322図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(57)……353
第323図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(58)……354
第324図　Ⅰ区、Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(59)……355
第325図　Ⅰ区、Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(60)……356
第326図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(61)……357
第327図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(62)……358
第328図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(63)……359
第329図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土遺物(64)・Ⅰ区石器(1)……360
第330図　Ⅰ区縄文時代遺構外出土石器(2)……361
第331図　Ⅰ区縄文時代遺構外出土石器(3)……362
第332図　Ⅰ区縄文時代遺構外出土石器(4)……363
第333図　Ⅰ区縄文時代遺構外出土石器(5)・Ⅱ区(1)……364
第334図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土石器(2)……365
第335図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土石器(3)……366
第336図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土石器(4)……367
第337図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土石器(5)……368
第338図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土石器(6)……369
第339図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土石器(7)……370
第340図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土石器(8)……371
第341図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土石器(9)……372
第342図　Ⅱ区縄文時代遺構外出土石器(10)……373
第343図　遺構外石器出土状況……450
第344図　下田遺跡時期別住居分布図……463
第345図　下田遺跡の柄鏡形住居……465

写真図版目次

PL 1　Ⅰ区1号～3号住居跡
PL 2　Ⅰ区4号・5号住居跡
PL 3　Ⅰ区5号・6号住居跡
PL 4　Ⅰ区6号～8号住居跡
PL 5　Ⅰ区8号～11号住居跡
PL 6　Ⅰ区11号～16号・Ⅱ区2号住居跡
PL 7　Ⅰ区14号～16号住居跡
PL 8　Ⅱ区1号～3号住居跡
PL 9　Ⅱ区2号・3号住居跡
PL 10　Ⅱ区3号・4号住居跡
PL 11　Ⅱ区5号・6号住居跡
PL 12　Ⅱ区6号・7号住居跡
PL 13　Ⅱ区7号住居跡

PL 14　Ⅱ区7号・9号住居跡
PL 15　Ⅱ区9号～16号住居跡
PL 16　Ⅱ区16号・17号住居跡
PL 17　Ⅱ区17号・18号住居跡
PL 18　Ⅱ区18号・19号住居跡
PL 19　Ⅱ区19号住居跡
PL 20　Ⅱ区19号・20号住居跡
PL 21　Ⅱ区20号～22号住居跡
PL 22　Ⅱ区22号・23号住居跡
PL 23　Ⅱ区23号～25号住居跡
PL 24　Ⅱ区25号・26号住居跡
PL 25　Ⅱ区26号～28号住居跡
PL 26　Ⅱ区28号・29号住居跡
PL 27　Ⅱ区29号住居跡
PL 28　Ⅱ区30号・31号住居跡
PL 29　Ⅱ区31号・32号住居跡
PL 30　Ⅱ区32号・33号住居跡
PL 31　Ⅱ区33号・44号・45号住居跡
PL 32　Ⅱ区45号・46号住居跡
PL 33　Ⅱ区46号～49号住居跡
PL 34　Ⅱ区48号・49号住居跡
PL 35　Ⅱ区48号・49号住居跡
PL 36　Ⅱ区49号・50号住居跡
PL 37　Ⅱ区50号住居跡
PL 38　Ⅱ区51号・52号住居跡
PL 39　Ⅱ区52号・53号住居跡
PL 40　Ⅱ区53号・54号住居跡
PL 41　Ⅱ区54号住居跡、Ⅰ区2号・3号、
　　Ⅱ区4号～11号埋甕
PL 42　Ⅱ区13号～24号埋甕
PL 43　Ⅰ区14号～33号土坑
PL 44　Ⅰ区34号～67号土坑
PL 45　Ⅰ区68号～119号土坑
PL 46　Ⅱ区3号～16号土坑
PL 47　Ⅱ区14号～29号土坑
PL 48　Ⅱ区30号～44号土坑
PL 49　Ⅱ区47号～64号土坑
PL 50　Ⅱ区64号～84号土坑
PL 51　Ⅱ区83号～95号土坑
PL 52　Ⅱ区94号～115号土坑
PL 53　Ⅱ区115号～133号土坑
PL 54　Ⅱ区134号～151号土坑
PL 55　Ⅱ区152号～172号土坑
PL 56　Ⅱ区172号～188号土坑
PL 57　Ⅱ区189号～207号土坑
PL 58　Ⅱ区208号～221号土坑
PL 59　Ⅱ区221号～240号土坑
PL 60　Ⅱ区241号～255号土坑
PL 61　Ⅱ区256号～280号土坑
PL 62　Ⅱ区280号～301号土坑
PL 63　Ⅱ区302号～356号土坑
PL 64　Ⅱ区357号～370号土坑
PL 65　Ⅱ区371号～412号土坑
PL 66　Ⅱ区413号～441号土坑
PL 67　Ⅱ区451号～487号土坑
PL 68　Ⅱ区488号～514号土坑
PL 69　Ⅱ区514号～534号土坑
PL 70　Ⅱ区535号～560号土坑
PL 71　Ⅱ区563号～584号土坑
PL 72　Ⅱ区582号～600号土坑
PL 73　Ⅱ区601号～633号土坑
PL 74　Ⅱ区634号～670号土坑
PL 75　Ⅱ区671号～704号土坑
PL 76　Ⅱ区705号～725号土坑
PL 77　Ⅱ区726号～749号土坑
PL 78　Ⅰ区6号・Ⅱ区1号～20号配石
PL 79　Ⅱ区21号・22号配石・集石・1号～8号柱穴
PL 80　Ⅱ区9号～31号柱穴
PL 81　Ⅱ区32号～50号柱穴
PL 82　Ⅱ区51号～69号柱穴、Ⅰ区遺物集中、作業風景
PL 83　Ⅰ区住居跡出土遺物
PL 84　Ⅰ区住居跡出土遺物
PL 85　Ⅰ区住居跡出土遺物
PL 86　Ⅰ区住居跡出土遺物
PL 87　Ⅰ区住居跡出土遺物
PL 88　Ⅰ区住居跡出土遺物
PL 89　Ⅰ区住居跡出土遺物
PL 90　Ⅰ区住居跡出土遺物
PL 91　Ⅰ区住居跡出土遺物
PL 92　Ⅰ区住居跡出土遺物
PL 93　Ⅰ区住居跡出土遺物
PL 94　Ⅱ区住居跡出土遺物
PL 95　Ⅱ区住居跡出土遺物
PL 96　Ⅱ区住居跡出土遺物
PL 97　Ⅱ区住居跡出土遺物
PL 98　Ⅱ区住居跡出土遺物
PL 99　Ⅱ区住居跡出土遺物
PL100　Ⅱ区住居跡出土遺物
PL101　Ⅱ区住居跡出土遺物
PL102　Ⅱ区住居跡出土遺物
PL103　Ⅱ区住居跡出土遺物
PL104　Ⅱ区住居跡出土遺物
PL105　Ⅱ区住居跡出土遺物
PL106　Ⅱ区住居跡出土遺物
PL107　Ⅱ区住居跡出土遺物
PL108　Ⅱ区住居跡出土遺物
PL109　Ⅱ区住居跡出土遺物
PL110　Ⅱ区住居跡出土遺物
PL111　Ⅱ区住居跡出土遺物
PL112　Ⅱ区住居跡出土遺物
PL113　Ⅱ区住居跡出土遺物
PL114　Ⅱ区住居跡出土遺物

PL115　Ⅱ区住居跡出土遺物
PL116　Ⅱ区住居跡出土遺物
PL117　Ⅱ区住居跡出土遺物
PL118　Ⅰ・Ⅱ区配石出土遺物
PL119　Ⅱ区配石、Ⅰ区埋甕出土遺物
PL120　Ⅱ区埋甕出土遺物
PL121　Ⅱ・Ⅲ区埋甕、Ⅰ区土坑出土遺物
PL122　Ⅰ区土坑出土遺物
PL123　Ⅰ区土坑出土遺物
PL124　Ⅰ区土坑出土遺物
PL125　Ⅰ区土坑出土遺物
PL126　Ⅱ区土坑出土遺物
PL127　Ⅱ区土坑出土遺物
PL128　Ⅱ区土坑出土遺物
PL129　Ⅱ区土坑出土遺物
PL130　Ⅱ区土坑出土遺物
PL131　Ⅱ区土坑出土遺物
PL132　Ⅱ区土坑出土遺物
PL133　Ⅱ区土坑出土遺物
PL134　Ⅱ区土坑出土遺物
PL135　Ⅱ区土坑出土遺物
PL136　Ⅱ区土坑出土遺物
PL137　Ⅱ区土坑出土遺物
PL138　Ⅱ区土坑出土遺物
PL139　Ⅱ区土坑出土遺物
PL140　Ⅱ区土坑出土遺物
PL141　Ⅱ区土坑出土遺物
PL142　Ⅱ区土坑出土遺物
PL143　Ⅱ区土坑出土遺物
PL144　Ⅱ区土坑出土遺物
PL145　Ⅱ区土坑出土遺物
PL146　Ⅱ区土坑出土遺物
PL147　Ⅱ区土坑出土遺物
PL148　Ⅱ区土坑・柱穴、Ⅰ区遺物集中出土遺物
PL149　Ⅱ区集石・河道、Ⅰ区南壁トレンチ出土遺物
PL150　Ⅰ区グリッド出土遺物
PL151　Ⅰ区グリッド出土遺物
PL152　Ⅰ区グリッド出土遺物
PL153　Ⅰ区グリッド出土遺物
PL154　Ⅰ区グリッド出土遺物
PL155　Ⅰ区グリッド出土遺物
PL156　Ⅰ区グリッド出土遺物
PL157　Ⅰ区グリッド出土遺物
PL158　Ⅰ区グリッド出土遺物
PL159　Ⅰ区グリッド出土遺物
PL160　Ⅰ区グリッド出土遺物
PL161　Ⅰ区グリッド出土遺物
PL162　Ⅰ区グリッド出土遺物
PL163　Ⅰ区グリッド出土遺物
PL164　Ⅰ区グリッド出土遺物
PL165　Ⅰ区グリッド出土遺物
PL166　Ⅰ区グリッド出土遺物
PL167　Ⅰ区グリッド出土遺物
PL168　Ⅰ区グリッド出土遺物
PL169　Ⅰ区グリッド出土遺物
PL170　Ⅱ区グリッド出土遺物
PL171　Ⅱ区グリッド出土遺物
PL172　Ⅱ区グリッド出土遺物
PL173　Ⅱ区グリッド出土遺物
PL174　Ⅱ区グリッド出土遺物
PL175　Ⅱ区グリッド出土遺物
PL176　Ⅱ区グリッド出土遺物
PL177　Ⅱ区グリッド出土遺物
PL178　Ⅱ区グリッド出土遺物
PL179　Ⅱ区グリッド出土遺物
PL180　Ⅱ区グリッド出土遺物
PL181　Ⅱ区グリッド出土遺物
PL182　Ⅱ区グリッド出土遺物
PL183　Ⅱ区グリッド出土遺物
PL184　Ⅱ区グリッド出土遺物
PL185　Ⅱ区グリッド出土遺物
PL186　Ⅱ区グリッド出土遺物
PL187　Ⅱ区グリッド出土遺物
PL188　Ⅱ区グリッド出土遺物
PL189　Ⅱ区グリッド出土遺物
PL190　Ⅱ区グリッド出土遺物
PL191　Ⅱ区グリッド出土遺物
PL192　Ⅱ区グリッド出土遺物
PL193　Ⅱ区グリッド出土遺物
PL194　Ⅱ区グリッド出土遺物
PL195　Ⅱ区グリッド出土遺物
PL196　Ⅱ区グリッド出土遺物
PL197　Ⅱ区グリッド出土遺物
PL198　Ⅱ区グリッド出土遺物
PL199　Ⅱ区グリッド出土遺物
PL200　Ⅱ区グリッド出土遺物
PL201　Ⅱ区グリッド出土遺物
PL202　Ⅱ区グリッド出土遺物
PL203　Ⅱ区グリッド出土遺物
PL204　Ⅱ区グリッド出土遺物
PL205　Ⅱ区グリッド出土遺物
PL206　Ⅱ区グリッド出土遺物
PL207　Ⅱ区グリッド出土遺物
PL208　Ⅰ・Ⅱ区表採遺物
PL209　Ⅱ区表採遺物
PL210　Ⅱ区表採遺物
PL211　Ⅱ区表採遺物、Ⅰ区グリッド出土石器
PL212　Ⅰ区グリッド出土石器
PL213　Ⅱ区グリッド出土石器
PL214　Ⅱ区グリッド出土石器
PL215　Ⅱ区グリッド・表採石器

報　告　書　抄　録

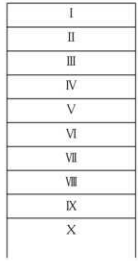
書名ふりがな	しもだいせきかっこに
書　名	下田遺跡（２）
副書名	北関東自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　次	
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	444
編著者名	小林徹
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20080731
作成法人 ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住　所	群馬県渋川市北橘町下箱田７８４番地２
遺跡名ふりがな	しもだいせき
遺 跡 名	下田遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんいせさきしたべいちょう
遺跡所在地	群馬県伊勢崎市田部井町
市町村コード	102004
遺跡番号	
北緯（日本測地系）	362029
東経（日本測地系）	1391527
北緯（世界測地系）	362040
東経（世界測地系）	1391515
調査期間	20010401-20030731
調査面積	23,950 ㎡
調査原因	道路建設
種　別	集落
主な時代	縄文
遺跡概要	集落 - 縄文 - 竪穴住居 54- 配石 21- 埋甕 12- 土坑 630- 縄文土器 + 石器
特記事項	大間々扇状地藪塚面西端の早川低地帯に立地する、縄文時代中期後半から後期前半の大集落。
要　約	大間々扇状地の桐原面（第Ⅰ面）と藪塚面（第Ⅱ面）を画する早川低地帯に立地する、縄文時代の集落遺跡。現河道と旧河道に挟まれた狭い微高地上に、中期後半から後期前半にかけての集落が展開する。第１分冊と合わせた全域からは、柄鏡形住居 11 軒を含む 73 軒の住居のほか、配石や埋甕、多数の土坑が検出されており、伊勢崎市東部地域では有数の大規模集落であることが判明した。

第１章　下田遺跡の調査

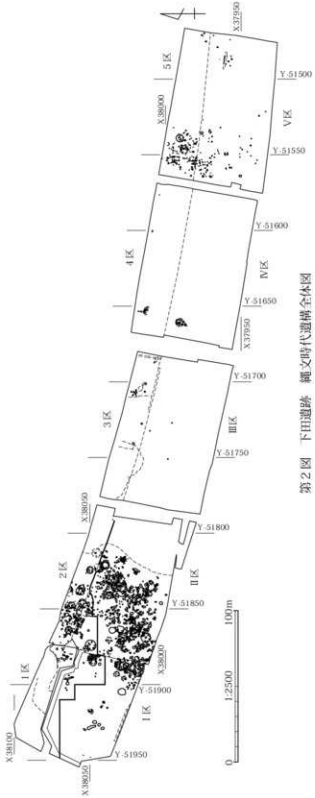
第１節　基本層序

下田遺跡は早川左岸の低地帯に立地するが、全体を俯瞰すると南北方向の浸食を受けた微地形の連続であることがわかる。そのため、浸食を受けた浅い谷や旧河道部分と微高部では異なる土層の堆積状況がある。また、東半部は圃場整備による削平が著しく、土層部の土層が確認できない。以下に記す基本土層は、微高部を主に各地点の状況を合成したものである。

Ⅰ　表土　現代の水田耕作土等
Ⅱ　暗褐色土　As-B 軽石を多量含み、やや砂質。
Ⅲ　暗褐色土　非常に多量の As-B 軽石を含み、砂質。Ⅱ層に比して黒味がかる。
Ⅳ　As-B 層
Ⅴ　黒褐色粘質土　白色軽石を含む。（水田耕土）
Ⅵ　黒灰褐色土　白色軽石を含む。（遺物包含層）
Ⅶ　黒褐色土　白色軽石を多量含む。（遺物包含層）
Ⅷ　黒褐色砂質土　白色軽石を少量含む。
Ⅸ　明黄褐色砂質土　砂質ローム層。
Ⅹ　礫層（大間々扇状地扇端部礫層）

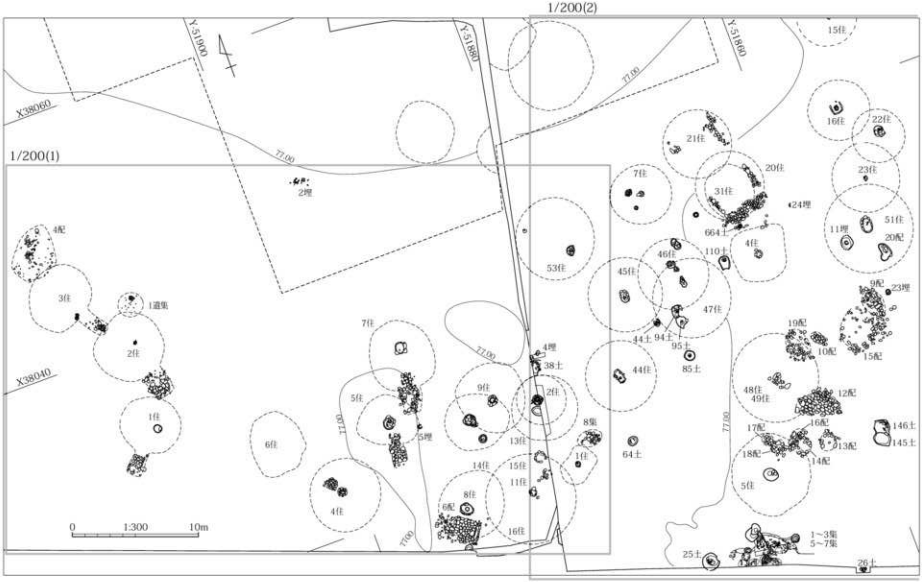


第１図　下田遺跡　基本土層

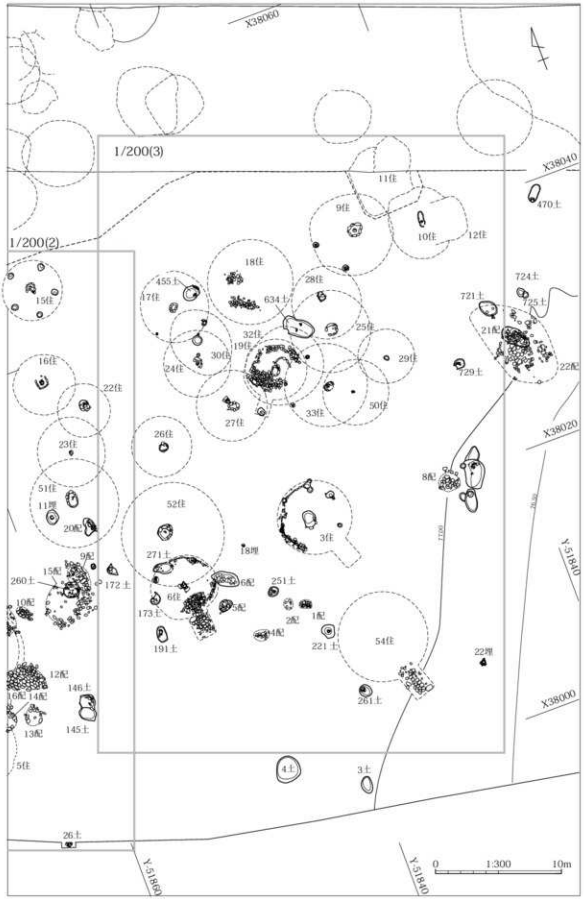


第２図　下田遺跡　縄文時代遺構全体図

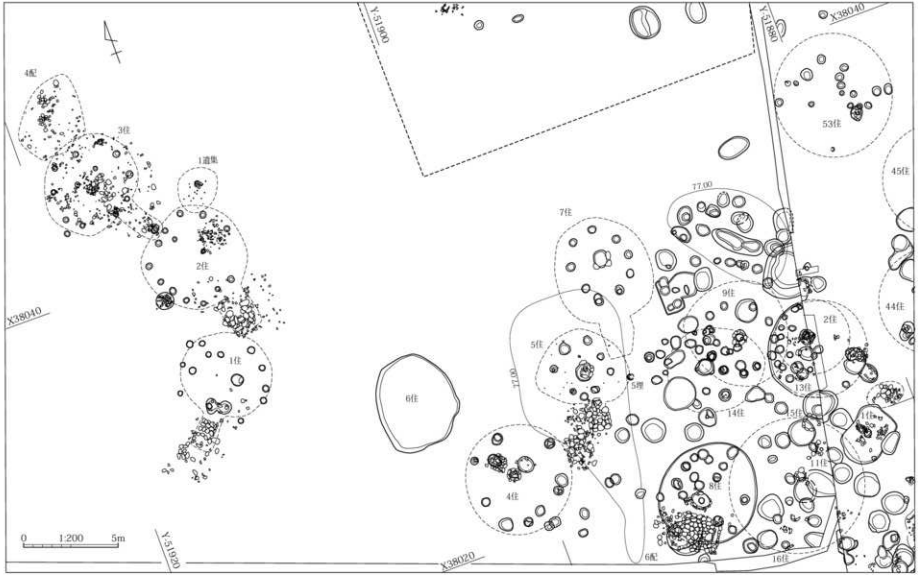
第３図　下田遺跡Ⅰ・Ⅱ区遺構全体図(1/800)



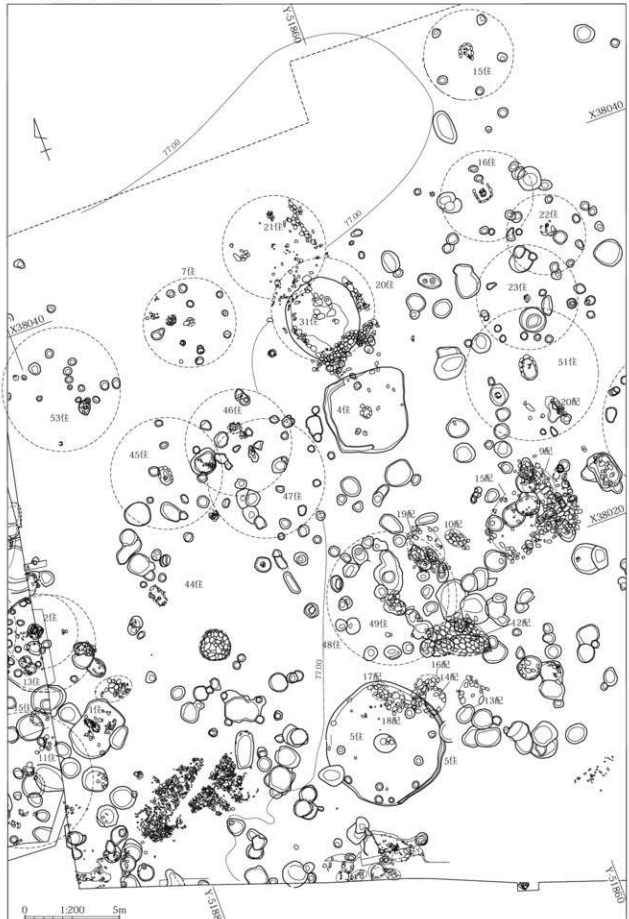
第４図　下田遺跡住居、配石、埋甕等全体図 (1)（1/300）



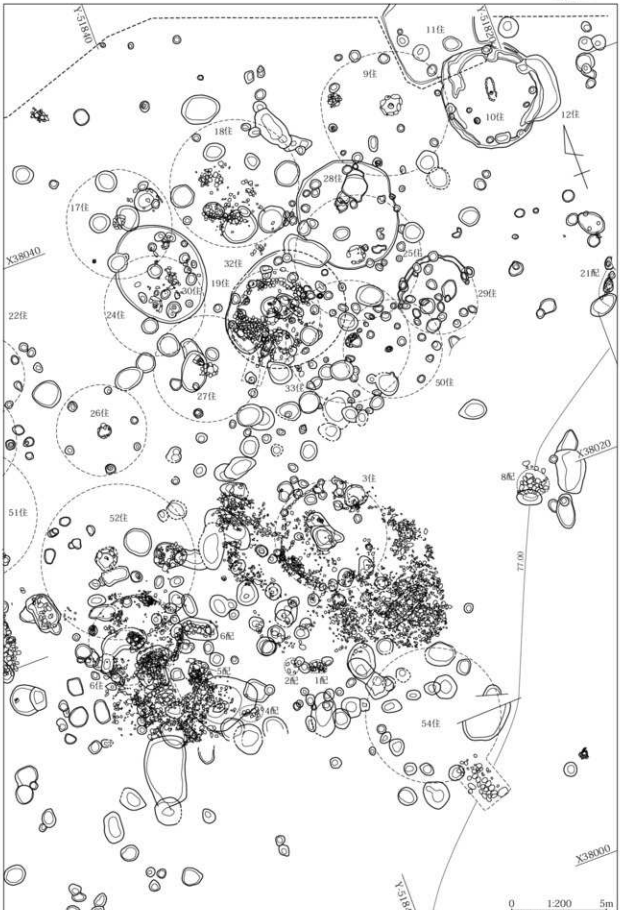
第５図　下田遺跡住居、配石、埋甕等全体図 (2)（1/300）



第6図　下田遺跡主要部遺構全体図 (1)（1/200）



第７図　下田遺跡主要部遺構全体図 (2)　(1/200)



第８図　下田遺跡主要部遺構全体図 (3)（1/200）

第２章　検出された遺構と遺物

第１節　縄文時代の遺構と遺物

縄文時代の遺構は、東を旧河道、西を現早川沿いの低地で区切られⅠ区東部からⅡ・２区中央部にかけて、集中的に見られる。

この南北に細長い微高地をさらに細かく見ると、北東から南西に浅い谷地が斜行して緩やかに波打つような形状となっており、遺構の分布もこの谷地により南北に分断されている。本書では谷地より南側を主な対象範囲として報告する。

この範囲から住居54軒（Ⅰ区14軒、Ⅱ区40軒）、配石21基（Ⅰ区２基、Ⅱ区19基）、埋甕12基（Ⅰ区４基、Ⅱ区８基）、土坑630基（Ⅰ区80基、Ⅱ区550基）、柱穴45本（Ⅱ区45本）、遺物集中１基（Ⅰ区１基）、集石７基（Ⅱ区７基）等の遺構や夥しい量の遺物が検出された。その大多数は縄文時代中期後半（加曽利Ｅ１式）から後期前半（堀之内２式）にかけての時期に比定される。僅かではあるが中期中葉以前や後期後半の土器も出土し、晩期の大洞Ｃ２式土器も１点出土している。

なお遺構番号は、Ⅰ区は側道部１区と、Ⅱ区は同２区と共通の通し番号を付番している。

発掘調査では、包含層と地山と遺構覆土の三者の土質が類似していて見極めが困難であったため、グリッドごとに遺物を取り上げながら掘り下げていかざるを得なかった。そして炉や柱穴を検出して初めて住居と確定するという状況であった。住居の掘り込みが不明であったり、遺構外出土遺物の比率が非常に高くなったりしたのは、こうした事情による。柱穴その他の遺構についても、存在していたのに確認できなかったものがある可能性は否定できない。

重複関係においても覆土の切り合いを確認できなかったものが多く、新旧の判断は出土遺物による時期判定に頼ることとなった。したがって、遺構に確実に伴う遺物が乏しい場合は、不明とせざるを得なかった。

第１項　住居

上述したように、住居の検出はただでさえ困難を極めた。このような状況に加え、排土や湧水対策等の諸事情で発掘調査が３期に分かれ、しかも一時油の浮遊被害に遭うなど、調査時の遺構確認に悪条件が重なった。Ⅱ区、２区の住居とした54軒（第１分冊報告分を含む）のうち、調査時に認定されたものは43軒（１号～43号まで）である。44号以降は単独の土坑や柱穴、炉、埋甕あるいは配石として調査されていたものを図上で復元し、追認したものである。それに伴って住居ごとに新番号を付し、変更前の元番号は欠番とした。欠番号は配石、埋甕、遺物集中等はそれぞれの項目の最後で触れ、土坑と柱穴は一覧表の末尾に添えた。

43号住居までの住居埋甕や住居ピットについては、発掘調査時に付与された番号を原則として踏襲した。しかし重複の激しいところでは土器の型式や柱穴の配列等を考慮して組み替えた部分もあり、これらについてはできるだけ欠番をつくらないように読み替えを行った。

また、遺物出土量については、43号住居までのものは全点で型式分類を試み、点数ないし総重量を計測した。44号住居以降は、調査時の各遺構出土分を累計して同様に分類、計測している。

一方、包含層出土遺物は膨大な量におよぶため、グリッドごとの重量を計測した後に、口縁部のみを抽出して型式分類を試みた。したがって文中にある型式別の出土比率は、あくまで概数である。

なお、住居の平面形を破線で示したものは、明確なプラン確認はできなかったが、床面の状況や上層を含む遺物出土状況、柱穴の位置関係などを根拠に推定したものである。炉はあるが柱穴が不明確だというものについては、屋外炉の可能性も検討すべきであろう。

本遺跡における住居の特色や変遷については、第３章においてあらためて述べる。

Ｉ区　１号住居跡（第 10・11 図、ＰＬ１）

Ｉ区中央部やや南寄り (030 ～ 035,-910 ～ -916) グリッド付近に位置する。壁面の立ち上がりや壁周溝は確認できなかったが、柱穴の配置などから平面形は柄部が南西を向く柄鏡形で、主体部は直径５m程の円形と推定される。柄部は長さ２m、幅 1.2m ほどである。主軸方向は N-45°－Eである。

柄部の敷石は中央部が良好に残存する。方形のほぼ同規模な礫を規則的に配置しているが、幅を調整するためなのか、左辺だけ細長の礫を縦位に並べている。その先に一際大ぶりの礫が存在する。先端部に石のない空白部も見えるが、土器やピットは検出されなかった。また、連結部の対になる位置に、２個の礫が立位で設置されていた。

炉は主体部推定範囲の中央やや南東寄りで検出された。ほぼ円形で径 68cm・深さ 15cm を測る。30cm ほどの礫を一個伴っており、石囲い炉であった可能性もある。

床面はほぼ平坦で、硬化面は認められなかった。

主体部推定範囲付近で 15 本のピットが検出された。Ｐ１～ 13 はほぼ円形で規模も類似するが、すべて本住居跡に帰属する柱穴かは検討の余地がある。Ｐ 14 とＰ 15 は連結部対ピットに相当し、鉄亜鈴状に繋がっている。それぞれの規模（径・深さ）は別表に記す。

遺物は、土器は掲載した７点が総てで、柄部から出土している。

時期は、不明確な部分も多いが、出土遺物から後期前半（称名寺～堀之内１式）に位置づけられる可能性が高い。

Ｉ区　２号住居跡 (第 12 ～ 14 図、ＰＬ１)

Ｉ区中央やや南寄り (035 ～ 042, -911 ～ -916) グリッド付近に位置し、１号住居の北側に隣接する。壁面の立ち上がりや壁周溝は確認できなかったが、柱穴の配置や上面の遺物出土状況などから、平面形は柄鏡形で、主体部は直径 5.5 m程の円形と推定される。柄部の敷石は先端部が良好な残存状況で、長さ 2.1m、幅は 1.7m ほどである。中央に空白部があるが、土器やピットは検出されなかった。主軸方向はＮ -13°－Ｗである。

炉は痕跡すら確認し得なかったが、主体部推定範囲の中央やや東寄りで検出した埋甕が炉に伴う可能性もある。

床面はほぼ平坦で、硬化面は認められなかった。

主体部推定範囲内から 13 本のピットが検出された。どれもほぼ円形を呈し、連結部対ピットとなるＰ２とＰ３、および一つ内側に入るＰ 13 以外の 10 本が壁柱穴に相当する。Ｐ１とＰ２の間にも存在した可能性が高いと思われる。それぞれの規模（径・深さ）は別表に記す。

上述した埋甕の北西部から、比較的まとまって遺物が出土した。称名寺式が主体で、中期の遺物も若干混じる。

時期は、出土遺物から、後期前半（称名寺式）に位置づけられる。

Ｉ区　３号住居跡（第 15 ～ 18 図、ＰＬ１）

Ｉ区のほぼ中央部 (040 ～ 047,-914 ～ -918) グリッド付近に位置する。壁面の立ち上がりや壁周溝は確認できなかったが、柱穴の配置や上層の遺物分布状況などから、平面形は柄鏡形で、主体部は直径５m程の円形と推定される。主軸方向はＮ -34°－Ｗである。柄部に敷石はなく、幅は不明である。先端部と連結部で埋甕を検出した。両者の距離は 2.2 m程で、柄部の長さはこれに準ずると思われる。しかし、後述するように先端部の埋甕は主体部出土の土器より古く、若干の時期差が認められるため、これを単独の埋甕ととらえることもできる。そうすれば柄部の短い柄鏡形か、円形の主体部のみとなる。

床面はほぼ平坦で、硬化面は認められなかった。主体部南半では扁平な礫が数点見られ、敷石を施していたと思われる。

また、住居中央部に石囲い炉の残骸にも見える礫の分布があったが、炉と認定するには至らず、炉の位置は確定していない。

主体部推定範囲付近からはピットが 13 本検出された。いずれもほぼ円形で比較的深く、Ｐ７とＰ８が連結部対ピットに、Ｐ１～Ｐ６およびＰ９、Ｐ10 が壁柱穴に相当する。Ｐ 13 については、本住居跡に帰属するか検討の余地がある。それぞれの規模（径・深さ）は別表に記す。

遺物は、柄部先端の１号埋甕は加曽利ＥⅣ式であり、連結部の２号埋甕は称名寺式である。主体部からは中期後半（加曽利ＥⅢ～Ⅳ式）の土器の出土がやや多い。石器では、連結部付近から特異な石皿（15）が出土している。

時期は、主体部出土の埋甕等から、縄文時代中期後半から後期初頭（加曽利ＥⅣ式～称名寺式）に位置づけられる。

Ｉ区　４号住居跡（第 19・20 図、ＰＬ２）

Ｉ区の南東部 (020 ～ 027,-898 ～ -903) グリッド付近に位置する。壁面の立ち上がりや壁周溝は確認できなかったが、柱穴の配置などから、平面形は直径６m 弱の円形と推定される。

床面はほぼ平坦で、硬化面は認められなかった。炉の北西部で、一辺１m 弱の方形の敷石を検出した。地山の上に 10 ～ 20cm の扁平な礫を密集させているもので、下部構造はなかった。

主体部推定範囲中央部の僅かに北寄りで、方形の石囲い炉を非常に良い状況で検出した。長軸が外法 75cm、内法 50cm、短軸が外法 64cm、内法 38cm の長方形で、長軸方向はＮ -66°- Ｗを指す。一辺に２石ずつ用い、いずれも扁平な礫の長軸を横にして立てる形で、炉底まで埋め込まれている。深度は 12cm で覆土は粘性を持ち、炭化物を含む。内部から（１）～（４）の土器片が出土したが、いずれも埋設された状態ではなかった。

主体部推定範囲からはピットが６本検出された。いずれもほぼ円形で、主柱穴に相当する。Ｐ１以外は２段に掘り込まれる。Ｐ３は他の５本と比べ、整った六角形とは少しずれる位置にある。それぞれの規模（径・深さ）は別表に記す。

本住居は、23 号土坑、24 号土坑、25 号土坑と重複する。24 号土坑は出土遺物から加曽利ＥⅢ式の頃と思われ、本住居より先出すると見られる。23 号と 25 号については、出土遺物もなく時期が判定できないので、本住居との関係も不明である。

遺物は、炉内から加曽利ＥⅢ式の土器が出土している。包含層の遺物は中期後半が後期前半を若干上回った。

時期は、炉の出土遺物から、中期後半（加曽利ＥⅣ式）に位置づけられる。

Ｉ区　５号住居跡（第 21 ～ 23 図、ＰＬ２・３）

Ｉ区の南東部 (023 ～ 029,-893 ～ -898) グリッド付近に位置する。壁面の立ち上がりや壁周溝は確認できなかったが、柱穴の配置と上層の遺物分布状況などから、平面形は柄鏡形で、主体部は直径４m 程の円形と推定される。柄部は敷石が良好に残存し、長さが 1.5m、幅は 1.1m である。中央に空白部があるが、埋甕や土坑は検出されなかった。主軸方向は、Ｎ - 10°- Ｅを示す。

床面はほぼ平坦で、硬化面は認められなかった。主体部の南西部に、南東から北西に向かう３～４石の石列を検出した。

主体部推定範囲の中央部で方形の石囲い炉を検出した。残存するのは３石のみである。掘り方の状況から、内法で長径 94cm、短径 80cm 程の南北に長い楕円形を呈すると思われる。長軸方向はＮ -45°- Ｅを指す。２段に掘り込まれ、深さは浅い方で 26cm、最深部は 38cm に達する。２段目の上面から土器が検出された。同じ位置に細長の礫もあったが、そこに据え置かれたのか炉石が転落したのかは不明である。また、他の石の痕跡は確認できなかった。

主体部推定範囲からはピットが８本検出された。Ｐ４が若干大きめの他は、ほぼ同程度の規模である。Ｐ２からＰ７が主柱穴に相当すると思われ、Ｐ１とＰ８は連結部対ピットの可能性があるが、ややずれる。それぞれの規模（径・深さ）は別表に記す。

Ｐ１の一部とＰ８に重複して下部土坑が検出された。柄部と炉の中間にあたり、長径 80cm、短径 60cm の東西に長い楕円形を呈する。深さは 31cm で、断面形状は隅丸方形である。東部から北西部までの縁辺を 10 ～ 20cm の礫が囲み、底には地山礫の可能性もあるが大ぶりの礫が１石存在した。いわゆる「連結部石囲い施設」に後出する出入り口部祭祀施設としての土坑であろうか。

本住居の北西部が７号住居の柄部と僅かに重複するが、覆土の切り合いは確認できなかった。

遺物は、称名寺式を主体とした出方をしている。

時期は、炉の出土土器等から、後期前半（称名寺式）に位置づけられる。

Ｉ区　６号住居跡（第 24 ～ 27 図、ＰＬ３・４）

Ｉ区の南東部 (018 ～ 023,-902 ～ -906) グリッドに位置する。全周で壁面の立ち上がりが 30 ～ 40cm 確認された。平面形は南西部がやや角張るが、東西 4.2 m、南北 4.9 m の楕円形を呈する。

覆土は包含層土と酷似した暗褐色粘質土で、床下の埋土も同質の土である。

２層上面がほぼ平坦であり、遺物も多く出土したことから、床面と推定されるが、硬化面や壁周溝は認められなかった。

炉も柱穴等も検出されなかったが、形状や遺物の出方などから、一応住居として認定した。

遺物は、他の住居と比べて、極めて多く出土している。掘り込みが残存していたことで帰属が確定できたことも一因にあろうが、ほとんどが覆土中の一括遺物であるため、住居廃絶後の窪地に集中的に破棄された可能性が大きいと思われる。出土土器の総重量は 74kg（パン箱約５箱）におよび、４割を加曽利ＥⅢ式が占める。他も中期に大別される土器破片がほとんどである。石器も 39 点出土し、14 点が打製石斧であった。（１）～（８）（第 24・25 図、ＰＬ 86）に見られるように、口径が 30cm を越える大型の土器も複数個体出土している。

時期は、出土遺物から中期後半（加曽利ＥⅢ式）に位置づけられる。

Ｉ区　７号住居跡（第 28・29 図、ＰＬ４）

Ｉ区の南東部 (027 ～ 034,-890 ～ -895) グリッド付近に位置する。壁面の立ち上がりや壁周溝は確認できなかったが、柱穴と柄部の残存状況から、平面形は柄鏡形である。主体部は、遺物の出土状況から、炉を中心として長径 5.5 m、短径 5 m の楕円形の範囲と推定される。柄部は長さ２m、幅は 1.5 m ほどで、敷石は良好に残存し、主体部内にも炉の方向へ若干延びている。石のない部分もあるが、土器やピットは検出されなかった。主軸方向はＮ－７°－Ｅである。

炉は主体部推定範囲の中央やや北寄りで検出された。石囲い炉で３石が残存する。掘り方の平面形は南北 92 ㎝、東西は外法 88 ㎝、内法 66cm の隅丸方形と思われる。長軸の示す方向はＮ－16°－Ｅである。他の石の抜き取り跡等は確認されなかった。

床面はほぼ平坦で、硬化面は認められなかった。

主体部推定範囲で 10 本のピットが検出された。Ｐ１とＰ 10 は重複するため、実質的には９本の壁柱穴である。Ｐ１（10）とＰ９は連結部対ピットに相当すると思われる。それぞれの規模（径・深さ）は別表に記す。

連結部対ピットと柄部の敷石の間に、方形に整然と並べられた敷石を検出した。平坦面を揃えて床面上に置かれいる状態で、下部構造は不明である。広範囲に施した敷石の一部が残ったのか、連結部（出入口部）での祭祀と関係する区画なのか、性格は判然としない。

遺物は炉内から加曽利Ｅ１式の土器が出土したり、連結部の西側に加曽利ＥⅡ式の深鉢（１）が散布したりしていたが、これらは柄鏡形である本住居に伴うとは到底思えない。本住居以前に該当時期の遺構があったものと思われるが、確認はできなかった。

時期は、出土遺物が非常に少なく、不明確な部分もあるが、柄鏡形という特徴から見て中期末～後期

前半（加曽利ＥⅣ～堀之内２式）の範囲には入ると思われる。

Ⅰ区　８号住居跡（第 30 ～ 32 図、ＰＬ４・５）

Ⅰ区の南東部 (016 ～ 021,-889 ～ -894) グリッドに位置する。壁面の立ち上がりは全体に 5 cm ほど確認できた。平面形は長径およそ 5.7 m、短径 5.2 m と、わずかに楕円形を呈する。長軸が示す方向は N -47° - E である。

床面はほぼ平坦で、顕著な硬化面は認められなかった。壁周溝も確認されなかった。

主体部の中央部から僅かに南西寄りで楕円形の石囲い炉を検出した。石は南から西にかけて良好に残存する。30 ～ 40cm の細長の石を主石として楕円形に埋め込み、その隙間や外周に小振りの石を配置している。規模は内法で長径 104cm、短径 69cm を測り、長軸方向は住居のそれとほぼ直交する。炉内中央に、底部を欠いた２つの深鉢を入れ子状に重ねて埋設する。

主体部からはピットが 15 本検出された。Ｐ２とＰ 12 以外のほとんどが円形を呈する。Ｐ１やＰ 13、Ｐ 14 など柱穴とみなせるものもあるが、そうでないものもある。すべて本住居に伴うのかどうかについても検討の余地がある。それぞれの規模（径・深さ）は別表に記す。

遺物は、炉埋甕のほか、炉に近接して加曽利ＥⅡ式の土器（３）、（４）が出土した。一括遺物には称名寺式が３割強あるが、これらは本来６号配石に帰属する可能性が高いと思われる。

本住居は 11 号住居、16 号住居と重複すると思われるが、覆土の切り合いは確認できなかった。また、６号配石は当初本住居の敷石として調査されたが、検討の結果本住居に後出するものと判断し、単独の配石遺構とした。

時期は、炉埋甕等の出土遺物から、中期後半（加曽利ＥⅡ式）に位置づけられる。

Ⅰ区　９号住居跡（第 33 ～ 36 図、ＰＬ５）

Ⅰ区の南東部 (023 ～ 029,-884 ～ -890) グリッド付近に位置する。壁面の立ち上がりや壁周溝は確認できなかったが、柱穴の配置や遺物の分布状況などにより、平面形は直径 5.5 m 前後のほぼ円形と推定される。

床面はほぼ平坦で、硬化面は認められなかった。

主体部推定範囲の中央部に石囲い炉を検出した。７石が残り、掘り方の斜面に沿って床面上に 4 ～ 8 cm 出るように設置されていた。形状はほぼ円形を呈すると思われ、規模は外径 80cm、内径 40cm、深さ 25cm である。覆土に焼土等は混入せず、土器の埋設もなかった。

主体部推定範囲からピットが 11 本検出された。形状はいずれもほぼ円形で、規模も似通っている。Ｐ６とＰ７が若干膨らむ位置にあるが、それ以外はほぼ均等な距離で並ぶ壁柱穴である。それぞれの規模（径・深さ）は別表に記す。

本住居は、13 号住居、14 号住居と重複する。覆土の違いは判別できなかったが、両住居とも本住居の下面から検出されており、明らかに本住居の方が新しい。また、いくつかの土坑とも重複するが、時期が判定できず、切り合いも確認できないため、本住居との関係は不明である。

遺物は、炉の南側で加曽利ＥⅡないしⅢ式の土器片が比較的まとまって出土した。一括遺物の割合でも、中期後半が７割を超す。

時期は、出土遺物から、中期後半（加曽利ＥⅡ～Ⅲ式）に位置づけられる。

Ⅰ区　11 号住居跡（第 37・38 図、ＰＬ５・６）

Ⅰ区の南東部、東壁際の (019,-885) グリッドにおいて、石囲い炉を検出した。礫は床面に置かれる形で、西半部のみが残存しているものと見られる。北辺に 40cm 程のひときわ大きい礫を配し、西辺から南辺へは 15 ～ 20cm 程の礫で囲んでいるが、並べ方に規則性は見受けられない。形状も、検出状況からだけでは判断しがたい。中央部に深鉢の底部が正位で埋設されていた。埋設土器の掘り方は深

さ 15cm ほどであったが、炉の掘り方は確認できなかった。

住居の掘り込みや壁周溝は確認できなかった。炉の周辺には硬化面や柱穴となるようなピットは検出されず、上層の遺物分布も明確な偏りは見られないため、平面形態や規模はまったく不明である。屋外炉の可能性もある。

炉周辺上層の包含層から、中期後半を中心とした遺物が比較的多く出土している。ただし、15 号住居や 16 号住居などとの重複もあり、帰属を判定することは困難である。炉に埋設された土器は無文の平底であり、加曽利ＥⅡ式に比定される。

本炉の周辺でいくつかの土坑が検出されたが、新旧が明らかなのは、炉の下位にある 119 号土坑のみである。他は本住居との関係は不明である。

時期は、炉内埋設土器から、中期後半（加曽利ＥⅡ式）に位置づけられる。

Ⅰ区　13 号住居跡（第 39 ～ 42 図、ＰＬ６）

Ⅰ区の南東部 (021 ～ 026,-881 ～ -886) グリッドに位置する。Ⅰ区とⅡ区とに跨るため、調査はそれぞれの区で２回に分けて行われる形となった。本住居はもともと先行調査されたⅡ区２号住居と同一の住居という前提で調査されていた。整理時に統合する予定であったが、炉らしき跡が２ヶ所あり、柱穴が重複するなどしたため、２軒あると判断した。

本住居は、Ⅰ区調査時に新たに検出した掘り込みと、炉跡を取りまくピットを中心に構成した。Ⅱ区側ではさまざまな悪条件により、明確なプラン、ピット等を検出することはできなかった。

Ⅰ区側では深さ 15cm 程の壁の立ち上がりが確認された。平面形は直径５ｍほどの円形になると思われる。覆土は地山砂質土ブロックを含む暗褐色土である。

床面はほぼ平坦で、顕著な硬化面は認められなかった。壁周溝も検出されなかった。

中央部僅かに西寄りと思われる位置に、炉の掘り方らしき浅い楕円形の窪みを検出した。規模は長径 82cm、短径 70cm、深さ 10cm で、長軸方向はＮ -53°－Ｗである。周囲に礫が散在していたが、炉に使用されたものかどうかは判断できなかった。

Ⅰ区側ではピットが 16 本検出されたが、その内４本はⅡ区２号住居跡の柱穴と判断し、残りの 12 本を本住居に組み入れた。Ｐ１とＰ２は重複するがともに他ピットより一回り大きく浅い。あとはＰ３とＰ８がわずかに大きいが総じて同程度の規模である。Ｐ４、Ｐ５、Ｐ６、Ｐ８、Ｐ９、Ｐ 10、Ｐ 12 が壁柱穴に相当する。それぞれの規模（径・深さ）については別表に記す。

本住居は、Ⅱ区２号住居と丸ごと重複する。覆土では判別できなかったが、炉の状況を見るとⅡ区２号住居より先出するといえる。また９号住居とも重複し、本住居の方が下面で検出されたため、古い。

遺物は大半が炉付近でやや浮いて出土した。Ⅱ区２号住居分も一定量含まれるものの、総重量 10kg におよぶ一括遺物では、加曽利ＥⅠないしⅡ式が主体をなす。

時期は、出土遺物から、中期後半（加曽利ＥⅠ～Ⅱ式）に位置づけられる。

Ⅰ区　14 号住居跡（第 43 ～ 45 図、ＰＬ７）

Ⅰ区の南東部 (022 ～ 027,-886 ～ -891) グリッド付近に位置する。壁面の立ち上がりや壁周溝は確認できなかったが、上層の遺物出土状況等から、平面形は長径（東西）５ｍ強、短径（南北）約 4.5 ｍの楕円形と推定される。

床面はほぼ平坦で、硬化面は認められなかった。

主体部推定範囲のほぼ中央で炉を検出した。上面に礫を伴うが、石囲い炉であったかどうかは判然としない。上面からは大小の深鉢破片が５個体分以上出土した。中でも（４）と（５）の個体は特に大型である。（２）や（６）も大型といえる。いずれも胴下半部を欠く。逆に（１）と（３）は中～小型であるが、下半部が残る。

炉の形状は直径約 90cm のほぼ円形で、土器が出土した部分がやや張り出す。炉の掘り込みは深さ

35cm ほどあり、覆土は上下２層に分かれる。第１層は炭化物や焼土粒を含み、炉に伴う土であるが、第２層にはそれらが含まれないため、炉を作る以前の土坑である可能性もある。

主体部推定範囲の周辺からはピットが 18 本検出された。すべて本住居に伴うかどうかには検討の余地があり、どれを柱穴と見なすかについても、確定することが困難である。それぞれの規模（径・深さ）は別表に記す。

本住居は、北東部が９号住居と重複し、覆土の違いは判別できなかったが、本住居の方が下面で検出されたため、古い。また、いくつかの土坑とも重複するが、58 号土坑は加曽利ＥⅢ式の土器片が多く、本住居より明確に後出する。それ以外の土坑は時期を判定できず、切りあいもなかったため、本住居との関係は不明である。

遺物は、炉以外では埋甕として、南部で無文の大型鉢（10）が出土している。

時期は、炉体土器等から、中期後半（加曽利ＥⅡ式）に位置づけられる。

Ｉ区　15 号住居跡（第 46 図、ＰＬ７）

Ｉ区の南東部 (020,-885) グリッドにおいて石囲い炉を検出した。10 石の礫から構成され、台石の転用である（４）とその対面の礫以外は扁平な面を上にして床面に置かれる。形状は長辺 90cm 強、短辺 80cm 弱の方形と見られる。長軸の示す方向は N -59° - E である。炉内からは埋設土器や土器片の出土はなかった。

炉は 10cm 弱の掘り方を持ち、埋土は２層に分かれるがいずれも焼土、炭化物等の混入はない。炉の北側に、掌大の焼土が散布していた。

住居の掘り込みは確認できず、炉の周辺には硬化面や柱穴となるようなピットは検出されなかったため、平面形態や規模はまったく不明である。屋外炉の可能性もある。

重複関係は、11 号住居のほかにも 13 号住居、16 号住居と重複すると思われるが、覆土の切り合いは確認できなかった。また、炉の周辺にいくつかの土坑が検出されたが、100 号、101 号については、その埋没後に本炉が築かれている。他の土坑は時期を判定できないため、本住居との関係は不明である。

炉内および炉周辺から、11 点の土器を本住居出土として取り上げた。少ないのは、上層遺物が 11 号住居で取り上げられたためであろう。

時期は、不明確な部分もあるが、出土遺物から、中期後半（加曽利ＥⅡ式）に位置づけられる可能性が高い。

Ｉ区　16 号住居跡（第 38・47・48 図、ＰＬ７）

Ｉ区の南東部 (014 ～ 018,-886 ～ -889) グリッド付近に位置する。検出されたのは炉とその南側から出土した土器である。住居の掘り込みは確認できなかった。炉の周辺に硬化面や柱穴となるようなピットは検出されず、上層の遺物分布も明確な偏りは見られないため、平面形態や規模はまったく不明である。屋外炉の可能性もある。

炉は石囲い炉で、規模は長軸が外法 78cm、内法 38cm、短軸は外法 64cm、内法 38cm を測る。形状は楕円形か長方形か微妙である。北辺に石皿を転用した一際大きな礫（９）を立て、東辺にも石皿・多孔石を転用した（７）を埋めている。

本住居は、８号住居や 11 号住居と重複するが、覆土の切り合いは確認できなかった。また、推定範囲内にはいくつかの土坑が検出されているが、切り合いにより明らかに本住居炉より古いと確認できたのは 102 号土坑、106 号土坑である。他の土坑は時期判定ができず切り合いもないため、本住居との関係は不明である。

遺物は、炉から南西方向へ点々と分布した。一括遺物は 19 点と少ないが、11 号住居遺物として取り上げられている分が相当数あると思われる。

時期は、不確定な部分もあるが、中期後半（加曽利ＥⅢ式）に位置づけられると思う。

Ⅱ区　１号住居跡（第 49 ～ 52 図、ＰＬ８）

Ⅱ区の南西部 (017 ～ 020,-881 ～ -884) グリッドに位置する。壁面の立ち上がりは 15 ～ 20cm ほどが認められた。平面形は、長辺 3.2 m、短辺 2.2 mの不整隅丸長方形を呈する。長軸の方向はＮ－７°－Ｅである。埋土は二層あるがともに黒褐色土で、包含層の土とも近似している。

炉が検出された２層の下面が床面と思われるが、硬化面や壁周溝は確認されなかった。柱穴も確認できなかった。

炉は床面の中央部から検出され、口径 40cm を超す大型の深鉢が正位で埋められていた。掘り方や覆土については不明である。

覆土中からは大小の礫や土器片がやや浮いた状態で出土した。出土土器の総重量 15kg 余りのうち、半数以上が明確に加曽利ＥⅢ式と判別できた。なお、(19) の大型の甕は大変興味深い出方をしていて、本住居とＩ区９号住居とで接合した。両住居とも床面レベルで出土しており、点数的には若干Ｉ区９号住居の方が多かった。底部片や把手部が出土していることで本住居に帰属させたが、両住居の廃絶時期が近接することを示してるといえよう。

時期は、出土土器から中期後半（加曽利ＥⅢ式）に位置づけられる。

Ⅱ区　２号住居跡（第 53・54 図、ＰＬ８・９）

ＩＩ区とⅡ区に跨る (022 ～ 026,-882 ～ -885) グリッド付近に位置する。先行したⅡ区の発掘調査時には２号住居として、その後Ｉ区では 13 号住居として調査された。当初は１軒の住居と想定されていたが、検討の結果別住居と判断した。本住居は、Ⅱ区調査時に検出された炉跡を中心に、Ｉ区側でほぼ等距離に配置されたピットを抽出して構成した。

遺物出土状況は、Ⅱ区側では不明であり、Ｉ区側では 13 号住居として処理されている。壁面の立ち上がりも確認できなかった。柱穴の配置から、平面形は直径 4.2 mほどの円形と推定される。

床面はほぼ平坦で、硬化面は認められなかった。壁周溝も検出されなかった。

主体部推定範囲のほぼ中央で炉を検出した。直径 80 ～ 90cm ほどの円形を呈し、その中央に深鉢（３）が正位で埋設されていた。その他にも（１）や（４）（５）などの深鉢が潰れた状態で出土した。また、炉内には礫が数石存在したが、石囲い炉を構成するものであるかどうかは判然としない状況であった。

主体部からはピットが４本検出された。ほぼ円形で壁柱穴に相当し、Ｐ１以外は深さが 20cm 以上ある。いずれもＩ区側から検出されたもので、Ⅱ区では確認できなかった。それぞれの規模（径・深さ）は別表に記す。

本住居は、全体がＩ区 13 号住居と重複する。炉の残存状態や柱穴の切り合いから、本住居の方が後出するといえる。しかし、覆土が類似していたため、プランや断面の切り合いは確認できなかった。

遺物は、炉内から４個体分以上の土器片が出土した。中でも（３）は正位で埋設され、ほぼ完形で残存していた。一括遺物は、Ｉ区側では 13 号住居で処理されるためⅡ区側での出土分となるが、９割以上が加曽利ＥⅡ式ないし中期後半の土器であった。

時期は、出土土器から中期後半（加曽利ＥⅡ式）に位置づけられる。

Ⅱ区　３号住居跡（第 55 ～ 58 図、ＰＬ８～ 10）

Ⅱ区の南東部 (018 ～ 023,-835 ～ -841) グリッド付近に位置する。壁面の立ち上がりや壁周溝は確認できなかったが、柱穴の配置や壁際の石列、敷石の状況などから、平面形は主体部が直径 5.9 mの円形または七角形と推定される。

礫層が露出していて、柄部の見極めが困難であったため不明確であるが、石列の雰囲気が柄鏡型を呈する６号住居と酷似するのと、連結部対ピットに相当するピットも存在することから、柄鏡形を呈すると判断した。柄部の軸方向はＮ－21°－Ｗで、幅 1.5 m、長さ２mほどと推定されている。

床面はほぼ平坦で、硬化面は認められなかった。

炉は主体部の中央で検出された。掘り込みの形状

は長径 130cm、短径 80cm の楕円形である。地床炉と見られるが、南辺に亀裂の入った 40cm 弱の礫が残存し、東辺でも３石を検出したことから、石囲い炉の可能性もある。埋設土器はなかった。炉の構築に先行してやや大きめの土坑が掘られ、加曽利ＥⅢ式の深鉢（１）が横位で出土した。別土坑の可能性もあるが、一応炉の掘り方とした。

推定範囲北側の３号埋甕から南西にかけて、ほぼ半周する石列が検出された。長さ 10 ～ 25cm の細長の礫を整然と直線的に並べ、１号埋甕と４号埋甕のところで屈曲する。屈曲角は 130°弱である。石列はなかったが、３号埋甕から５号埋甕、２号埋甕を結んでも同様の角度が得られることから、七角形を想起させる位置関係にある。

主体部および周辺からは 28 本のピットが検出された。すべてが本住居に伴うかどうかは検討の余地があり、柱穴構造も判然としない。強いていえば、Ｐ 11 とＰ 27 が連結部対ピットに相当する可能性が高いと思われる。

遺物は、１号～５号埋甕（２、３、４、５、７）はすべて称名寺式である。その他の一括遺物は総重量で約８kg 出土したが、半分が中期後半、３割が称名寺式であった。

本住居の時期は、１号～５号の埋甕から、後期初頭（称名寺式）に位置づけられる。

Ⅱ区　４号住居跡（第 59 図、ＰＬ 10）

Ⅱ区の西部 (027 ～ 031,–861 ～ –865) グリッドに位置する。平面形は北東角がやや突出し、南東角がややも丸くなるが、一辺 4.2 mのほぼ正方形である。傾きはＮ –10°– Ｅである。

東辺から南辺にかけて 5 cm 程の壁面の立ち上がりを確認した。埋土は暗褐色土で地山砂質土粒を多く含む。床面はほぼ平坦であるが、炉の周辺がやや低くなる。硬化面は認められなかった。

北西角から南西角にかけて壁周溝を検出した。幅は 20 ～ 40cm、深さは 10cm 弱であるが一定しない。埋土は地山の黄褐色砂質土を主体とする。

主体部の中央で石囲い炉を検出した。細長の扁平な礫を、扁平面を内側に向けて縦方向に埋め込み、並べている。６石が残存し、２石分の抜き取り孔と合わせて、８石で構成されていた。形状は長軸が外法 65cm、内法 44cm、短軸が外法 60cm、内法 32cm の楕円形を呈し、炉内の埋土は地山砂質土を少量含む黒褐色土である。

主体部から検出されたピットは２本のみである。いずれも不整形であるが、柱穴としては十分な深さを持つ。それぞれの規模（径・深さ）は別表に記す。

本住居は、他の遺構との重複はなかった。

遺物は、炉の南から加曽利ＥⅢ式の深鉢（１）が出土した。その他は約１kg が一括で取り上げられ、中期後半に属する破片が８割を占める。

時期は、出土遺物より、中期後半（加曽利ＥⅢ式頃か）に位置づけられる。

Ⅱ区　５号住居跡（第 60・61 図、ＰＬ 11）

Ⅱ区の南西部 (009 ～ 016,–865 ～ –871) グリッドに位置する。15 ～ 35cm の掘り込みを有し、壁はやや開き気味に立ち上がる。平面形は直径 6.5 m の円形を呈し、南東部には壁周溝が検出された。

床面は若干波打っており、地山の礫が所々に露出する。硬化面は認められなかった。

住居の中央部で炉を検出した。上面に礫が３石存在したが、炉に伴うものか覆土下部の礫かは判然としない。掘り方は長軸 120cm、短軸 95cm の楕円形で、擂鉢状に掘り込まれている。埋土には炭化物粒がごく少量含まれていた。土器の埋設はなかった。

主体部からはピットが９本検出された。Ｐ３、Ｐ４、Ｐ５は非常に浅いが、他はいずれもほぼ円形で深さは 20cm 以上ある。壁柱穴に相当し、確認されなかった北側にも存在していたものと推定できる。それぞれの規模（径・深さ）は別表に記す。

埋土は二層に分かれ、地山砂質土粒を非常に多く含む２層土が壁際からある程度自然堆積したのち、窪地に円礫を廃棄された状況が窺われる。

本住居は 14 号、16 号、17 号、18 号配石と重

複するが、これらは本住居が埋没したのちに築かれたものである。

遺物は、加曽利ＥⅢ式を中心とした中期後半の土器片が多い。

時期は、出土土器から中期後半（加曽利ＥⅢ式）に位置づけられる。

Ⅱ区　６号住居跡（第 62 ～ 66 図、ＰＬ 11・12）

Ⅱ区中央部やや南寄り (015 ～ 022,-849 ～ -851) グリッド付近に位置する。壁の立ち上がりや壁周溝は確認できなかったが、柱穴の配置や壁際の石列状況などから、平面形は敷石を持つ柄部がＮ－５°－Ｗを向く柄鏡形を呈する。主体部は長径 5.3 m、短径 4.9 m の楕円形と推定される。柄部の敷石は幅 1.6 ～ 1.7 m、長さは約 2.1 m を測り、良好に残存する。左連結部に一際大きな石を配置している。先端部に空白部も見えるが、横置きの礫が１個あり、そこで区画されると思われる。

炉は主体部の中央で検出された。周囲や内部に 10 ～ 20cm ほどの礫が散在していたが、原位置を留めるものは西側と南側の２石である。ともに 40cm を超す大振りの川原石で、被熱のため亀裂が入っている。この２石の位置関係から形状は方形と思われる。中心部に深鉢が正位で埋設されており、覆土は黒色土で焼土や炭化物は含まれない。炉の構築に先行してやや大きめの土坑が掘られていた。一応掘り方としたが、別土坑の可能性もある。

炉の北東側で長さ 15 ～ 25cm の細長の礫を整然と並べた石列が検出された。直線的に並び、１号埋甕のところで屈曲する。屈曲角は 135°前後で、八角形を想起させる。壁際施設の補強材と考えられ、やや乱れるが南東側でも検出されている。石列の状況は、約 10 m東に位置する３号住居跡と酷似する。

炉と連結部の間に、縦１ｍ×横２ｍの範囲で中小の礫が密集する。ちょうど床下土坑の真上にあたるため、埋め戻した際に補強したものと思われる。床面はほぼ平坦で、上記以外にも小規模な礫集中が点在する。顕著な硬化面は認められず、壁周溝も検出されなかった。

主体部および周辺からは 26 本のピットが検出された。すべてが本住居に伴うかどうかは検討の余地があるが、Ｐ５、Ｐ６、Ｐ１２、Ｐ２１および２号埋甕は主柱穴と想定され、その外側を取り巻くピットは壁柱穴に相当するものと思われる。

炉と連結部の中間から３基の床下土坑が検出された。１号床下土坑の底面からは堀之内１式の大型深鉢（５）が出土した。２号と３号は連結部対ピットに相当する位置に掘り込まれている。

遺物は、総重量が 20kg を超え、本遺跡の住居では多い方である。その７割が中期後半の様相を示すものの、出土位置も層位も不明確であるため、本住居との関連性は不明としなければならない。

時期は、炉や埋甕の土器から、後期初頭（称名寺式～堀之内１式）に位置づけられる可能性が高い。

Ⅱ区　７号住居跡（第 67・68 図、ＰＬ 12 ～ 14）

Ⅱ区西部の (035 ～ 039,-868 ～ -873) グリッド付近に位置する。壁面の立ち上がりや壁周溝は確認できなかったが、石囲い炉と埋甕を中心とした遺物群および柱穴の配置などから、平面形は直径 4.5 ～ ５m弱の円形と推定される。

床面はほぼ平坦で、硬化面は認められなかった。

主体部推定範囲の中心からやや北西寄りで石囲い炉を検出した。北西側の礫が抜け落ち、８石が残存しているが、礫の大きさも向きも統一性は見られない。内部には下半部が欠落する加曽利ＥⅢ式の深鉢（２）が正位で埋設されていた。掘り方は構築材の真下から掘り込まれ、形状は一辺 50cm ほどの隅丸方形と推定される。深さは 28cm である。埋土に焼土・炭化物類は含まれない。

炉の南東 1.1 m の地点で埋甕が検出された。この埋甕（１）は、口縁部と底部を欠く深鉢を正位で埋設した上に大ぶりの多孔石（９）を置いていた。炉の北西にも土器（３）の破片が集中して出土した。

主体部推定範囲から、５本のピットを検出した。２号埋甕を中心とした均等な五角形を描く配置で、

主柱穴に相当する。Ｐ４が二段に掘り込まれ、やや大きめであるが、だいたい形状、深さとも似通っている。それぞれの規模（径・深さ）は別表に記す。

また、本住居に伴うとはしなかったが、385 号、387 号、389 号、504 号の各土坑も同範囲内から検出されており、規模も似通っている。他には本住居と重複する遺構は無かった。

炉内から（２）の他に破片が数点出土した。いずれも加曽利ＥⅢ式である。また、主体部推定範囲上層から総量１kg 強の土器片が出土したが、９割以上が縄文や磨消縄文の破片であった。

時期は、出土遺物の状況から中期後半（加曽利ＥⅢ式）に位置づけられる。

Ⅱ区　９号住居跡（第 69 ～ 71 図、ＰＬ 14・15）

Ⅱ区北東部 (037 ～ 044,-823 ～ -830) グリッド付近に位置する。壁面の立ち上がりや壁周溝は確認できなかったが、柱穴の配置などから直径 6.5 ～ 7 mほどの円形と推定される。

炉の西側の約１m × ３mの範囲で平坦な硬化面が検出された。ただし炉や柱穴の確認面より 10 ～ 15cm 高い位置であり、本住居の床面とするかどうかは検討の余地がある。

炉は主体部推定範囲のほぼ中央で検出された。30 ～ 50cm の細長の川原石が６石残存する。北西部の欠落部にも２石分の抜き取り痕が検出され、８石で構成される内法 70cm の方形の石囲い炉であることが判明した。隙間には小礫を差し込んでいる。南辺と東辺の礫には被熱による亀裂が入っている。埋土にはごく少量だが焼土粒が含まれていた。中心には深鉢が正位で埋設されていた。

主体部推定範囲から７本のピットが検出された。Ｐ２は住居中央の炉の近くにあるが、他の６基は中心から３mほどの間隔で六角形をなしており、主柱穴に相当するといえる。

それらの柱穴の間に１号埋甕と２号埋甕がともに正位で検出された。１号埋甕は床面に浅く立てていた感じであり、２号埋甕は口縁部のみ露出する程度に深く埋設されていた。

炉と埋甕の深鉢はいずれも加曽利ＥⅢ式である。それ以外の遺物は一括取り上げであるが、総重量約 2.5kg の出土土器の９割以上が中期ないし中期後半の土器片である。

本住居は、東に隣接する 10 号住居に後出し、一部を破壊している。本住居の時期は、中期後半（加曽利ＥⅢ式）に位置づけられる。

Ⅱ区　10 号住居跡（第 72 ～ 75 図、ＰＬ 15）

Ⅱ区北東部 (037 ～ 042,-818 ～ -824) グリッドに位置する。平面形は、直径 5.7 mほどの円形と推定される。全体に 20 ～ 30cm の掘り込みを確認し、壁面は緩やかに開いて立ち上がる。埋土は地山砂質土ブロックを少量含む暗褐色土である。

床面は若干南東に向けて下っていくが、ほぼ平坦である。壁際に壁周溝を検出し、南西の一部を除いてほぼ全周する。北辺では３重に掘りなおされたような形跡が窺われる。壁周溝の覆土は、地山砂質土粒を多く含む暗褐色土である。

炉はほぼ中央で検出された。15 ～ 20cm の細長い礫を長軸方向に繋げた石囲い炉で、長軸が外法 126cm、内法 110cm、短軸が外法 44cm、内法 34cm と、非常に細長い長円形である。長軸の示す方向はＮ－８°－Ｅである。中心よりやや南に加曽利ＥⅠ式の深鉢（１）を正位で深く埋設していた。炉および土器内の埋土には焼土等は含まれない。

主体部からは 14 本のピットが検出された。壁周溝上にあるＰ１、２、３、４、５、９、10、13、14 とその内側にあるＰ６、７、８、11、12 とに分けられる。前者の中には形状がただれたものもあるが、壁柱穴に相当するものと思われる。

遺物は、炉内埋甕以外は床面より若干浮いた状態で出土したものが大部分で、一括で取り上げた。掲載土器はその中で炉内埋甕と同時期か近いものを選んだ。本住居出土とした土器片の総重量は約９kg に達し、その内の約４割は加曽利ＥⅢ式であるが、これは重複して後出する９号住居、12 号住居の所

産である可能性が高い。

本住居は他に11号住居とも重複し、本住居が11号住居を壊している。なお、本住居より後出する9号住居、12号住居の掘り込みが浅かったために、壁周溝および床面は破壊を免れたのであろう。

本住居の時期は、炉内理甕から中期後半（加曽利ＥⅠ式）に位置づけられる。

Ⅱ区　12号住居跡（第76図、ＰＬ15）

Ⅱ区北東部 (037 ～ 041,-817 ～ -819) グリッドに位置する。本住居は10号住居と重複し、後出するものであるが、覆土が酷似していて壁面の立ち上がりを判別することができなかった。重複していない部分では20cm強の壁面の掘り込みを確認した。その形状から、形状は一辺3.3 mほどの方形と想定される。壁面は緩やかに開きながら立ち上がり、覆土は暗褐色土である。

床面はほぼ平坦であるが、南に向けてやや下がっていく。硬化面は認められなかった。

炉や柱穴も確認されなかった。

遺物は、10号住居との境目付近の床面上で加曽利ＥⅢ式の深鉢（１）～（３）が出土した。他にも総重量で約4 kgの土器片が出土したが、３分の２が加曽利ＥⅢ式ないし中期後半である。

本住居の時期は、中期後半（加曽利ＥⅢ式）に位置づけられる可能性が高い。

Ⅱ区　15号住居跡（第77図、ＰＬ15）

Ⅱ区中央部北寄り (043 ～ 048,-849 ～ -854) グリッド付近に位置する。壁面の立ち上がりや壁周溝は確認できなかったが、柱穴の配置などから、平面形は直径5 m強の円形と推定される。

床面はほぼ平坦で、硬化面は認められなかった。

主体部推定範囲の中央で石囲い炉が検出された。20 ～ 30cmの川原石８石を長軸で繋げており、南辺は開いている。長軸方向をＮ -15°- Ｅにとり、東西の幅は外法80cm、内法50cmである。平面形は、北辺に丸みを持たせており、長円形を呈すると推定される。覆土と地山が酷似しており、掘り込みは確認できなかった。

炉を中心として半径２m前後の位置に５本のピットを検出した。形状はまちまちで深さもＰ２だけがやや深いが、総体的な規模は類似する。ほぼ均等な五角形をなしており、５本とも主柱穴に相当する。それぞれの規模（径・深さ）は別表に記す。

遺物は炉内および推定範囲上層から土器片が十数点出土したが、（１）以外は中期後半という以上の特徴を見出せない破片であった。

本住居と重複する遺構はなかった。

本住居の時期は、出土土器から、中期後半（加曽利Ｅ１式）に位置づけられる可能性が高い。

Ⅱ区　16号住居跡（第78・81図、ＰＬ15･16）

Ⅱ区中央部やや北寄り (035 ～ 040,-850 ～ -855) グリッド付近に位置する。壁面の立ち上がりや壁周溝は確認できなかったが、柱穴の配置と遺物出土状況から、直径５m強の円形と推定される。

床面はほぼ平坦で、硬化面は認められなかった。

主体部推定範囲の中央で石囲い炉が検出された。20 ～ 40cmの川原石８石を長軸で繋げており、北辺は開いている。平面形は、北辺が閉じるとすれば外法で一辺約90cmのほぼ正方形となる。構築材の中には被熱による亀裂の入っているものもある。覆土には炭化物が少量含まれる。中央部に加曽利ＥⅡ式の深鉢（１）が埋設されていた。

炉を中心として半径1.4 ～ 2.2 mの位置に５本のピットを検出した。形状はまちまちでＰ５が一際大きいが、深さは類似する。やや扁平な五角形にはなるが、５本とも主柱穴に相当する。それぞれの規模（径・深さ）は別表に記す。

遺物は、炉内出土土器以外は一括で取り上げた。総重量は８kgを超し、その９割以上が中期後半の土器片であった。

本住居Ｐ３は22号住居のＰ６に切られているため、本住居の方が古い。

本住居の時期は、出土遺物から、中期後半（加曽

利ＥⅡ式）に位置づけられる。

Ⅱ区　17 号住居跡（第 79 図、ＰＬ 16・17）

Ⅱ区北東部 (037 ～ 043,–839 ～ –844) グリッド付近に位置する。壁面の立ち上がりや壁周溝は確認できなかったが、埋甕と柱穴の配置などから、平面形は直径 5.5 ～ 6 mの円形と推測される。

床面はほぼ平坦で、硬化面は認められなかった。

主体部推定範囲の中央で石囲い炉を検出した。北辺の１石のみ 40cm 級であるが、他は 20cm 弱の川原石６石で、計７石から構築されている。形状は南側が若干乱れているが、北側の状況から、長辺が外法 80cm、内法 50cm、短辺が外法 60cm、内法 30cm の方形と思われる。長軸の方向はＮ –38°－Ｅを示す。構築材の中には亀裂の入っているものもある。掘り方や焼土類は確認できなかった。

炉を中心として半径 2.5 ～ 3 mの範囲に３本の埋甕が検出された。１号埋甕は炉の南東で深鉢の底部のみを正位で検出した。２号埋甕は炉の南西で検出され、潰れていたが深鉢がほぼ１個体分出土した。３号埋甕は炉の南西で鉢の底部が逆位で出土した。３つとも加曽利ＥⅢ式である。

炉を中心として半径 2.2 mの位置に３本のピットを検出した。形状は不揃いでＰ１がやや大きいが、深さは類似する。この３本は壁柱穴に相当し、確認できなかった柱穴が存在するものと思われる。それぞれの規模（径・深さ）は別表に記す。

遺物は、３基の埋甕の他は 23 点を一括で取り上げたが、特徴的なものは特にない。

本住居は 30 号住居と明らかに重複する。覆土では新旧を確認できなかったが、出土遺物から、本住居は 30 号住居より後出すると判明した。

本住居の時期は、埋甕の土器から、中期後半（加曽利ＥⅢ式）に位置づけられる。

Ⅱ区　18 号住居跡（第 80・81 図、ＰＬ 17・18）

Ⅱ区北東部 (036 ～ 043,–829 ～ –835) グリッド付近に位置する。壁面の立ち上がりや壁周溝は確認できなかったが、柱穴の配置と敷石の状況などから住居と認定された遺構である。平面形は直径７m強の円形と推定される。

床面はほぼ平坦で、硬化面は認められなかった。炉の形跡もまったく認められなかった。

主体部推定範囲の中央やや南西部と北西部の２箇所に敷石を検出した。前者は北西から南東に向けて 2.4 mほどの石列を作っており、それを軸に平坦面を上に向けた礫を寄せ並べている。石列の中央に称名寺式の深鉢（１）が埋設されている。後者は明瞭な石列は認められず、長径 1.2 m、短径 0.9 mの楕円形内に扁平な礫を集めている。

推定範囲から４本のピットを検出した。台形をなし、Ｐ１～Ｐ２間以外はそれぞれの中間に１基ずつ検出されると均整の取れた七角形の壁柱穴となるのだが、残念ながら確認できなかった。それぞれの規模（径・深さ）は別表に記す。

遺物は、（１）以外は包含層出土のため一括取り上げである。全体量は少ないが、その大半は中期の破片であった。

本住居の時期は、埋甕の土器から、中期後半～後期初頭（加曽利ＥⅣ～称名寺式）に位置づけられる可能性が高い。

Ⅱ区 19 号住居跡 (第 82 ～ 86 図 、ＰＬ 18 ～ 20)

Ⅱ区北東部 (030 ～ 035,–833 ～ –838) グリッド付近に位置する。壁面の立ち上がりや壁周溝は確認できなかったが、遺物出土状況や柱穴の配置から、主体部は直径５m弱の円形と推定される。そして炉と１号埋甕の延長上に延びる石列があり、その先に３号埋甕を検出したため、これを先端とする柄鏡形と推定される。柄部はＮ –39°－Ｅを指し、長さは 1.5 m弱で、幅は不明である。連結部には、軸方向に揃えて礫が並べられていた。

主体部には敷石が比較的良好な状態で残存していた。特に南～西部が良好で、20cm 前後の扁平な礫を敷き詰め、隙間には小振りの礫を充填している。西部から北東部にかけても、壁際の石列と敷石が残

存していた。直線的な石列は120°前後で屈曲しながらほぼ1周し、均整の取れた六角形を形成する。炉の東側では敷石の密度は薄まるが、一回り大きい30cm級の礫を埋めている。

推定範囲の中央で炉が検出された。大小の扁平礫を長方形に並べた石囲い炉で、長軸が外法84cm、内法54cm、短軸が外法68cm、内法40cmを測り、軸方向は柄部とほぼ同じN－40°－Eを指す。礫は扁平面を炉内に向けるように埋め込まれていた。覆土は不明であり、埋設土器はなかった。

炉と連結部の中間地点で1号埋甕が検出された。ほぼ完形の称名寺式の深鉢で、30cm以上埋められていた。土器の周囲に、扁平礫を方形に深く埋め込む「連結部石囲い施設」を構築している。また、炉の1m西の敷石の中から2号埋甕が検出された。

推定範囲から9本のピットを検出した。P4が若干東にずれる嫌いがあるが、おおむね石列の僅かに外側を円形に廻るように配置されており、壁柱穴に相当すると認められる。それぞれの規模（径・深さ）は別表に記す。

P6に対する連結部対ピットの位置には先んじて633号土坑が掘られており、覆土が酷似していたためプランが確認できなかった。

遺物は、1～3号の埋甕以外は上層での一括遺物として取り上げられた。10m四方に9軒がひしめく密集地帯であり、総重量は21kgを超した。大まかな比率は中期後半が6割、後期前半が3割、不明その他が1割であった。

本住居は25号、27号、32号、33号の各住居と重複する。いずれも掘り込みが確認できず、柱穴の切り合い関係を見ても、本住居のP6が32号住居のP5を切っている程度である。あとはそれぞれに伴う遺物の型式により、時期を判断する。

本住居の時期は、埋甕の土器から、中期末～後期初頭（加曽利EⅣ式～称名寺式）に位置づけられる。

Ⅱ区　20号住居跡（第87～90図、PL20・21）

本住居は、当初大型住居と見立てて調査をはじめたが、土層断面により2軒あることが判明して、21号住居と分けた。ただし、中心線から離れた位置で両者の覆土間に地山の立ち上がりが確認できたもので、両者の覆土はまったく同質であったため、新旧は判別できなかった。

南側にあたる本住居は、Ⅱ区西部（032～038,－860～－867）グリッド付近に位置する。平面プランが確定できず、ベルトを残して掘り下げていったため、壁の立ち上がりは追えなかった。土層断面図によると深さ15～20cmの掘り込みを有する。平面形の特定はできないものの、敷石および遺物出土状況から、炉を中心とした直径6.5mの円内に収まる規模と推定される。

推定範囲の南部で敷石が検出された。西南西から東北東に向けた1×4mほどの細長い範囲に15～20cmの礫を敷き詰めていた。西半の方がやや礫が大きい。両端で直角に屈曲して石列が延びるため、四角形を想起させる形態となる。石列の方位はN－19°－Wを示す。

推定範囲の中央から石囲い炉が検出された。40～50cmの大きめの礫をほぼ正方形に並べ、地中に埋め込んでいる。規模は外法約1m、内法0.5mで、南北軸はN－10°－Eを指す。掘り込みや覆土は不明である。炉内の埋設土器はなかった。炉の周囲に硬化面も確認できなかった。

敷石の中央部で1号埋甕が検出された。加曽利EⅣ式の深鉢で、ほぼ完形で出土した。その他の遺物はほとんど上層の一括として取り上げられた。総重量は20kg近くに及び、加曽利EⅢ式やEⅣ式が比較的多かった。石器では打斧や石皿多孔石のほか、大型の石棒が出土した。

本住居は21号住居の他に31号住居と重複する。後出する本住居が一回り小さな31号住居を丸ごと覆っているが、本住居の方が掘り込みが浅かったため、31号住居が確認できた。また、本住居の南側に644号、672号、673号、552号、653号の土坑が近接する。これらについて明確な時期差は判定できないため、本住居に関係する可能性はある。

本住居の時期は、1 号埋甕などから、中期後半（加曽利ＥⅣ式）に位置づけられる。

Ⅱ区 21 号住居跡（第 87・90・91 図、PL20・21）

Ⅰ区西部（036 ～ 042,–859 ～ –865）グリッド付近に位置する。重複する 20 号住居と同様に、断面では掘り込みを確認したが、平面形は確認できなかった。遺物出土状況などから、直径 5.5 mほどの円形と推定される。

床面はほぼ平坦で、硬化面は認められなかった。

炉も検出されなかった。

推定範囲の東半部で石列を検出した。20 号住居の東石列とほぼ一直線上にある。平坦面を上に向けており、敷石の可能性が高い。西部では集石が検出されたが、こちらには平坦面の意識は見られない。

本住居は 20 号住居と重複するが、覆土が酷似していたため、新旧関係は確認できなかった。

遺物は、大型の石皿多孔石や棒状礫が出土した。土器類は覆土中からの一括取り上げであるが、加曽利ＥⅣ式の大型深鉢（１）のほか、中期後半の破片を中心に 13kg ほど出土した。

本住居の時期は、出土遺物から、中期後半（加曽利ＥⅣ式）に位置づけられる。

Ⅱ区　22 号住居跡（第 92 図、ＰＬ 21・22）

Ⅱ区中央部（033 ～ 037,–849 ～ –853）グリッド付近に位置する。壁面の立ち上がりや壁周溝は確認できなかったが、柱穴の配置などから、平面形は直径 4.5 mほどの円形と推定される。

床面はほぼ平坦で、硬化面は認められなかった。

主体部推定範囲の中央で炉を検出した。30cm ほどの細長礫が南辺と東辺に３石残存し、東辺には１石分の礫抜き取り痕が検出された。北辺と西辺は礫が認められなかったが、掘り方とも併せ見て、一辺 70 ～ 80cm のほぼ正方形に近い形状の石囲い炉の可能性が高い。炉内には加曽利ＥⅢ式の深鉢（１）が正位で埋設されていた。掘り込みの深さは約 30cm で、底面は地山の礫に当たる。覆土は暗褐色土で、埋甕の周囲に炭化物が見られる。

主体部で６本のピットが検出された。Ｐ４はすぐ礫層に当たり、Ｐ５と比べると深さに若干差があるが、他はほとんど近似する規模といえる。やや歪な六角形となるが、主柱穴に相当すると思われる。それぞれの規模（径・深さ）は別表に記す。

遺物は、総数 16 点と少なく、（１）以外は一括で取り上げた。

本住居のＰ６は 16 号住居のＰ３を切っており、Ｐ４は 23 号住居Ｐ２に切られている。したがって本住居は 23 号住居に先行し、16 号住居よりは後出する。また、485 号土坑、499 号土坑、585 号土坑、587 号土坑が本住居の推定範囲内にあり、関係性には検討の余地がある。

本住居の時期は、炉内出土土器から、中期後半（加曽利ＥⅢ式）に位置づけられる。

Ⅱ区　23 号住居跡（第 93 図、ＰＬ 22・23）

Ⅱ区中央部（029 ～ 035,–851 ～ –856）グリッド付近に位置する。壁面の立ち上がりや壁周溝は確認できなかったが、柱穴の配置などから、平面形は直径 5.5 mほどの円形と推定される。

炉は検出されず、硬化面も認められないため、床面の判別も不能である。

主体部推定範囲の中央で埋甕を検出した。口縁部が確認面より 5cm ほど露出し正位で、加曽利ＥⅢ式の深鉢（１）がで埋設されていた。下半部は欠落していた。掘り込みの深さは 15cm で、炉に伴う埋甕の可能性もある。

主体部で６本のピットが検出された。Ｐ６はすぐ礫層に当たるために浅いが、他はほとんど近似する規模といえる。やや歪な六角形となるが、主柱穴に相当すると思われる。それぞれの規模（径・深さ）は別表に記す。

遺物は、総数９点と少なく、（１）以外は一括で取り上げた。

本住居のＰ２は 22 号住居のＰ４を切っているため、本住居は 22 号住居より後出する。また、本

住居の推定範囲内には 522 号土坑、541 号土坑、542 号土坑など、いくつかの土坑がある。これらについては、本住居との関係性に検討の余地がある。

本住居の時期は、埋甕出土土器から、中期後半（加曽利ＥⅢ式）に位置づけられる。

Ⅱ区　24 号住居跡（第 94 図、ＰＬ 23）

Ⅱ区北東部 (035 ～ 036,–841) グリッドに炉が位置する。壁面の立ち上がりや壁周溝は確認できなかった。柱穴も検出されず、上層の遺物分布も希薄であったため、平面形態や規模は不明である。

炉は方形の石囲い炉と見られ、４石が残存した。特に北辺は長径 50cm を超す大型の礫１石で構成している。規模は東西が外法 70cm、内法 40cm であり、南北は不明である。南北軸がＮ –32°－Ｅを指す。炉内から加曽利ＥⅢ式の深鉢（１）の上半部が正位で出土した。

また、炉の北側に隣接して加曽利ＥⅡ式と見られる深鉢（２）の胴部が正位で埋設されていた。

本住居からの出土土器は、（１）（２）以外は一括取り上げで、中期後半の土器片が 19 点である。

本住居の時期は、２つの埋設土器から、中期後半（加曽利ＥⅡ～Ⅲ式）に位置づけられる。

Ⅱ区　25 号住居跡（第 95・96 図、ＰＬ 23・24）

Ⅱ区北東部 (031 ～ 037,–827 ～ –834) グリッド付近に位置する。壁面の立ち上がりや壁周溝は確認できなかったが、柱穴の配置などから、平面形は直径 6.5 mほどの円形と推定される。

床面はほぼ平坦で、硬化面は認められなかった。

主体部推定範囲の中央で炉を検出した。ほぼ正方形に近い形状の石囲い炉で、一辺が外法１m弱、内法 60cm である。南北軸はＮ－２°－Ｅである。北辺は 60cm を超す扁平礫を、扁平面を内側に向けて埋め込んでいる。炉内に埋設土器はなかった。

主体部で６本のピットが検出された。Ｐ３がやや小さいが、炉を中心に六角形にめぐり、主柱穴に相当すると見なせる。それぞれの規模（径・深さ）は別表に記す。

本住居として取り上げた遺物は包含層、柱穴を合わせても非常に少ない。これは、本住居周辺は住居跡が密集し、本住居も多方向から６軒の住居と重複するため、炉を検出するまではグリッドや他住居で遺物を取り上げていたためである。

また、推定範囲内には 13 基の土坑があるが、ほとんどは新旧関係が不明であり、本住居に伴う可能性がないとはいえない。

本住居の時期は、不明確な部分はあるが、中期後半（加曽利ＥⅡ～Ⅲ式）に位置づけられる可能性が高い。

Ⅱ区　26 号住居跡（第 97 図、ＰＬ 24・25）

Ⅱ区中央部 (027 ～ 032,–844 ～ –849) グリッド付近に位置する。壁面の立ち上がりや壁周溝は確認できなかったが、柱穴の配置などから、平面形は直径５mほどの円形と推定される。

床面はほぼ平坦で、硬化面は認められなかった。

主体部推定範囲の中央で石囲い炉が検出された。北辺の３石と南辺の２石は原位置と認められ、それだけを見るとＮ –87°－Ｅを向く 70cm × 60cm ほどの方形に見える。深さ 10cm 弱の掘り込みがあり、掘り方の平面形は長軸を東西方向に向けた楕円形である。炉内に埋設土器はなかった。

炉を中心として半径２m前後の位置に６本のピットを検出した。Ｐ５がやや深いが、総体的な規模は類似する。Ｐ４は２段に掘り込まれている。６本とも主柱穴とみなされる。それぞれの規模（径・深さ）は別表に記す。

遺物は上層や柱穴覆土などから中期後半の破片が少量出土したのみである。

本住居と重複する住居はなかった。

本住居の時期は、不明確な点はあるが、中期後半に位置づけられる可能性が高い。

Ⅱ区　27 号住居跡（第 98 図、ＰＬ 25）

Ⅱ区北東部 (029 ～ 033,–837 ～ –842) グリッド

付近に位置する。壁面の立ち上がりや壁周溝は確認できなかったが、柱穴の配置などから、平面形は直径６ｍほどの円形と推定される。

床面はほぼ平坦で、硬化面は認められなかった。

主体部推定範囲の中央で炉を検出した。主要８石が残存する礫はしっかり埋め込まれ、平面形は丸みを持って窄まる釣鐘状を呈する。東辺は約 40cm の大型礫１石で賄い、長軸の内法は約 50cm である。軸方向はＮ－89°－Ｗを指す。覆土には焼土や炭化物は含まれない。炉内に埋設土器はなかった。

炉に接する北側に、ほぼ１個体分の深鉢が転倒して潰れた状態で出土した。土器下面の標高は炉構築礫の下面とほぼ同一である。

主体部で３本のピットが検出された。炉を中心に直角に曲がり、壁柱穴に相当すると見なせる。当然他にも存在していたであろうが、土質が非常に判別しにくく、検出には至らなかった。それぞれの規模（径・深さ）は別表に記す。

本住居周辺は住居跡が密集し、本住居はその西端部に位置する。19 号住居、24 号住居、30 号住居、32 号住居との重複が想定されるが、覆土での新旧は確認できなかった。

本住居として取り上げた遺物は、転倒土器を除くと包含層、柱穴を合わせても非常に少なく、後期前半の土器片が十数点である。

また、推定範囲内には数基の土坑があるが、どれも出土遺物から中期後半に位置づけられるもので、本住居に伴う可能性はないと思われる。

本住居の時期は、不明確な部分もあるが、炉に接する転倒土器から、後期前半（堀之内１式）に位置づけられる可能性が高い。

Ⅱ区　28 号住居跡 (第 99 ～ 102 図、PL25・26)

Ⅱ区北東部 (033 ～ 039,–827 ～ –833) グリッドに位置する。西側の一部を除いてほぼ全周で 10 ～ 30cm の掘り込みを確認した。壁面は開きながら立ち上がる。覆土は不明である。平面形は北東部が若干突出する楕円形で、長径が 5.8 m、短径が 5.1 m、長軸方向はＮ－１°－Ｗを示す。

床面はほぼ平坦で、硬化面は認められなかった。壁周溝も検出されなかった。

主体部中央よりやや北で石囲い炉が検出された。860 号土坑に北東部を破壊されていたが、西側に石列が残存していた。形状は長軸 75cm、短軸 50cm の釣鐘型で、長軸はＮ－９°－Ｗを指す。二層に分かれる覆土の上層は炭化物、焼土粒を含む。

本住居のピットとして、他住居の柱穴に変更した１本を除き、24 本が調査された。これらがすべて本住居に伴うかどうかは、さらに検討の余地がある。この中で主柱穴の可能性が高いと考えられるのはＰ１、Ｐ３、Ｐ 11、Ｐ 24 であろうか。規模的には問題なく、正六角形を形成する位置関係にある。それぞれの規模（径・深さ）は別表に記す。

遺物は総量では 32kg に達するが、その大半は覆土一括で取り上げている。８割強が加曽利ＥⅡ～Ⅲ式であった。主体部北辺で堀之内１式の深鉢（28）がほぼ完形で出土したが、本住居に伴うとは言いがたい。石器も比較的多く、打斧は１１点出土した。

本住居は９号住居、25 号住居と重複するが、覆土での切り合い関係は判別できなかった。また、いくつかの土坑が本住居内に存在するが、新旧関係や本住居との関係は不明である。

遺物は約 35kg で、Ⅱ区では最も多かった。中期後半がほぼ９割を占め、そのうち加曽利ＥⅡ式、ＥⅢ式が明確なものが約２割ずつであった。

時期は、不明確な部分もあるが、中期後半（加曽利ＥⅡ式～ＥⅢ式）に位置づけられる可能性が高い。

Ⅱ区　29 号住居跡（第 103 図、ＰＬ 26・27）

Ⅱ区北東部 (028 ～ 033,–825 ～ –829) グリッドに位置する。壁面の立ち上がりは確認できなかったが、壁周溝や柱穴の配置から、平面形は直径４ｍ強の円形か、楕円形になると推定される。

床面はほぼ平坦で、硬化面は認められなかった。

壁周溝は北半分をちょうど半周する。幅は 10 ～ 30cm、深さも８～ 21cm と一定でない。

主体部の中央で炉が検出された。長軸 42cm、短軸 34cm の不整楕円形で、深さは 18cm である。覆土には炭化物が含まれる。埋設土器はなかった。

本住居からは 10 本のピットが検出され、いずれも主柱穴に相当する。Ｐ８とＰ９、Ｐ４とＰ10は隣接し、壁周溝の両端となっている。それぞれの規模（径・深さ）は別表に記す。

本住居として取り上げた遺物は、柱穴出土の加曽利ＥⅡ式の深鉢（１）（２）など、掲載した４点の他は中期後半としか判定できない破片が８点である。柱穴や壁周溝の検出まで住居と認定されていなかったためで、上層の遺物は他住居や遺構外の扱いとなってしまった。

本住居は、25 号、33 号、50 号住居と重複する位置にあるが、覆土の切り合いは確認できなかった。また、いくつかの土坑も重複関係にあるが、時期が判然とせず、本住居に伴うか否かは判断しがたい。

本住居の時期は、遺物数が少ないため不明確な部分はあるが、出土遺物から、中期後半（加曽利ＥⅡ式）に位置づけられる可能性が高い。

Ⅱ区　30 号住居跡（第 104 ～ 108 図、ＰＬ 28）

Ⅱ区北東部 (034 ～ 039,–838 ～ –843) グリッドに位置する。全周で５～ 25cm の掘り込みを確認し、壁面は開きながら立ち上がる。覆土は地山の砂質土ブロックを混入する暗褐色土である。平面形は長径が 5.6 m、短径が 4.5 m の楕円形で、長軸はＮ –23° – Ｗを示す。

床面はほぼ平坦で、硬化面は認められなかった。壁周溝も検出されなかった。

主体部の中央で炉跡らしき土坑が検出された。直径 75cm の円形で、深さは 30cm である。覆土は暗褐色土で、焼土等は含まれない。

炉の南東部に石列が検出された。面を揃えている様子はなく、床面より数 cm 浮いた高さで並んでいるため、本住居に伴うかどうか、検討の余地は残る。

壁面の 20 ～ 30cm 内側で５本のピットが検出された。ほぼ均等な間隔で、均整の取れた五角形を形成する。Ｐ１～４は規模が類似し、Ｐ５が若干大きく深いが、どれも主柱穴に相当する。それぞれの規模（径・深さ）は別表に記す。

また、本住居では住居内土坑が８基検出された。すべて本住居に伴うものか、検討の余地がある。それぞれの規模（径・深さ）は別表に記す。

掘り込みが残存していたためか、本住居からは 20kg 弱の遺物が出土した。大半が覆土一括での取り上げであるが、６割以上が加曽利ＥⅡ式を中心とした中期後半の土器片であった。

本住居は 17 号住居、24 号住居と重複するが、覆土の切り合いは確認できなかった。また、いくつかの土坑も重複関係にあるが、時期が判然とせず、本住居に伴うか否かは判断しがたい。

本住居の時期は、中期後半（加曽利ＥⅡ式）に位置づけられる。したがって 17 号住居、24 号住居よりも古く、切られる形となる。壁の立ち上がりが残存していたのは、17 号、24 号両住居の掘り込みが本住居よりも浅かったためであろう。

Ⅱ区　31 号住居跡 (第 109 ～ 111 図 ､PL28・29)

Ⅱ区西部 (032 ～ 037,–862 ～ –866) グリッドに位置する。20 号住居の床下を調査中にプランが判明し、より古い型式の土器が出土したため、別住居と認定した。全周で 20 ～ 30cm の掘り込みが確認された。形状は長径 4.4 m、短径 3.7 m の楕円形で、軸方向はＮ – １° – Ｅを指す。

炉跡や硬化面は検出されなかった。床面はすでに 20 号住居に飛ばされていた可能性が高く、残存していたのは掘り方の覆土と見られる。掘り方は、中央部が若干深く、緩やかな二段に掘り込まれている。壁面は北側はほぼ垂直に立ち上がるが、東、西、南側は大きく開く。したがって実際の住居の規模は、この３方向へはまだ広がる可能性がある。

主体部の南側に 672 号土坑と 673 号土坑を検出した。規模、深さが似通い、一対と見ても不自然はない。また 664 号土坑には埋甕が設置されていた。これらは、確証がなかったので住居に組み入れてい

ないが、入口部に関わる施設の可能性がある。

遺物は覆土内だけでなく、20 号住居の敷石の下や上述の土坑近辺からも出土した。総重量約 10kg のうち、中期後半の土器が８割を占めた。特に加曽利ＥⅡ、ＥⅢ式の割合が高かった。

本住居の時期は、出土遺物から、中期後半（加曽利ＥⅡ～ＥⅢ式）に位置づけられる。

Ⅱ区　32 号住居跡（第 112 図、ＰＬ 29・30）

Ⅱ区北東部 (030 ～ 036,–832 ～ –838) グリッド付近に位置する。炉の北西部で断続的に検出された 10cm ほどの段差が壁面の一部と思われるが、この走向と柱穴の配置などから、形状は長径約 6.5 m、短径 6 m弱の楕円形が推定される。床面はほぼ平坦で、硬化面は認められなかった。

推定範囲のほぼ中央で石囲い炉が検出された。20 ～ 40cm の細長礫を∩字状に並べたもので、南辺の礫が省かれている。規模は北辺が 108cm 残存長で西辺 90cm、東辺 105cm を測る。軸方向はＮ－４°－Ｗを指す。礫に被熱の痕跡は確認できなかったが、覆土には炭化物や焼土粒が含まれていた。

本住居のピットは、炉を中心に６本検出された。直径や深さに多少のばらつきはあるが、主柱穴に相当すると思われる。それぞれの規模（径・深さ）は別表に記す。

本住居とは、19 号住居のほぼ全体が重なる。19 号住居の方が新しく、本住居の上に敷石等を構築している。そのほか、25 号、27 号、33 号住居と重複すると思われるが、覆土の切り合いは確認できなかった。また、規模や位置が壁柱穴に遜色ないものも含め、相当数の土坑が推定範囲内で検出されているが、時期を明確に判断できないため、本住居との関係は不明としておく。

本住居として取り上げた遺物は、掲載分以外では中期後半の土器片が 23 点である。少ないのは、重複する 19 号住居として取り上げられた分が相当量あるためと思われる。

本住居の時期は、不明確な部分が多いが、炉や柱穴の出土遺物から、中期後半（加曽利ＥⅡ式）に位置づけらる可能性が高い。

Ⅱ区　33 号住居跡 (第 113・114 図、Ｐ Ｌ 30・31)

Ⅱ区北東部 (027 ～ 033,–829 ～ –835) グリッド付近に位置する。壁面の立ち上がりや壁周溝は確認できなかったが、柱穴の配置などから、平面形は直径 6.5 mほどの円形と推定される。

床面はほぼ平坦で、硬化面は認められなかった。

推定範囲のほぼ中央でがが検出された。630 号土坑に一部破壊されていたが、東辺に１石と西辺に２石が残存し、石囲い炉の可能性が高い。掘り方は長径 84cm、短径 60cm の楕円形で、軸方向はＮ–66°–Ｅを示す。中央部から埋設土器（１）を検出した。上に礫が２石乗っていたが、意図的か否かは不明である。また、東辺の細長礫の下からも土器（４）が出土した。いずれも底部を欠く深鉢であった。

本住居のピットは、炉を中心に７本検出された。直径や深さに多少のばらつきはあるが、壁柱穴に相当すると思われる。Ｐ１とＰ７、Ｐ４とＰ５、Ｐ５とＰ６の間に１本ずつあるとほぼ等間隔で巡るのだが、確認は困難であった。それぞれの規模（径・深さ）は別表に記す。

本住居とは、19 号、25 号、27 号、32 号、50 号の各住居と大なり小なり重複すると思われるが、覆土の切り合いは確認できなかった。また、他住居の柱穴も含め、相当数の土坑が推定範囲内で検出されているが、時期を明確に判断できないため、本住居との関係は不明としておく。

本住居として取り上げた遺物は、掲載分以外では中期後半の土器片を中心とする。

本住居の時期は、不明確な部分が多いが、炉や埋甕の出土遺物から、中期後半（加曽利ＥⅢ式）に位置づけらる可能性が高い。

Ⅱ区　44 号住居跡（第 115 図、ＰＬ 31）

Ⅱ区南西部 (021 ～ 027,–874 ～ –880) グリッド

付近に位置する。当初は炉のみが単独で調査されたが、図上でピットを加え、住居に再構成した。その位置関係から、やや根拠に乏しいが直径６ｍほどの円形と推測される。

床面はほぼ平坦で、硬化面は確認されなかった。

炉は長方形を呈し、細長い礫を繋げて置く石囲い炉で、長軸方向はＮ－19°－Ｗを指す。南辺と北西角の礫が欠けるが、南辺には１石分、北西角には２石分の抜き取り穴を検出し、礫が全周することが判明した。法量は長軸が外法 118cm、内法 90cm、短軸が外法 66cm、内法 40cm である。中央部に埋甕の痕跡らしき掘り込みがあったが、遺物はなかった。炉の構築礫の中に多孔石が転用されていた。

本住居に伴う柱穴として、炉から２ｍほどの位置にある３本のピットを採択した。それぞれの規模（径・深さ）は別表に記す。

図上復元のため本住居として取り上げた遺物はなく、柱穴からも出土していない。ただし上層グリッドの包含層では 16kg 余りが出土しており、７割が中期後半、うち約半分が加曽利ＥⅢ式であった。

本住居は、他住居との重複はない。推定範囲内にいくつかの土坑が存在するが、時期の判定ができないため、本住居との関係は不明である。

本住居の時期は、石囲い炉の状況や上層遺物からは中期後半の可能性が高いが、不確定要素が多いため、不明としておく。

Ⅱ区　45 号住居跡（第 116 図、ＰＬ 31・32）

Ⅱ区西部やや南寄り (027 ～ 033,-871 ～ -878) グリッド付近に位置する。当初は炉のみが単独で調査されたが、図上でピットを加え、住居に再構成した。その位置関係から、やや根拠に乏しいが直径６ｍ強の円形と推測される。

床面はほぼ平坦で、硬化面は確認されなかった。

炉は長方形を呈する石囲い炉で、長軸方向はＮ－３°－Ｅを指す。南辺と西辺南部の礫が欠けるが、細長い礫を置くだけで抜き取り痕が残らないため、当初からなかったのかは不明である。法量は長軸が外法 100cm、内法 84cm、短軸が外法 60cm、内法 46cm である。中央部に加曽利ＥⅡ式古段階の深鉢（１）が埋設されていた。覆土は３層に分けられ、加曽利ＥⅡ式の深鉢破片（２）が出土している。

本住居に伴う柱穴として、炉から２、３ｍほどの位置にある３本のピットを採択した。それぞれの規模（径・深さ）は別表に記す。

本住居は 46 号住居、47 号住居と重複すると思われる。その他にも、本住居の推定範囲内には複数の土坑や柱穴が存在するが、時期の判定ができないため、本住居との関係は不明である。

掲載した以外の遺物は、一括およびＰ２、Ｐ３から、中期後半としか時期を特定できない破片が数点出土したのみである。上位の包含層では、中期後半の破片が６割を超す。

本住居の時期は、炉出土遺物から、中期後半（加曽利ＥⅡ式）に位置づけられる。

Ⅱ区　46 号住居跡（第 117・118 図 ,PL32・33）

Ⅱ区西部やや南寄り (027 ～ 033,-867 ～ -873) グリッド付近に位置する。単独で調査された埋甕を中心に、図上でほぼ円形に巡るピットを選出して住居に再構成した。その位置関係から、やや根拠に乏しいが直径６ｍほどの円形と推測される。

床面はほぼ平坦で、硬化面は確認されなかった。

推定範囲のやや北寄りで石囲い炉が検出された。東西の辺に２石ずつ残存し、北辺で抜き取り痕が検出された。南辺は不明であるが、内法 50cm 四方の方形と思われる。傾きはＮ－24°－Ｗを示す。炉内に加曽利ＥⅢ式の深鉢（１）の上半部が埋設されていた。覆土には焼土、炭化物等は含まれなかった。

本住居に伴う壁柱穴として、炉を取り囲む６本のピットを採択した。それぞれの規模（径・深さ）は別表に記す。

推定範囲内から２基の埋甕が検出された。１号埋甕は炉の南東部に隣接し、加曽利ＥⅡ式の壺（３）が出土した。２号埋甕は深鉢胴部（６）Ｐ６に切られる形で検出された。

本住居は 45 号住居、47 号住居と重複すると思われる。その他にも、本住居の推定範囲内には複数の土坑や柱穴が存在するが、時期の判定ができないため、本住居との関係は不明である。

掲載した以外の遺物は、炉、埋甕および柱穴の覆土から時期不明の破片が数点出土したのみである。上位の包含層では、中期後半の破片が６割を超す。

本住居の時期は、炉の埋甕から、中期後半（加曽利ＥⅡ～Ⅲ式）に位置づけられる可能性が高い。

Ⅱ区　47 号住居跡（第 119 図、ＰＬ 33）

Ⅱ区西部やや南寄り (025 ～ 031,-866 ～ -872) グリッド付近に位置する。炉はないが、図上で円形に取り巻くピットを選出して、住居に再構成した。その位置関係から、やや根拠に乏しいが直径 6.5 m 弱の円形と推測される。

床面はほぼ平坦で、硬化面は確認されなかった。

推定範囲の北寄りで埋甕が検出された。加曽利ＥⅡ式の深鉢（１）で、胴部が正位で埋設されていた。20cm 弱の礫が添えられ、掘り込みは南北に長い。覆土には焼土、炭化物等は含まれなかった。

本住居に伴う壁柱穴として、円形に巡る９本のピットを採択した。それぞれの規模（径・深さ）は別表に記す。

本住居は、45 号住居、46 号住居と重複すると思われる。その他にも、本住居の推定範囲内には複数の土坑や柱穴が存在するが、時期の判定ができないため、本住居との関係は不明である。

掲載した以外の遺物は、一括およびＰ２、Ｐ３から、時期不明の破片が数点出土したのみである。上位の包含層では、中期後半の破片が６割を超す。

本住居の時期は、炉の埋甕から、中期後半（加曽利ＥⅡ～Ⅲ式）に位置づけられる可能性が高い。

Ⅱ区　48 号・49 号住居跡

（第 120 ～ 123 図、ＰＬ 33 ～ 36）

ともにⅡ区南西部 (016 ～ 023,-862 ～ -869) グリッド付近に位置する。単独で調査された配石を中心に、図上でほぼ円形に巡るピットを選出して住居に再構成した。ピットの時期を明確に把握することは困難であったが、その位置関係から、建て替えによる２軒分あると判断した。柱穴がほぼ円形に巡る方を 48 号住居、六角形状に巡る方を 49 号住居とした。両者とも、やや根拠に乏しいが直径７mほどの円形と推測される。両者の新旧関係は、48 号住居のＰ７が 49 号住居のＰ６を僅かに切ることから、48 号住居の方が新しい。したがって、炉は 48 号住居に帰属する。

床面はほぼ平坦で、硬化面は認められなかった。

推定範囲の中央で石囲い炉が検出された。方形で主軸はＮ -29°- Ｗを向く。北辺、西辺はそれぞれ 62cm、42cm の細長礫１石ずつで構成されている。両者とも著しく被熱して赤く変色し、細かい亀裂が生じていた。南辺にも細長礫が半分欠落した状態で残存していた。西辺の外側にも扁平礫が２石縦に埋め込まれていた。以上の礫は原位置のままと思われ、他の住居の炉とは様相が異なる。もしくは炉も作り直している可能性も考えられる。なお、東辺上に円礫が２石あったが、原位置は留めていない。法量は、炉部分は南北方向で外法 80cm、内法 44cm を測り、東西方向は不明である。掘り方は円に近い隅丸方形で、やや南北に長い。長軸が 135cm、短軸が 120cm、深さは 34cm である。

48 号住居の柱穴として、ほぼ円形に巡る９基の土坑を採択した。壁柱穴に相当すると思われる。

49 号住居の柱穴としては、六角形状に位置する８基の土坑を採択した。Ｐ３とＰ７を除く６本が主柱穴に相当すると思われる。それぞれの規模（径・深さ）は別表に記す。

遺物は、各柱穴から個別に出土しているが、掲載遺物以外はほとんど無い。掲載遺物の内訳も多時期に渡る。

本住居の時期は、不明確な部分が多く、確定できない。

さて、本住居の炉は、被熱痕跡を持つ方形の石組みということで、炉と判断した。しかし発掘時には

南辺の半欠礫からさらに南にある 56cm × 32cm の大振りの礫も含めて、配石として調査された。確かに北辺の礫と対峙するようにも見え、掘り方もこの礫まで達していて、しっかり埋め込まれている。被熱痕跡は不明であるが、少なくとも亀裂はない。配石や墓坑、あるいは特異な炉としての可能性も含め、検討されるべき余地は十分にある。（図版はこの部分までを含めて掲載した。）

また、本住居の南東部で 12 号配石が検出された。詳細は配石の項で述べるが、石敷きの走行が炉の方向と一致し、位置的に柄鏡形住居の柄部分と見てもあまり違和感はない。主体部側に連結部対ピットが検出されないなど、確証がなかったため、住居には組み入れなかったが、これも検討を要する。

Ⅱ区　50 号住居跡（第 124・127 図 ､PL36・37）

Ⅱ区中央部やや南寄り (026 ～ 031､-828 ～ -833) グリッド付近に位置する。単独で調査された埋甕を中心に、図上でほぼ円形に巡るピットを選出して住居に再構成した。その位置関係から、やや根拠に乏しいが直径 5.5 m ほどの円形と推測される。

床面はほぼ平坦で、硬化面は確認されなかった。

１号埋甕は加曽利ＥⅢ式の深鉢で、上半部が正位で埋設されていた。覆土に焼土粒や炭化物が含まれるため、炉であった可能性もある。

本住居に伴う壁柱穴として、円形に巡る９本のピットを採択した。Ｐ４、Ｐ７、Ｐ９は除外して良いかも知れない。それぞれの規模（径・深さ）は別表に記す。

本住居は 29 号住居、33 号住居と重複するが、覆土の切り合いは確認できなかった。また、推定範囲内にはいくつもの土坑が重複しているが、本住居との関係は不明である。

遺物は埋甕のほか、柱穴から数点出土している。

本住居の時期は、埋甕から、中期後半（加曽利ＥⅢ式）に位置づけられる可能性が高い。

Ⅱ区　51 号住居跡（第 125 図、ＰＬ 38）

Ⅱ区中央部 (025 ～ 031､-851 ～ -858) グリッド付近に位置する。単独で調査された埋甕を中心に、図上でほぼ円形に巡るピットを選出して住居に再構成した。その位置関係から、やや根拠に乏しいが直径７m 弱の円形と推測される。

床面はほぼ平坦で、硬化面は確認されなかった。

推定範囲中央の炉は、当初は単独の埋甕として調査されていたものを変更した。30cm 前後の細長礫を掘り方に沿って長円形に並べた石囲い炉で、南部の礫は省かれている。規模は長径が外法 136cm、内法 112cm、短径が外法 92cm、内法 62cm で、深さは最大で 26cm を測る。長軸方向はＮ－８°－Ｅを指す。炉のほぼ中央に加曽利ＥⅡ式の深鉢（１）が正位で埋設されていた。

本住居に伴う柱穴として、炉の周辺で検出された３本のピットを採択した。それぞれの規模（径・深さ）は別表に記す。

本住居は 23 号住居と重複するが、覆土の切り合いは確認できなかった。その他にも、本住居の推定範囲内には複数の遺構が存在する。特に 11 号埋甕は本住居炉の土器と同時期であるため、本住居内の埋甕と見ることも可能である。20 号配石については、明らかに本住居より後出するものと認められる。土坑もいくつかあり、128 号土坑は本住居よりも新しいと思われるが、他の土坑は時期判定ができないため、本住居との関係は不明である。

埋甕以外の遺物は、柱穴から破片が数点出土したのみである。上位の包含層では、不明以外では加曽利ＥⅡ式が約４割で最も高い。

本住居の時期は、炉の埋甕から、中期後半（加曽利ＥⅡ式）に位置づけられる可能性が高い。

Ⅱ区　52 号住居跡 (第 126・127 図 ､PL38・39)

Ⅱ区中央部やや南寄り (019 ～ 027､-844 ～ -852) グリッド付近に位置する。単独で調査された配石を中心に、図上でほぼ円形に巡るピットを選出して住居に再構成した。その位置関係から、やや根拠に乏しいが直径８m ほどの円形と推測される。

床面はほぼ平坦で、硬化面は確認されなかった。

推定範囲ほぼ中央の炉は、当初単独の配石として調査されたものを変更した。北辺に 30cm 超の細長礫１石を配し、両端は 30cm 弱の礫を直角に置いてコの字状を呈する。他は 10cm 程度の礫がいくつか見られるだけだが、方形の石囲い炉であった可能性が高い。掘り方は円形に近い不整形である。規模は内法で長軸 66cm、短軸 58cm、深さ最大 24cm、軸方向はＮ－56°－Ｅである。炉内に加曽利ＥⅢ式の深鉢（１）の上半部が埋設されていた。覆土には焼土、炭化物等は含まれなかった。

本住居に伴う壁柱穴として、炉を取り囲む５本のピットを採択した。それぞれの規模（径・深さ）は別表に記す。

本住居と重複する６号住居の石列が良好に残存するため、本住居の方が先出する。その他にも、本住居の推定範囲内には複数の土坑や柱穴がが存在するが、本住居との関係は不明である。

掲載した以外の遺物は、柱穴の覆土から時期不詳の破片が数点出土したのみである。上位の包含層では型式が分散する。

本住居の時期は、炉の埋設から、中期後半（加曽利ＥⅢ式）に位置づけられる可能性が高い。

Ⅱ区　53 号住居跡（第 128・130 図、ＰＬ 39）

Ⅰ区西部 (035 ～ 041,-873 ～ -879) グリッド付近に位置する。当初は炉のみが単独で調査されたが、図上で住居に再構成した。平面形は不明で、柱穴に相当する土坑も選定しきれなかった。

床面はほぼ平坦で、硬化面は確認されなかった。

炉は５石が残存する石囲い炉で、北辺と西辺が直角に残る。しかし掘り方は半円状で、その弦に沿うように２石の抜き取り痕が確認された。規模は長軸が外法 80cm、内法 60cm、短軸が外法 60cm、内法 44cm を測る。深さは 30cm で、西辺の方向はＮ－30°－Ｅを指す。中央に中期後半の深鉢が埋設されていた。（土器は基礎整理時の混乱により所在不明となったため、掲載できなかった。）

炉の北西約４ｍの位置に１号埋甕を検出した。加曽利ＥⅡ式の深鉢（１）が、正位で埋設されていた。

図に示したように、本住居の推定範囲内にはいくつかの土坑が検出されているが、時期を確定する決め手に乏しく、本住居との関係は不明である。

本住居の時期は、不明確な部分も多いが、およそ中期後半（加曽利ＥⅡ～Ⅲ式）に位置づけられる可能性が高い。

なお、屋外炉であった可能性も考えられる。

Ⅱ区 54 号住居跡 (第 129・130 図、ＰＬ 40・41)

Ⅱ区南東部旧河道際の (004 ～ 013,-832 ～ -839) グリッドに位置する。当初単独の配石として調査されていた遺構と、半円の弧状に廻るピットを選出して住居に再構成した。配石部分が柄部となり、主体部は直径７ｍ強の円形とする柄鏡形が想定される。柄部はＮ－18°－Ｗを向き、30cm 前後の礫を軸方向に３列並べて配置する。先端には、60 × 40cm ほどの大きな扁平礫を据えている。規模は長さ約２ｍ、幅約 1.8 ｍと推定される。

床面はほぼ平坦であるが、旧河道跡が東側に近接し、そちらに向けて緩やかに下る。

炉や硬化面は確認されなかった。

本住居に伴う壁柱穴として、９本のピットを採択した。覆土と地山の酷似により、東側ではピットや土坑自体が確認できなかった。Ｐ１は連結部対ピットの片方と認められる。Ｐ４、Ｐ７、Ｐ９はやや大きめで、主柱穴の可能性がある。

本住居は他住居との重複はない。推定範囲内にいくつかの土坑が重複するが、本住居との関係は不明である。258 号土坑は、遺物の時期に齟齬がない。

遺物は、柱穴の覆土から数点出土しているが、型式はさまざまである。上層のグリッド出土遺物では称名寺式の割合が高い傾向にある。

時期は、不明確な部分が多々あるが、上層出土遺物の傾向や本遺跡内での柄鏡形住居の趨勢を鑑みると、後期前半（称名寺式～堀之内式）に位置づけられる可能性が高い。

第２項　配石

本遺跡の配石は、石を人為的に「配置」したと見られる遺構を指して、発掘調査時に呼称された。

発掘時にはⅠ・１区で４基、Ⅱ・２区で 22 基が調査されたが、その後整理時にⅠ区で３基、Ⅱ区でも３基を住居に取り込み、これらを欠番とした。逆にⅠ区６号配石は当初８号住居に付随する施設として調査されたが、検討の結果住居から切り離して単独の遺構としたものである。したがってここではⅠ区２基、Ⅱ区 19 基の計 21 基を報告する。

本遺跡の配石遺構は、その形状から大きく３分類される。分類一覧表を下に示す。

第Ⅰ類はⅠ区５号、Ⅱ区 12 号に代表されるような、敷石状の配石である。これには他に、やや小規模だがⅠ区４号の北配石、Ⅱ区８号、10 号、21 号が含まれる。これらは下部に土坑を持たない。

第Ⅱ類は集石状の配石で、下部に土坑を持つものをⅡＡ類、持たないものをⅡＢ類とした。第２類は墓坑の可能性を持つ。両者とも形状的にはさらに４細分できる。

その１は礫を列状に配するもので、ⅡＡでⅡ区６号、22 号が、ⅡＢ類ではⅡ区９号、16 号がこれに当てはまる。その２は礫を中空の環状に配するもので、ⅡＢ類のⅡ区 14 号、18 号に代表され、２号、13 号もこれに含まれる。その３はやや大きめな礫を中心にして中小の礫を集中させるもので、ⅡＡ類のⅡ区５号、20 号、ⅡＢ類のⅠ区４号南、Ⅱ区１号、４号、17 号などが相当する。その４は中小の礫を多く広く配するもので、ⅡＢ類でⅡ区 15 号、19 号がこれに当てはまる。ⅡＢ類の中には、地山と覆土の近似により下部土坑が確認できなかったものがある可能性はある。

第１表　配石分類一覧表

		Ａ土坑あり	Ｂ土坑なし
Ⅰ敷石状	大型		Ⅰ-５、Ⅱ-12、21
	小型		Ⅰ-４Ｎ、Ⅱ-８、10
Ⅱ集石状	直列型	Ⅱ-６、22	Ⅱ-９、16
	環状型		Ⅱ-２、13、14、18
	密集型	Ⅱ-５、20	Ⅰ-４Ｓ、Ⅱ-１、４、17
	拡散型		Ⅱ-15、19

配石の配置は、特にⅡ区では東部河道際の８号、21 号、22 号を除き、他の 16 基は南部で弧を描くように点在し、その内側は時期不明の土坑が数基検出されたが、住居はなく、空白部となっている。

Ⅰ区　４号配石（第 131・132 図）

Ⅰ区中央部の (047 ～ 052,-915 ～ -920) グリッドに位置する。東西約 3.8 m、南北約 4.2 mの範囲に礫が分散する中で、２グループの集中箇所が見られる。北側は 60cm × 80cm の範囲に、20cm 前後の礫の扁平面を上にして敷き詰めた状態である。南側は直径 70cm ほどの範囲内に 10 ～ 15cm の礫が集中する。面はあまり揃えていない。

出土遺物量はあまり多くないが、加曽利ＥⅣ式などの中期後半の土器片が多く、当該時期の遺構と考えられる。

Ⅰ区　６号配石（第 131・132 図、ＰＬ 78）

Ⅰ区南東部の (016 ～ 019,-891 ～ -895) グリッドに位置する。範囲は長辺約 3.5 m、短辺約２mの長方形を呈する。長軸はＮ -62° -Ｗを示す。

西半は礫がまばらになり配置も乱れるが、東半は礫をびっしりと敷き詰め、辺、角も非常に精巧に作られている。

扁平な礫を用い、面を揃えていることから、住居の主体部あるいは柄部の敷石の可能性が高いと思われる。しかし周辺にそれを裏付ける炉や柱穴等が検出されなかったため、配石とした。

本遺構は８号住居と重複する。８号住居の床面より上に本遺構が構築されているため、本遺構のほうが新しく、加曽利ＥⅡ式以降の時期は確実である。

本遺構は、調査時には８号住居の一部とされていたため、一括遺物はほとんどが８号住居に含まれている。掲載した（１）～（３）は加曽利ＥⅢ式の土器片であるが、配石の隙間から出土したものであるため、 本配石の時期を示すとは言い切れない。

Ⅱ区　１号配石（第 133 図、Ｐ L 78）

Ⅱ区南部の (014 ～ 015,–839 ～ –840) グリッドに位置する。東西約 1.5 m、南北約 1 m の範囲に礫が集中する。30cm ほどのやや大振りの礫を中心にしてその周囲に 15cm 以下の礫を密集させている。

本遺構から出土した遺物はなく、重複する住居もないため、時期は不明である。

Ⅱ区　２号配石（第 133 図、Ｐ L 78）

Ⅱ区南部の (014 ～ 015,–841) グリッドに位置する。東西約 1m、南北約 1.2m の範囲に、20 ～ 30cm の礫 5 石を配する。20 ～ 30cm の間隔を開けていて中央に空白部を作る。

本遺構から出土した遺物はなく、重複する住居もないため、時期は不明である。

Ⅱ区　４号配石（第 133 図、Ｐ L 78）

Ⅱ区南部の (013,–844 ～ –846) グリッドに位置する。東西約 1.8m、南北約 1 m の範囲に礫が集中する。30cm ほどのやや大振りの礫を中心にしてその周囲に 15cm 程度の礫を密集させている。

本遺構から出土した遺物はなく、重複する住居もないため、時期は不明である。

Ⅱ区　５号配石（第 133 図、Ｐ L 78）

Ⅱ区南部の (017 ～ 018,–845 ～ –846) グリッドに位置する。長径 1.7m、短径 1.2m、深さ 55cm、主軸方向Ｎ –68°－ Ｅの下部土坑を有する。覆土は地山土粒や小礫を多く含む暗褐色土で、覆土中に中期後半と見られる無文の鉢が正位で埋設されていた。覆土上面に 50cm 超の大礫が据えられ、その周囲に中小の礫が密集していた。

本遺構からは上記の鉢のほかにも加曽利ＥⅠ式やＥⅡ式の土器片が出土した。

本遺構の時期は中期後半に位置づけられる。

Ⅱ区　６号配石（第 134 図、Ｐ L 78）

Ⅱ区南部の (018 ～ 019,–842 ～ –844) グリッドに位置する。６号住居のすぐ東側で、軸方向をＮ –65°－ Ｗに向けた 1.4 m の直列状の配石である。両端に 40cm 超の大振りの礫を縦に据える。中心線上には 20 ～ 30cm ほどの礫を、礫の長軸が配石の主軸と直交する向きで並べている。さらにその両脇を 20cm 前後の礫で形を整えている。表面上の構成は９号配石と共通する部分がある。

配石の下に、軸を合わせて長軸 2.2 m、短軸 1.1 m、深さ 64cm の土坑が検出された。覆土は暗褐色土で、地山の砂質土粒を少量含むほかは特に夾雑物はない。墓坑である可能性はきわめて高い。

下部土坑の底面から遺物が（１）（２）の２点出土している。252 号土坑に切られるほかは、６号住居をかすめるが切り合い関係は不明である。

本配石の時期は、出土遺物から後期前半（堀之内１式）に位置づけられる可能性が高い。

Ⅱ区　８号配石（第 134 図、Ｐ L 78）

Ⅱ区東部旧河道際の (019 ～ 021,–825 ～ –827) グリッドに位置する。およそ 1.5 m × 1 m の範囲に扁平な礫を寄せて平置きにしている。中心線をＮ –50°－ Ｅの方向にとっている模様である。

本配石の真下ではないが、ややずれて 743 号土坑と重複している。この土坑より新しいことは確かだが、関連性は薄いと思われる。

遺物は、本遺跡の配石としては多い３kg 余りが出土し、５割強が加曽利ＥⅡ式ないしＥⅢ式で、約３割は後期に属するものであった。

本配石の時期は、出土遺物から中期後半 (加曽利ＥⅢ式) と推定される。

Ⅱ区　９号配石（第 135 図、Ｐ L 78）

Ⅱ区南西部の (021 ～ 024,–855 ～ –857) グリッドに位置する。南北に長く 2.2 m × 1.1 m の範囲に礫が配置され、中心線はＮ –18°－ Ｅを指す。この線上の礫は 30 ～ 50cm の大振りの扁平礫を用い、長軸を配石の主軸と直交させて平置きしている。さらに、小振りの細長礫を用いて輪郭を整えているよ

うにも見える。このような構成は6号配石と共通する部分があるが、本配石には下部土坑は確認されなかった。

本遺構は15号配石と隣接する。一体のものか重複するのかは判断しがたい。また、本遺構のすぐ東側から22号埋甕が検出されているが、本遺構との関連性については、不明である。

遺物は、まったく出土していない。したがって本遺構の時期も不明である。

Ⅱ区　10号配石（第133図、ＰＬ78）

Ⅱ区南西部の(022～023,-860～-861)グリッドに位置する。48号・49号住居のすぐ東側である。1.3ｍ×0.7ｍの範囲に20～30cmの礫を隙間なく並べている。平置きが主だが、そうでないものもある。

本遺構から出土した遺物はなく、重複する住居もないため、時期は不明である。

Ⅱ区　12号配石（第122図、ＰＬ78）

Ⅱ区南西部の(015～019,-861～-866)グリッドに位置し、48号・49号住居の南東部に接する。北半円状に見えるが、西南部に攪乱が入っていたため本来の形状ではない。構成は、N-34°-Wを向いた石列が5～6列並ぶという、きわめて直線的な造作をしている。しかしⅠ区5号配石ほど方形の辺を揃えているわけでもない。

石列は48号・49号住居炉の主軸方向とほぼ同じ方向を向くため、同住居の柄部の可能性がある。また、本遺構自体が別住居の敷石であることも考えられる。

本遺構の下位から209号、217号、218号、219号、土坑が検出された。218号、219号土坑からはそれぞれ加曽利ＥⅡ式、同Ｅⅲ式の土器が僅かながら出土している。時期的にこれらの土坑との関連性は薄く、土坑の埋没後に構築された可能性が高い。

本遺構からは遺物が出土していないが、上述土坑の出土遺物や、敷石ということを鑑みると、中期後半から後期初頭の間の所産であろうと思われる。

Ⅱ区　13号配石（第136図、ＰＬ78）

Ⅱ区南西部の(013～014,-862～-863)グリッドに位置する。南北約1.5m、東西約1.3mのほぼ円形の縁辺に沿って20cm前後の円礫が並べられている。若干隙間が開き、南縁は礫が省かれている。南東に40cmほどの一回り大きな細長礫を据えている。中央は小礫が1つあるのみで、直径90cmほどの環状に空けられていたようである。

本配石から出土した遺物はなく、特に重複する遺構もないため、本配石の時期は不明である。

Ⅱ区　14号配石（第136図、ＰＬ78）

Ⅱ区南西部の(013～015,-865～-866)グリッドに位置する。南北約1.4m、東西約1.3mのほぼ円形の縁辺に沿って20～30cmの円礫が並べられている。東側に若干の隙間がある。13号配石と同様に、南に40cmほどの一回り大きな細長礫を据えている。中央は長径100cm、短径80cmほどの楕円状に空けられていたようである。

本配石は16号配石と接しているが、一体か重複か、関連性は不明である。17号、18号も含めせた配石群は5号住居と重複するが、すべて5号住居の埋没後に構築されたものである。

本配石に伴って出土した遺物はない。時期は、5号住居との関係から、中期後半（加曽利ＥⅢ式）以降であることは確実である。

Ⅱ区　15号配石（第135図）

Ⅱ区南西部の(019～023,-855～-859)グリッドに位置する。図版に示されたのは最下層の石なのでややまだらであるが、上層の石も含めるともっと多く、9号配石を取り囲むように南辺、東辺とほぼ直角に曲がる。その様は一見20号住居の敷石と似た様相を呈するが、扁平礫の平置きが主体とはいえないため、敷石状とはしなかった。

本配石から出土した土器はなかった。本配石の南

辺（約５m）、東辺（約 3.5m）から形成される四角形の内側には 259 号、260 号をはじめとしていくつかの土坑が検出されており、加曽利ＥⅡ・Ⅲ式を中心とする中期後半の土器が主に出土している。これらはすべて本配石の構築以前に埋没していたので、本配石の時期は、少なくともそれを遡ることはない。

９号配石とその東脇にあった 22 号埋甕とは、何らかの関連を持つ可能性はある。

Ⅱ区　16 号配石（第 136 図）

Ⅱ区南西部の (014 ～ 015,-865 ～ -866) グリッドに位置する。1.4m × 0.4m の範囲に,30 ～ 40cm の礫が直列状に並ぶ。主軸方向はＮ－５°-Ｗを示す。下部土坑は確認されなかった。

本配石は 14 号配石と接しているが、一体か重複か、関連性は不明である。また、本配石に伴って出土した遺物はない。

時期は、５号住居の埋没後に構築されていることから、中期後半（加曽利ＥⅢ式）以降であることは確実である。

Ⅱ区　17 号配石（第 136 図）

Ⅱ区南西部の (015 ～ 016,-866 ～ -867) グリッドに位置する。１m × 0.8m の楕円形の範囲に、20cm 前後の礫が密集している。

本配石は 18 号配石と接している。おそらく一体のものとして構築されたと思われるが、関連性は不明である。本配石に伴って出土した遺物はない。

時期は、５号住居の埋没後に構築されていることから、中期後半（加曽利ＥⅢ式）以降であることは確実である。

Ⅱ区　18 号配石（第 136 図）

Ⅱ区南西部の (014 ～ 015,-867 ～ -868) グリッドに位置する。直径１m の円形か、見方によっては１m 四方の正方形の縁辺に 20 ～ 30cm の礫が並べられ、中央には小礫があるが空白といってよい。北縁に 40cm 超の一回り大きな礫を据えている。

本配石は 17 号配石と接している。おそらく一体のものとして構築されたと思われるが、関連性は不明である。本配石に伴って出土した遺物はない。

時期は、５号住居の埋没後に構築されていることから、中期後半（加曽利ＥⅢ式）以降であることは確実である。

Ⅱ区　19 号配石（第 137 図）

Ⅱ区南西部の (020 ～ 023,-862 ～ -864) グリッドに位置する。南北にやや長い 2.5m × 1.8m の範囲に 15 ～ 30cm の礫が集められている。密集というほどではなく、扁平礫で敷石状にしているわけでもない。ただ、礫層の露出ではなく、そこに運び、置いていることは確実である。

本配石南西部の下から 48 号住居Ｐ２、49 号住居Ｐ２と 227 号土坑が検出された。これらの埋没後に本配石が構築されたと見られる。

本配石に伴う出土遺物はなく、時期は、48 号・49 号住居より後出するとしか推定できない。

Ⅱ区　20 号配石（第 136 図、ＰＬ 78）

Ⅱ区中央部の (025 ～ 027,-853 ～ -854) グリッドに位置する。南北約 1.2 m、東西約 0.5 m の範囲に４石を配する。両端に 20cm 前後の礫を据え、中央に 30 ～ 40cm の細長礫２石を密着させて置く。

本配石の下部に、長軸 1.3 m、短軸 0.8 m、深さ 50cm 強の掘り込みが検出された。立ち上がりはほぼ垂直で、覆土は暗褐色土である。掲載した以外の遺物は、型式を特定できなかった。

本配石は 128 号土坑と重複するが、新旧を見極めることはできなかった。本配石の時期は、出土遺物から、後期前半（堀之内２式）と推定される。

Ⅱ区　21 号配石（第 137・138 図、ＰＬ 79）

Ⅱ区東部旧河道際の (026 ～ 029,-815 ～ -819) グリッドに位置する。東西約５m、南北約４m の範囲に中小の礫が分布する。30cm を超える礫は平ら

な面を上に向けて置かれており、散石状である。その周辺をやや小振りの石が取り囲んでいる。

本配石の下部に、純粋な地山土とは若干異なる土層が２層確認された。断面 B–B' の B 側では５cm ほどの立ち上がりが見られる。B' 側では小礫で遮られるが、立ち上がりかは不明である。C–C' の範囲では立ち上がりが見られない。このため本配石が掘り込みを伴うのか、下部土層が地山に準ずるのかは不明である。（A–A' は下層を調査していない。）

遺物は、配石としては多めの約 2.5kg が出土している。後期（称名寺式、堀之内１式、２式）の土器がやや目立つ。また、非常に精巧な石棒（９）も出土している。

本配石は 22 号配石と重複するが、本配石の方が上位であるため、本配石の方が新しい。時期は、出土遺物から、後期前半に属すると推定される。

Ⅱ区　22 号配石（第 139 図、ＰＬ 79）

Ⅱ区東部旧河道際の (027 ～ 029,–816 ～ –818) グリッドに位置する。21 号配石の礫を取り除いた下面から検出された。配石は 1.8 m × 1 m の範囲に、下部土坑はそれより一回り大きい長径 2.4 m × 1.3 m の楕円形に掘り込まれる。深さは 60cm ほどだが、長径の両端は浅く、中央で擂り鉢状に深まる。

遺物は少ないが、土坑覆土より堀之内２式の土器片が出土している。また土坑底面より、月面を思わせるような多孔石が出土した。

本配石の土坑は 21 号配石より前に埋没していたことは確実である。しかし覆土から堀之内２式土器が出土していることから、時期差がないか、一体のものであるかなど、検討の余地がある。

欠番となった配石（事由）

Ⅰ区：１号（１号住居柄部）、２号（２号住居柄部）、３号（３号住居主体部内）

Ⅱ区：３号（54 号住居柄部）、７号（52 号住居炉）、11 号（48・49 号住居炉）

第３項　埋甕

発掘調査時にはⅠ区で５基、Ⅱ・２区で 21 基を検出した。うち２区の２基は第１分冊で報告した。そして整理時に住居跡に取り込んだものや、基礎整理時の混乱で所在不明となってしまったものなど 15 基を欠番とした。逆に、他遺構から切り離して単独の埋甕としたものが３基ある。したがって埋甕として 12 基を報告する。

明確に掘り方を伴うもの（掘り方深さ＞直径）を A 類、それ以外の浅い・伴わない・不明等を B 類とした。さらに、正位のものを a 類、逆位を b 類、横位を c 類とした。なお、A 類の埋甕と埋甕を持つ土坑とは、遺構確認時に土器が表面に露出していたか否かの違いである。

内訳は A –a 類がⅡ区４号、21 号、22 号、A – b 類がⅠ区４号、５号、Ⅱ区 11 号である。

B –a 類はⅠ区２号、３号とⅡ区１３号が典型的である。非常に浅く沈めているⅡ区 17 号、18 号もここに含める。B – c 類はⅡ区 23 号のみである。

A – c 類、B –b 類は該当するものがなかった。

第２表　埋甕分類一覧表

	A　掘り込みあり	B　掘り込みなし
a 正位	Ⅱ - 4、22、23	Ⅰ - 2、 3、 Ⅱ -13、17、18
b 逆位	Ⅰ - 4、5、Ⅱ -11	
c 横位		Ⅱ -24

欠番となった埋甕（事由）

Ⅰ区：１号（３号住居１埋甕）

Ⅱ区：１号（所在不明）、２号（所在不明）、３号（53 号住居１埋甕）、５号（45 号住居炉）、6 号（46 号住居１埋甕）、7 号（46 号住居２埋甕）、8 号（47 号住居１埋甕）、9 号（46 号住居３埋甕）、10 号（51 号住居炉）、12 号（53 号住居２埋甕）、14 号（50 号住居１埋甕）、15 号（33 号住居１埋甕）、16 号（所在不明）、19 号（19 号住居３埋甕）

Ⅰ区　２号埋甕（第 140 図、ＰＬ 41）

Ⅰ区北東部の (047,–896) グリッドに位置する。深鉢の胴部が土中に残存し、上部の破片が周辺から出土した。底部及び掘り方は検出されなかった。

時期は、出土土器から後期前半（堀之内２式）に位置づけられる。

Ⅰ区　３号埋甕（第 140 図、ＰＬ 41）

Ⅰ区西端部の (054,–946) グリッドに位置する。深鉢の胴部が土中に残存し、上部の破片が周辺から出土した。底部及び掘り方は検出されなかった。

時期は、出土土器から後期前半（堀之内１式）に位置づけられる。

Ⅰ区　４号埋甕（第 140 図）

Ⅰ区最西端の (049,–950) グリッドに位置する。２個体分の深鉢が逆位で出土した。１つはほぼ完形の状態（２）であり、もう１つ（１）は底部のみであった。土中に埋まっていたが、掘り方は確認されなかった。

時期は、２つの出土土器から、中期末～後期初頭（加曽利ＥⅣ式～称名寺式）にかけての頃に位置づけられる。

Ⅰ区　５号埋甕（第 141 図）

Ⅰ区南東部の (026,–893) グリッドに位置し、５号住居の東側に接する。直径 35cm、深さ 40cm の掘り込みを持ち、その上面に口縁部数片が逆位で出土した。

時期は、出土土器から後期前半（称名寺式）に位置づけられる。同じ時期の５号住居に属する可能性も考えられる。

Ⅱ区　４号埋甕（第 142 図、ＰＬ 41）

Ⅱ区西端部の (026,–882) グリッドに位置する。深鉢の上半部が正位で出土した。長径推定 60cm、短径 30cm、深さ 25cm の掘り込みを持つ。

時期は、出土土器から中期後半（加曽利ＥⅠ式）に位置づけられる。

Ⅱ区　11 号埋甕（第 142 図、ＰＬ 41）

Ⅱ区中央部の (028,–856) グリッドに位置し、51 号住居の主体部推定範囲内にあたる。長径推定 110cm、短径 95cm、最深部 20cm の楕円形の掘り込みの上に、逆位で置かれていた。土層も分かれており、掘り込みとの関係は不明である。

時期は、出土遺物から中期後半（加曽利ＥⅡ式）に位置づけられる。同じ時期の 51 号住居に属する可能性も考えられる。

Ⅱ区　13 号埋甕（第 142 図、ＰＬ 42）

Ⅱ区中央部やや西寄りの (034,–868) グリッドに位置する。非常に浅い掘り込みを持ち、ほぼ完形の浅鉢が正位で据えられていた。

時期は、出土土器から、本遺跡では珍しい晩期中葉（大洞Ｃ２式）に位置づけられる。

Ⅱ区　17 号埋甕（第 143 図、ＰＬ 42）

Ⅱ区東部の (029,–836) グリッドに位置する。深鉢の底部が正位で出土した。底部は数 cm 埋まっていたが、掘り方は確認されなかった。

時期は、出土土器から後期前半（称名寺式）に位置づけられる。住居の重複が最も激しい区域であるが、当該期の住居との重複はない。

Ⅱ区　18 号埋甕（第 144 図、ＰＬ 42）

Ⅱ区中央部の (018,–843) グリッドに位置する。深鉢の胴部が土中から出土した。口縁部及び底部は検出されなかった。底部が若干埋まっていたが、掘り方は確認されなかった。

時期は、出土遺物から中期後半（加曽利ＥⅡ式）に位置づけられる。

Ⅱ区　22 号埋甕（第 143 図、ＰＬ 42）

Ⅱ区南東部旧河道際の (005,–828) グリッドに位置する。いずれも底部を欠く３個体分の深鉢が入れ

子状に重なって正位で出土した。土器とほぼ同じ直径50cm弱、深さは30cmほどの掘り方を持ち、西～南の縁辺は小礫で囲われていた。すぐ南に大きな礫が接しているが、本遺構との関連は不明である。

時期は、出土土器から中期後半（加曽利ＥⅢ～Ⅳ式）頃と推定される。

Ⅱ区　23号埋甕（第144図、ＰＬ42）

Ⅱ区中央部の(023,-855) グリッドに位置する。深鉢の胴～底部が正位で埋め込まれていた。掘り方の規模は直径36～42cm、深さ37cmである。

本埋甕は、274号土坑と重複し、後出する。9号、15号配石とは隣接するが、関係は不明である。

時期は、出土遺物から後期前半（称名寺式）に位置づけられる。

Ⅱ区　24号埋甕（第144図、ＰＬ42）

Ⅱ区中央部の(022,-859) グリッドに位置する。底部を欠く深鉢がＳ-40°-Ｗの方向に横転していた。

掘り込みは持たない。重複する遺構もない。

時期は、出土遺物から中期後半（加曽利ＥⅡ式）に位置づけられる。

Ⅲ区　2号埋甕（第1分冊第116図、ＰＬ43）

第1分冊において底部のみが報告され、器種や時期は不明とされていた。しかし第2分冊分の接合遺物に上半部が混入していることに気づき、ほぼ完形の深鉢（第144図、ＰＬ121）に復元されたため、あらためて掲載する。

なお、上半部の出土状況については不明である。

時期は、縄文時代後期前半（堀之内1式）に位置づけられる。

第4項　土坑（第148～196図、ＰＬ43～77）

最初に、遺物の訂正をさせていただく。Ⅱ区26号土坑にある埋設土器（称名寺式の深鉢）は、第1分冊において『Ⅱ区1号土坑出土遺物1』として誤載してしまった。遺物の図、写真、観察表については、第1分冊をご覧いただきたい。実際のⅡ区1号土坑からは、遺物の出土はなかった。

さて、土坑であるが、発掘調査時には今回範囲で772基が調査された。しかし整理時に住居柱穴に変更したものや、平面図の漏れがあったものなど142基を欠番としたため、今回報告するのはⅠ区80基、Ⅱ区550基の合計630基である。分布は、住居の分布状況とほぼ一致する傾向を見せるが、Ⅱ区南西隅ではやや多く検出されている。

それぞれの形状、計測値、重複関係等は一覧表（第4表）に記した。（欠番とした土坑番号は、一覧表の末尾に一括掲載している。）

平面形状は「円形（長軸≦短軸×1.2）」、「長円形（長軸＞短軸×1.2）」、「隅丸方形」、「隅丸長方形」「上記に属さないもの（不整形、不整円形等）」の5類型に分類した。断面形状は多岐に渡ることと判断が困難なものがあることから、あえて類型化はしなかった。

断面形状も含めて、以下の特色を持つ土坑については、一覧表の備考欄に書き添えた。特に①の埋設土器については、埋設土器一覧表（第14表）も併せてご参照いただきたい。

① 埋設土器を有する土坑
② 覆土中に遺物を多く含む土坑
③ 覆土中に焼土や炭化物を含む土坑
④ 上面に礫が置かれている土坑
⑤ 底面に礫が置かれている土坑
⑥ 覆土中に礫を多く含む土坑
⑦ 断面が四角形を呈する土坑（深、浅）
⑧ 断面がフラスコ状を呈する土坑
⑨ その他何らかの特徴が認められる土坑
⑩ 遺物はあるが平面図のない土坑

第５項　柱穴（第 229 ～ 231 図、ＰＬ 79 ～ 82）

Ⅱ区の発掘調査時に、特に西半部において比較的小規模な円形プランが多数確認された。当初は掘立柱建物跡を想定してこれらを「柱穴」とした。発掘範囲が分断されたこともあり、整理時に詳細を検討することとなった。（柱穴と土坑と区別する明確な基準はなく、担当者の主観による。）

整理時に検討してみると、多少の歪みは許容してもなお、うまく組めるものが見当たらなかった。そこで掘立柱建物跡は一旦すべて白紙に戻し、近辺に石囲いが検出されていることなどを勘案して、住居の柱穴として見直した。その結果、相当数が 45 ～ 47 号住居等の柱穴に変更された。これらは平面図の漏れや遺構認定を取り消したものとともに、欠番とした。

それぞれの規模等は一覧表（第５表）に記した。

第６項　遺物集中

Ⅰ区　１号遺物集中（第 232 図、ＰＬ 82）

２号住居の１ｍほど北、(043.–911) グリッドに位置する。加曽利ＥⅣ式～称名寺式に位置づけられる深鉢（１）を中心として、土器片の散布が認められた。下部土坑や配石等は伴っていない。土器の型式も加曽利ＥⅠ式～堀之内式までと幅が広い。

第７項　集石

「配石」が石を人為的、意図的に配置した遺構であるのに対して、小規模で礫数が少なく、明瞭な計画性が感じられないものを発掘調査時に「集石」と呼んで区別した。しかしこれは主観によるものであるため、集石状配石との違いを客観的な状況や数値で表せるわけではない。

本遺跡では、Ⅱ区で７基を集石としている。

Ⅱ区１～３,５～７号集石 (第 233・234 図 PL79)

Ⅱ区南西部の南壁際の (006 ～ 007,–869 ～ –873) グリッドに集中する。「４号集石」も当初この範囲に付番されていたが、３号や６号と礫が重複したため欠番とした。この範囲は礫層の露出はなく、礫が人為的に運ばれたことは確かである。

形状は大まかに見て、配石と同様に①中空の環状（１号、３号）、②直列（２号、６号）、③密集（５号、７号）の３パターンに分類できる。６基とも下部に土坑は確認されなかった。

１号、３号集石のすぐ脇と６号・７号集石の中間地点から埋甕が検出された。いずれも加曽利ＥⅢ式の深鉢で、１号、６・７号は逆位で、３号は正位で埋設されていた。

Ⅱ区　８号集石（第 234 図、ＰＬ 79）

Ⅱ区西部の (020 ～ 021,–880 ～ –881) グリッドに位置する。20cm 前後の礫４石を中心として、その周囲に小礫を密集させている。

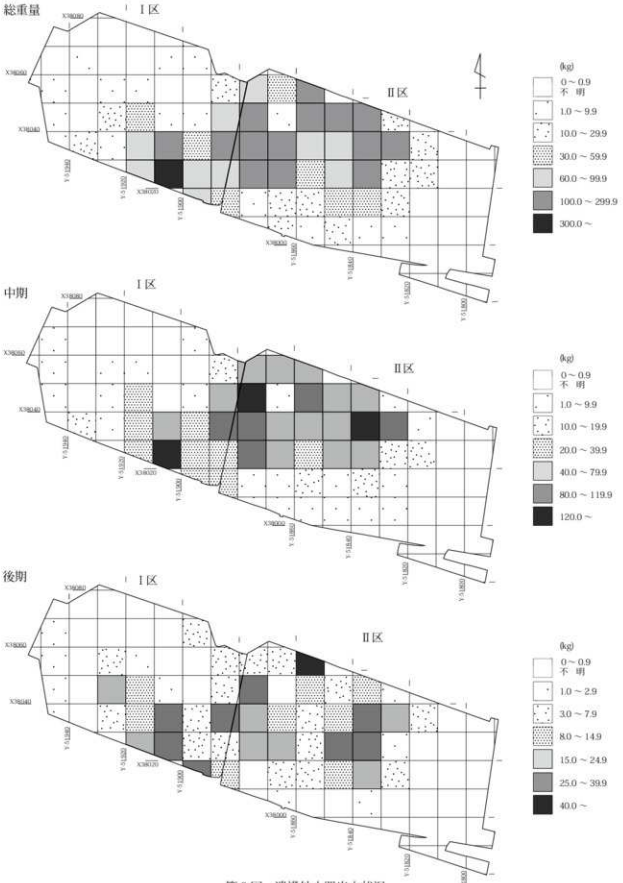
遺物は、石英斑岩の台石が１点出土したのみで、土器の出土はなかった。下部に土坑等の遺構もなかった。

第８項　遺構外出土遺物

遺構外出土遺物には、Ⅰ～Ⅴ層からの出土を主とする表採遺物と、Ⅵ・Ⅶ層（縄文遺物包含層）からのグリッド出土遺物とがある。表採遺物はパン箱で 23 箱、グリッド遺物は 163 箱と、膨大な量に上る。これらの中には、確認が困難であった住居跡の覆土中の遺物も相当数含まれる。

その中から、大型で残存状態の良いものや型式的特徴が顕著なもの、住居跡の重複が著しいグリッド出土遺物などを重点に、掲載遺物を選別した。

グリッド出土の未掲載遺物は、グリッドごとの重量を測定した後、口縁部のみを抽出して型式分類を試みた。その比率を重量に割り戻して作成したのが第９図である。あくまでも概数であるが、大まかな傾向はつかめると思う。

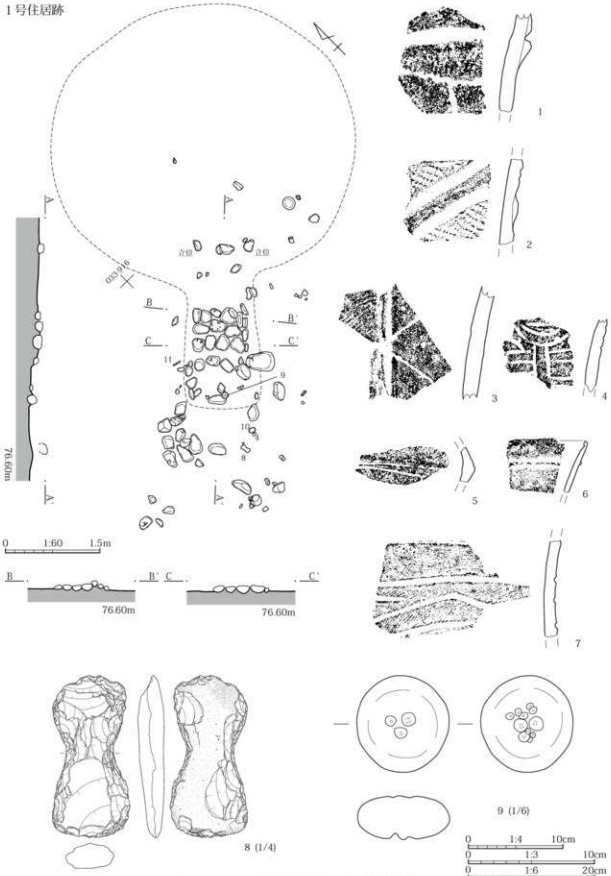


第９図　遺構外土器出土状況

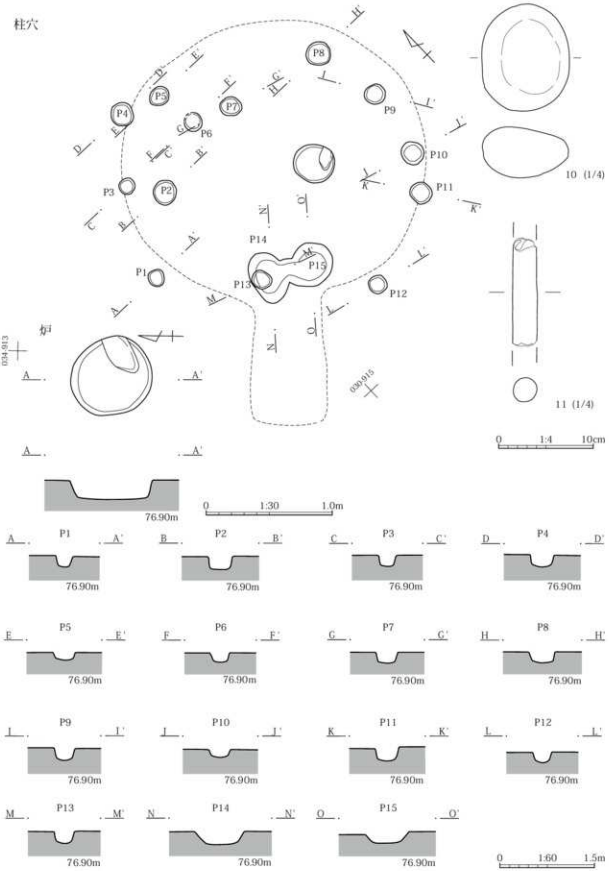
表３　遺構外土器型式別比率表　（%は口縁部を抽出して分類した比率、中期、後期の積算重量は総重量とその比率の積。）

ｸﾞﾘｯﾄﾞ No.	総重量 (kg)	中期積算重量 (kg)	後期積算重量 (kg)	中期分類名称（%）						後期分類名称（%）				その他・不明（%）
				後平	加ＥⅠ	加ＥⅡ	加ＥⅢ	加ＥⅣ		前平	称名寺	堀之内１	堀之内２	
000-820	1.9	1.9						100.0						0.0
000-830	9.4	2.2	1.8			10.3	12.7				8.0	5.6	5.1	58.4
000-840	12.7	6.3			41.9	2.3	5.5							50.2
000-850	5.2	4.7	0.6	22.0	0.3	5.9	30.8	31.1	0.3	4.6	5.6	0.3	0.3	
000-860	10.2	6.0	1.8	24.9	5.9	12.6	8.6	7.0	17.8					23.2
000-870	2.1	1.2	0.2				40.9	16.2			4.5	1.4	2.5	34.5
010-820	15.2	6.3	4.0	1.6		13.6	24.4	1.8			9.7	16.5		32.4
010-830	43.9	14.9	15.9	23.2	2.6	4.5		3.8		12.2	18.6	0.5	4.8	29.9
010-840	41.3	7.5	10.3	8.6	1.6	1.5	5.7	0.8	4.5	18.3	1.3	0.9		56.8
010-850	19.4	15.8	3.0	30.0	2.1		36.4	12.9	10.3	2.8	1.2	1.2		3.1
010-860	20.3	8.3	5.8	9.9	6.2	1.6	14.4	8.9	3.9		6.9	17.7		30.4
010-870	3.4	1.6	0.8		9.2	5.2	24.4	9.2	6.7	12.6	2.0	2.7		28.1
010-880	58.2	24.0	8.1	5.4	3.8	8.9	13.5	9.6	4.3	6.4	1.3	1.9		44.8
010-890	76.2	28.8	27.8	11.8	3.5	7.4	10.9	4.2	9.9	15.9	7.0	3.6		25.7
010-900	3.6	1.8	0.3	12.1	3.7	2.6	30.4			7.7				43.5
020-810	18.1	10.1	0.9		20.8	2.8	29.7	2.3		4.8				39.7
020-820	19.7	11.5	2.9	14.4	18.9	11.4	10.1	3.6	0.8	5.6	4.2	4.0		27.1
020-830	108.9	47.8	25.6	23.2	5.9	5.9	7.4	1.5	9.7	7.5	0.9	5.4		32.7
020-840	84.8	41.4	28.3	26.0	2.7	4.4	13.1	2.7	9.2	9.0	1.3	13.8		17.9
020-850	58.9	30.1	5.4	3.6	13.3	21.1	9.0	4.1		2.6	5.2	1.3		39.8
020-860	109.2	65.4	22.7	28.1	4.4	2.4	22.0	3.0	7.2	2.4	1.4	9.7		19.3
020-870	147.2	104.1	19.2	26.2	4.9	10.8	28.2	0.6	7.5	3.7	0.2	1.6		16.2
020-880	71.0	36.7	6.4		11.4	8.9	24.7	6.7		4.5	3.8	0.7		37.8
020-890	71.6	22.0	6.7		8.4	6.6	11.9	3.9		5.1	2.2	2.1		59.8
020-900	383.9	197.3	36.2	4.9	6.8	5.2	26.9	7.6	0.4	6.0	2.5	0.5		39.2
020-910	74.4	28.3	18.5	5.3	3.2	2.4	15.7	11.4	0.9	13.1	5.8	5.0		37.2
030-920	7.3	2.2	3.9	23.5			5.4	1.9	14.0	4.5	4.6	30.7		15.6
030-810	23.0	9.3	3.2	16.8		4.8	14.7	4.1	2.5	2.0	0.7	8.8		45.6
030-820	167.3	88.7	21.5	25.3	7.0	5.5	5.3	9.9	5.8	4.4	1.1	1.5		34.2
030-830	201.9	106.3	25.0	2.2	8.6	8.9	20.0	12.9	0.9	7.1	3.3	1.1		35.0
030-840	93.8	47.9	8.0		11.4	16.7	20.3	2.6	0.5	1.4	4.4	2.3		40.4
030-850	78.0	45.2	6.9	15.1	12.4	10.1	16.7	3.7	2.6	2.7	1.2	2.3		33.2
030-860	105.1	71.0	11.8	42.1	4.6	4.9	14.3	1.7	7.7	2.6	0.5	0.5		21.1
030-870	186.5	92.3	17.2	14.5	9.7	7.6	11.1	6.6	0.7	3.1	3.0	2.4		41.3
030-880	157.7	106.1	34.5	33.4	6.1	14.0	13.1	0.6	11.7	5.1	1.3	3.8		10.8
030-890	34.5	21.7	3.0	5.2	23.5	15.2	14.5	4.5	1.4	6.3	0.3	0.7		28.4
030-900	149.1	68.7	33.8	12.5	4.7	6.3	4.8	17.7	4.6	13.1	2.5	2.6		31.2
030-910	65.4	28.1	11.9	24.0	1.2	1.6	10.8	5.3	2.9	9.7	4.0	1.6		38.9
030-930	16.2	16.2						100.0						0.0
030-940	1.6	0.1	1.5					8.8		7.5	83.7			0.0
040-820	13.7	5.3	1.8	13.8	3.7	5.9		15.5			2.4	10.6		48.1
040-830	100.2	45.4	10.6		14.1	7.3	21.4	2.5	1.3	6.9	1.2	1.3		43.1
040-840	107.6	59.0	4.4	20.0	9.6	12.2	4.5	8.5	0.9	2.3	0.7	0.2		41.1
040-850	156.8	88.6	11.3	6.3	10.7	24.2	11.6	3.6	1.0	4.3	0.2	1.7		36.3
040-860	7.6	6.5	0.7	41.3	7.7	12.7	21.0	3.0	4.1	1.3	0.8	3.5		4.6
040-870	191.0	120.4	28.0	24.5	8.0	8.3	18.7	3.5	8.5	3.5	1.3	1.5		22.3
040-880	64.8	53.7	5.5	36.3	11.5	15.4	16.4	3.2	3.0	2.7	2.2	0.7		8.6
040-890	2.8	2.8		100.0										0.0
040-900	2.6	0.5	1.3					17.7		9.4	26.7	14.1		32.2
040-910	41.8	21.7	11.8	16.3	3.9	1.3	16.4	14.1	18.4	3.3	2.3	4.1		19.8
040-920	27.0	1.8	20.9		3.2	0.3	3.0		1.7	49.0	4.0	22.5		16.2
040-940	8.9	5.2	2.6		17.3	14.8		26.8	5.3	21.9		2.4		5.3
050-850	137.2	76.6	43.1	14.8	11.6	9.1	11.6	8.8	2.2	16.8	3.0	9.5		12.7
050-860	50.3	43.2	5.0	41.3	7.8	12.8	21.1	3.0	4.2	1.3	0.8	3.6		4.2
050-870	80.8	69.7	6.7	30.0	5.4	23.8	14.7	12.3	2.6	3.2	0.8	1.6		5.6
050-880	23.7	14.8	5.4	26.7	7.9	3.4	17.4	6.9	5.5	14.9	2.2			15.1
050-910	4.2	3.0	1.2	52.4				19.3	28.3					0.0
050-920	4.5	1.2	3.1				12.8	14.3		14.9	21.0	32.2		4.8
050-940	2.0		1.8	1.4						38.0	39.1	10.6		10.9
050-950	0.1	0.1		63.1					36.9					0.0
060-890	5.6	1.0	4.6					17.9	82.1					0.0
060-940	4.3	1.8	1.5	41.2					24.7	3.6	7.0			23.7
070-890	3.5		2.0						58.0					42.0
ｸﾞﾘｯﾄﾞ合計	3799.1	2070.5	580.0	15.9	7.8	9.2	15.2	6.3	3.9	6.2	2.2	2.9		30.2
表採	595.5	438.3	107.0	30.3	8.4	10.1	18.1	6.8	5.6	6.3	0.7	5.4		8.4

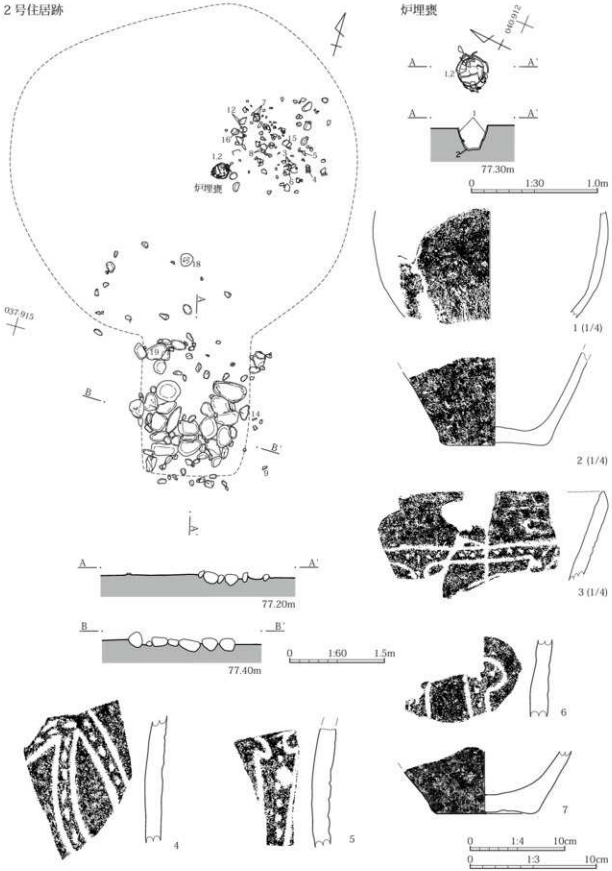
1号住居跡



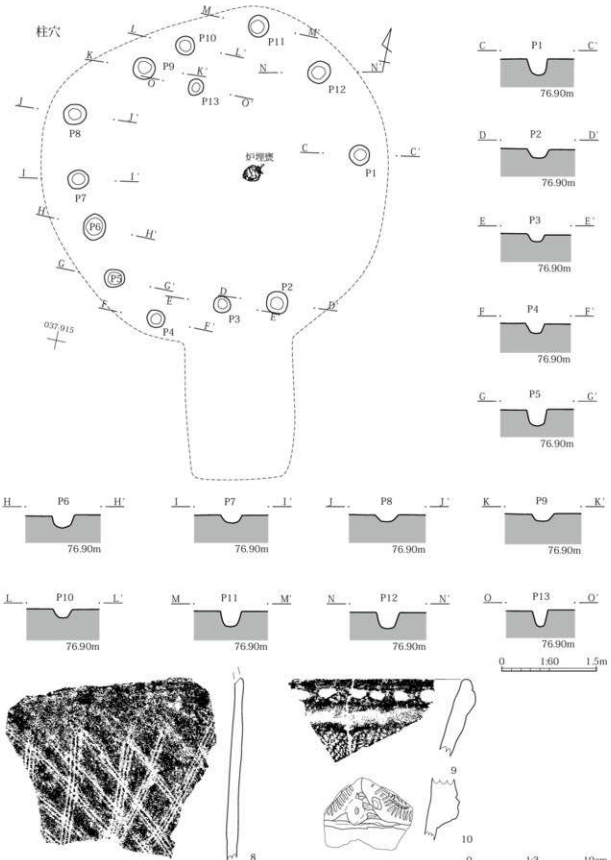
第10図　Ⅰ区1号住居跡(1)及び出土遺物(1)



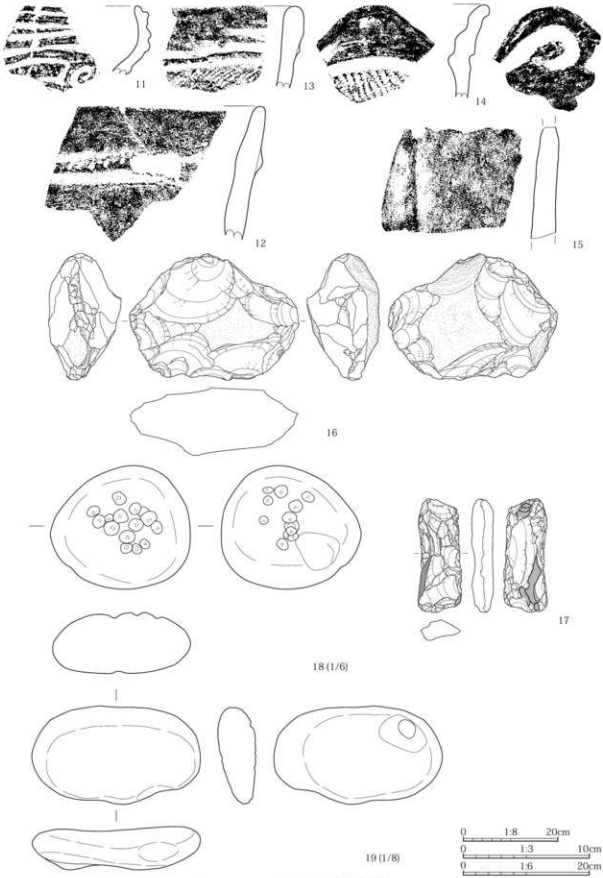
第 11 図　Ⅰ区 1 号住居跡 (2) 及び炉、出土遺物 (2)



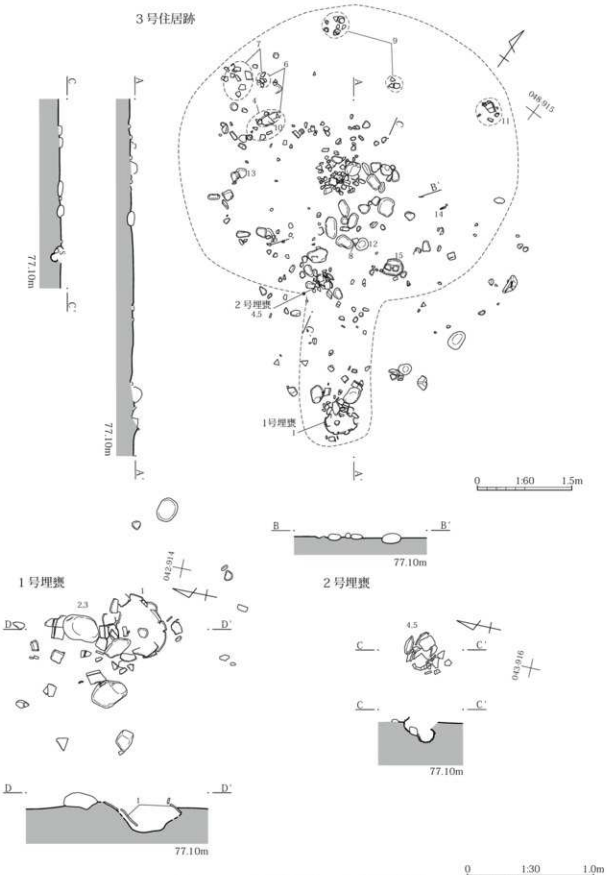
第１２図　Ⅰ区２号住居跡 (1) 及び出土遺物 (1)



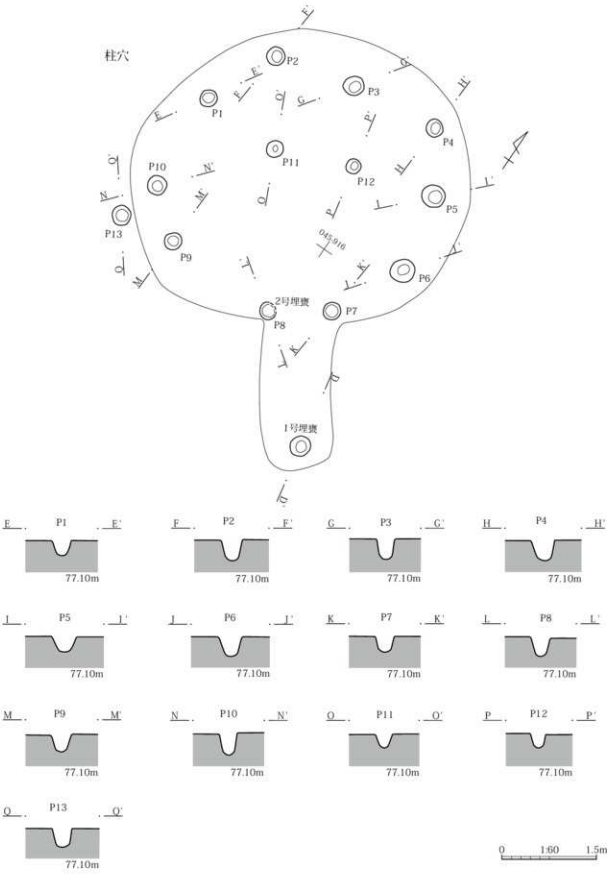
第 13 図　Ⅰ区２号住居跡 (2) 及び出土遺物 (2)



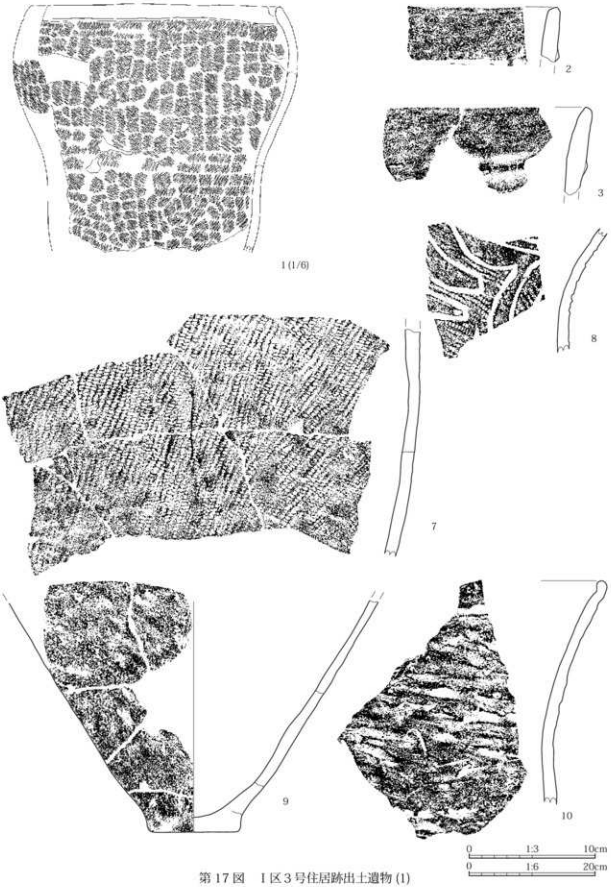
第14図　Ⅰ区2号住居跡出土遺物 (3)



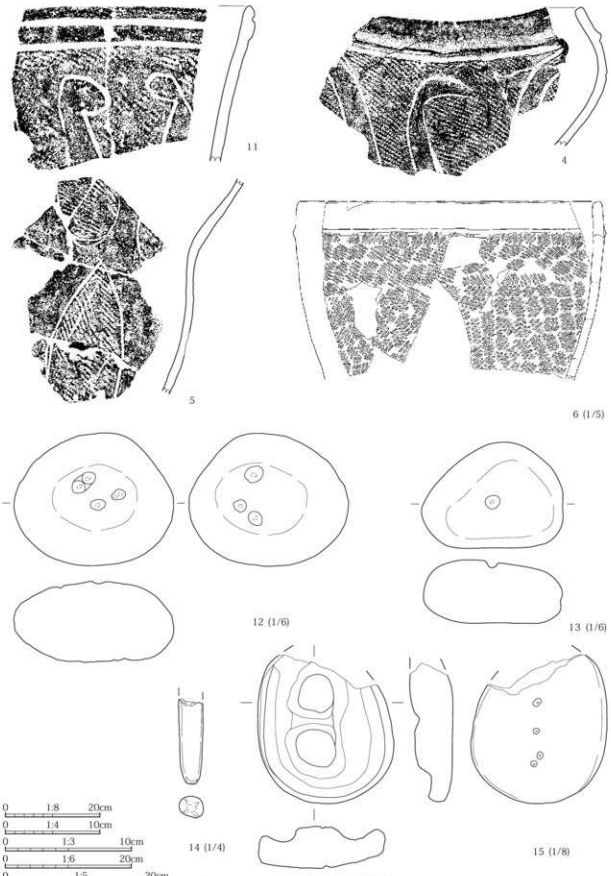
第 15 図　Ⅰ区３号住居跡 (1) 及び住居内埋褒



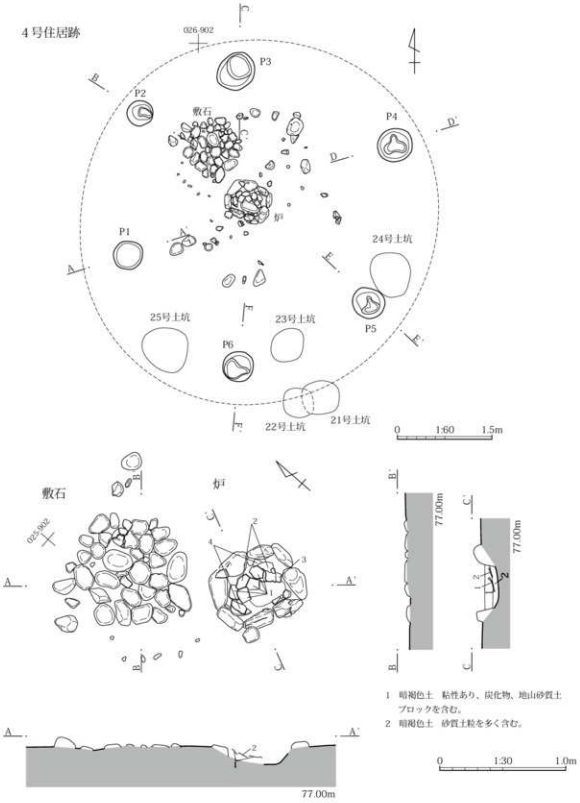
第16図　Ⅰ区3号住居跡 (2)



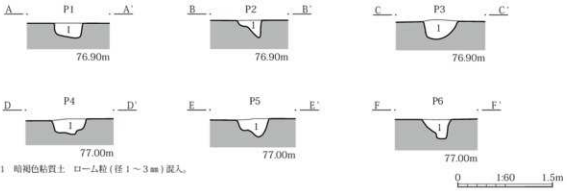
第 17 図　Ⅰ区３号住居跡出土遺物 (1)

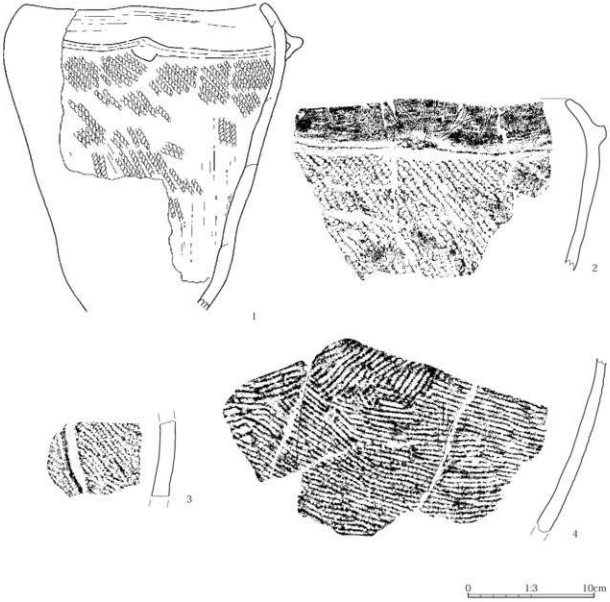


第18図　Ⅰ区3号住居跡出土遺物 (2)

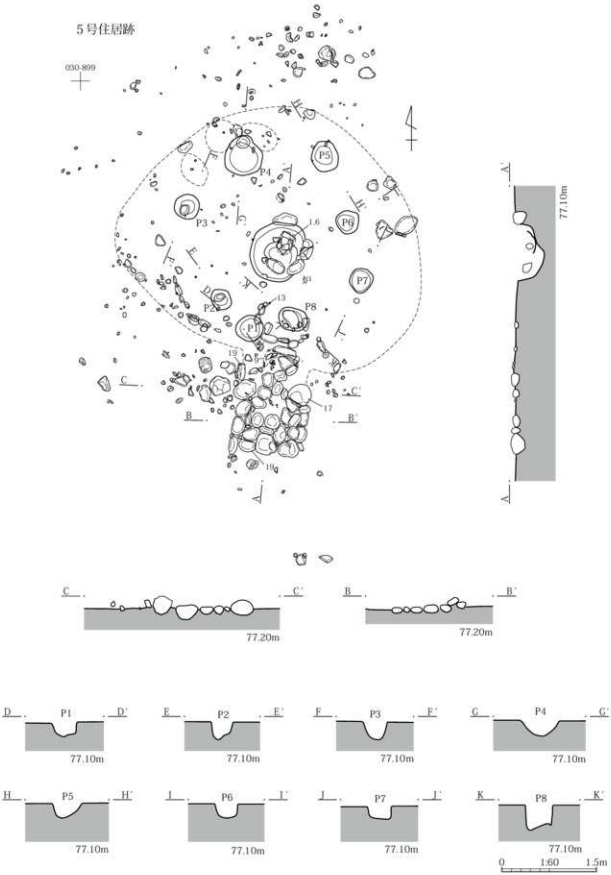


第 19 図　I 区 4 号住居跡 (1) 及び炉、敷石

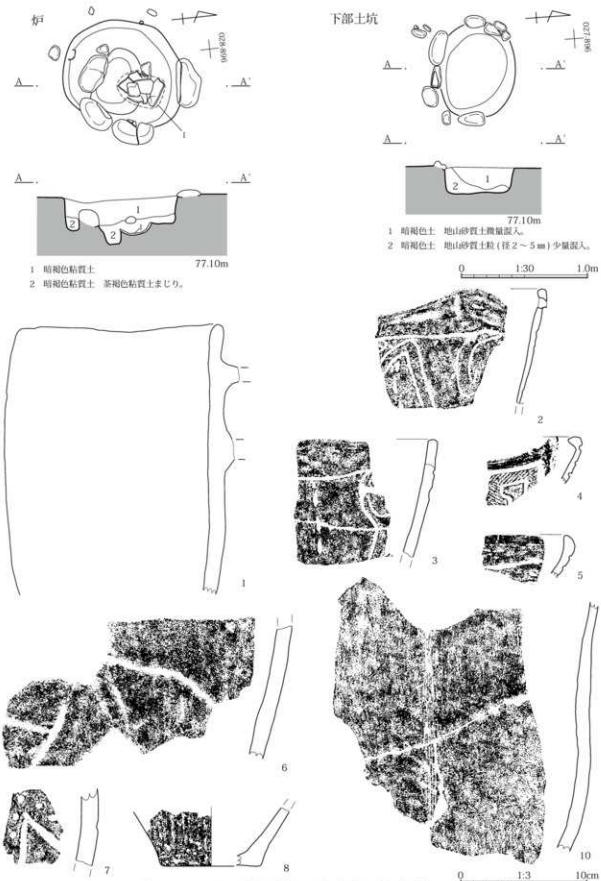




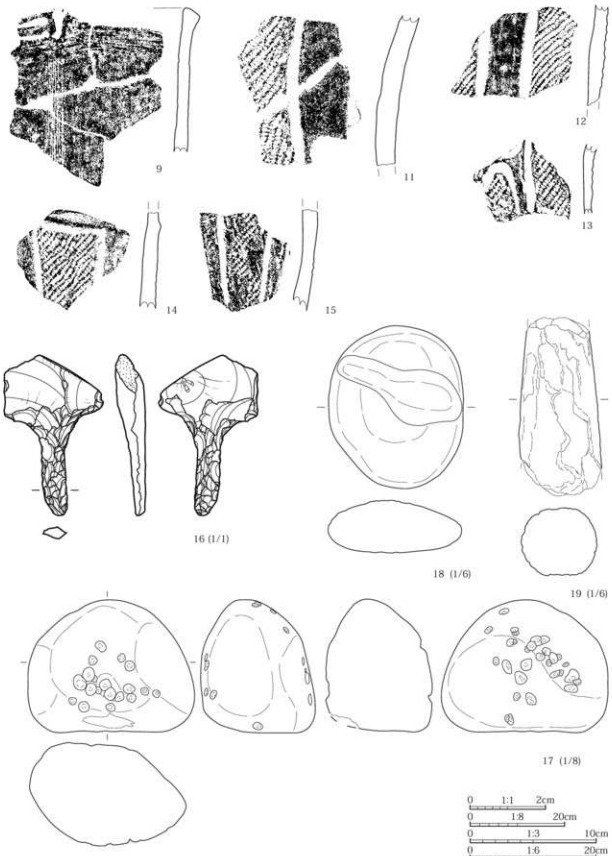
第 20 図　Ⅰ区４号住居跡 (2) 及び出土遺物 (1)



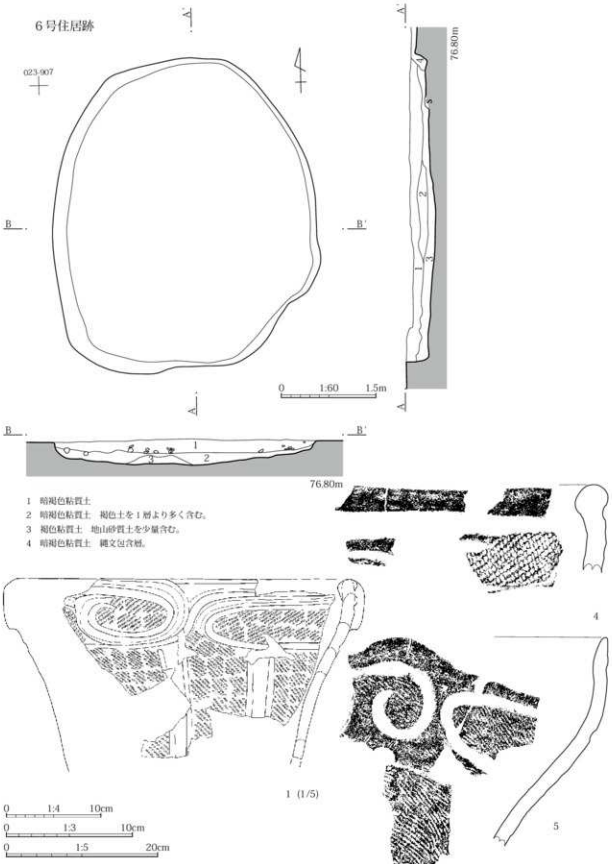
第 21 図　Ⅰ区５号住居跡



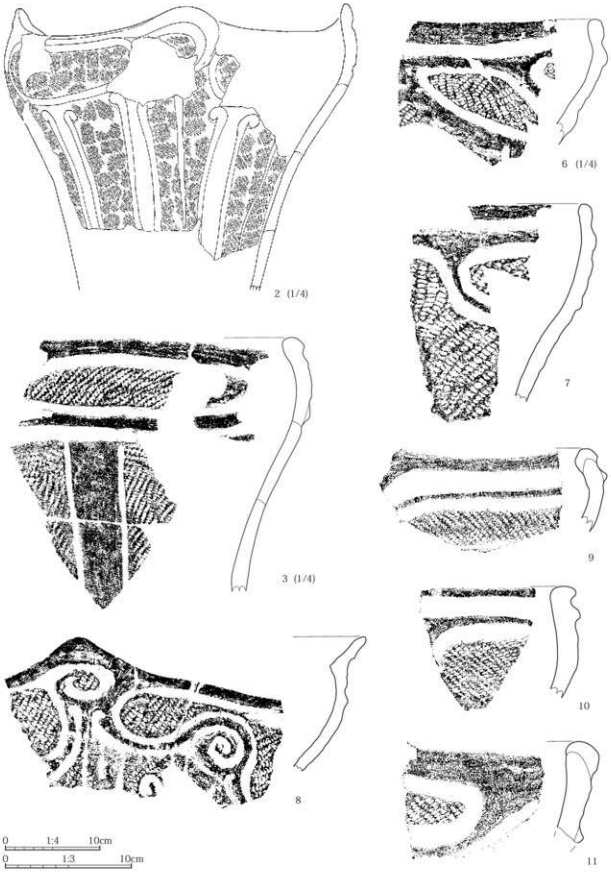
第 22 図　Ⅰ区５号住居跡炉・下部土坑及び出土遺物 (1)



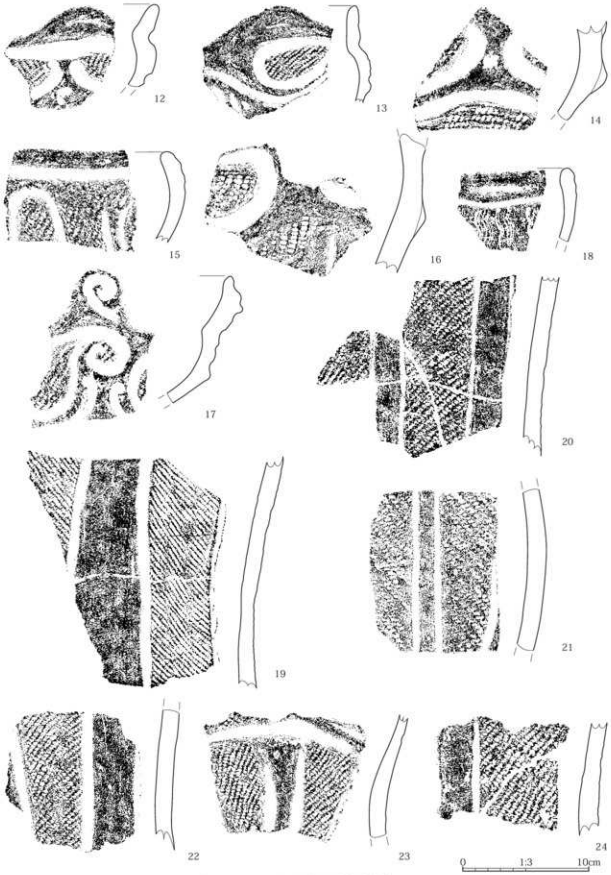
第 23 図　Ⅰ区５号住居跡出土遺物 (2)



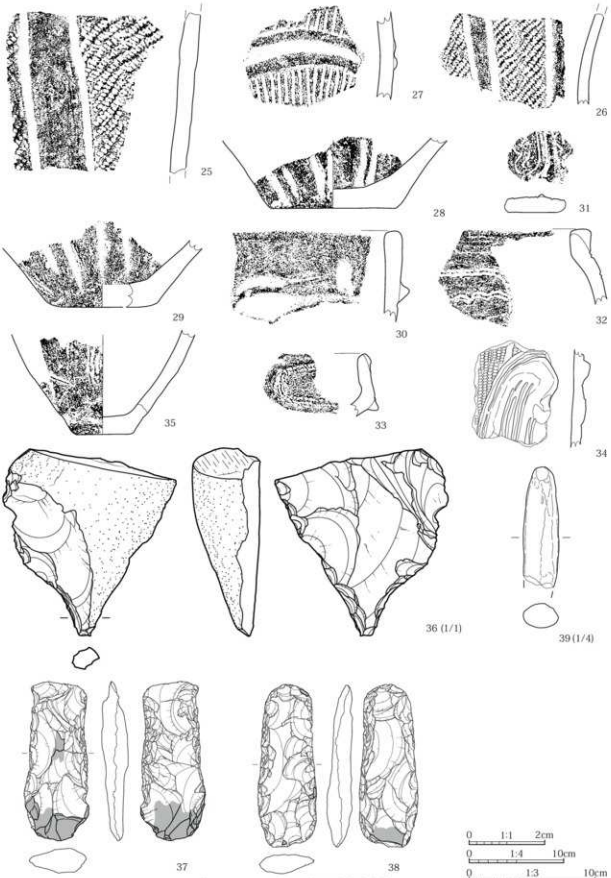
第24図　I区6号住居跡及び出土遺物 (1)



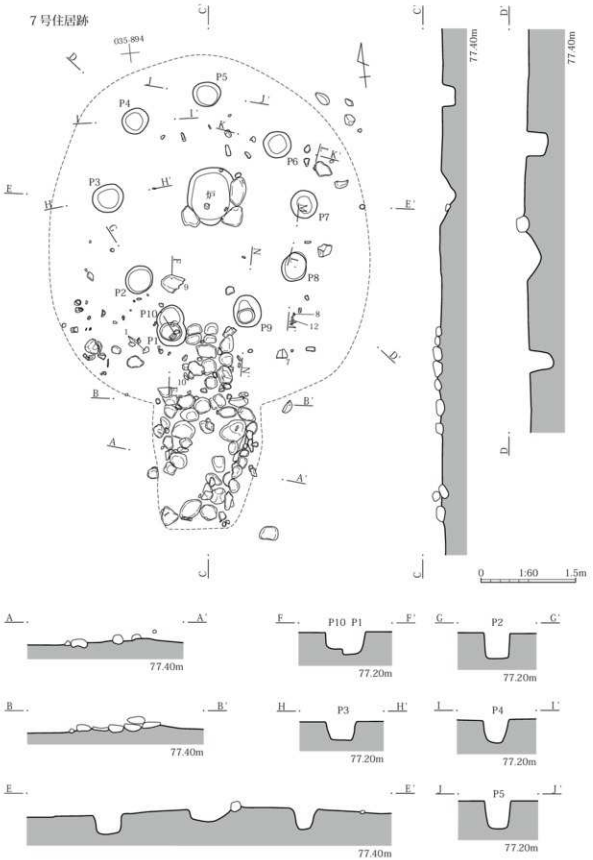
第 25 図　Ⅰ区６号住居跡出土遺物 (2)



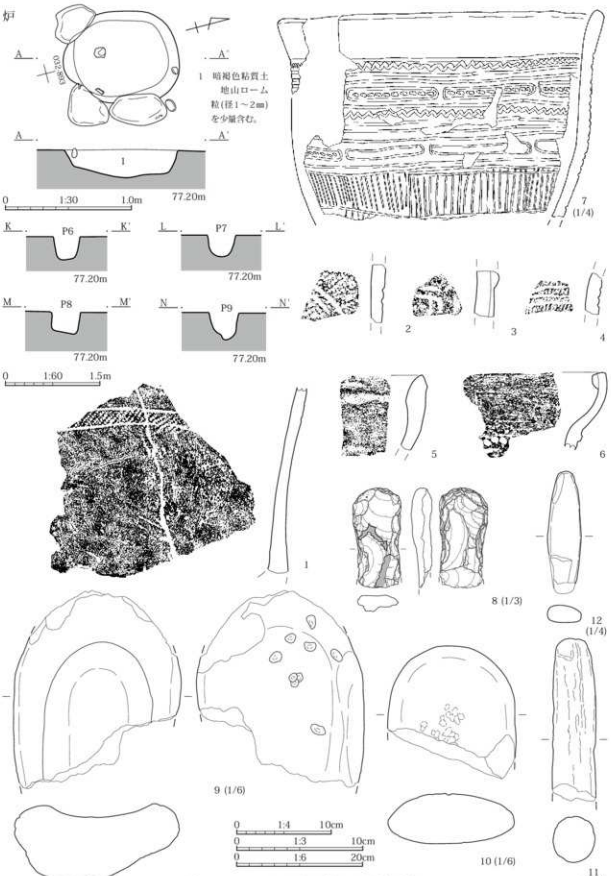
第26図　Ⅰ区6号住居跡出土遺物(3)



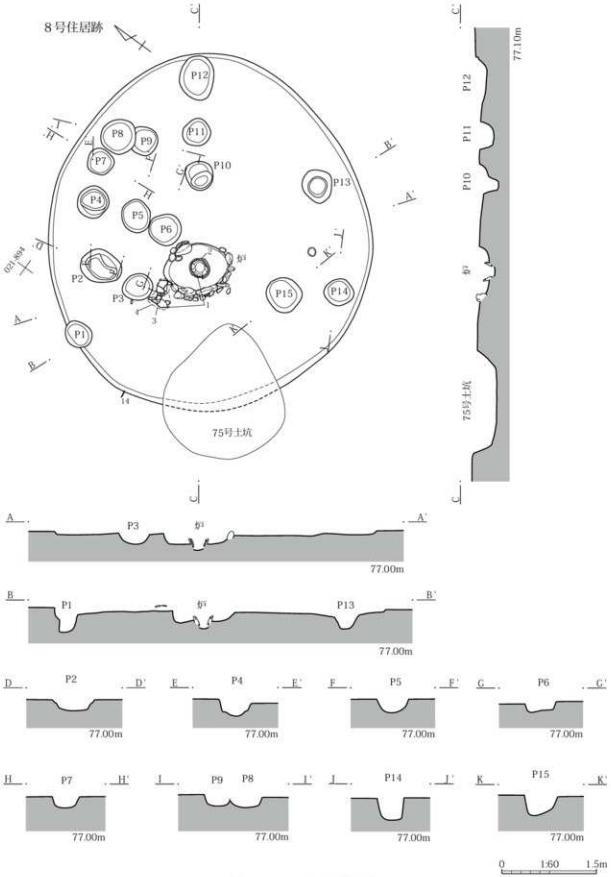
第 27 図　Ⅰ区６号住居跡出土遺物 (4)



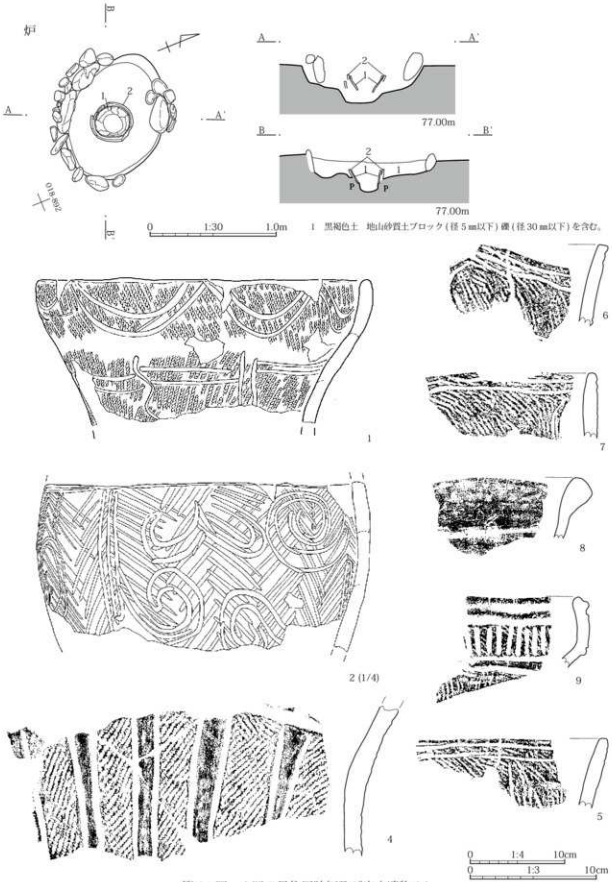
第28図　Ⅰ区7号住居跡



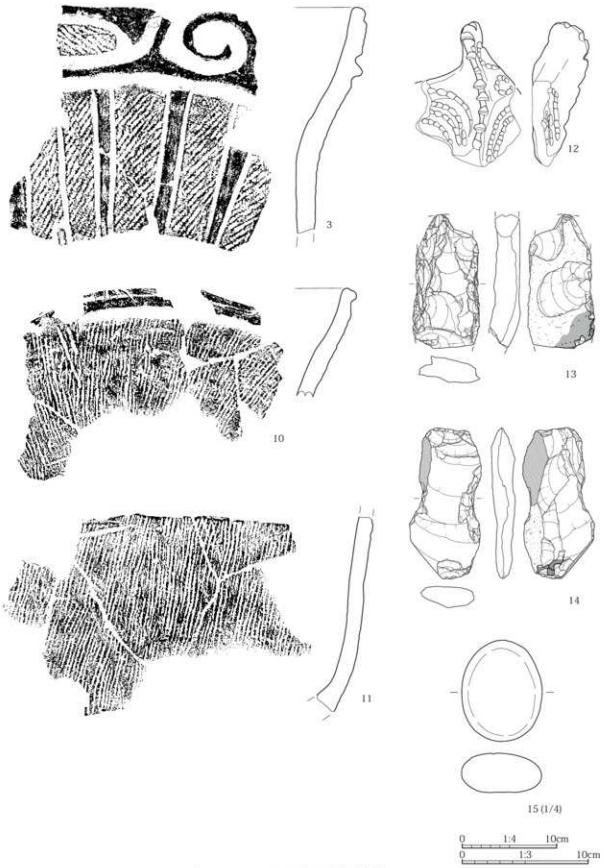
第 29 図　Ⅰ区７号住居跡炉及び出土遺物



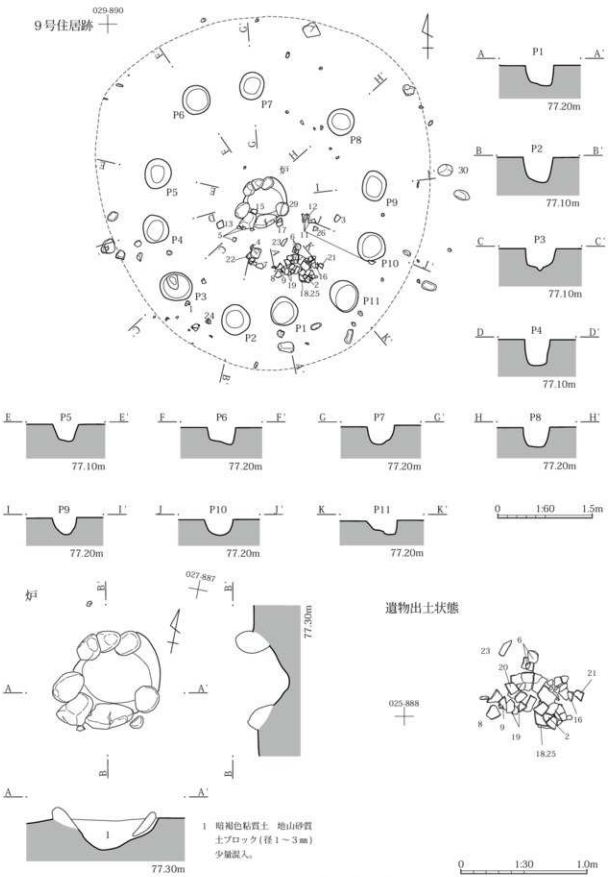
第30図　Ⅰ区8号住居跡



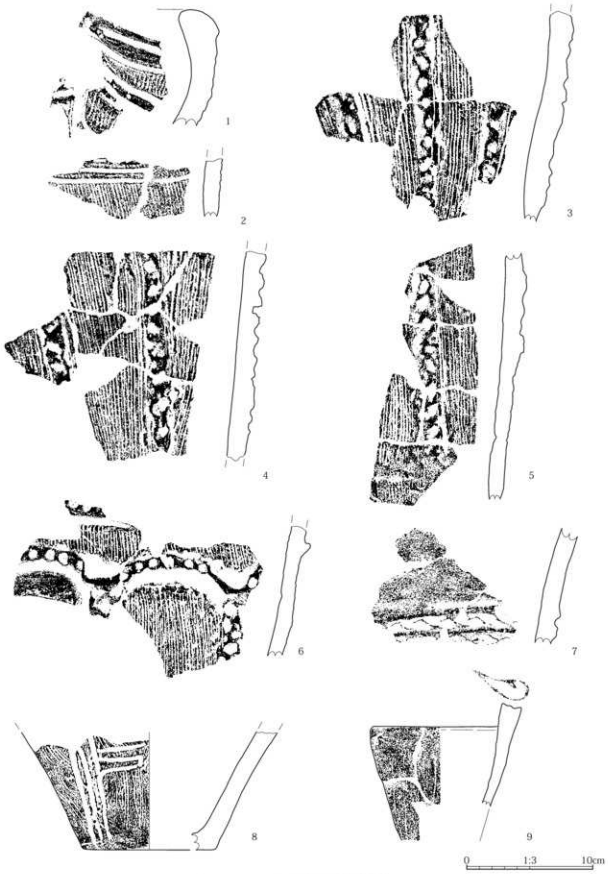
第 31 図　Ⅰ区８号住居跡炉及び出土遺物 (1)



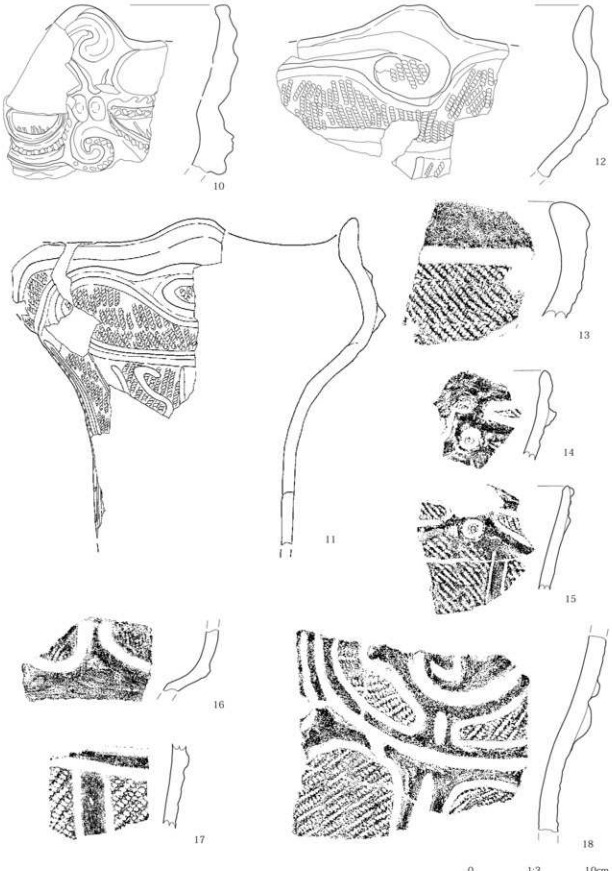
第32図　Ⅰ区8号住居跡出土遺物 (2)



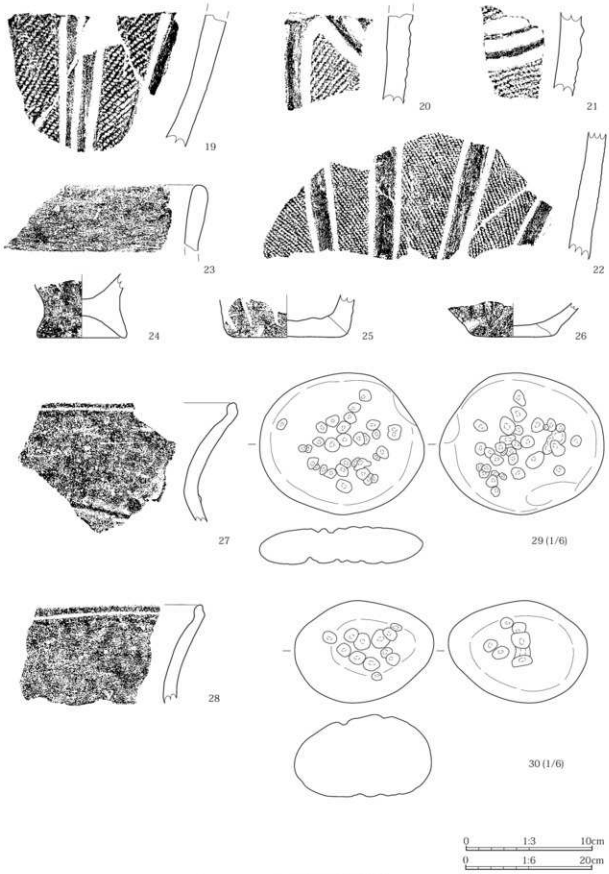
第 33 図　Ⅰ区９号住居跡及び炉



第34図　Ⅰ区9号住居跡出土遺物 (1)

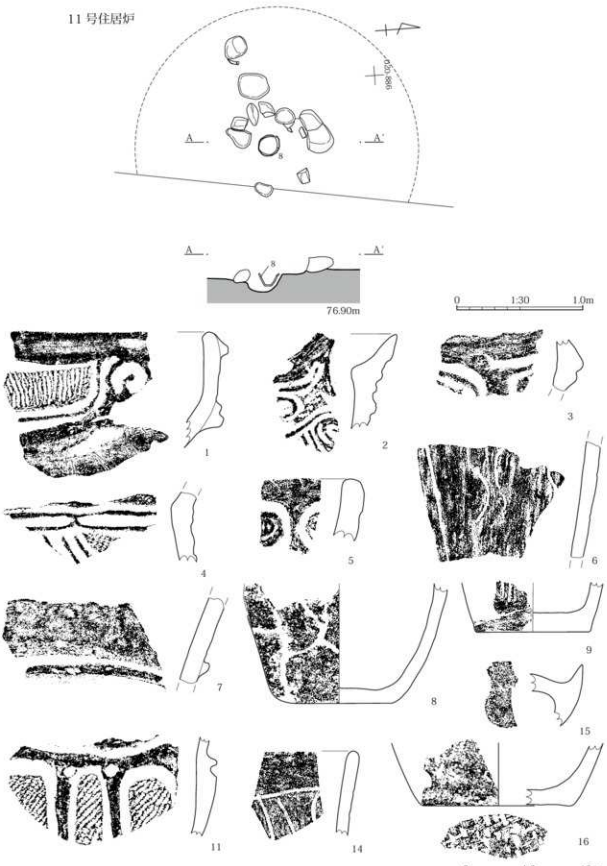


第 35 図　Ⅰ区９号住居跡出土遺物 (2)

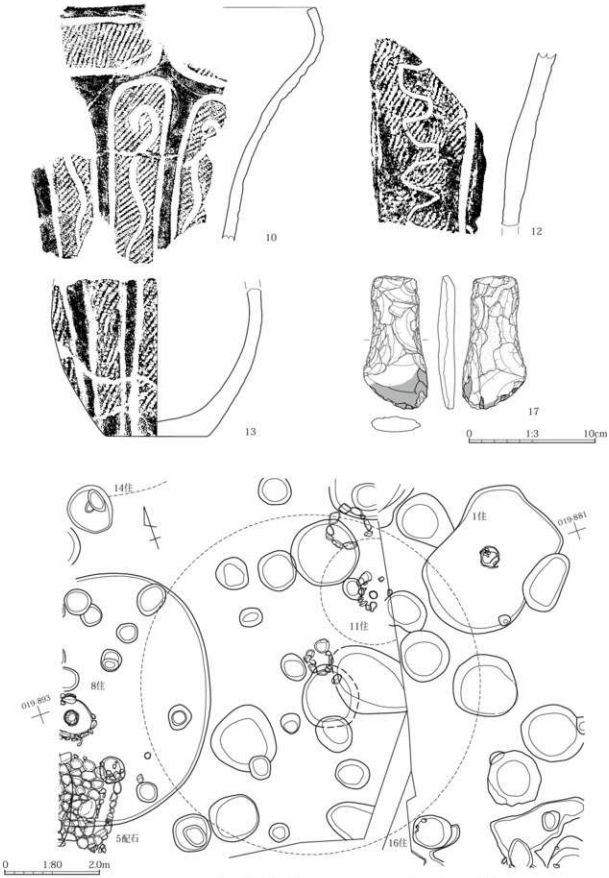


第36図　Ⅰ区9号住居跡出土遺物 (3)

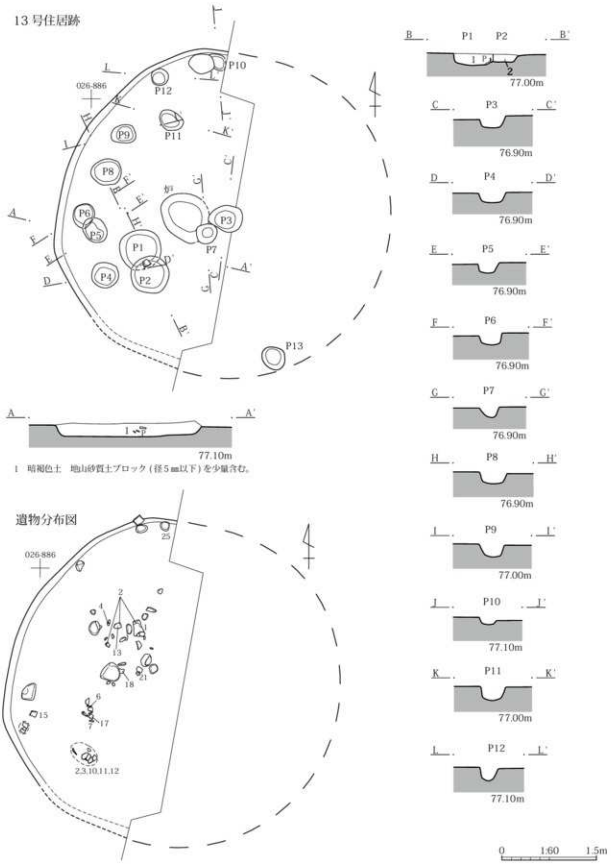
11 号住居炉



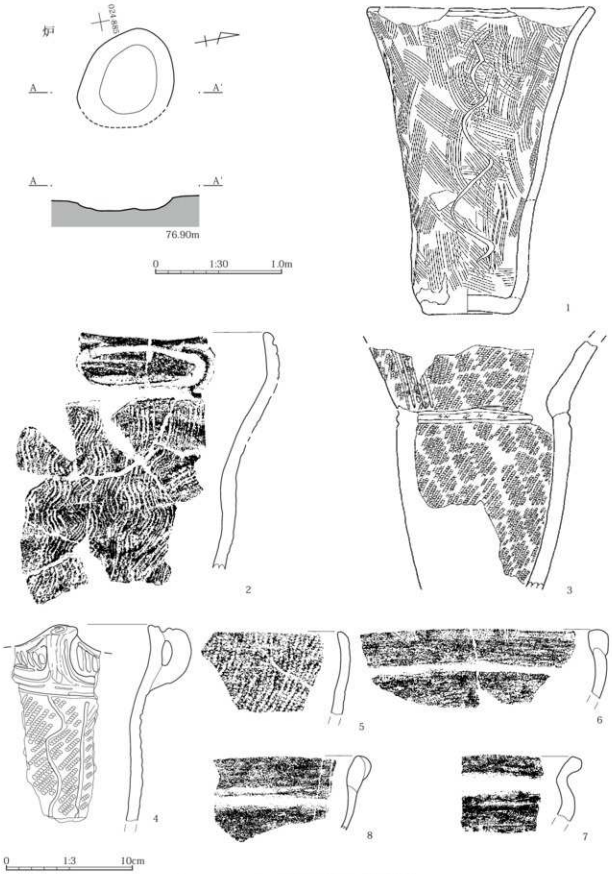
第 37 図　Ⅰ区 11 号住居跡炉及び出土遺物 (1)



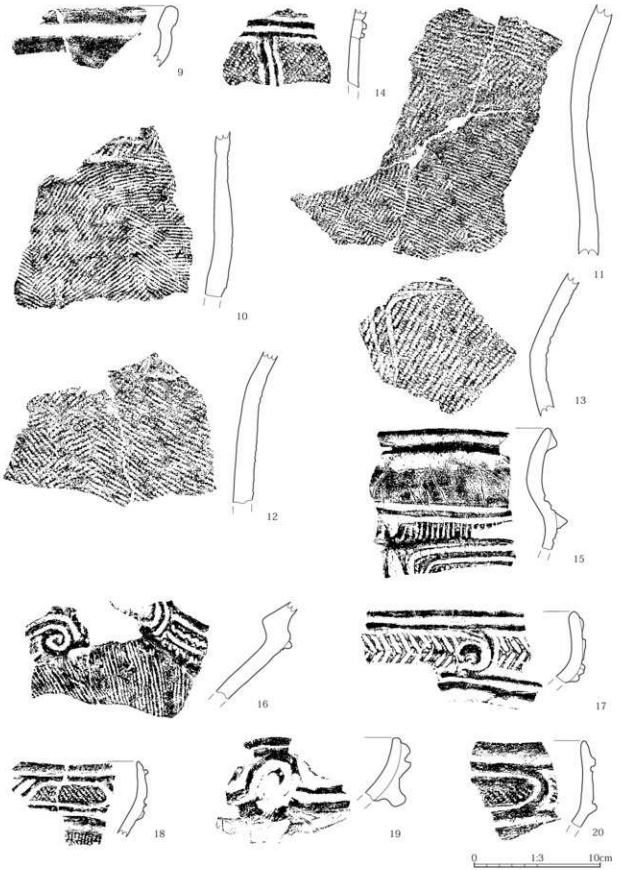
第38図　Ⅰ区11号住居跡出土遺物(2)、11号・16号住居跡周辺遺構図



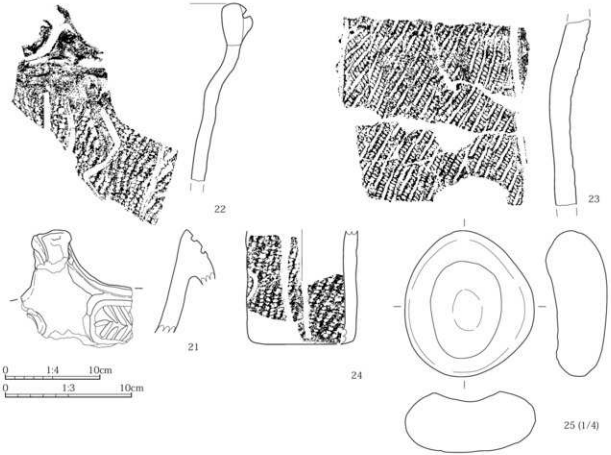
第 39 図　Ⅰ区 13 号住居跡及び遺物分布図

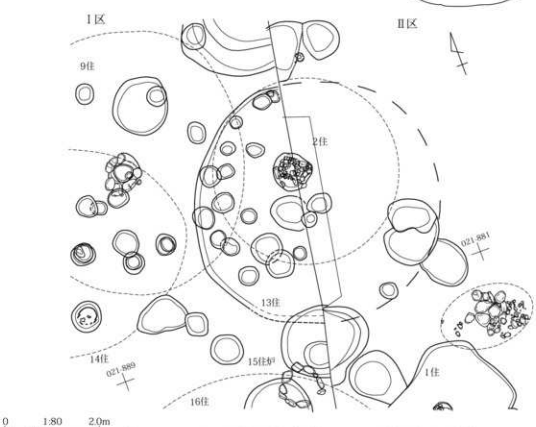


第40図　Ⅰ区13号住居跡炉及び出土遺物(1)

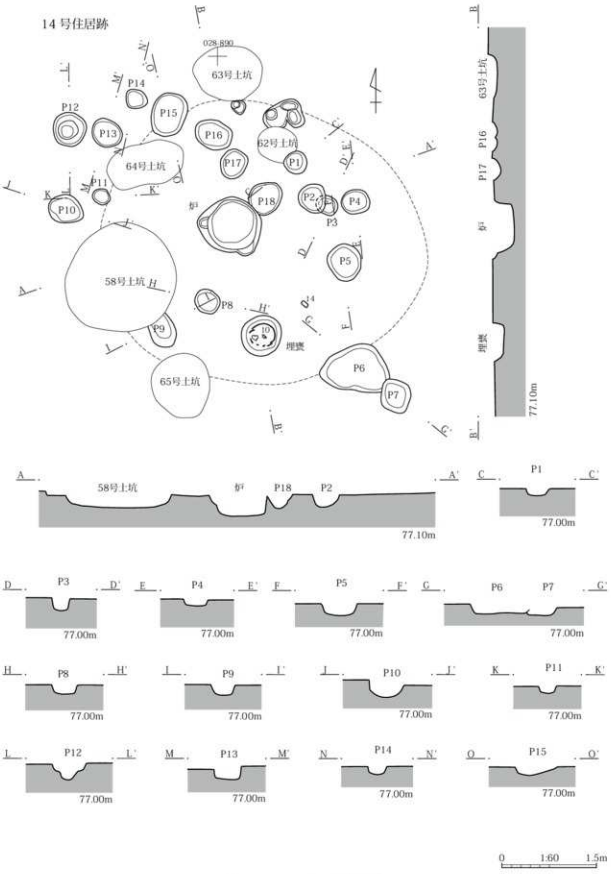


第 41 図　Ⅰ区 13 号住居跡出土遺物 (2)

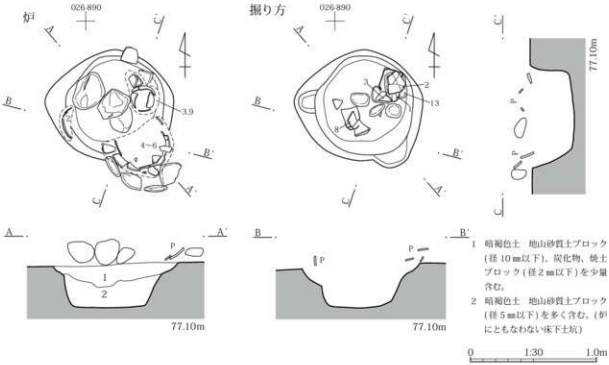


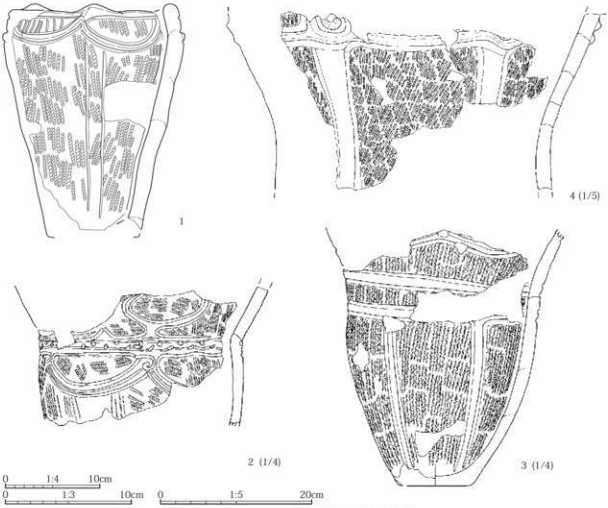


第42図　Ⅰ区13号住居跡出土遺物(3)、13号住居跡周辺遺構図

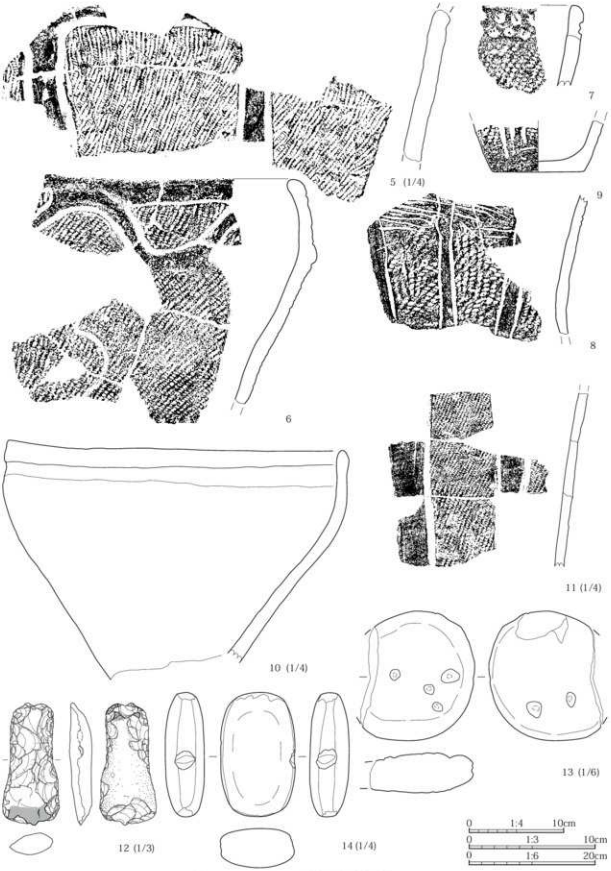


第 43 図　Ⅰ区 14 号住居跡

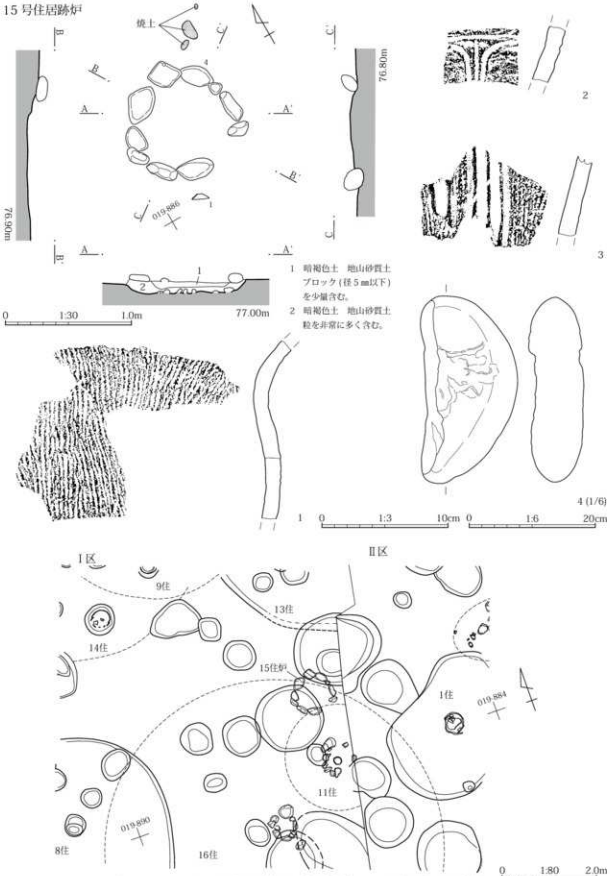




第44図　Ⅰ区14号住居跡炉及び出土遺物(1)

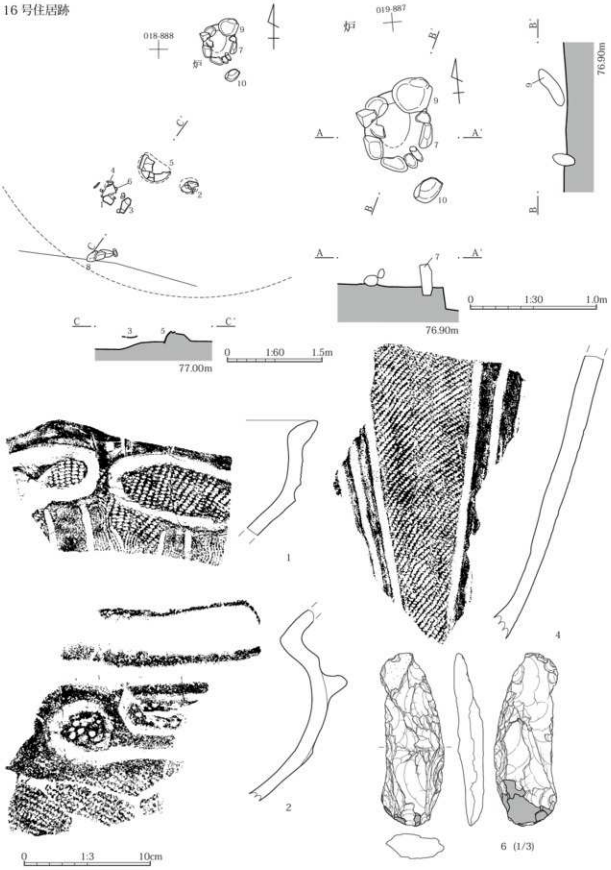


第 45 図　Ⅰ区 14 号住居跡出土遺物 (2)

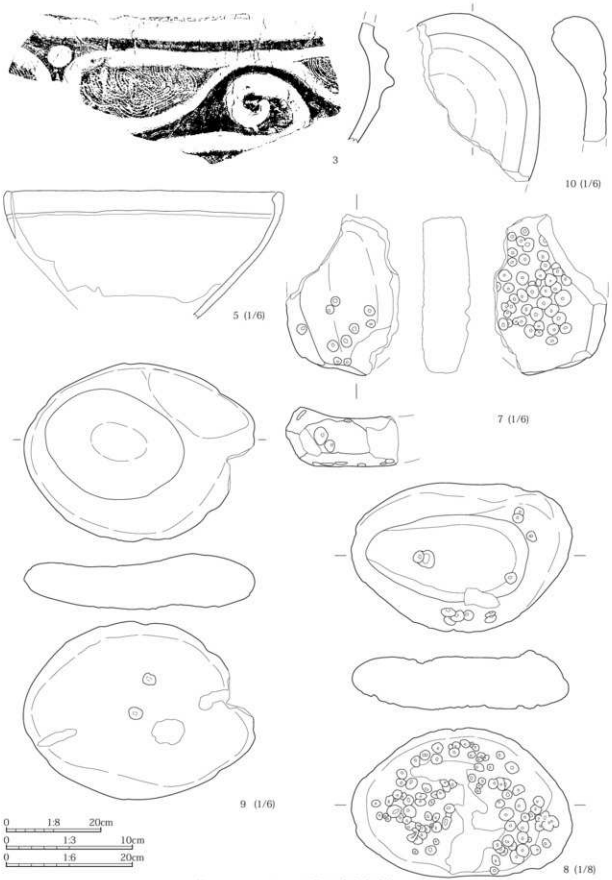


第46図　Ⅰ区15号住居跡炉及び出土遺物、15号住居跡周辺遺構図

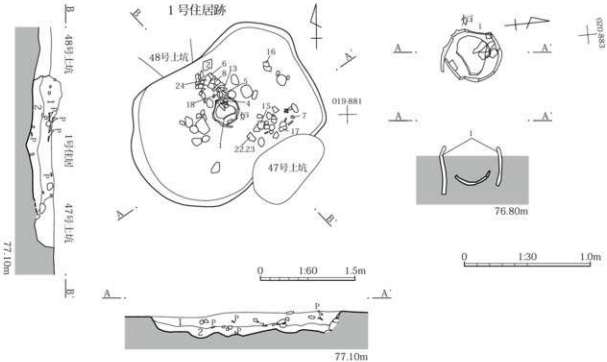
16 号住居跡



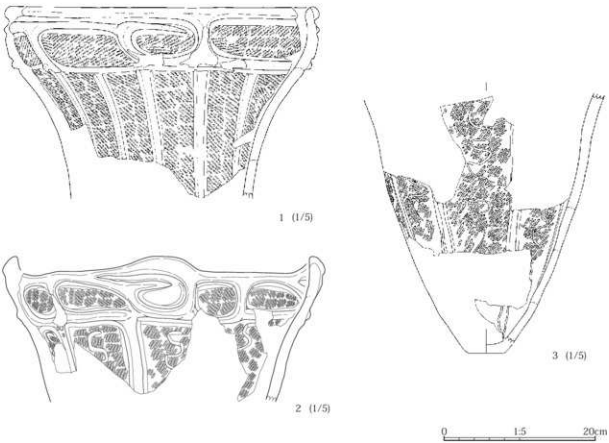
第 47 図　Ⅰ区 16 号住居跡及び炉、出土遺物 (1)



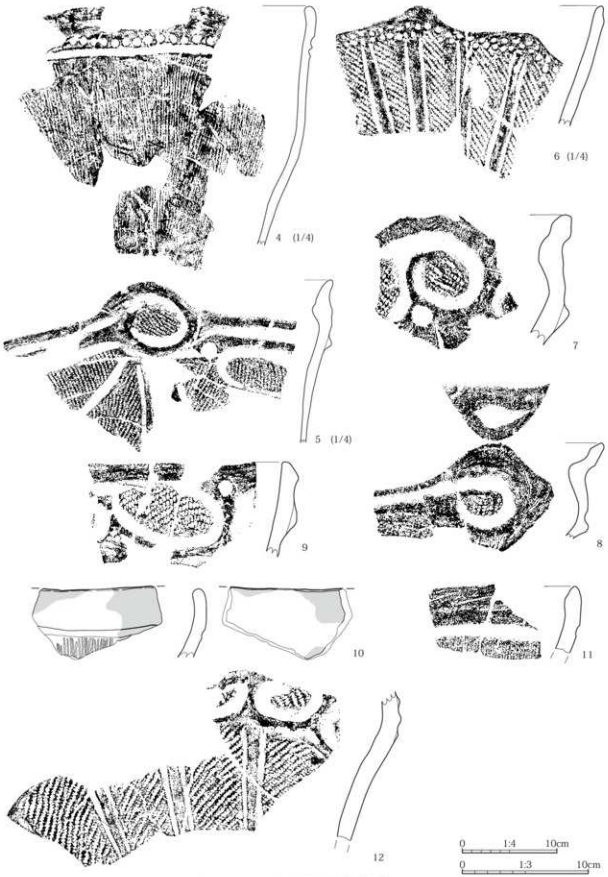
第48図　I区16号住居跡出土遺物(2)



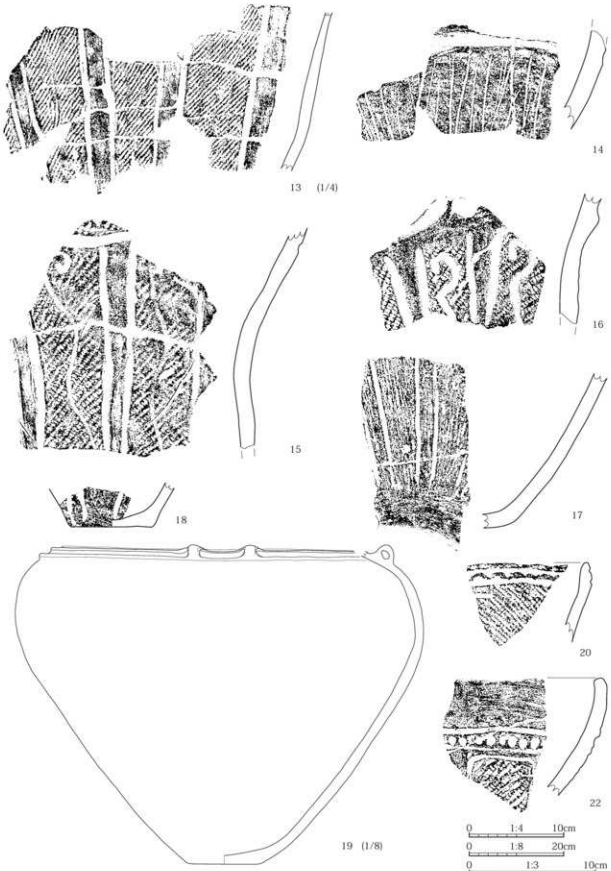
1　黒褐色土　地山砂質土ブロック（径 30 ㎜程度）を少量含む。
2　黒褐色土　1 層に類似するが、ブロックをやや多く含む。



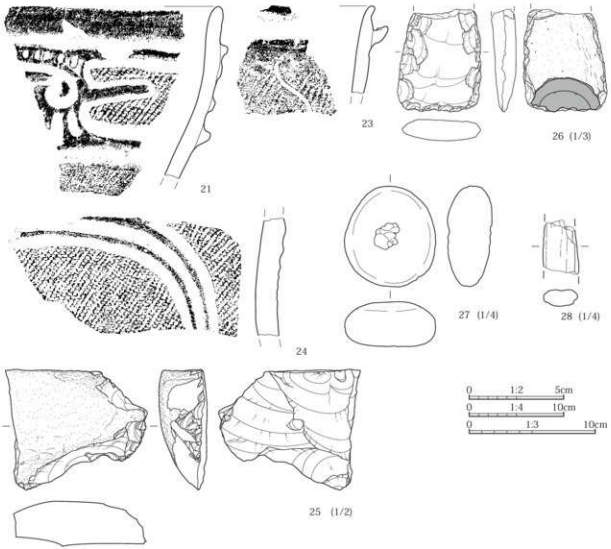
第 49 図　Ⅱ区 1 号住居跡及び炉、出土遺物 (1)



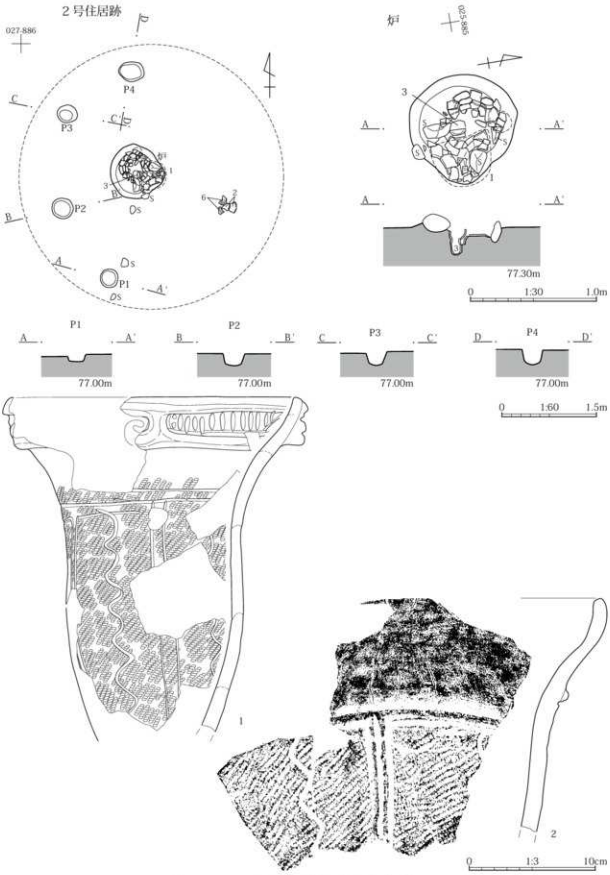
第50図　Ⅱ区1号住居跡出土遺物 (2)



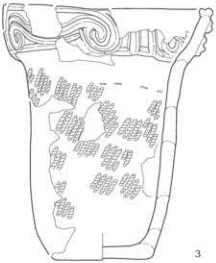
第 51 図　Ⅱ区 1 号住居跡出土遺物 (3)

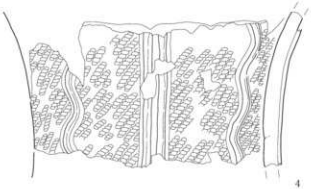


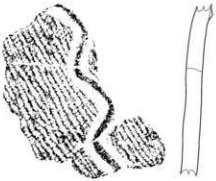
第 52 図　Ⅱ区 1 号住居跡出土遺物 (4)

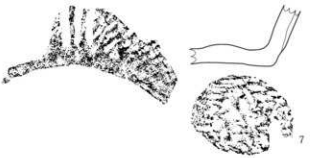


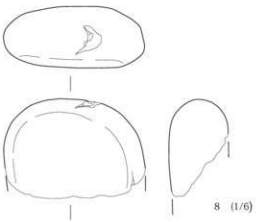
第 53 図　Ⅱ区２号住居跡及び炉[1]、出土遺物 (1)



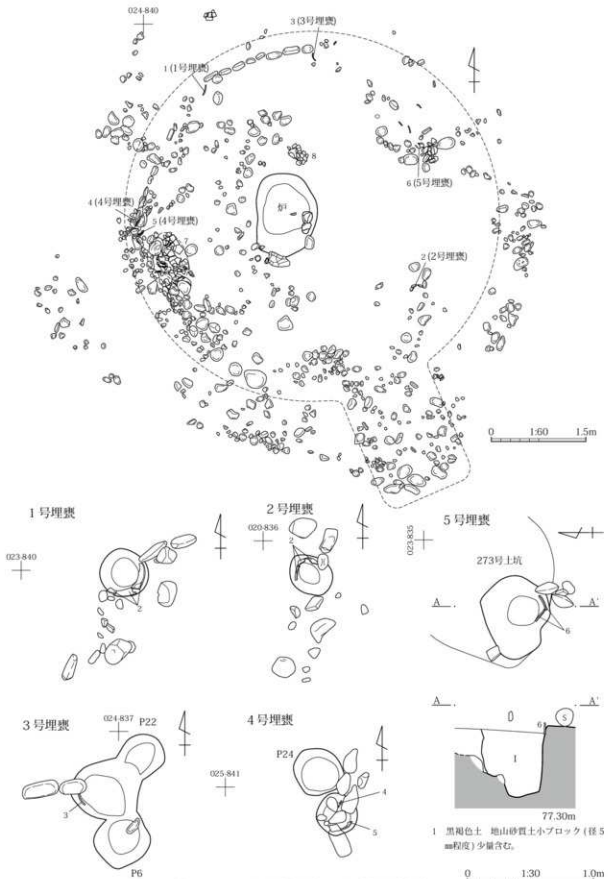




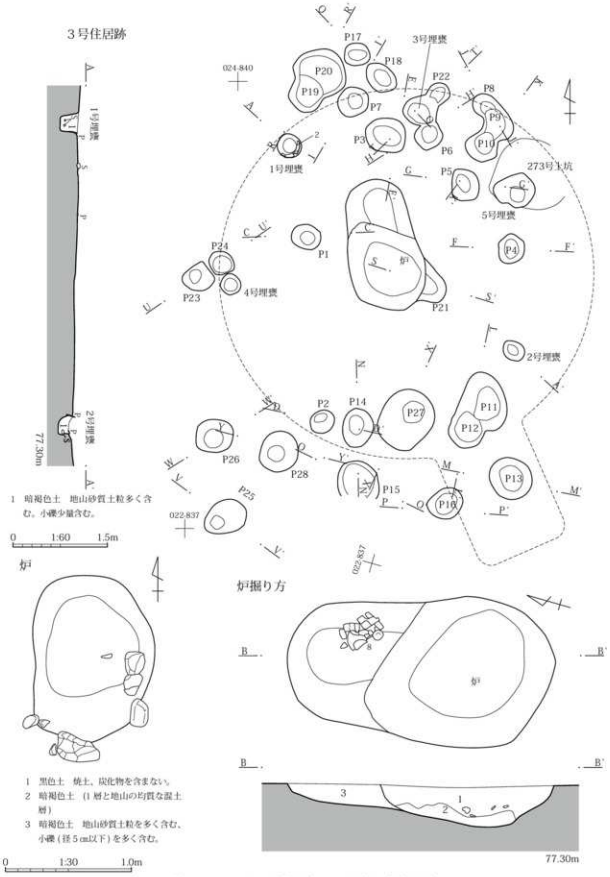




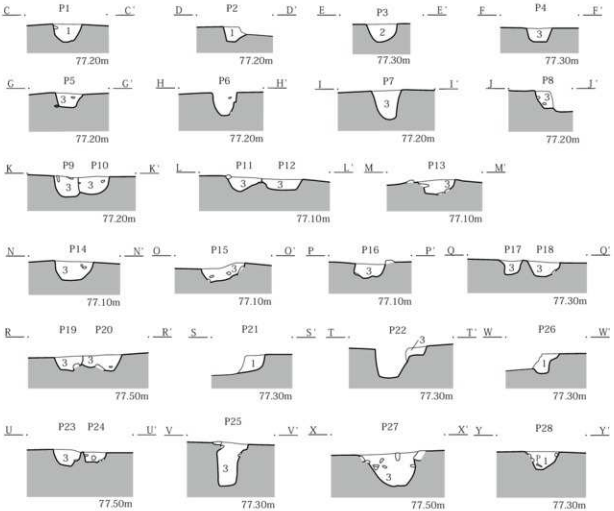
第54図　Ⅱ区2号住居跡出土遺物(2)



第 55 図　Ⅱ区３号住居跡 (1) 及び住居内埋甕

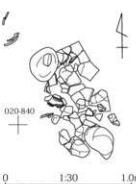


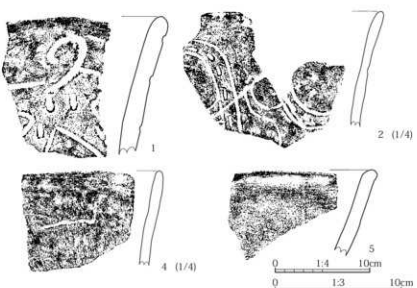
第56図　Ⅱ区3号住居跡(2)及び炉・炉掘り方



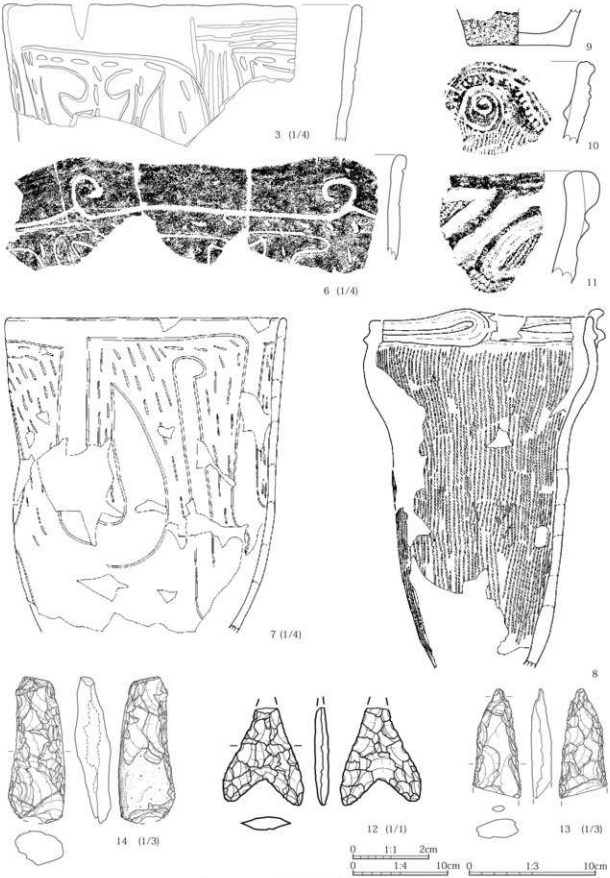
1　暗褐色土　地山砂質土小ブロック（径１cm以下）多く含む。小礫（径１cm以下）多く含む。
2　黒色土　焼土、炭化物を含まない。
3　暗褐色土　地山砂質土小ブロック（径５mm程度）少量含む。小礫（径１cm以下）少量含む。礫（10 cm程度）のものを含む柱穴と含まない柱穴がある

遺物No. 7 出土状況

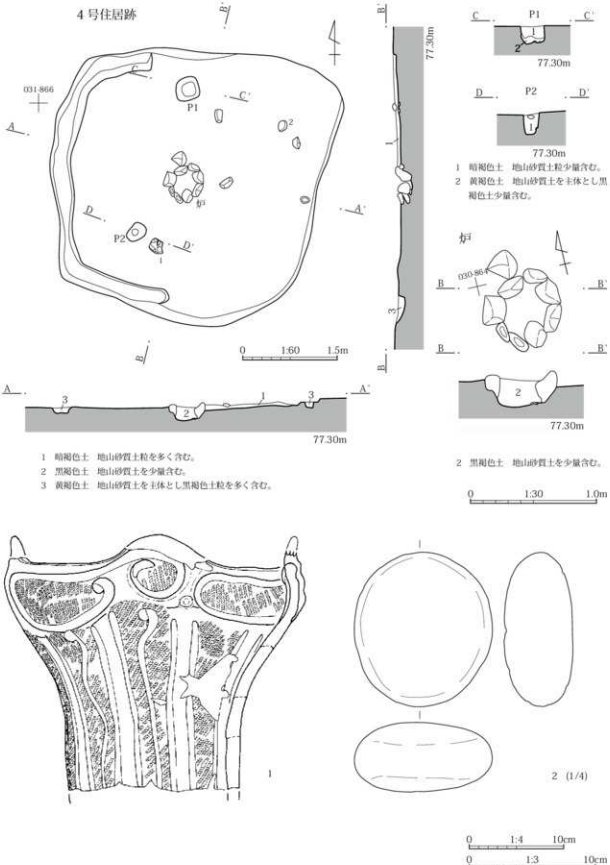




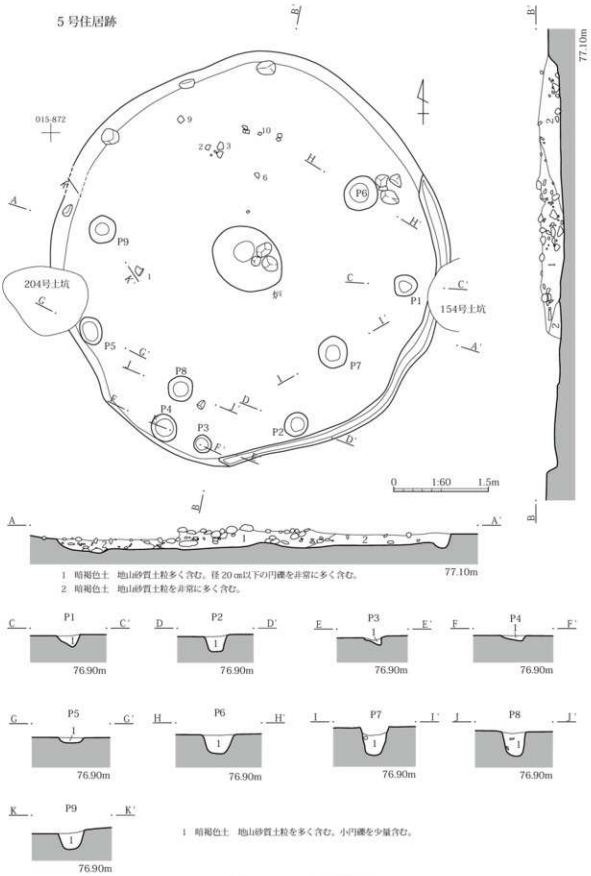
第 57 図　Ⅱ区３号住居跡 (3) 及び遺物出土状況、出土遺物 (1)



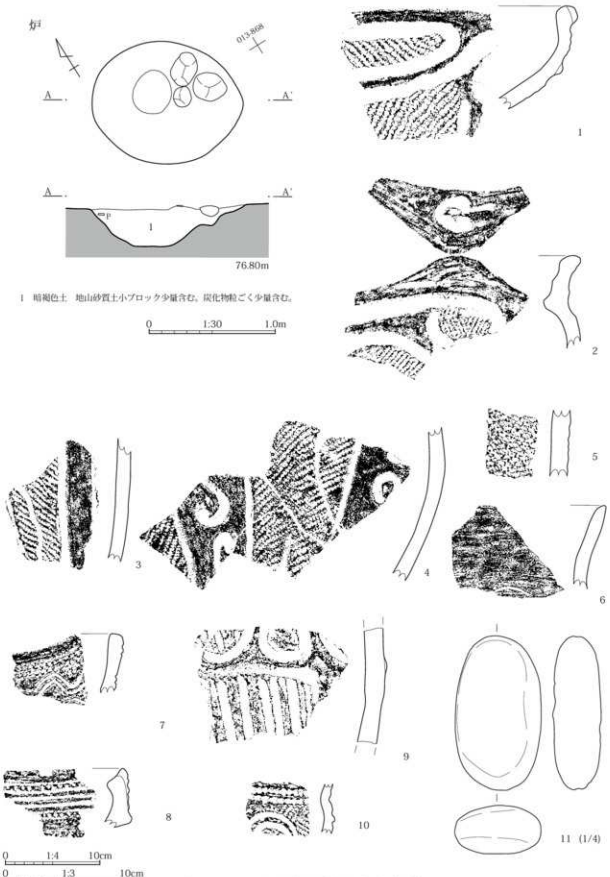
第58図　Ⅱ区3号住居跡出土遺物 (2)



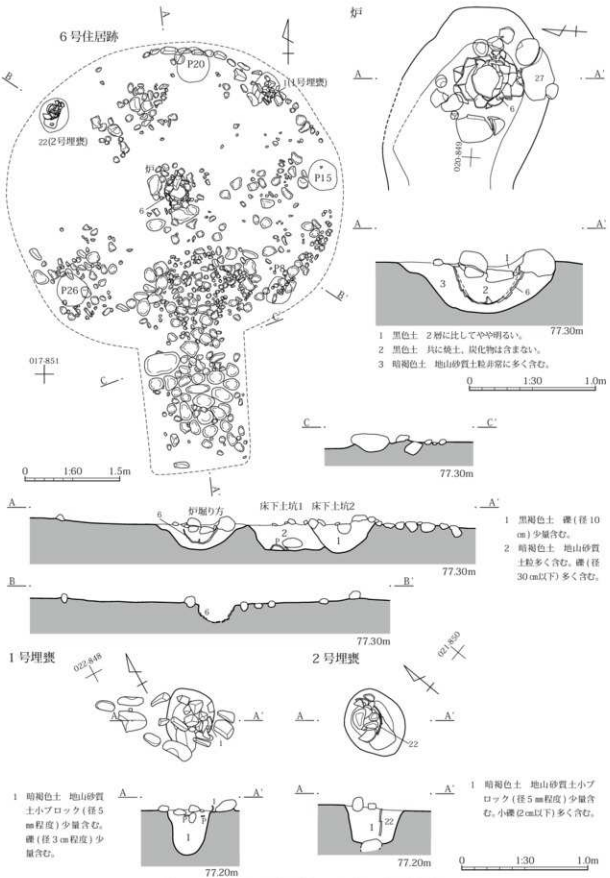
第 59 図　Ⅱ区４号住居跡及び炉、出土遺物



第60図　Ⅱ区5号住居跡

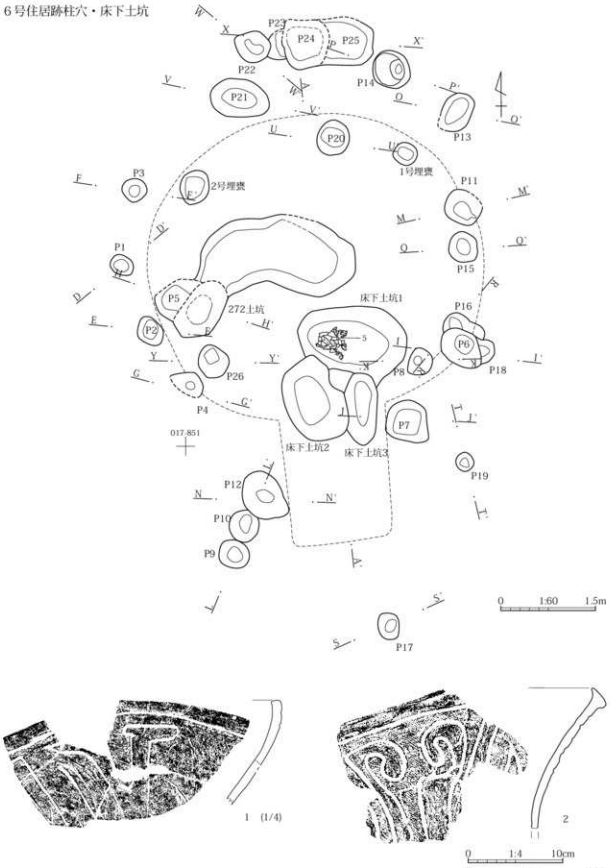


第61図　Ⅱ区５号住居跡炉及び、出土遺物

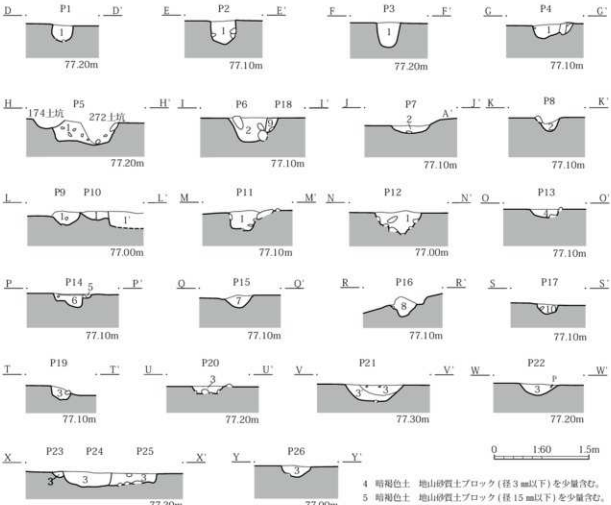


第 62 図　Ⅱ区６号住居跡 (1) 及び炉・住居内埋甕

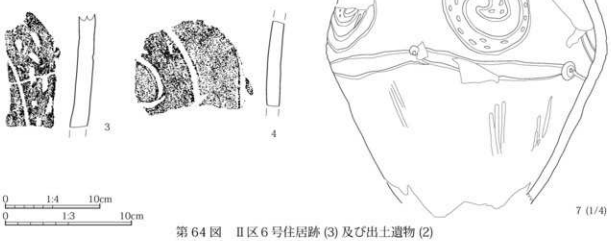
６号住居跡柱穴・床下土坑



第 63 図　Ⅱ区６号住居跡 (2) 及び出土遺物 (1)



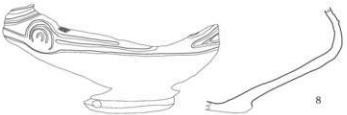
1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径５mm以下）多く含む。小礫（径２cm以下）少量含む。
1'　暗褐色土　１層に比べ小礫（径２cm以下）をやや多く含む。
2　暗褐色土　地山砂質土小ブロック（径５mm程度）少量含む。礫（径２～３cm程度）少量含む。
3　黒褐色土　地山砂質土小ブロック（径５mm程度）少量含む。小礫（2 cm以下）少量含む。
3'　黒褐色土　３層に類似するが、より多く砂質土小ブロック含む。
4　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径３mm以下）を少量含む。
5　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径15 mm以下）を少量含む。
6　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径30 mm以下）と礫を含む。
7　暗褐色土　地山砂質土粒を含む。
8　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径３cm以下）を少量含む。
9　暗褐色土　地山砂質土粒を少量含む。
10　暗褐色土　地山砂質土粒、礫を少量含む。



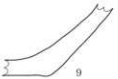
第64図　Ⅱ区６号住居跡(3)及び出土遺物(2)

5 (1/5)

6 (1/5)

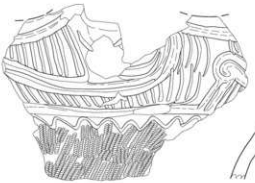


8



9

10



12

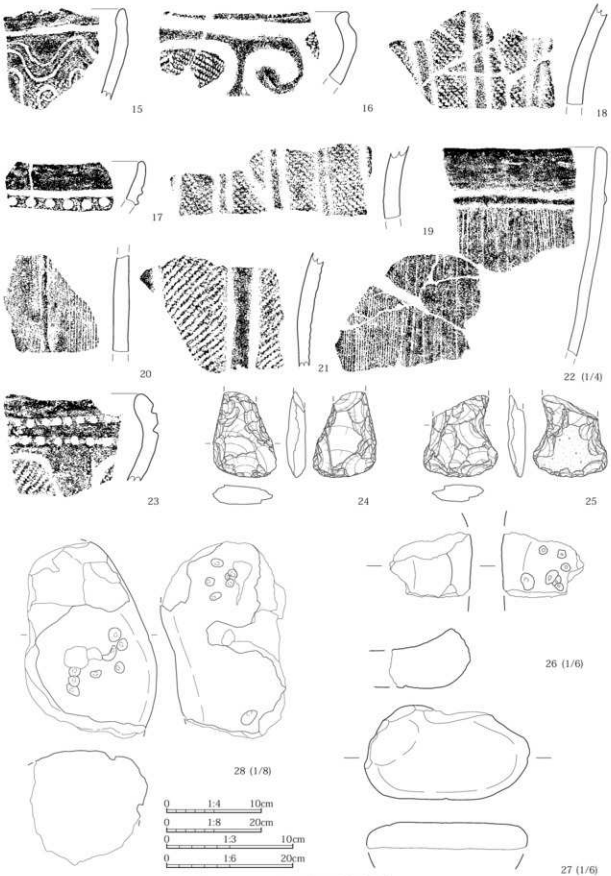
11

13

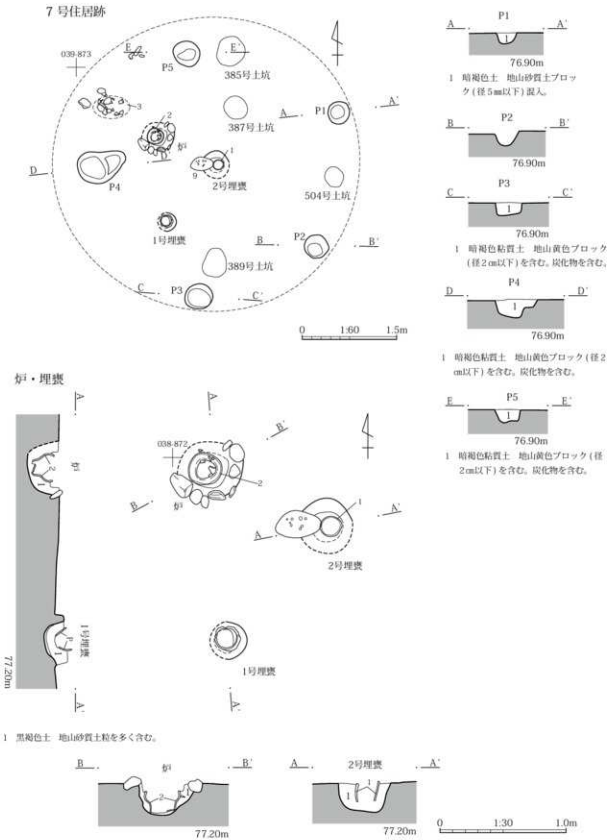
14 (1/4)

0　1:4　10cm
0　1:3　10cm
0　1:5　20cm

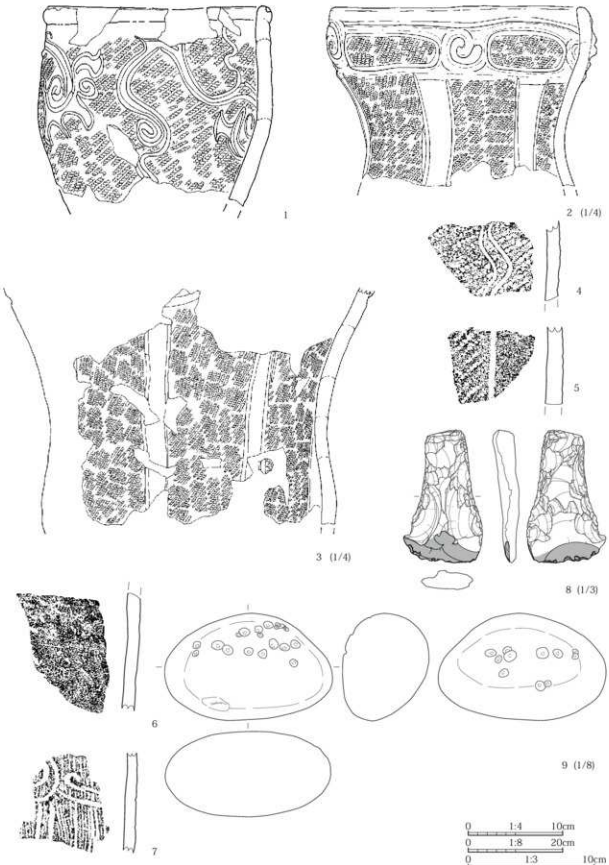
第 65 図　Ⅱ区６号住居跡出土遺物 (3)



第66図　Ⅱ区6号住居跡出土遺物(4)

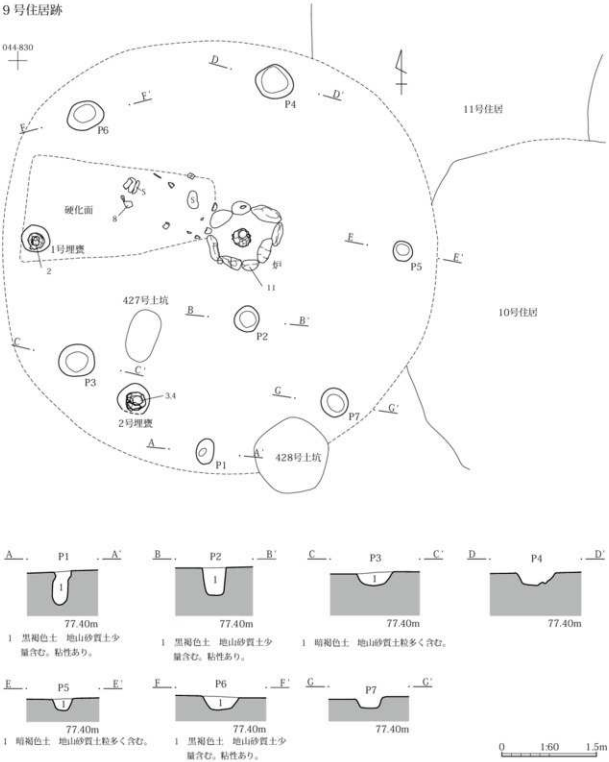


第 67 図　Ⅱ区７号住居跡及び炉・住居内埋甕



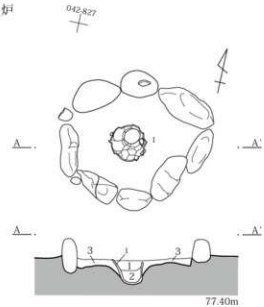
第68図　Ⅱ区7号住居跡出土遺物

９号住居跡



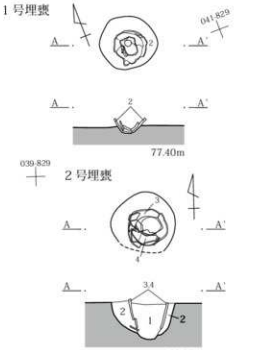
第 69 図　Ⅱ区９号住居跡

炉



1　暗褐色土　地山砂質土粒少量含む。
2　暗褐色土　1層に類似するがやや多く砂質粒含む。
3　暗褐色土　地山砂質土粒多く含む。焼土粒ごく少量含む。

1号埋甕



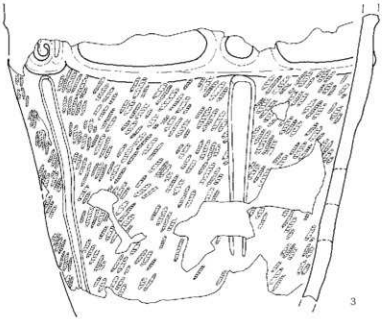
1　暗褐色土　地山砂質土粒ブロック（径5㎝以下）を少量含む。
2　黒褐色　地山砂質土粒少量含む。

0　1:30　1.0m

1

2

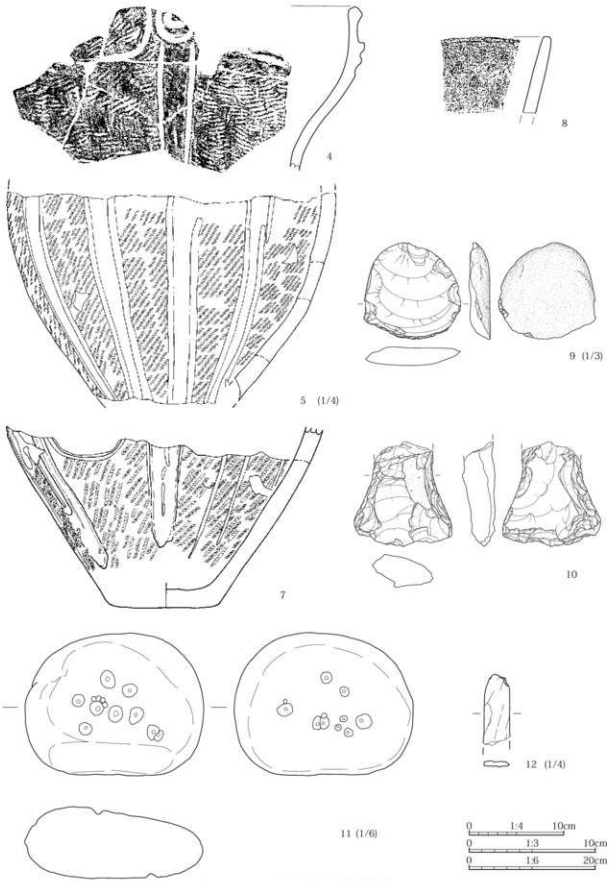
6



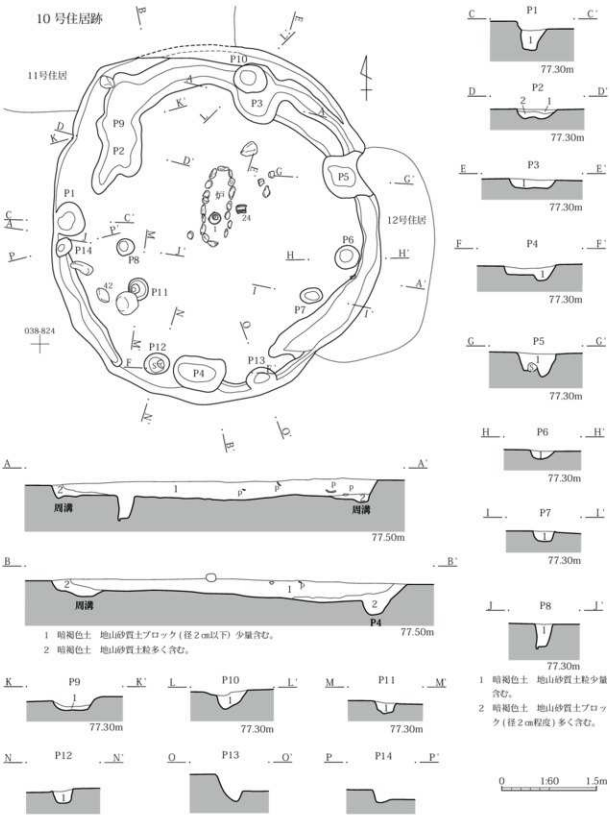
3

0　1:3　10cm

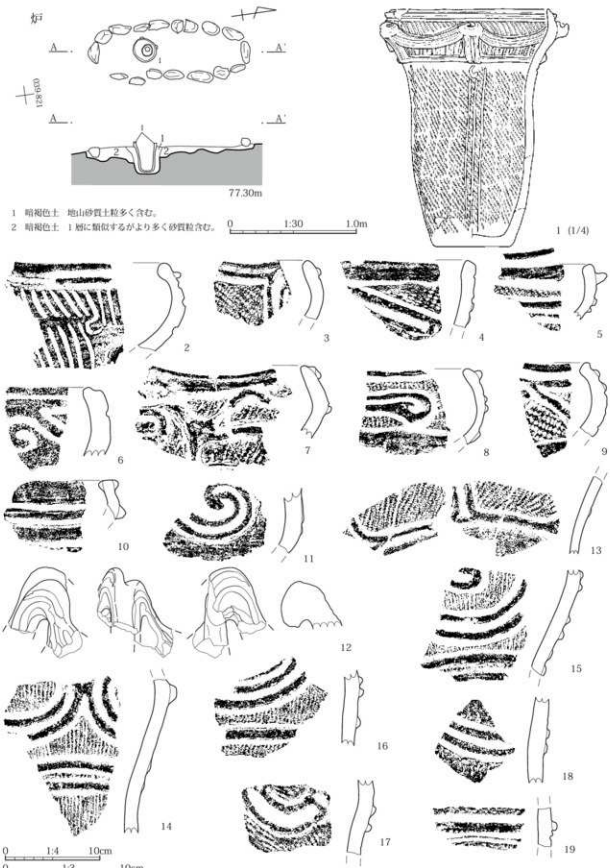
第70図　Ⅱ区9号住居跡炉・住居内埋甕及び出土遺物(1)



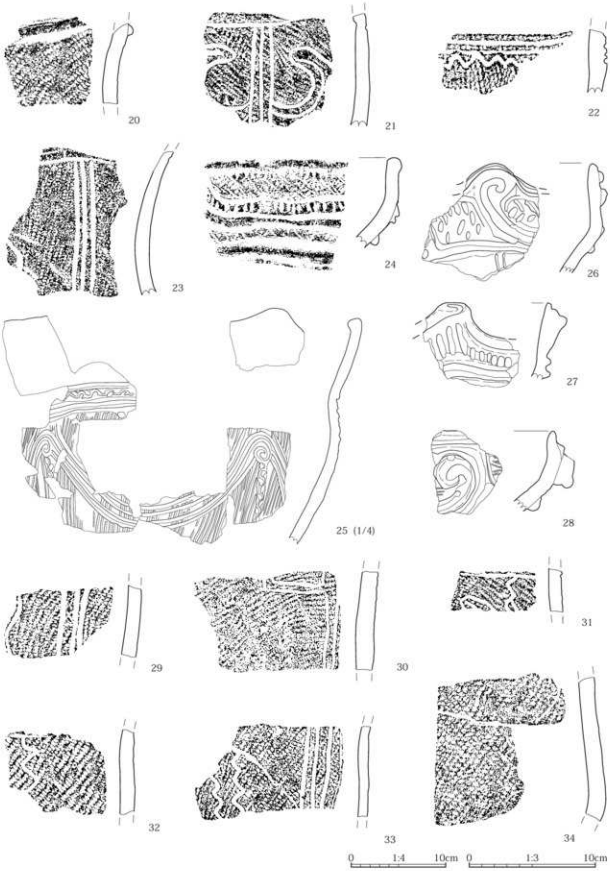
第 71 図　Ⅱ区９号住居跡出土遺物 (2)



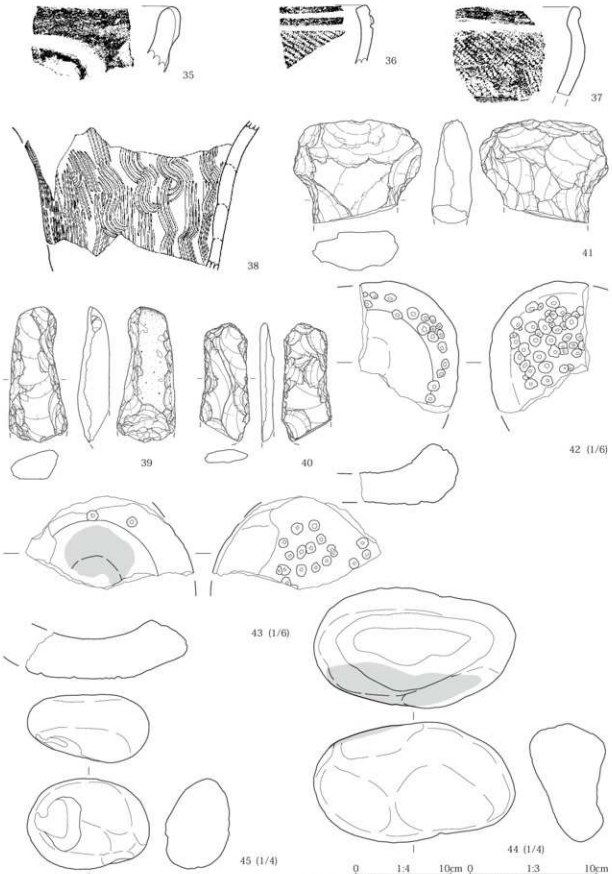
第 72 図　Ⅱ区 10 号住居跡



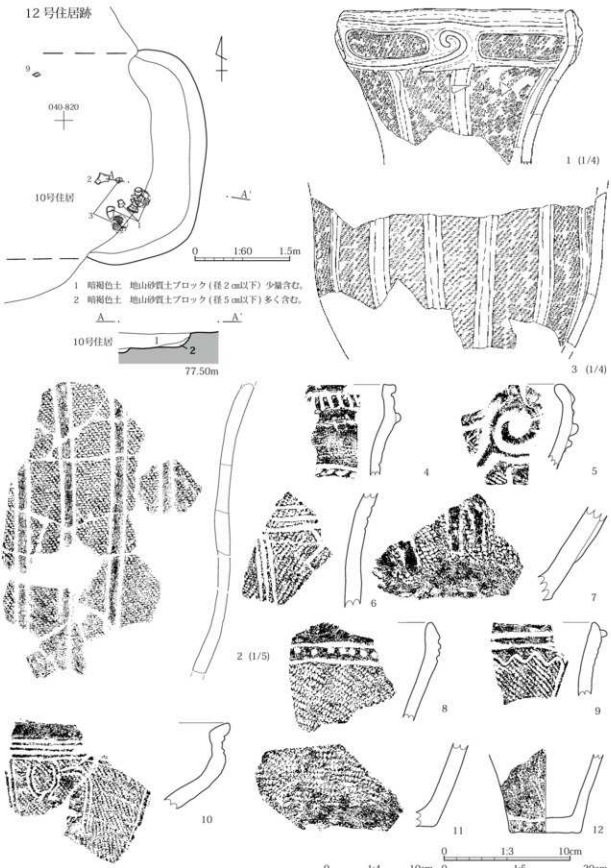
第 73 図　Ⅱ区 10 号住居跡炉及び出土遺物 (1)



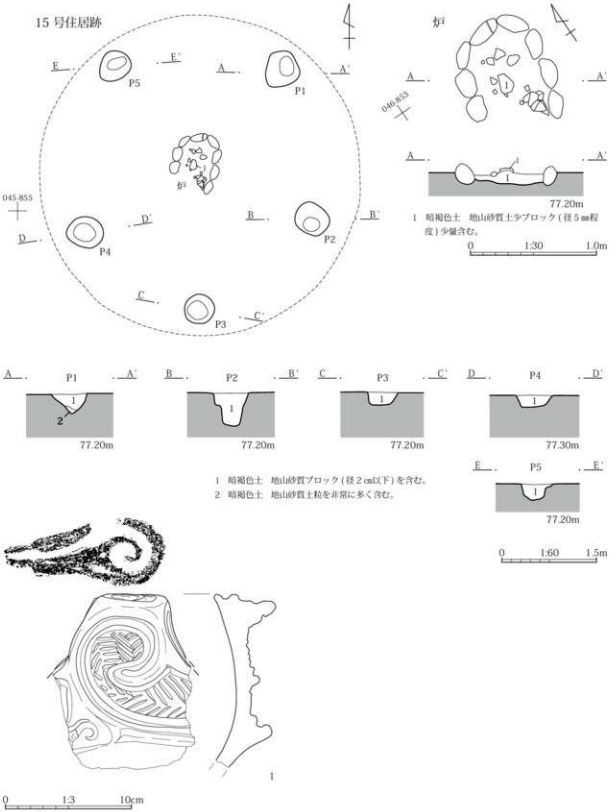
第74図　Ⅱ区10号住居跡出土遺物(2)



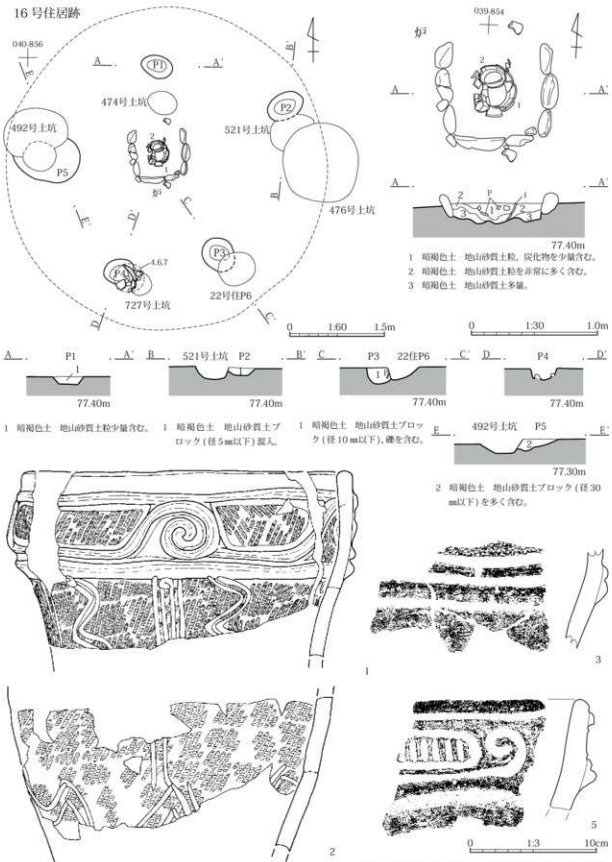
第 75 図　Ⅱ区 10 号住居跡出土遺物 (3)



第76図　Ⅱ区12号住居跡及び出土遺物

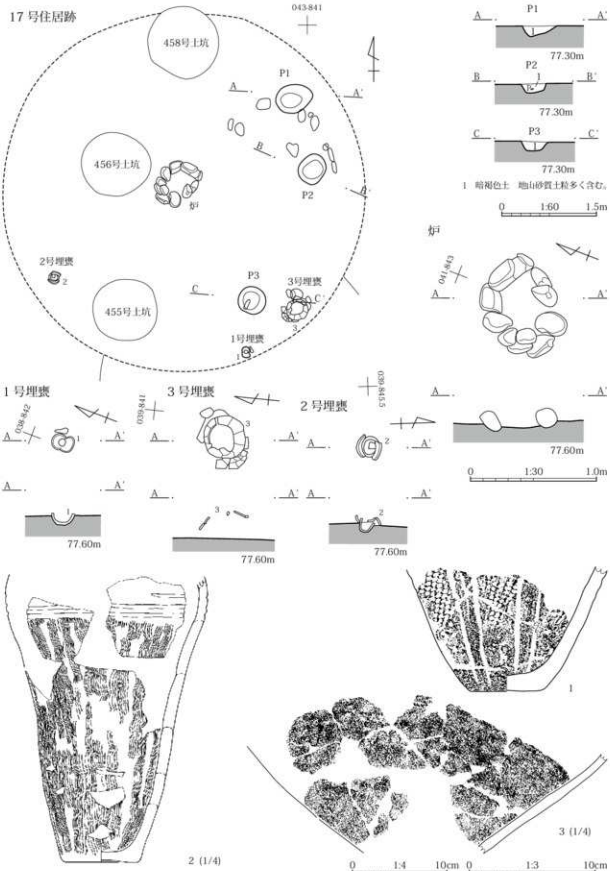


第 77 図　Ⅱ区 15 号住居跡及び炉、出土遺物

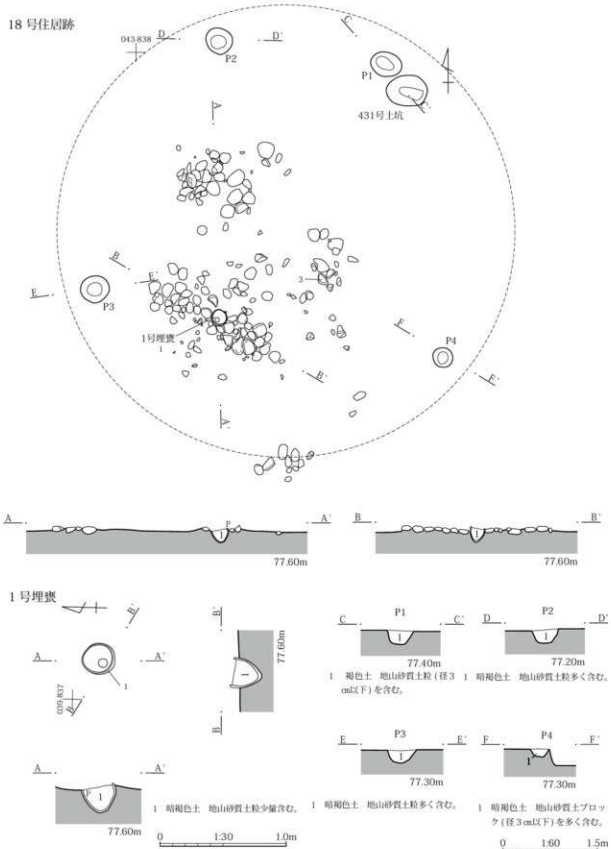


＊出土遺物4、6～12は112ページに掲載

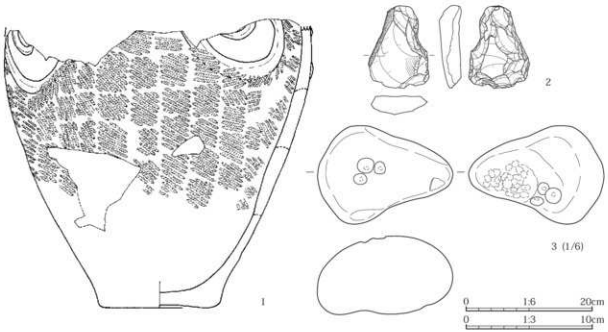
第78図　Ⅱ区16号住居跡及び炉、出土遺物(1)



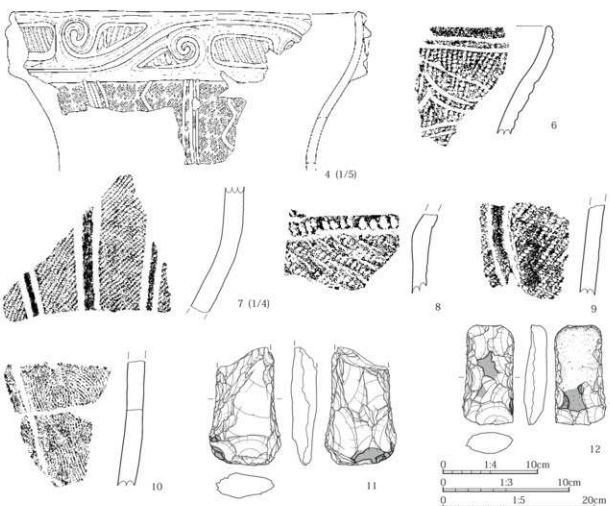
第 79 図　Ⅱ区 17 号住居跡及び炉・住居内埋甕、出土遺物



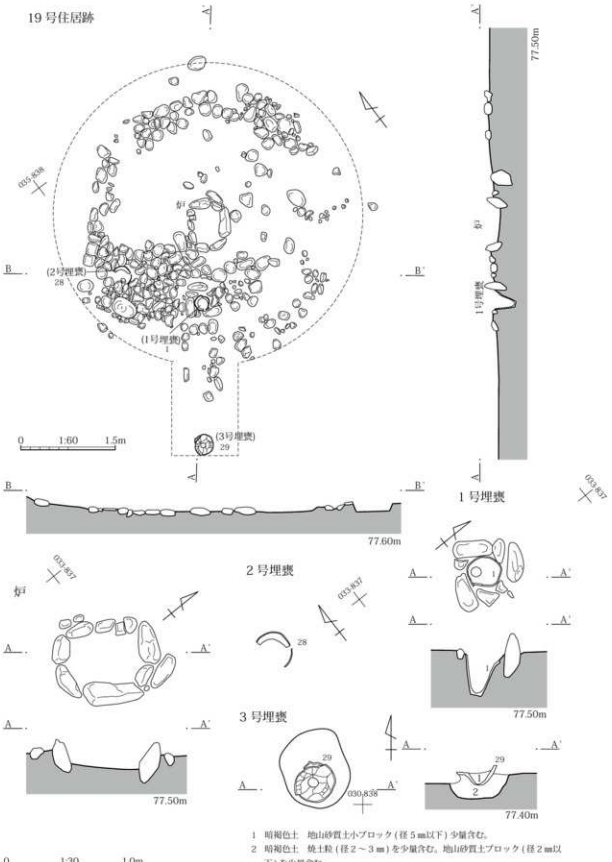
第 80 図　Ⅱ区 18 号住居跡及び住居内埋甕



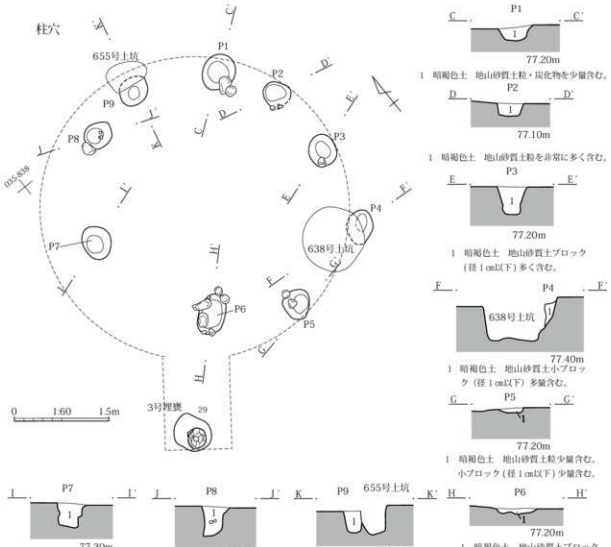
16 号住居跡出土遺物 (2)

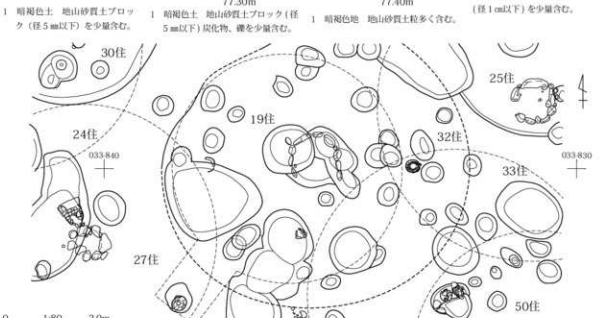


第 81 図　Ⅱ区 18 号住居跡出土遺物、16 号住居跡出土遺物 (2)

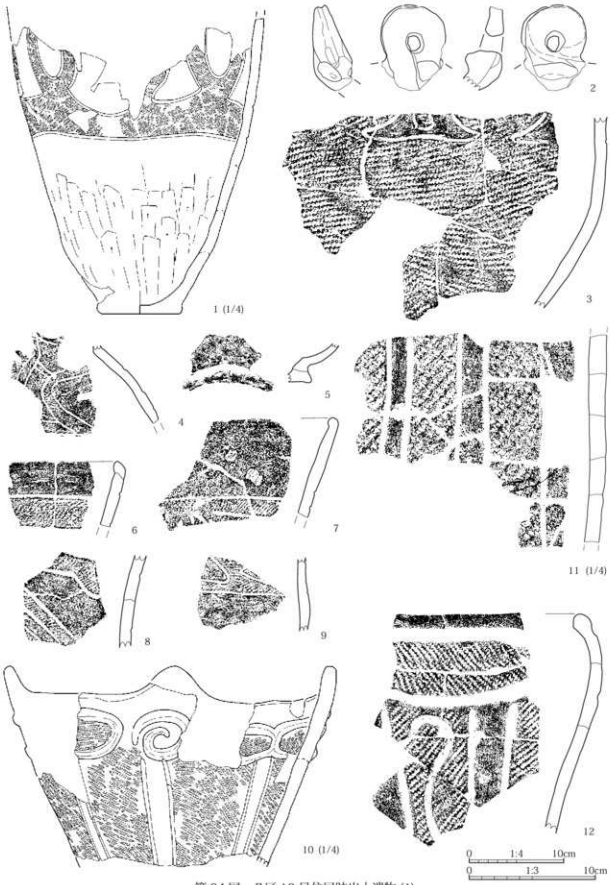


第82図　Ⅱ区19号住居跡(1)及び炉・住居内埋甕

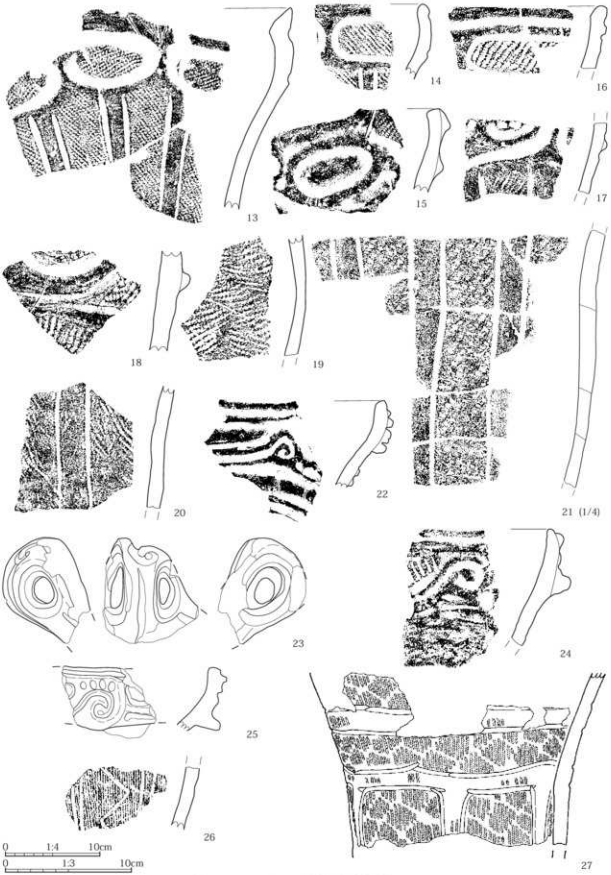




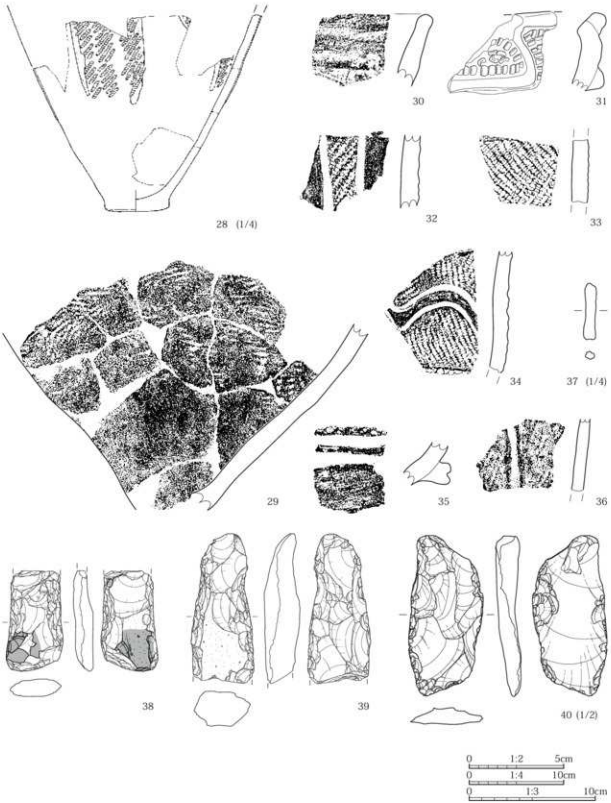
第83図　Ⅱ区19号住居跡(2)及び周辺遺構



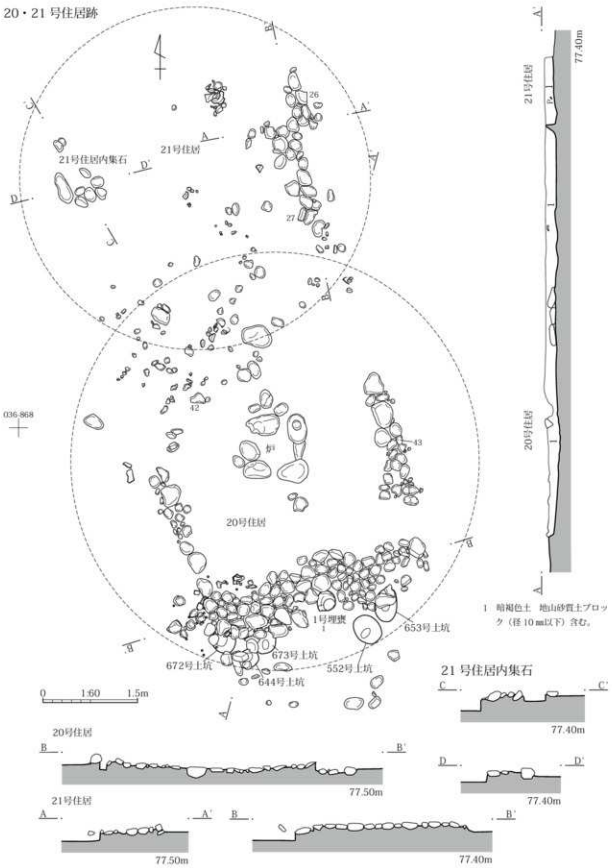
第84図　Ⅱ区19号住居跡出土遺物(1)



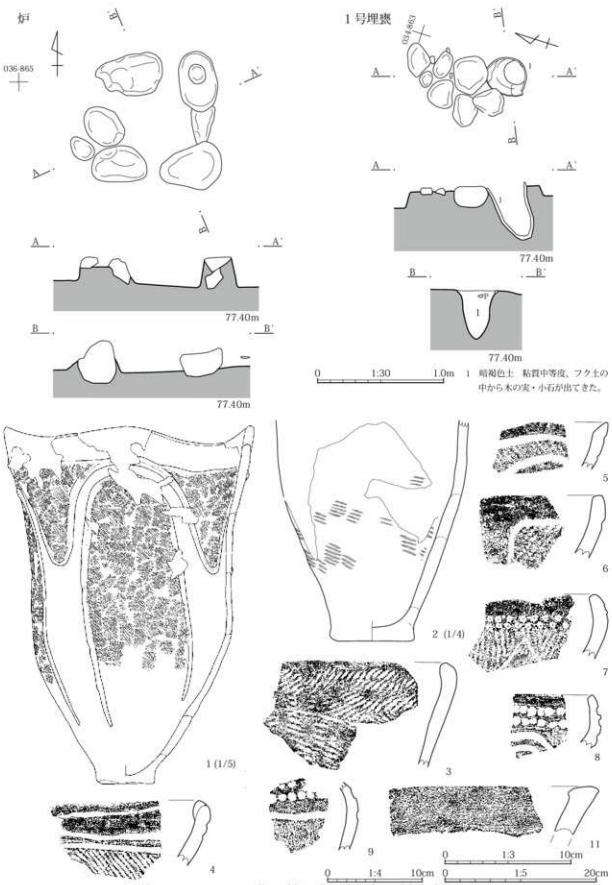
第 85 図　Ⅱ区 19 号住居跡出土遺物 (2)



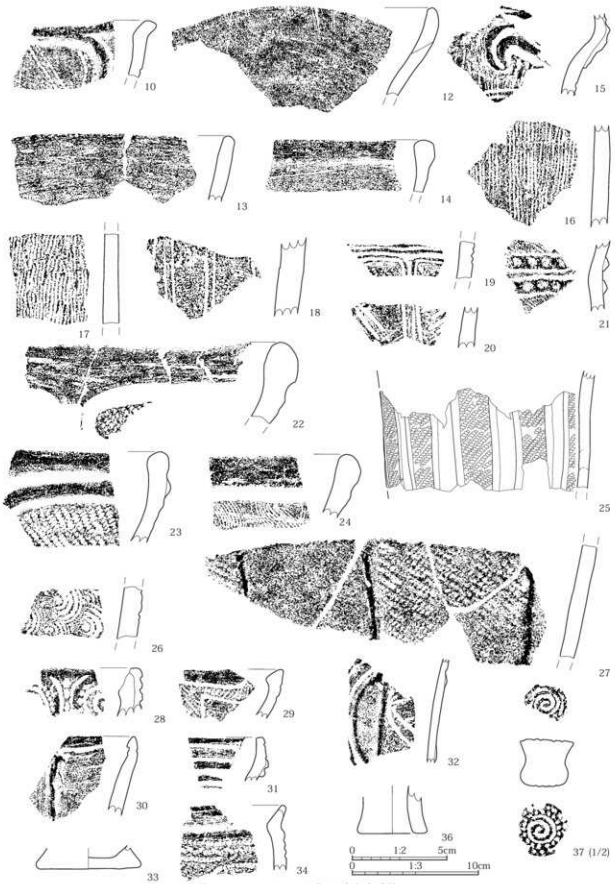
第86図　Ⅱ区19号住居跡出土遺物(3)



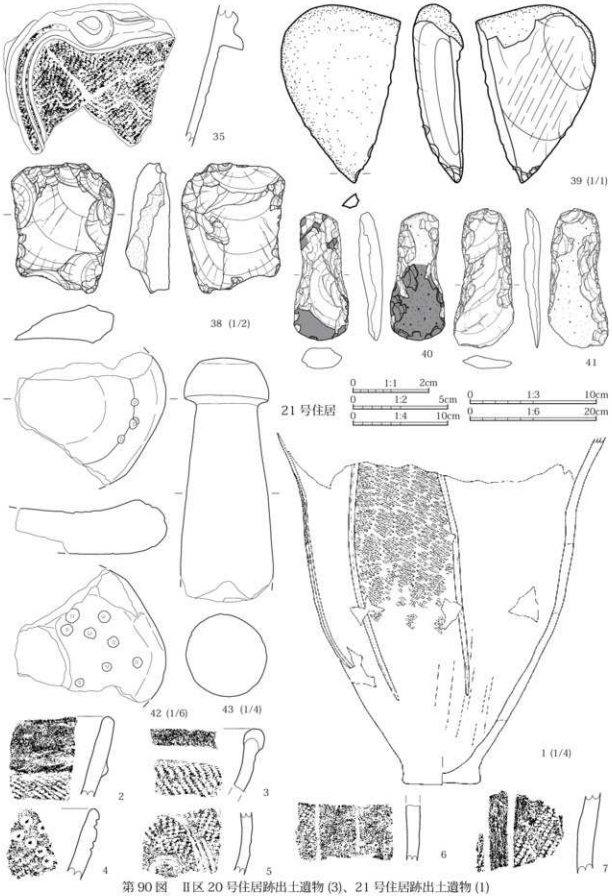
第 87 図　Ⅱ区 20 号・21 号住居跡



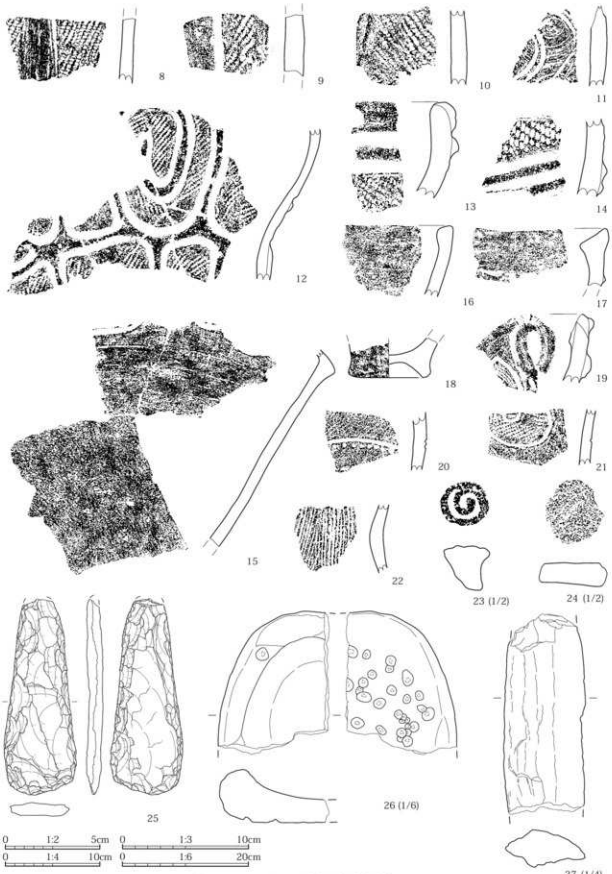
第88図　Ⅱ区20号住居跡炉・住居内埋甕及び出土遺物(1)



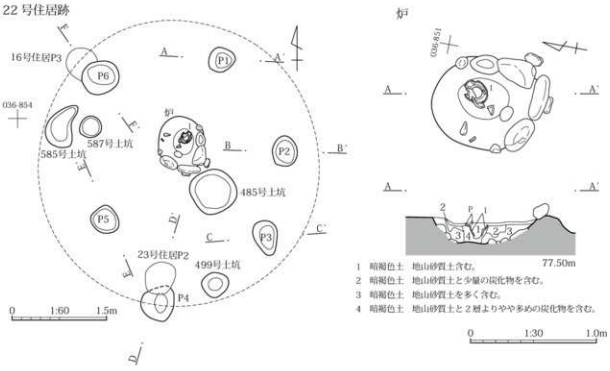
第 89 図　Ⅱ区 20 号住居跡出土遺物 (2)

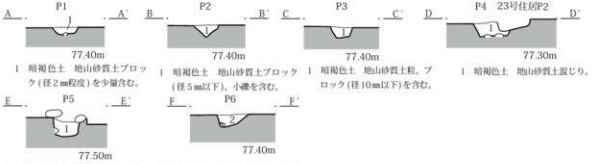


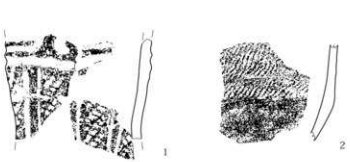
第 90 図　Ⅱ区 20 号住居跡出土遺物 (3)、21 号住居跡出土遺物 (1)



第 91 図　Ⅱ区 21 号住居跡出土遺物 (2)

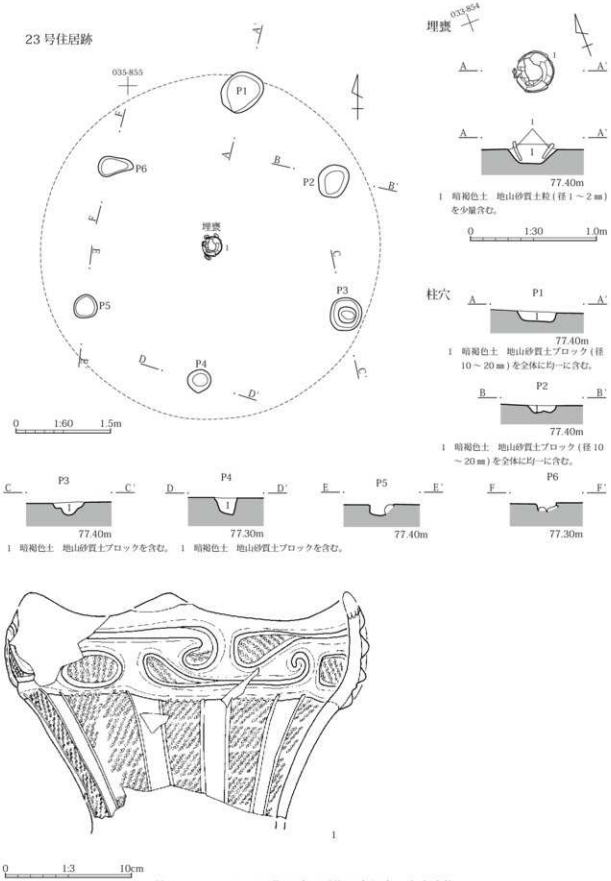




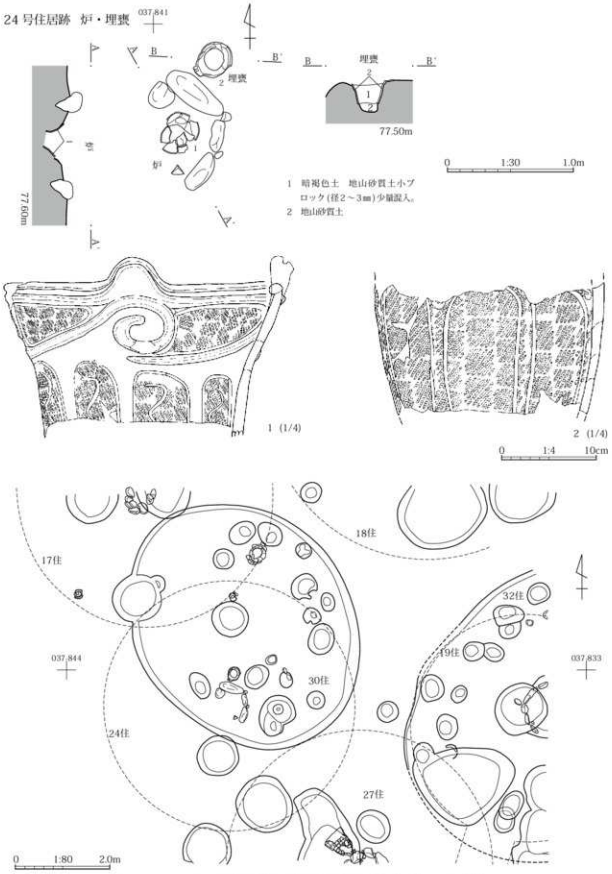


0　1:3　10cm

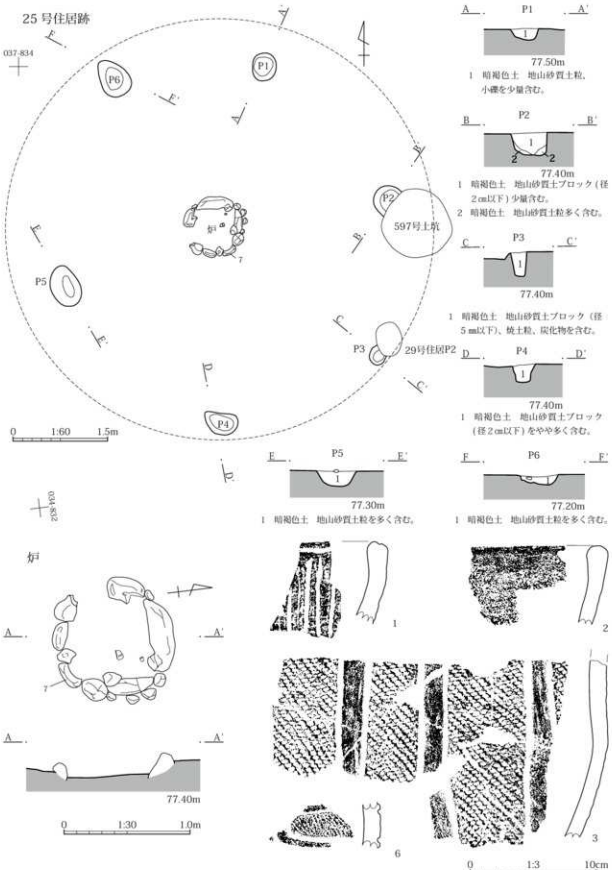
第 92 図　Ⅱ区 22 号住居跡及び炉、出土遺物



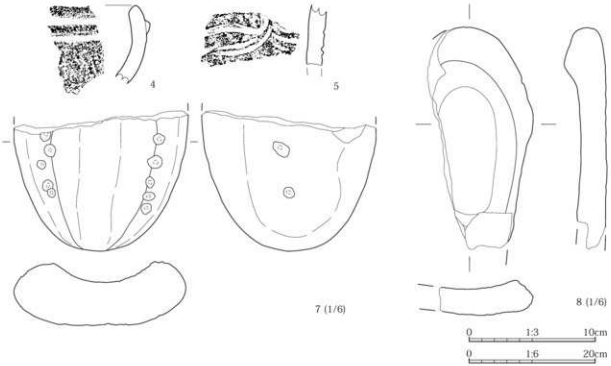
第 93 図　Ⅱ区 23 号住居跡及び住居内埋甕、出土遺物



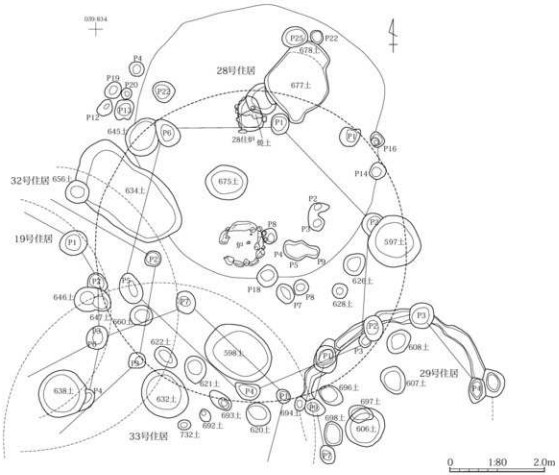
第94図　Ⅱ区24号住居跡炉・住居内埋甕及び出土遺物、周辺遺構図



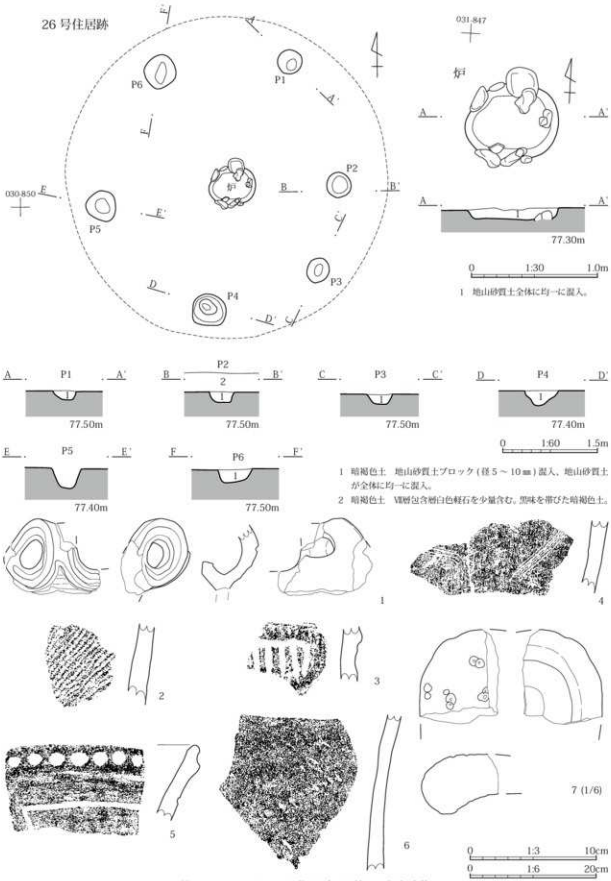
第 95 図　Ⅱ区 25 号住居跡及び炉、出土遺物 (1)



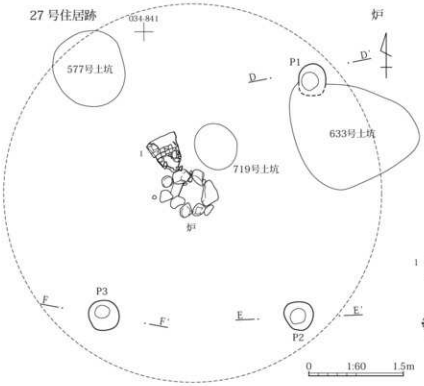
25 号住居跡周辺遺構

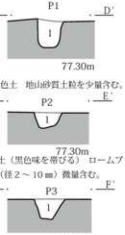


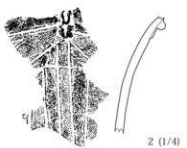
第 96 図　Ⅱ区 25 号住居跡出土遺物 (2)、周辺遺構図



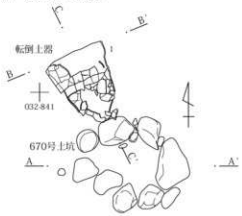
第 97 図　Ⅱ区 26 号住居跡及び炉、出土遺物

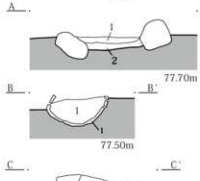






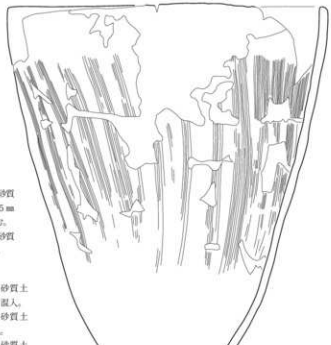
炉・遺物出土状況



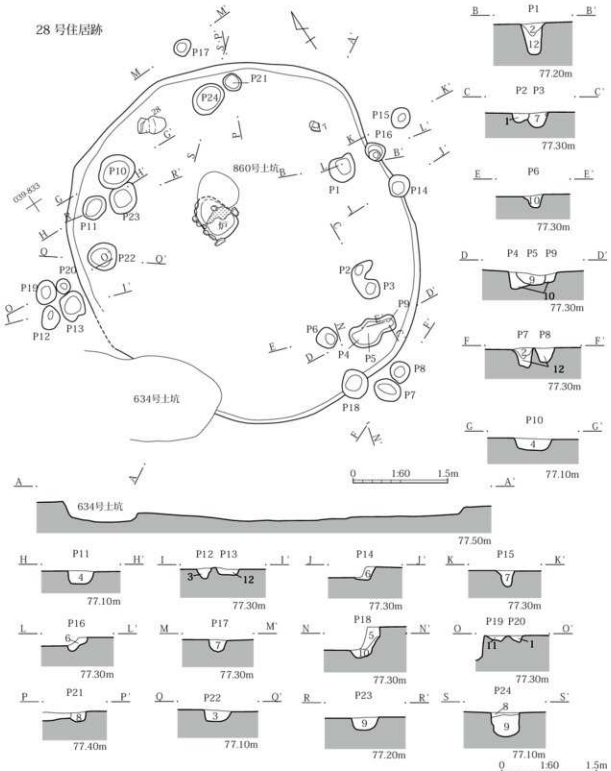


1　黒褐色土　地山砂質土ブロック（径5㎝以下）を少量含む。
2　暗褐色土　地山砂質土粒を少量含む。

1　暗褐色土　地山砂質土粒（径1～3㎝）混入。
2　暗褐色土　地山砂質土粒（径1㎝）混入。
3　暗褐色土　地山砂質土粒（径10～15㎝）混入。

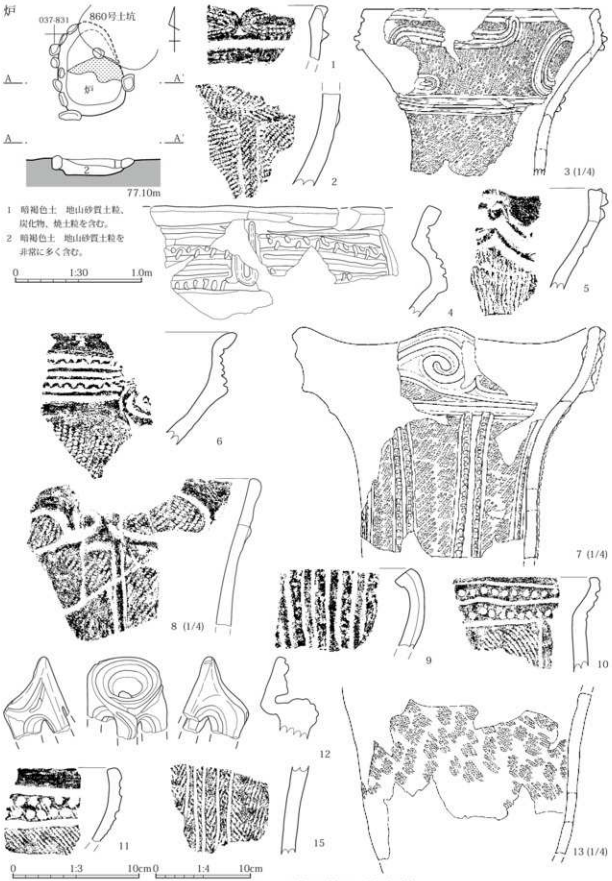


第98図　Ⅱ区27号住居跡及び炉・遺物出土状況、出土遺物

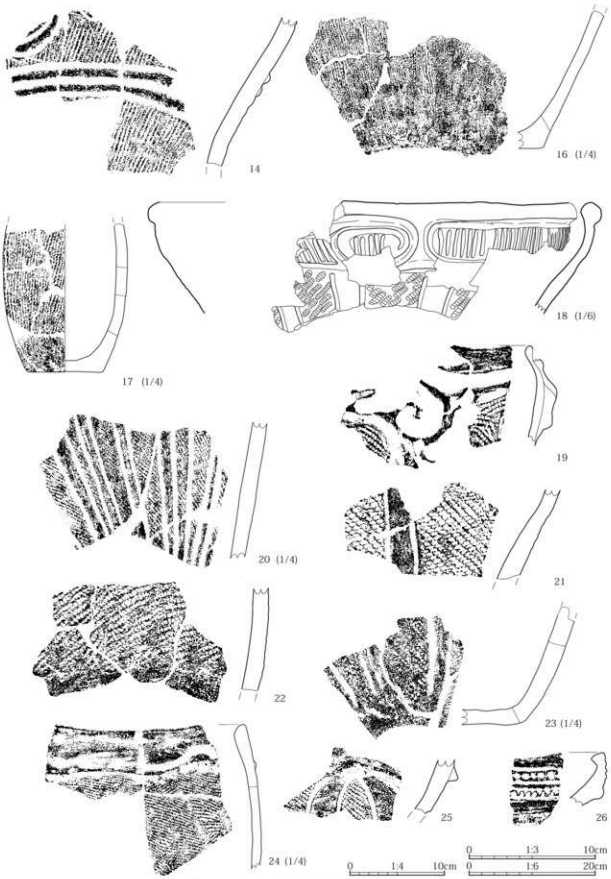


1　暗褐色土　地山砂質土粒、ブロック（径 20 ㎜以下）を多く含む。
2　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径 5 ㎜以下）炭化物を少量含む。
3　黒褐色土　地山砂質土ブロック（径 10 ㎜以下）を含む。
4　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径 50 ㎜以下）少量含む。
5　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径 10 ㎜以下）炭化物、焼土粒を含む。
6　暗褐色土　地山砂質土粒、ブロック（径 10 ㎜以下）を含む。
7　暗褐色土　地山砂質土粒、炭化物を少量含む。
8　暗褐色土　地山砂質土粒を非常に多く含む。
9　黒褐色土　地山砂質土ブロック（径 5 ㎜以下）少量含む。
10　暗褐色土　地山砂質土粒多く含む。
11　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径 20 ㎜以下）を多く含む。
12　暗褐色土　地山砂質土粒、ブロック（径 30 ㎜以下）を含む。

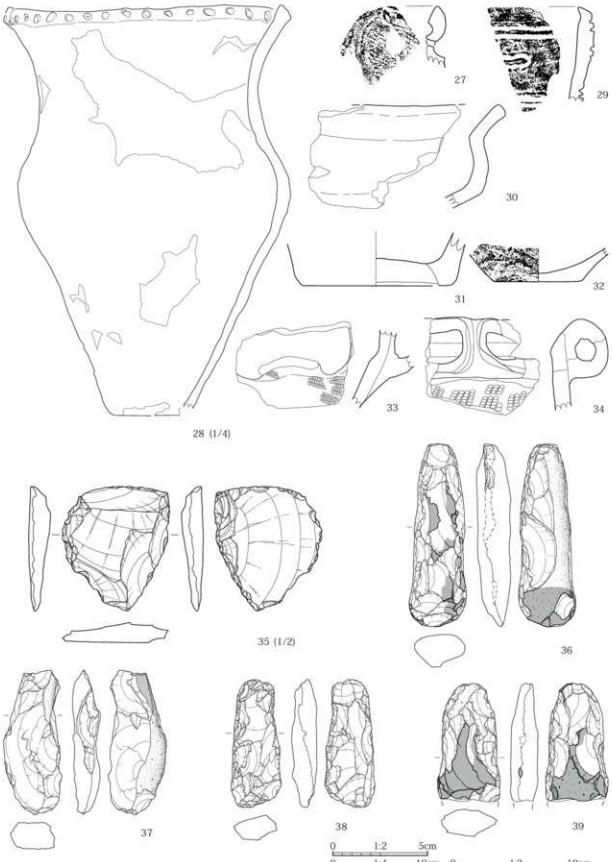
第 99 図　Ⅱ区 28 号住居跡



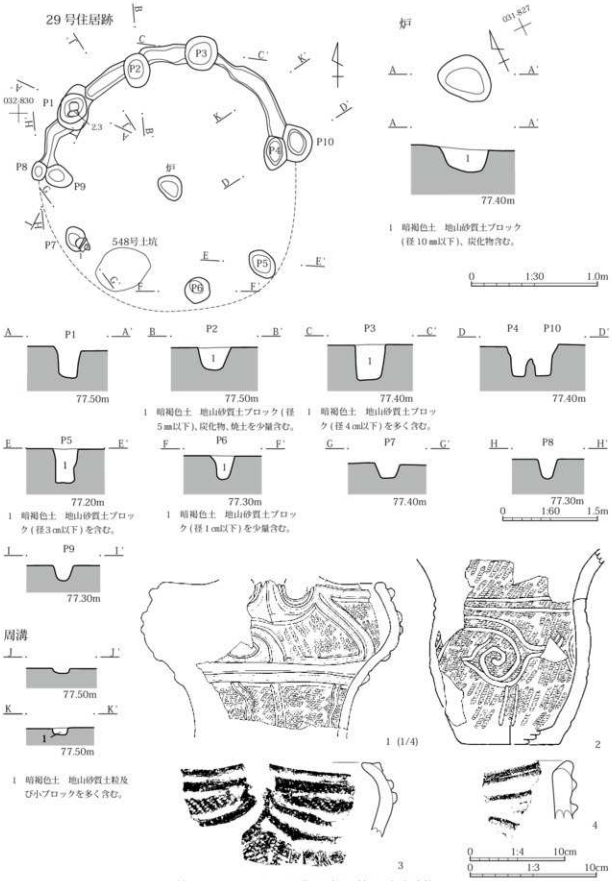
第100図　Ⅱ区28号住居跡炉及び出土遺物(1)



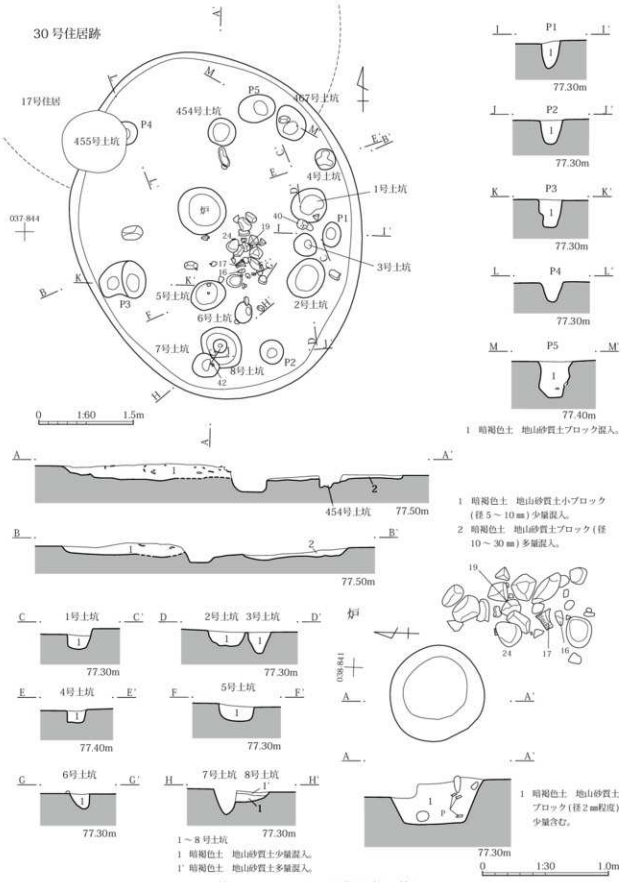
第 101 図　Ⅱ区 28 号住居跡出土遺物 (2)



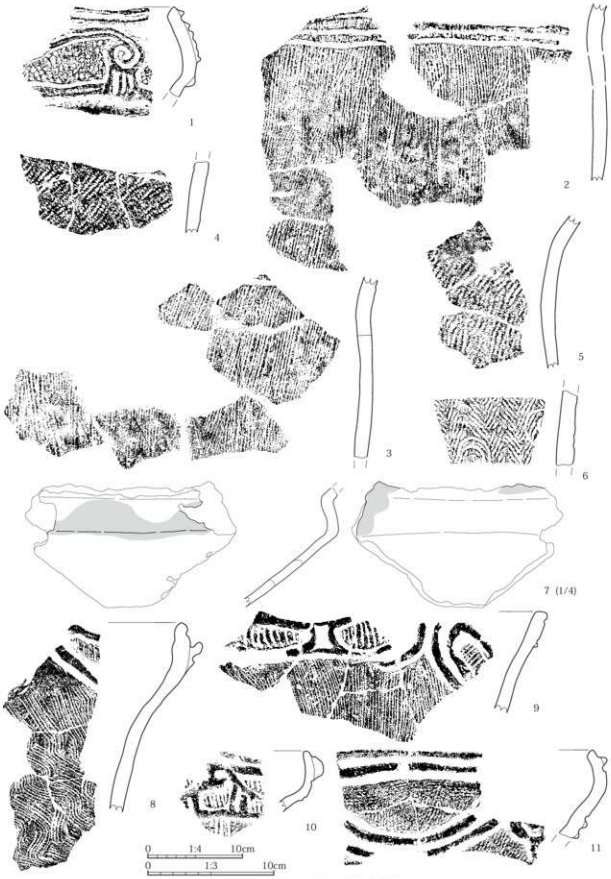
第102図　Ⅱ区28号住居跡出土遺物(3)



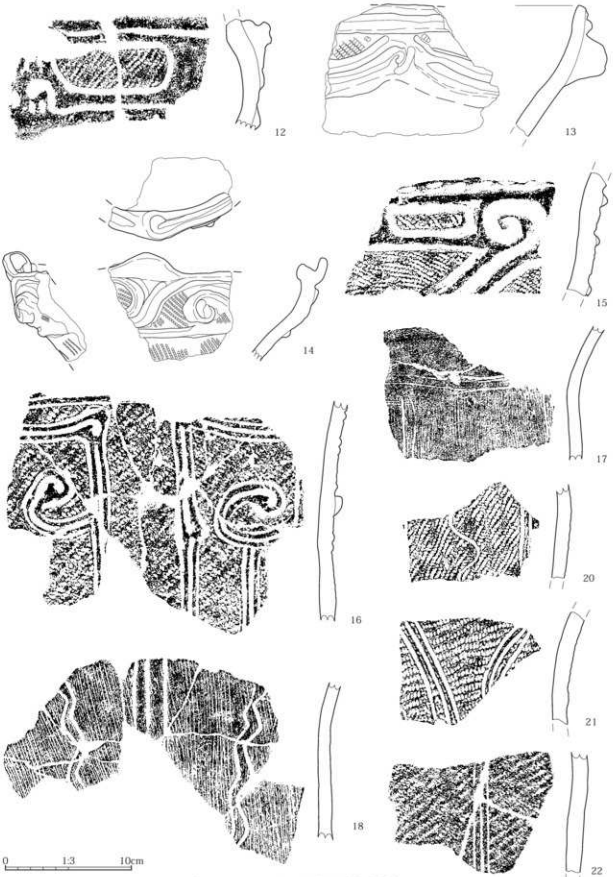
第 103 図　Ⅱ区 29 号住居跡及び炉、出土遺物



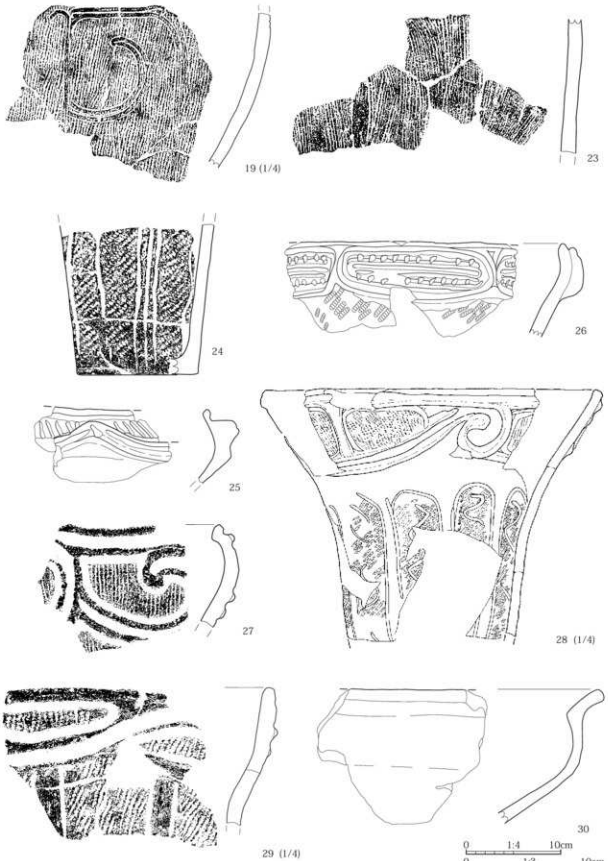
第104図　Ⅱ区30号住居跡及び炉



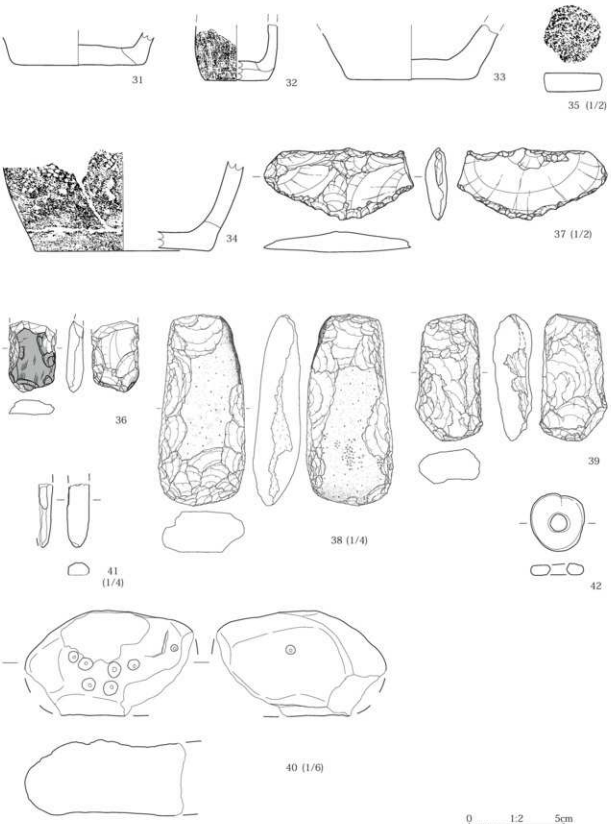
第 105 図　Ⅱ区 30 号住居跡出土遺物 (1)



第 106 図　Ⅱ区 30 号住居跡出土遺物 (2)

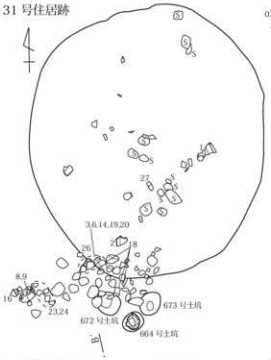


第 107 図　Ⅱ区 30 号住居跡出土遺物 (3)

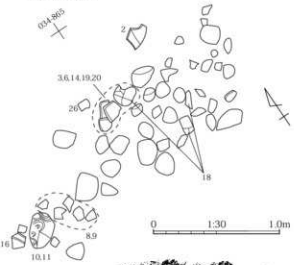


第108図　Ⅱ区30号住居跡出土遺物(4)

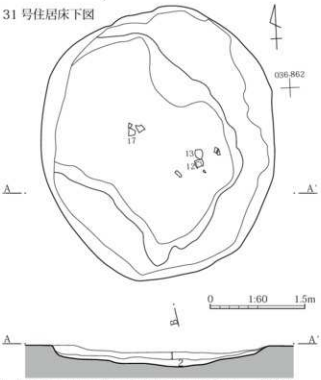
31 号住居跡



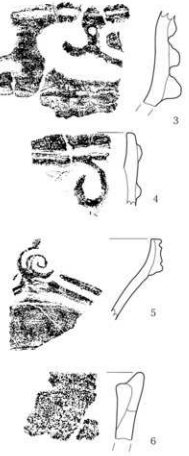
上面遺物状況



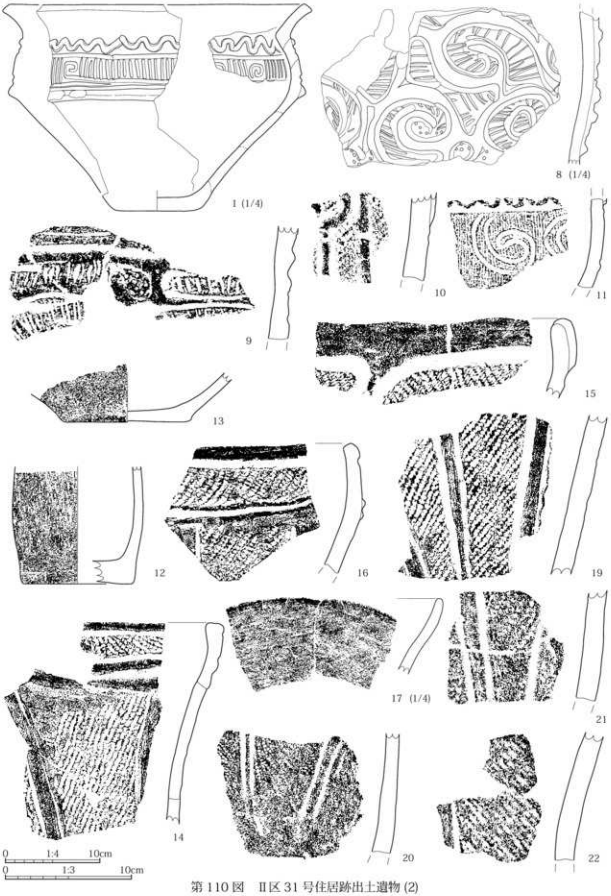
31 号住居床下図



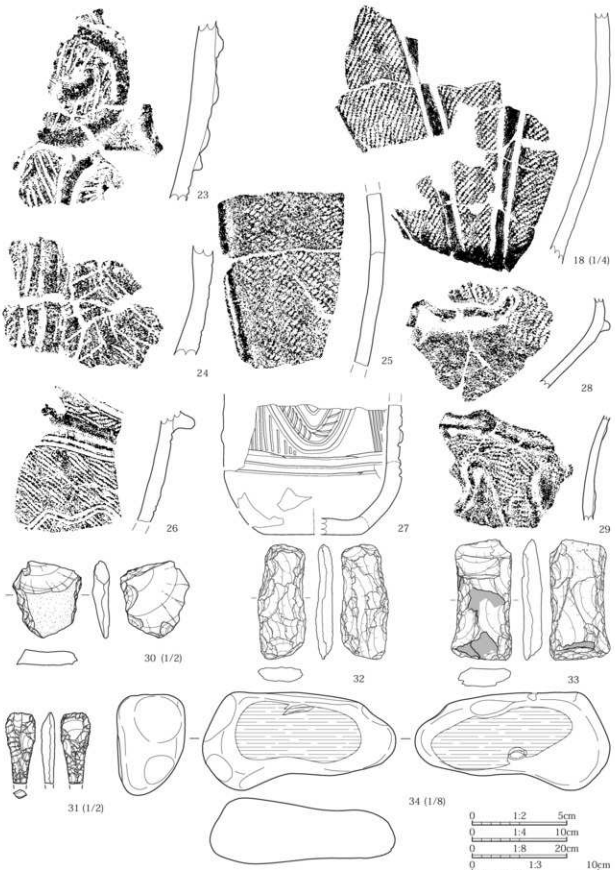
1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径２～ 10 ㎝）少量含む。
2　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径 10 ～ 30 ㎝）を含む。



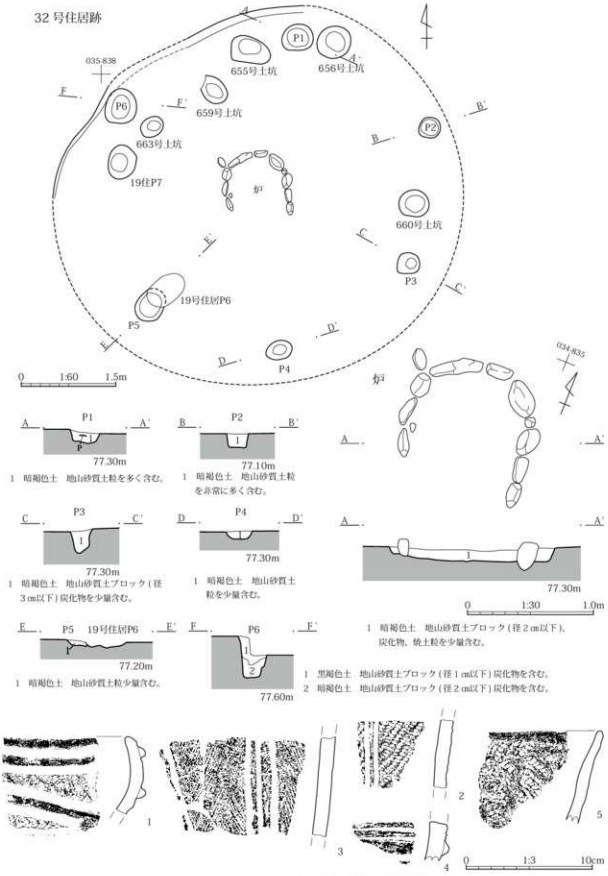
第 109 図　Ⅱ区 31 号住居跡及び床下、上面遺物出土状況、出土遺物 (1)



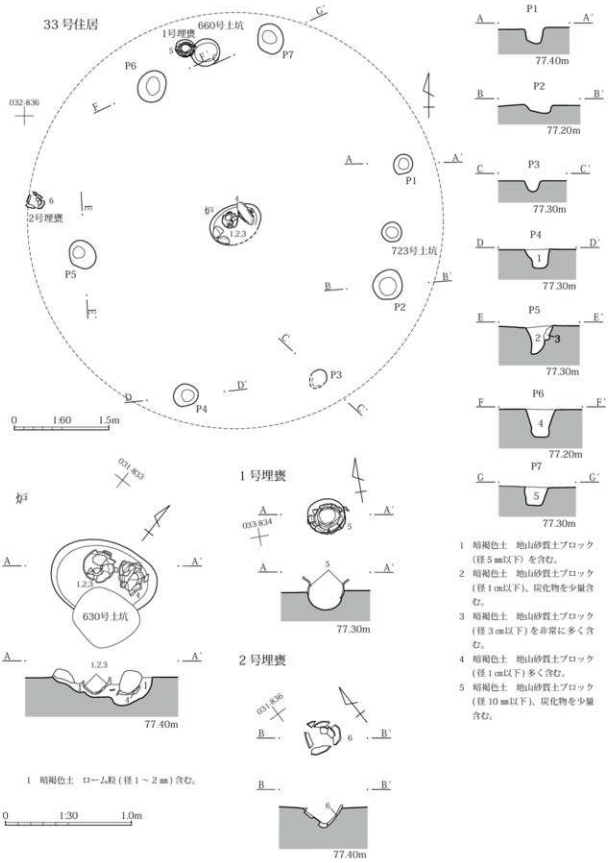
第110図　Ⅱ区31号住居跡出土遺物(2)



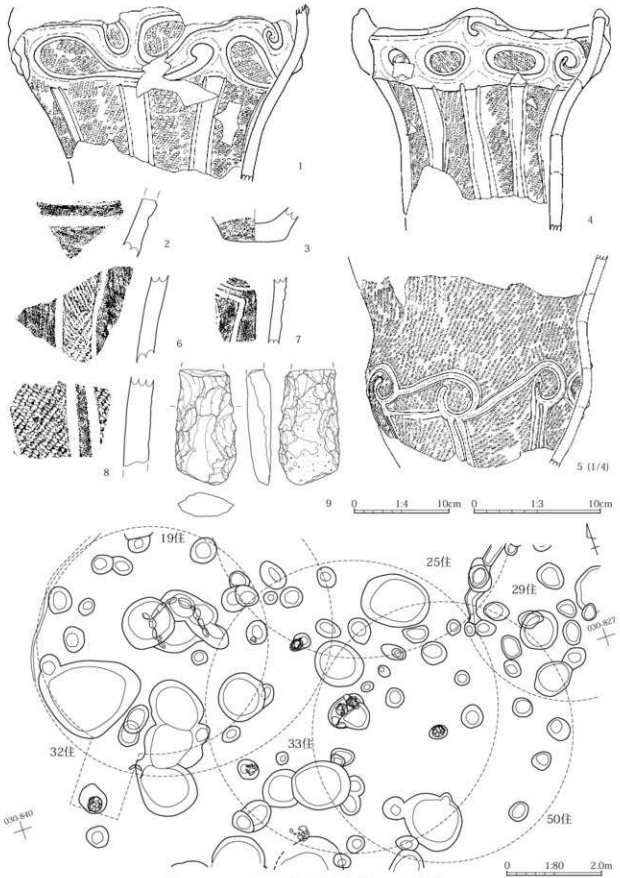
第 111 図　Ⅱ区 31 号住居跡出土遺物 (3)



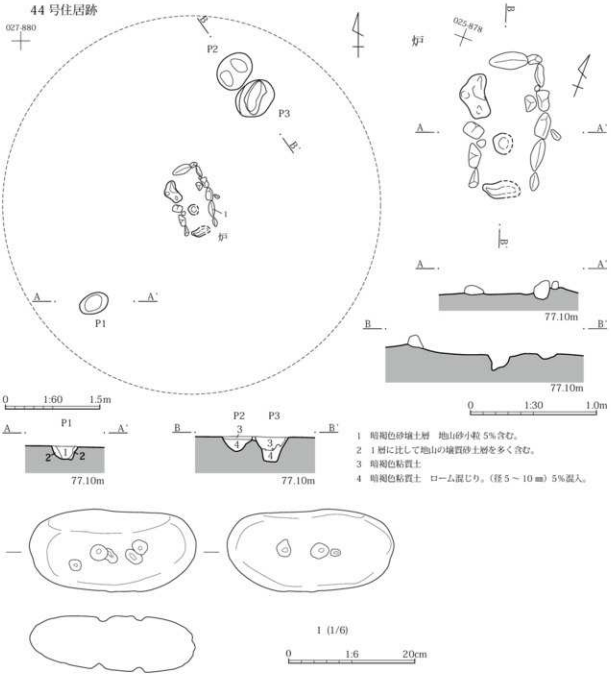
第 112 図　Ⅱ区 32 号住居跡及び炉、出土遺物



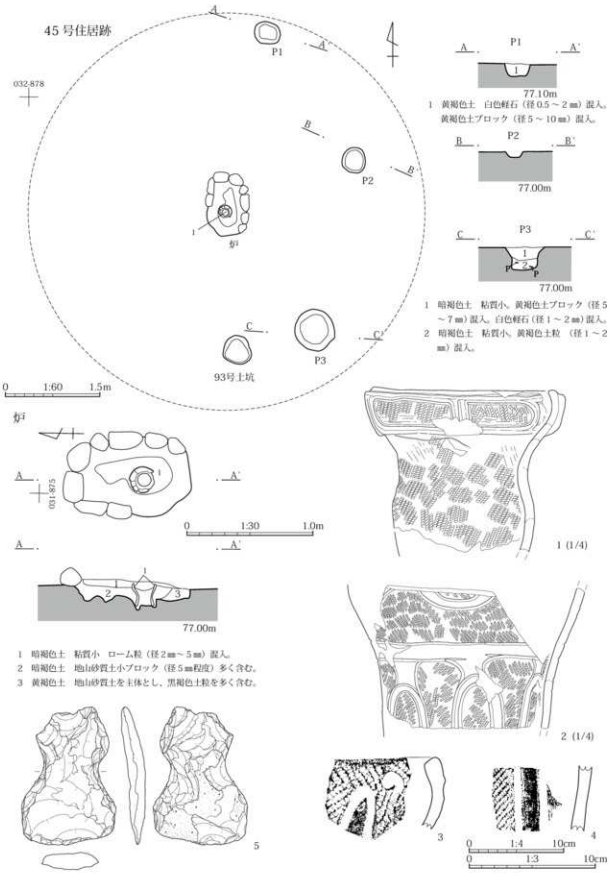
第 113 図　Ⅱ区 33 号住居跡及び炉・住居内埋甕



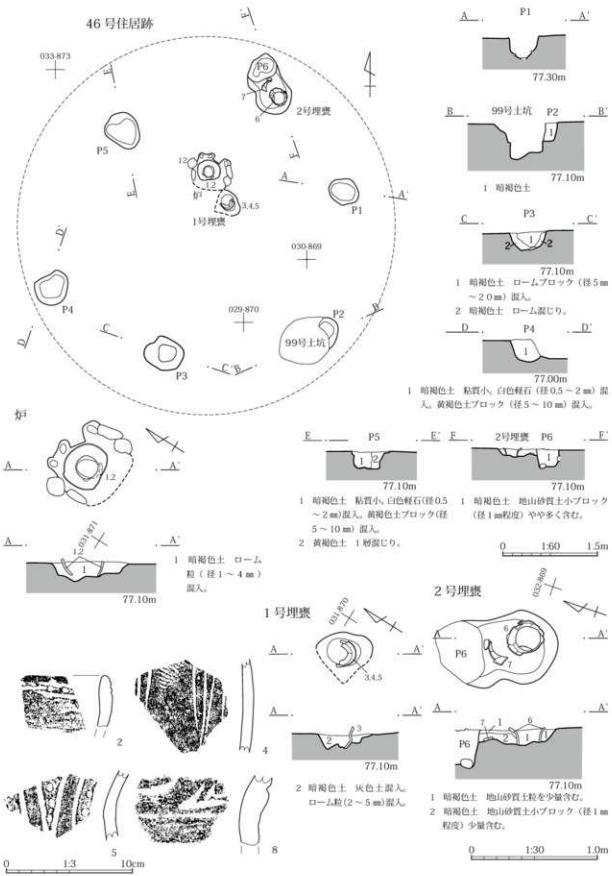
第114図　Ⅱ区33号住居跡出土遺物、周辺遺構図



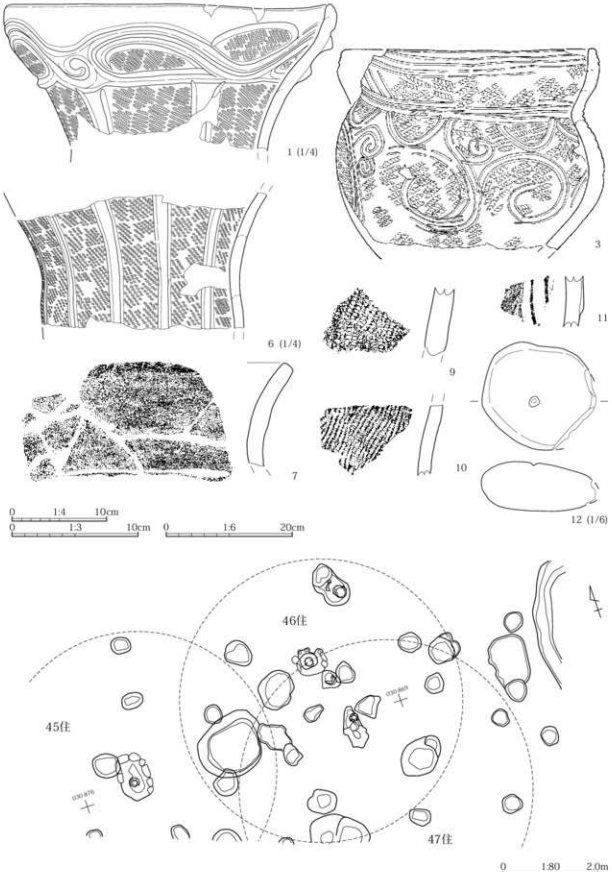
第 115 図　Ⅱ区 44 号住居跡及び炉・出土遺物



第116図　Ⅱ区45号住居跡及び炉・出土遺物

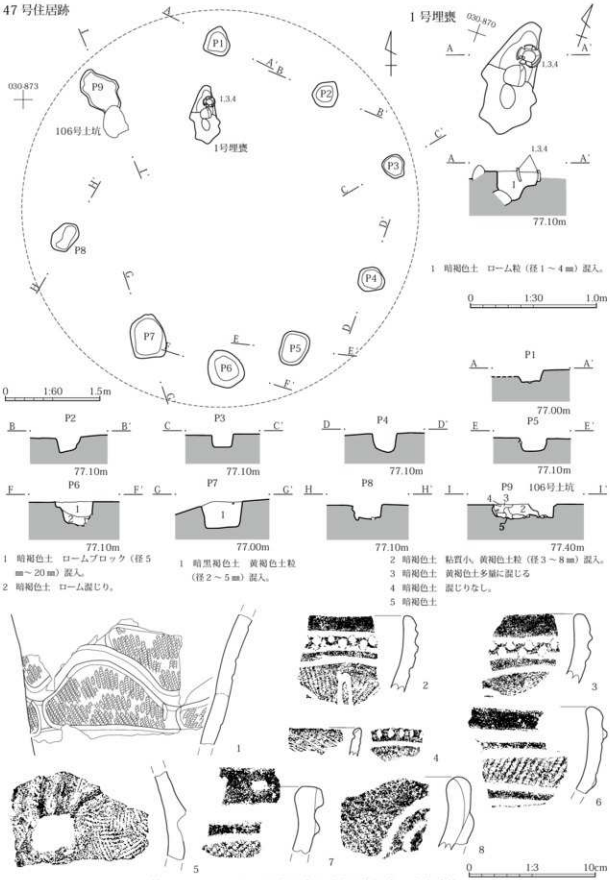


第 117 図　Ⅱ区 46 号住居跡及び炉・住居内埋甕、出土遺物 (1)



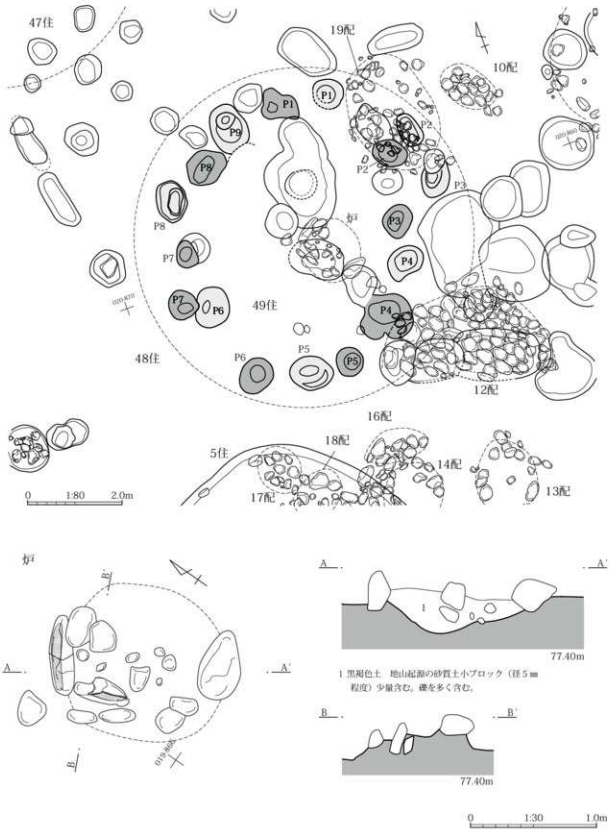
第118図　Ⅱ区46号住居跡出土遺物(2)、周辺遺構図

47 号住居跡



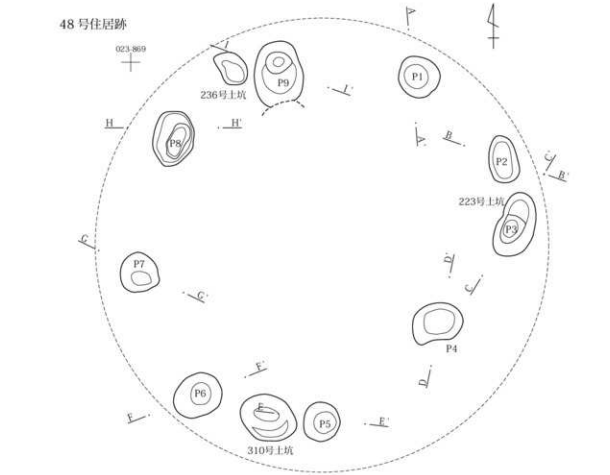
第 119 図　Ⅱ区 47 号住居跡及び住居内埋甕、出土遺物

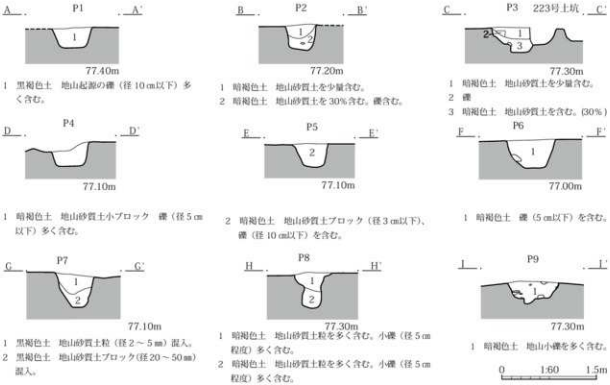
48 号・49 号住居跡周辺



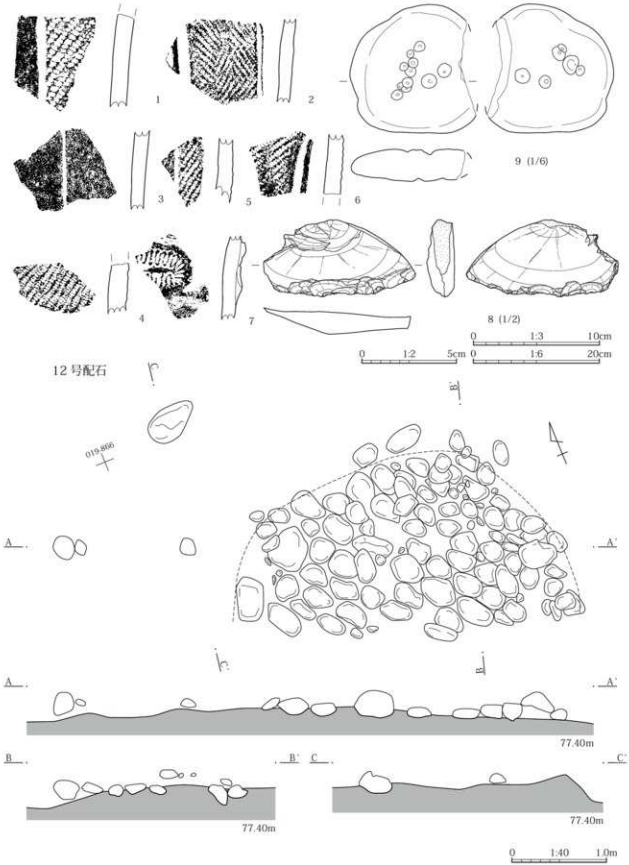
第 120 図　Ⅱ区 48 号・49 号住居跡周辺及び炉

48 号住居跡

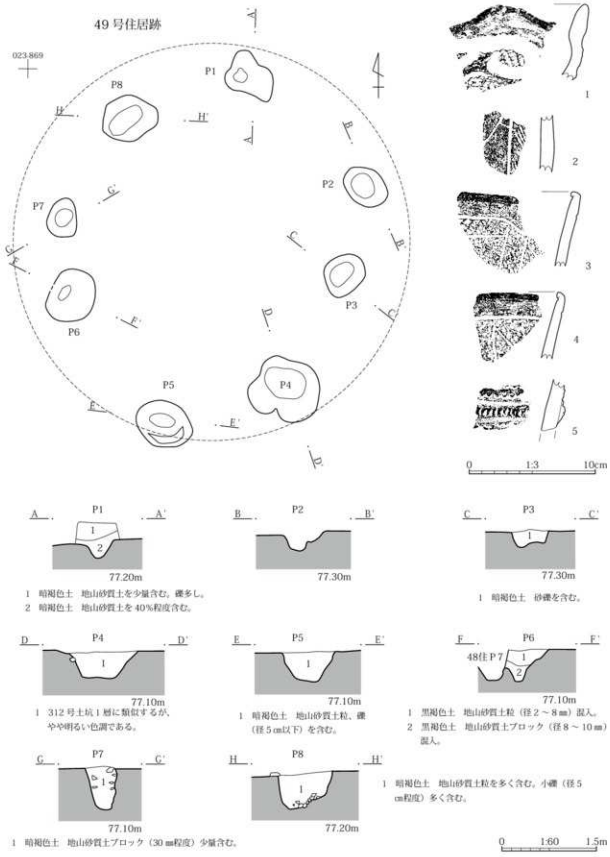




第 121 図　Ⅱ区 48 号住居跡

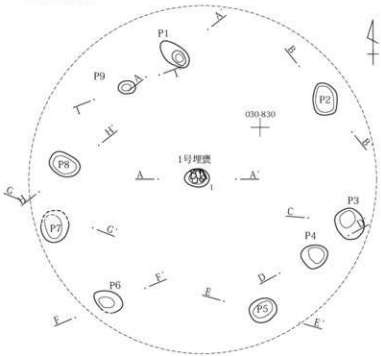


第122図　Ⅱ区48号住居跡出土遺物、Ⅱ区12号配石

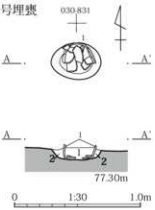


第 123 図　Ⅱ区 49 号住居跡及び出土遺物

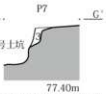
50号住居跡



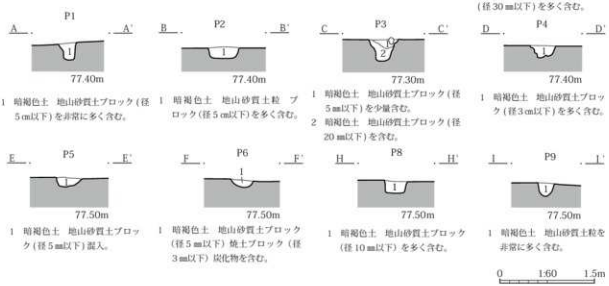
1号埋甕



1　暗褐色土　地山砂質土粒、焼土粒、炭化物を含む。
2　暗褐色砂質土　白色軽石、淡黄灰色砂質土を含む。



3　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径30㎜以下）を多く含む。



1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径5㎝以下）を非常に多く含む。

1　暗褐色土　地山砂質土粒　ブロック（径5㎝以下）を多く含む。

1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径5㎜以下）を少量含む。
2　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径20㎜以下）を含む。

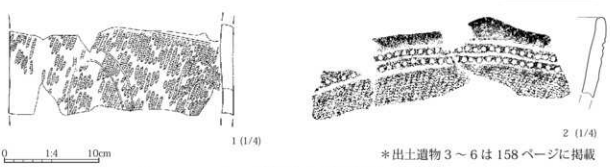
1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径3㎝以下）を多く含む。

1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径5㎜以下）混入。

1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径5㎜以下）焼土ブロック（径3㎜以下）炭化物を含む。

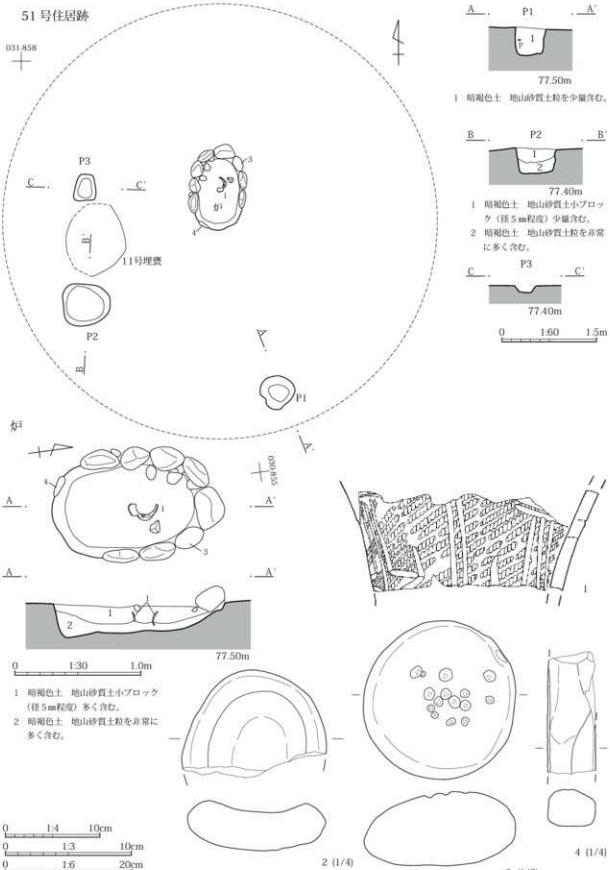
1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径10㎜以下）を多く含む。

1　暗褐色土　地山砂質土粒を非常に多く含む。

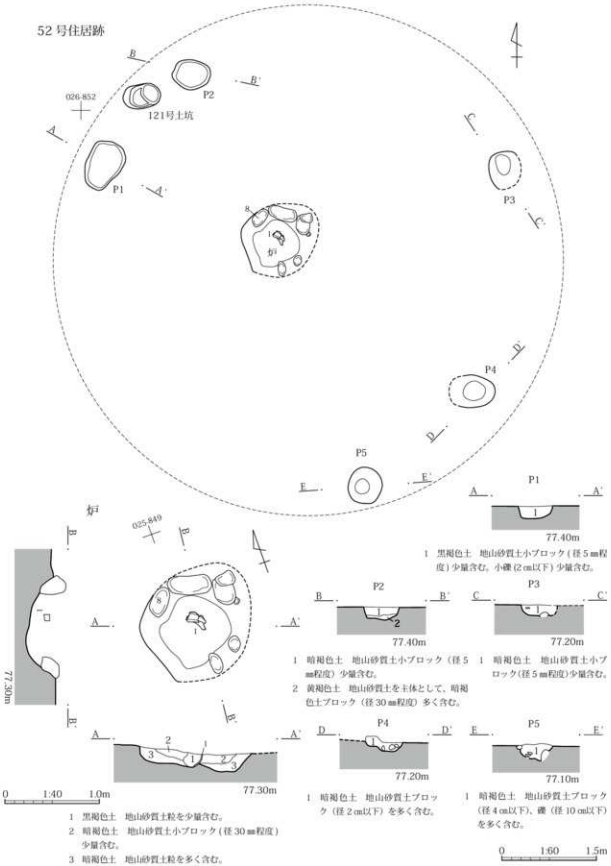


＊出土遺物3～6は158ページに掲載

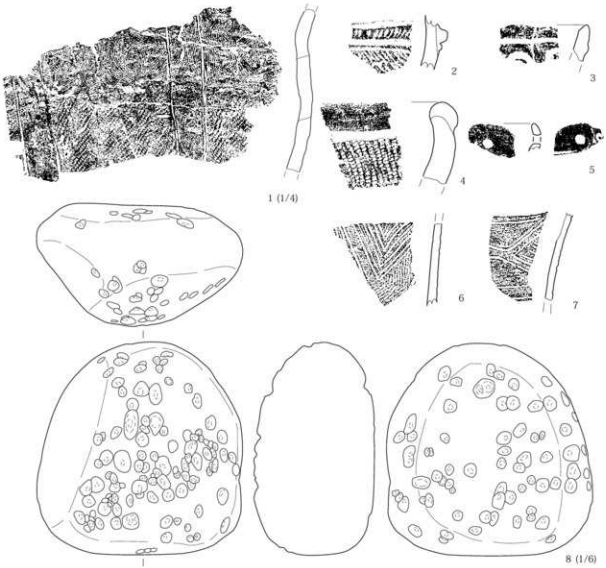
第124図　Ⅱ区50号住居跡及び住居内埋甕、出土遺物(1)



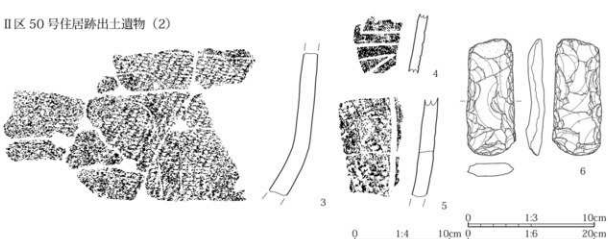
第 125 図　Ⅱ区 51 号住居跡及び炉、出土遺物



第126図　Ⅱ区52号住居跡及び炉

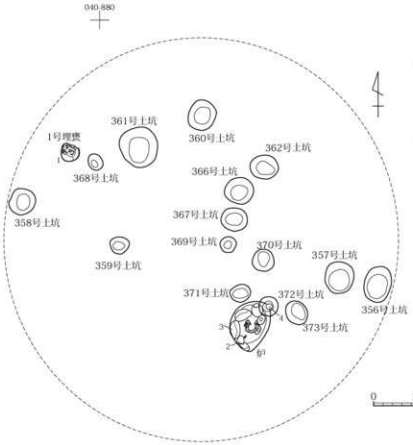


Ⅱ区 50 号住居跡出土遺物（2）

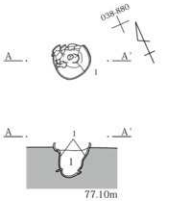


第 127 図　Ⅱ区 52 号住居跡出土遺物、50 号住居出土遺物 (2)

53号住居跡

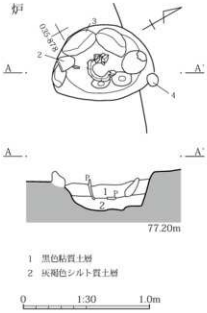


1号埋甕

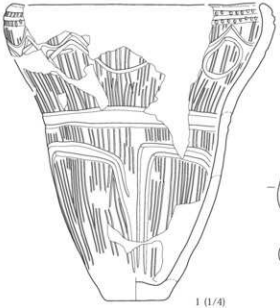


1　暗褐色土　地山砂質土粒を少量含む。粘性有り。

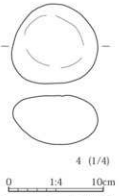
炉



1　黒色粘質土層
2　灰褐色シルト質土層



1 (1/4)

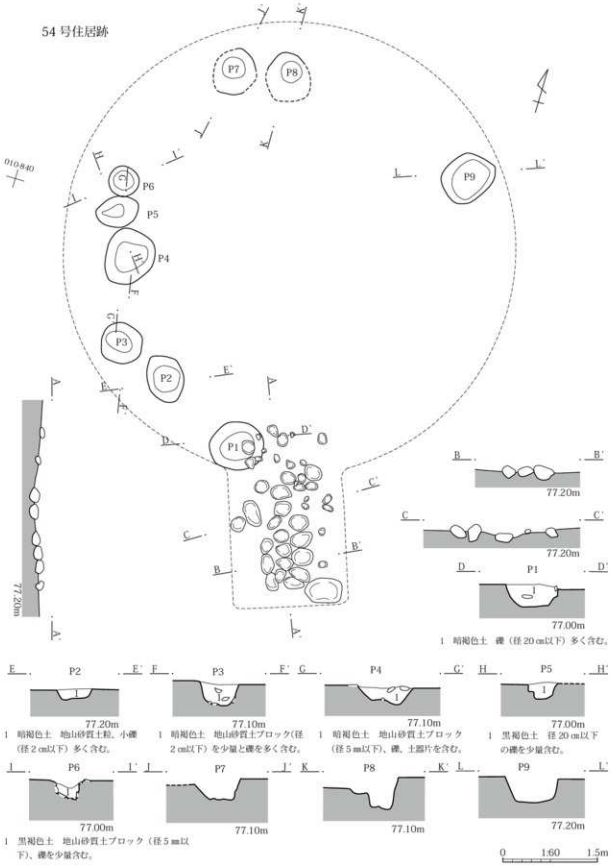


4 (1/4)

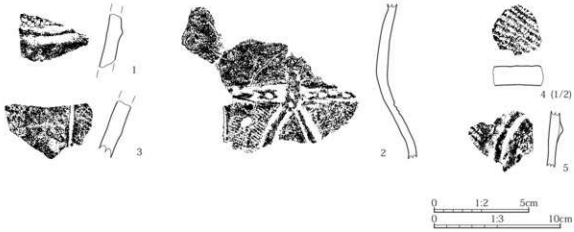
0　1:4　10cm

＊出土遺物2、3は161ページに掲載

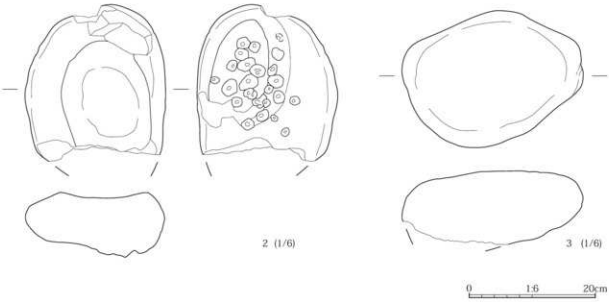
第128図　Ⅱ区53号住居跡及び炉・住居内埋甕、出土遺物(1)



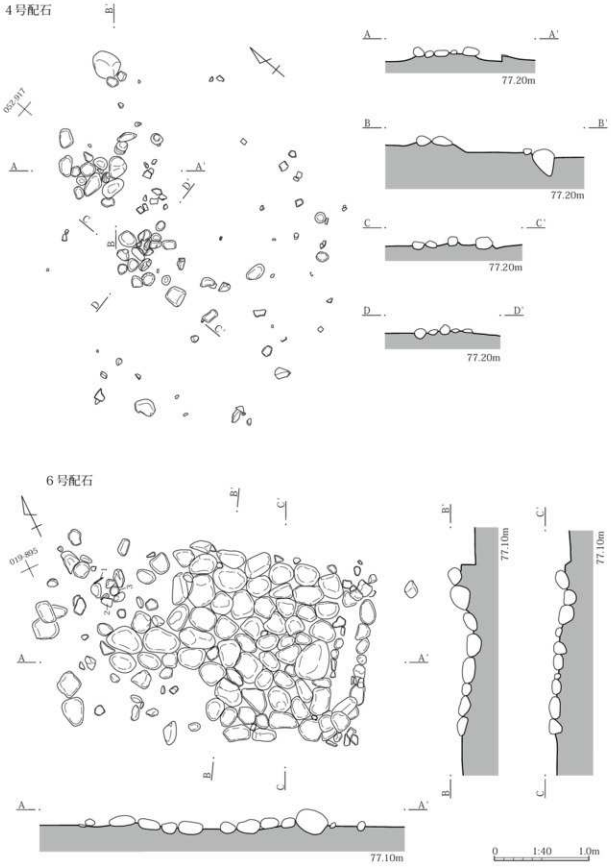
第 129 図　Ⅱ区 54 号住居跡



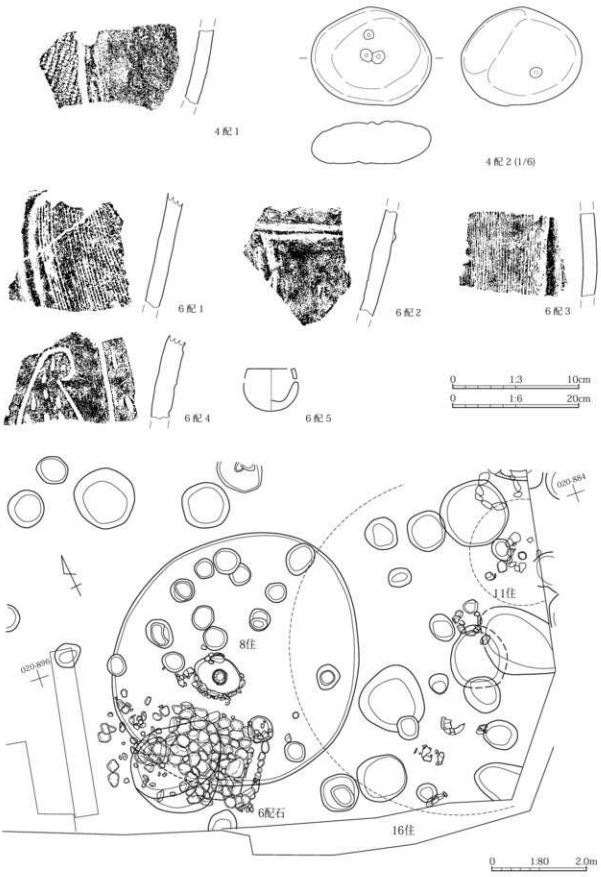
53 号住居跡出土遺物（2）



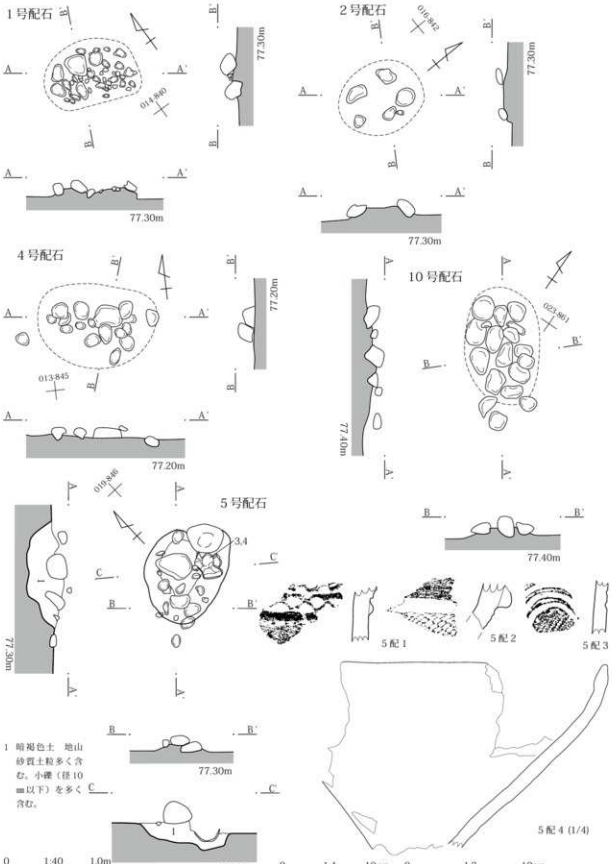
第 130 図　Ⅱ区 54 号住居跡出土遺物、53 号住居跡出土遺物 (2)



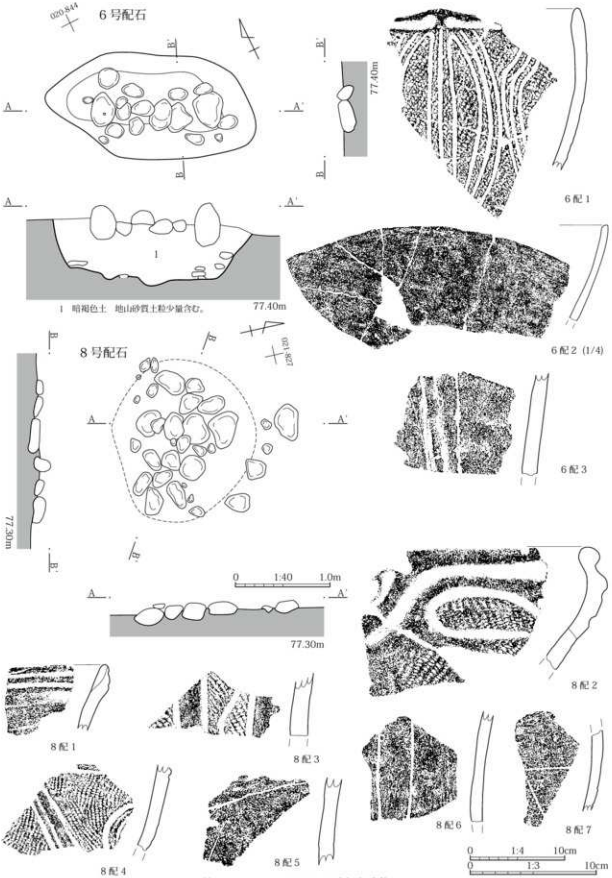
第 131 図　I 区配石



第132図　I区配石出土遺物及び6号配石周辺遺構

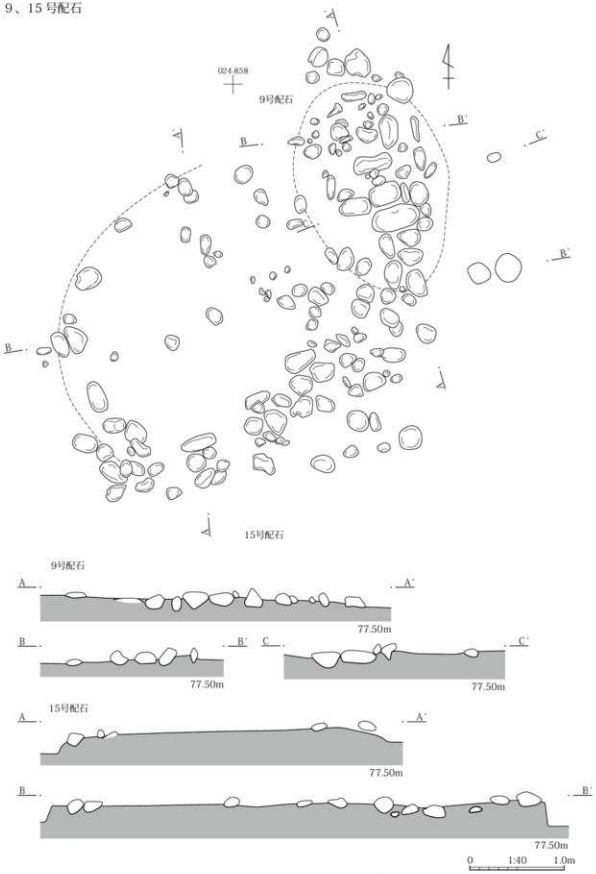


第 133 図　Ⅱ区配石及び出土遺物 (1)

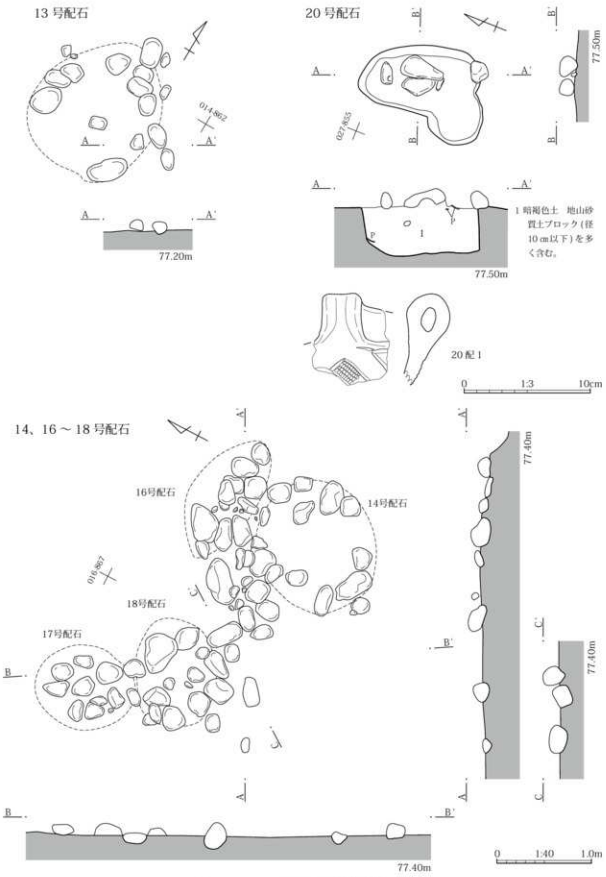


第134図　Ⅱ区配石及び出土遺物(2)

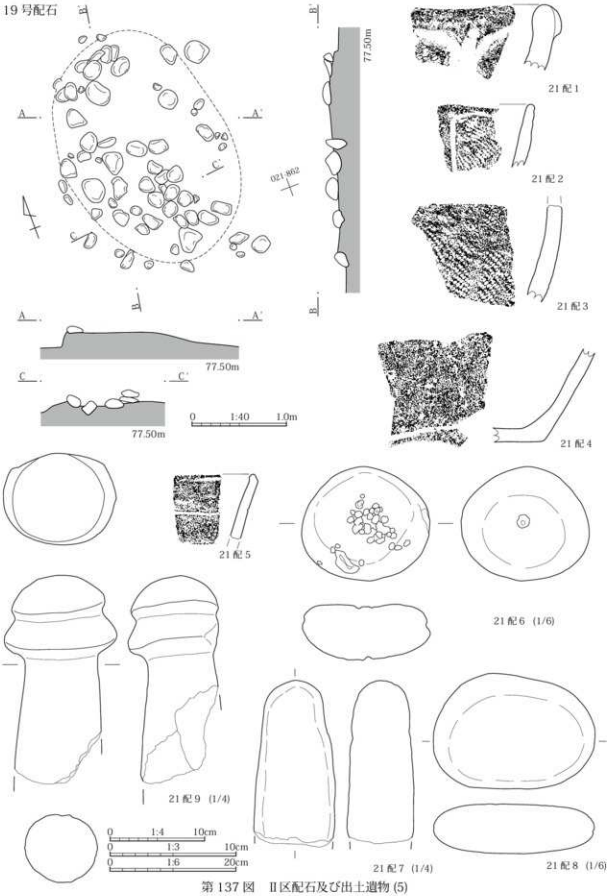
9、15 号配石



第 135 図　Ⅱ区配石及び出土遺物 (3)

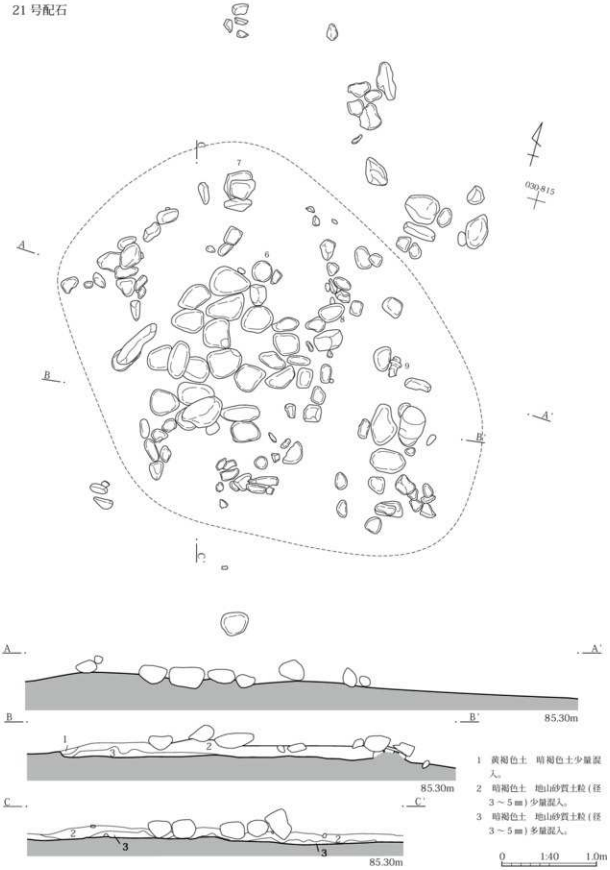


第 136 図　Ⅱ区配石及び出土遺物 (4)



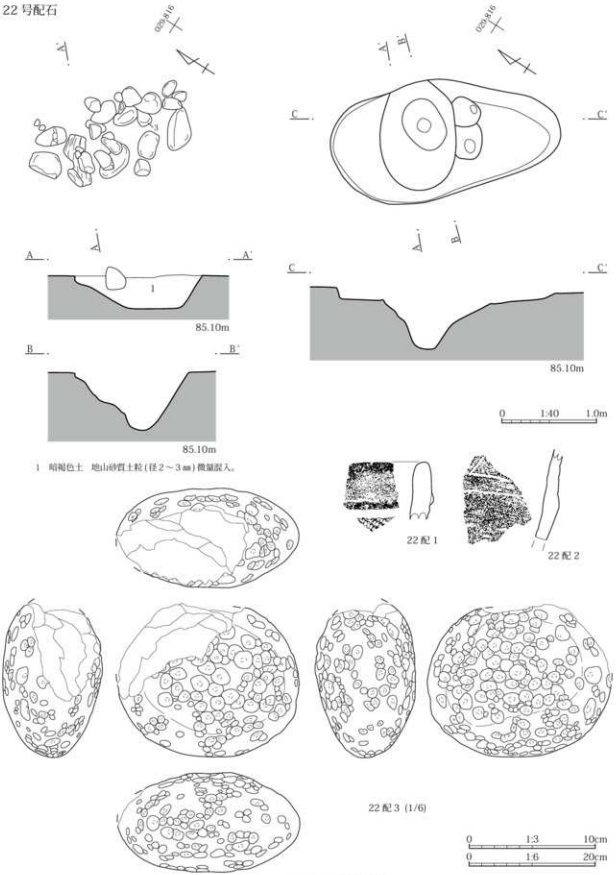
第 137 図　Ⅱ区配石及び出土遺物 (5)

21号配石



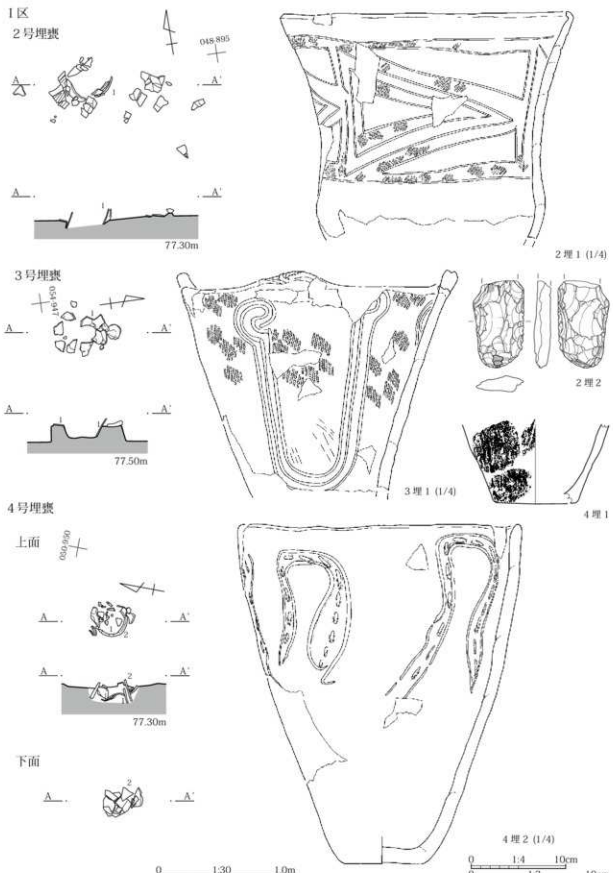
第138図　Ⅱ区配石(6)

22 号配石



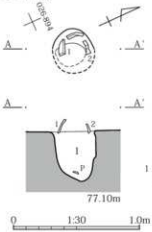
1　暗褐色土　地山砂質土粒 (径２～３㎜) 微量混入。

第 139 図　Ⅱ区配石及び出土遺物 (7)



第140図　Ⅰ区埋甕及び出土遺物 (1)

５号埋甕

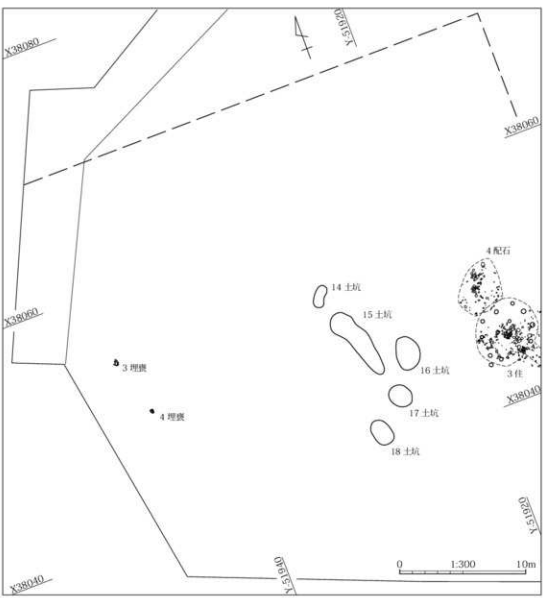


1　暗褐色土　小型の黄褐色土塊を少量含む。粘性は強い。

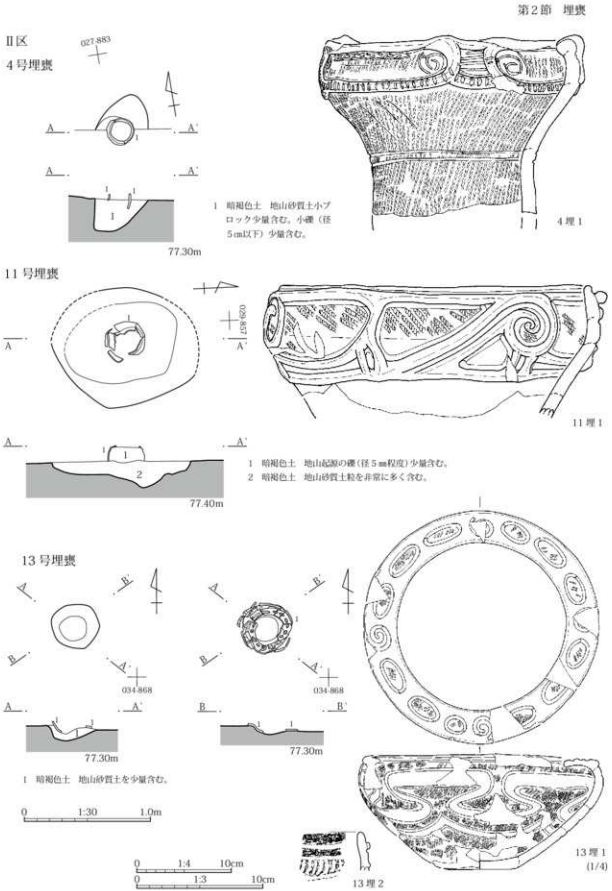
５埋１ (1/4)

５埋２ (1/4)

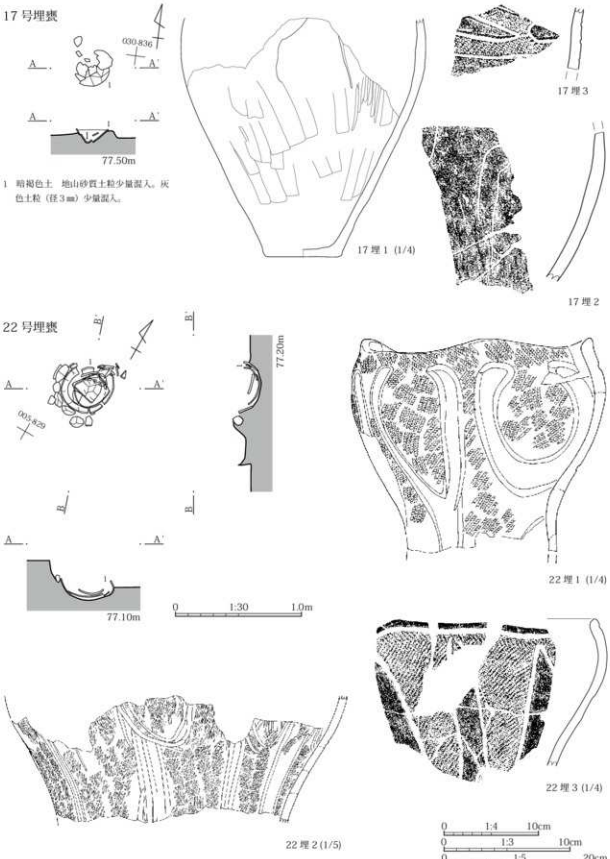
0　1:4　10cm



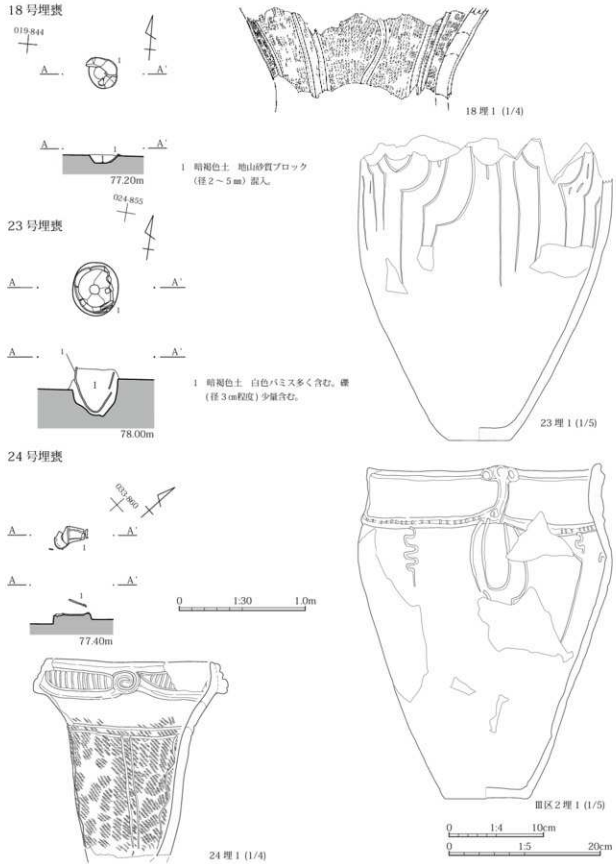
第 141 図　Ⅰ区埋甕及び出土遺物 (2)、Ⅰ区西部遺構全体図



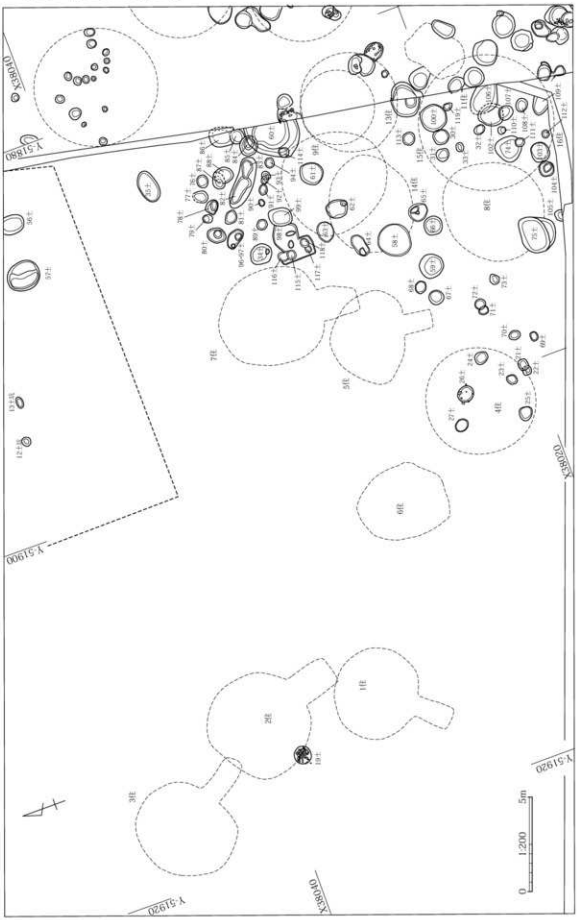
第142図　Ⅱ区埋甕及び出土遺物(1)



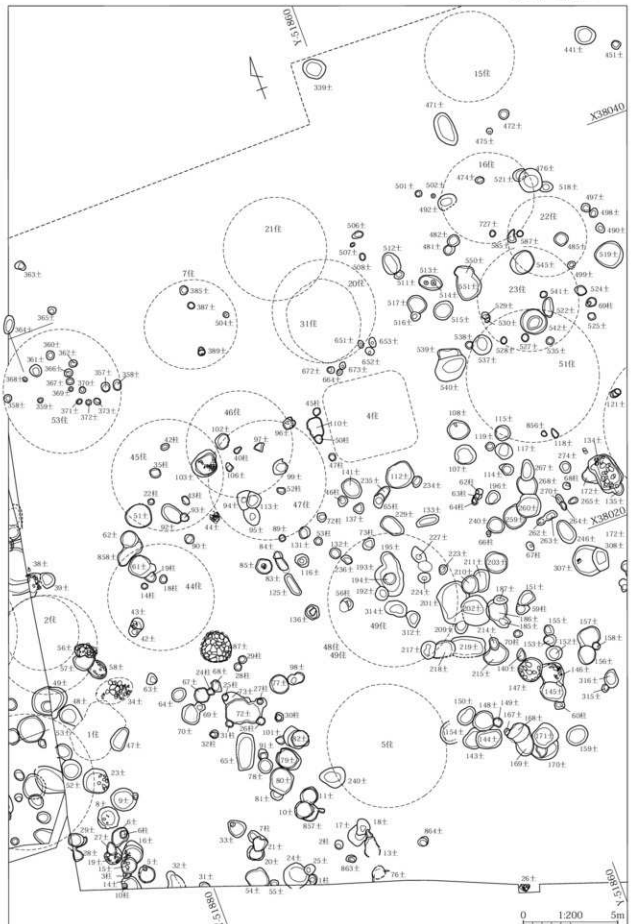
第 143 図　Ⅱ区埋甕及び出土遺物 (2)



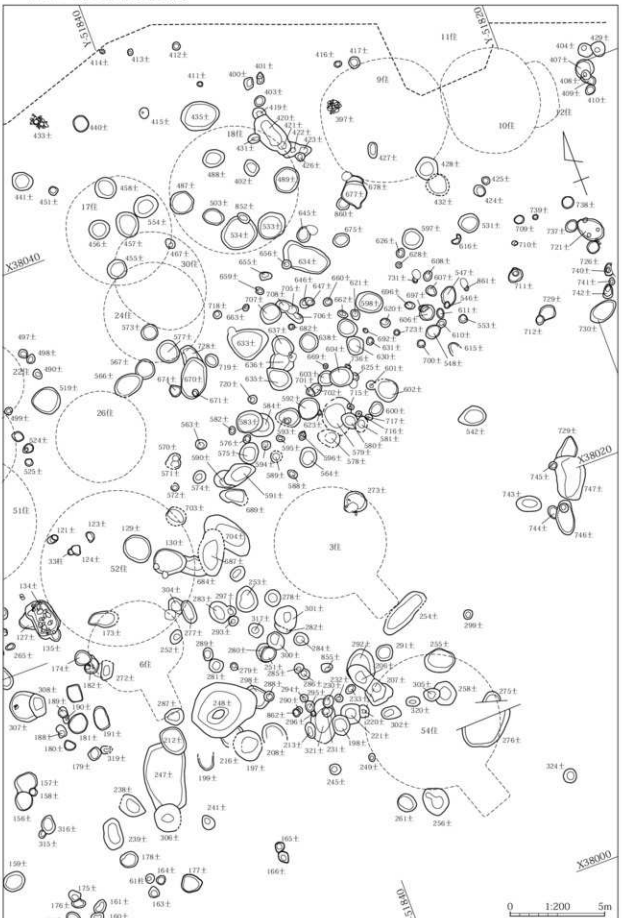
第 144 図　Ⅱ区埋甕及び出土遺物 (3)、Ⅲ区埋甕出土遺物



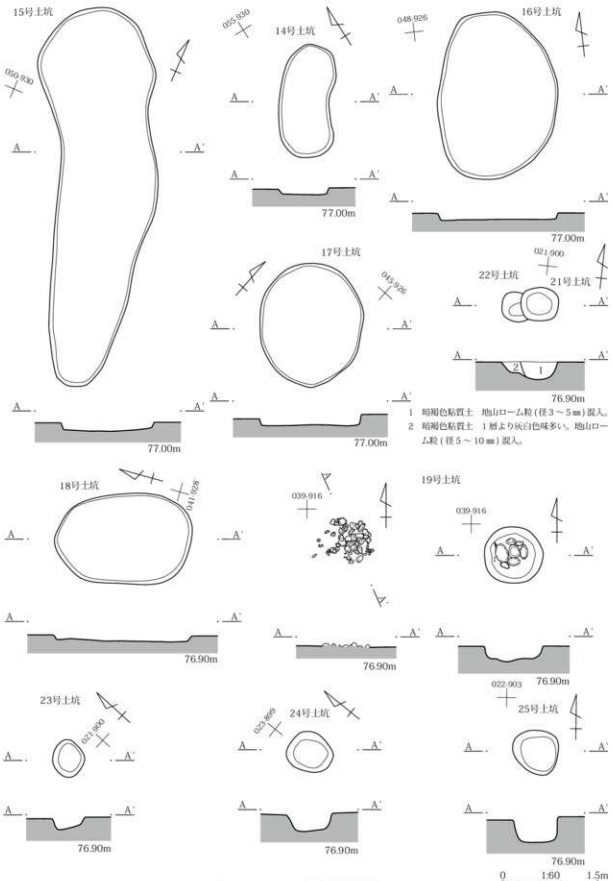
第145図　下田遺跡土坑・柱穴全体図(1) (1/200)



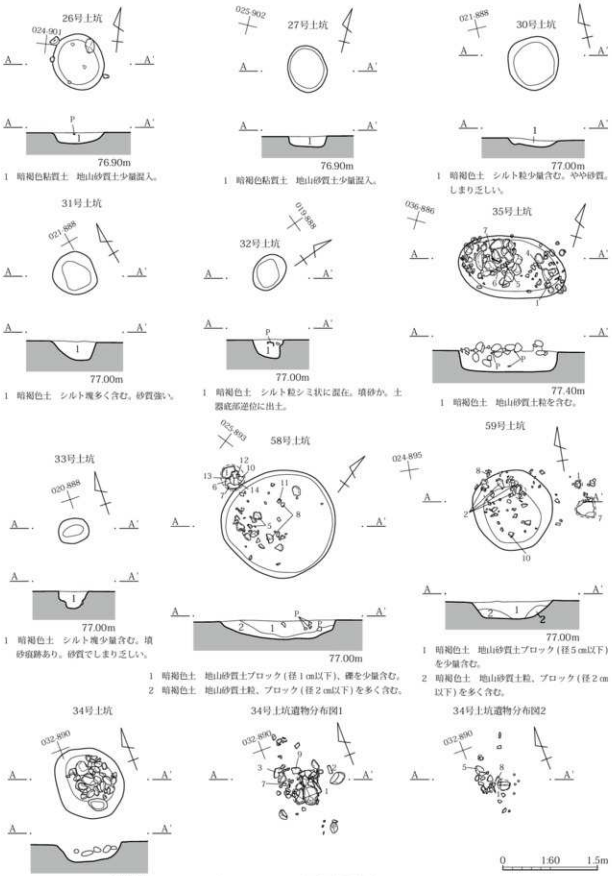
第 146 図　下田遺跡土坑・柱穴全体図 (2) (1/200)



第 147 図　下田遺跡土坑・柱穴全体図 (3)　(1/200)



第 148 図　Ⅰ区縄文時代土坑 (1)



第 149 図　Ⅰ区縄文時代土坑 (2)

60号土坑

A　A'

77.30m

1　暗褐色土　礫、地山砂質土ブロック（径2㎝以下）を少量含む。

61号土坑

028.887

A　A'

77.20m

1　暗褐色土　地山砂質土粒、ブロック（径2㎝以下）を含む。

62号土坑

027.890

A　A'

77.20m

1　暗褐色土　地山砂質土粒、ブロック（径2㎝以下）を含む。

63号土坑

028.891

A　A'

77.20m

1　暗褐色土　地山砂質土粒、ブロック（径2㎝以下）を含む。

64号土坑

027.891

A　A'

77.20m

1　暗褐色土　地山砂質土粒、ブロック（径2㎝以下）を含む。

65号土坑

022.891

A　A'

77.20m

1　暗褐色土　地山砂質土粒、ブロック（径2㎝以下）を含む。

66号土坑

023.892

A　A'

77.00m

1　暗褐色土　地山砂質土粒、ブロック（径2㎝以下）を含む。

67号土坑

024.895

A　A'

77.00m

1　暗褐色土　地山砂質土粒、ブロック（径2㎝以下）を含む。

68号土坑

025.894

A　A'

77.00m

1　暗褐色土　地山砂質土粒、ブロック（径2㎝以下）を含む。

69号土坑

030.899

A　A'

76.90m

70号土坑

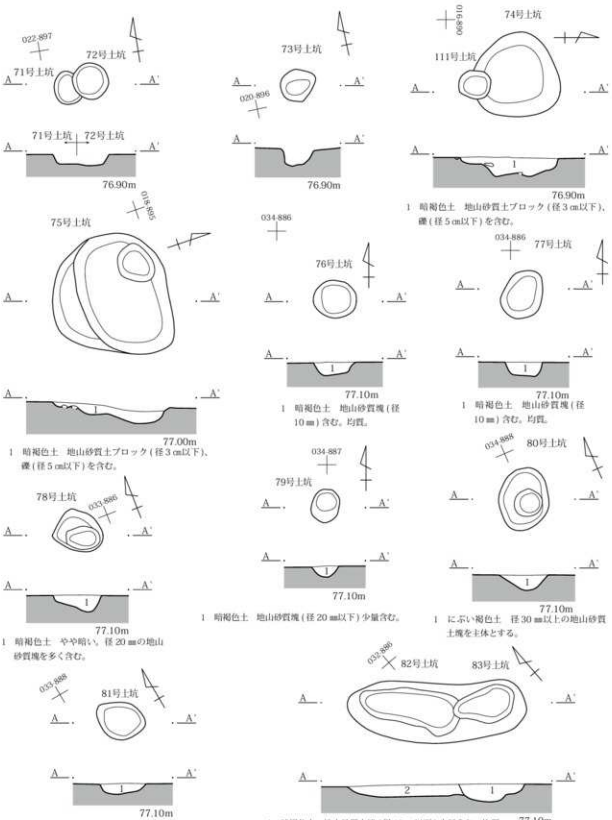
028.899

A　A'

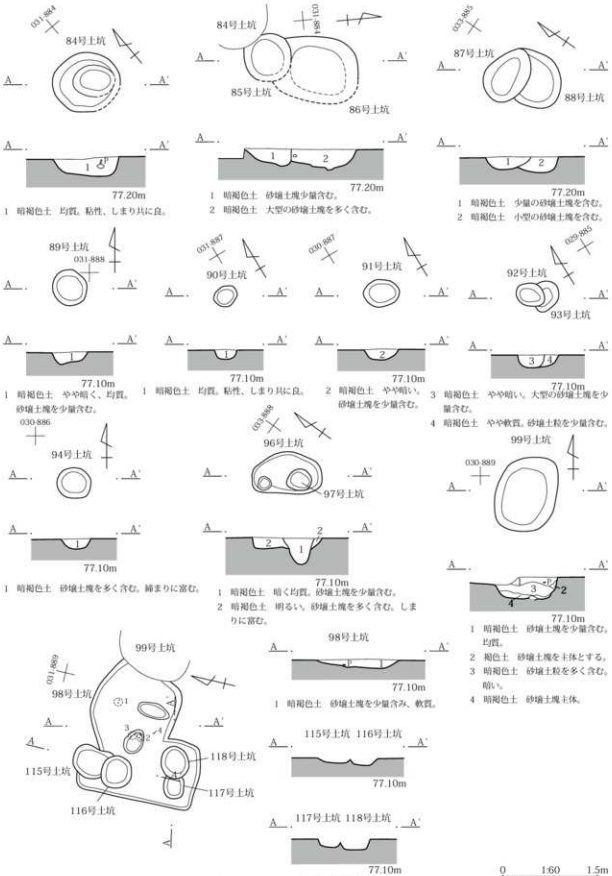
76.90m

0　1:60　1.5m

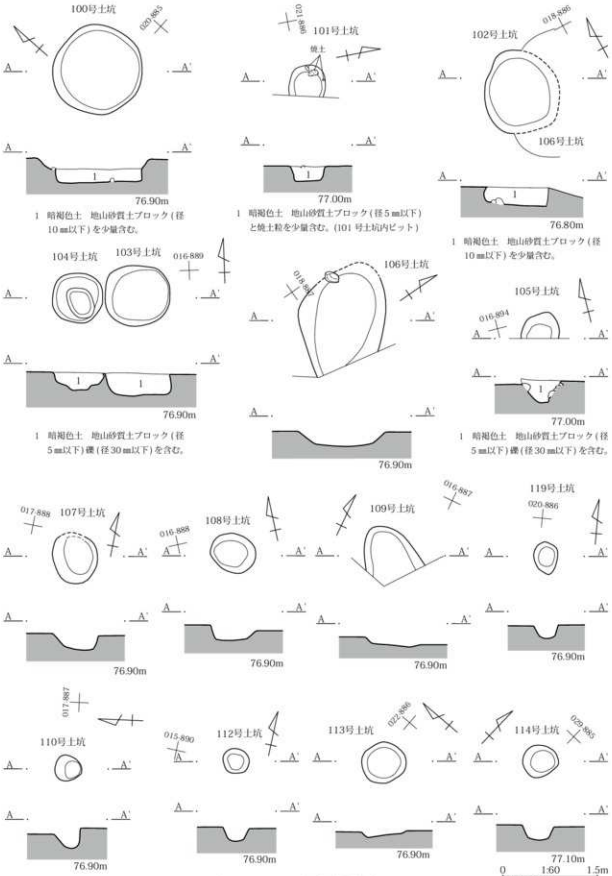
第150図　Ⅰ区縄文時代土坑(3)



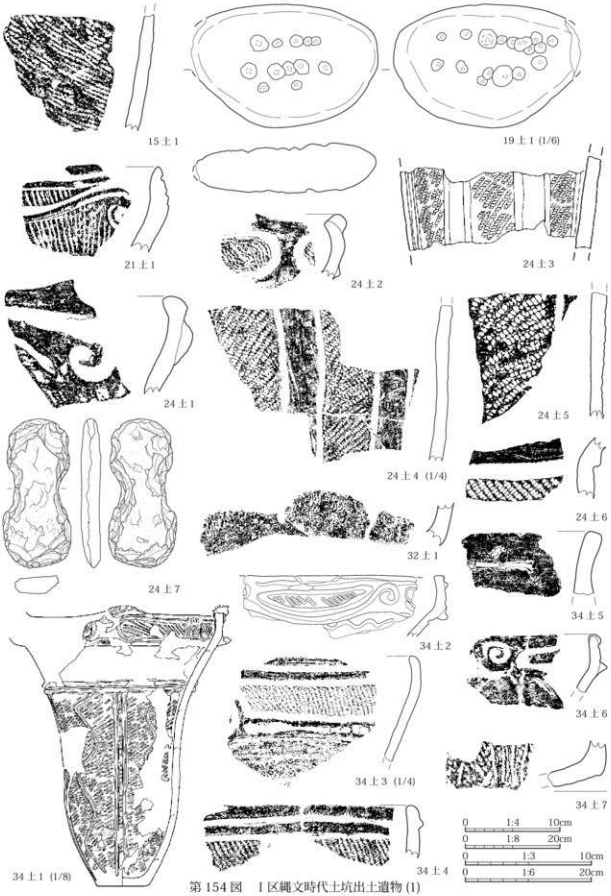
第 151 図　Ⅰ区縄文時代土坑 (4)



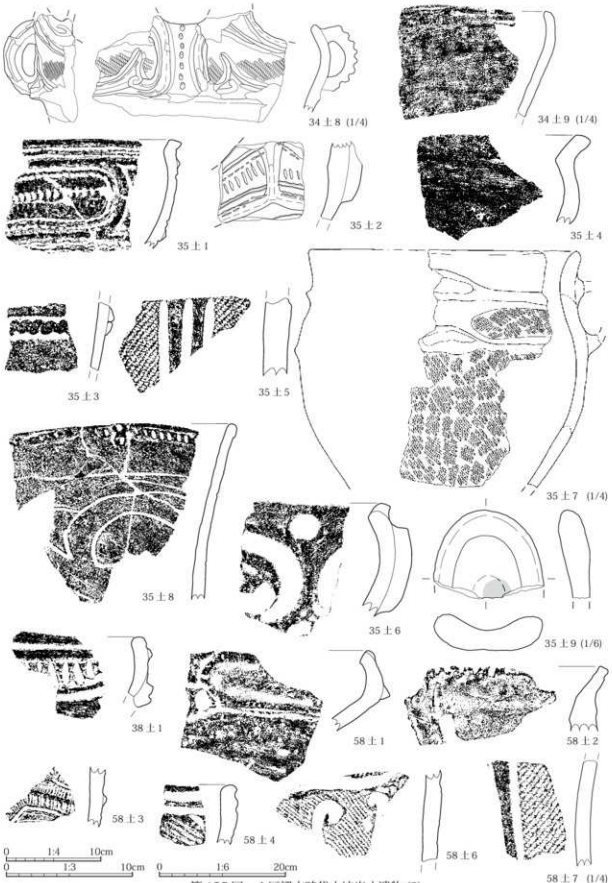
第152図　Ⅰ区縄文時代土坑(5)



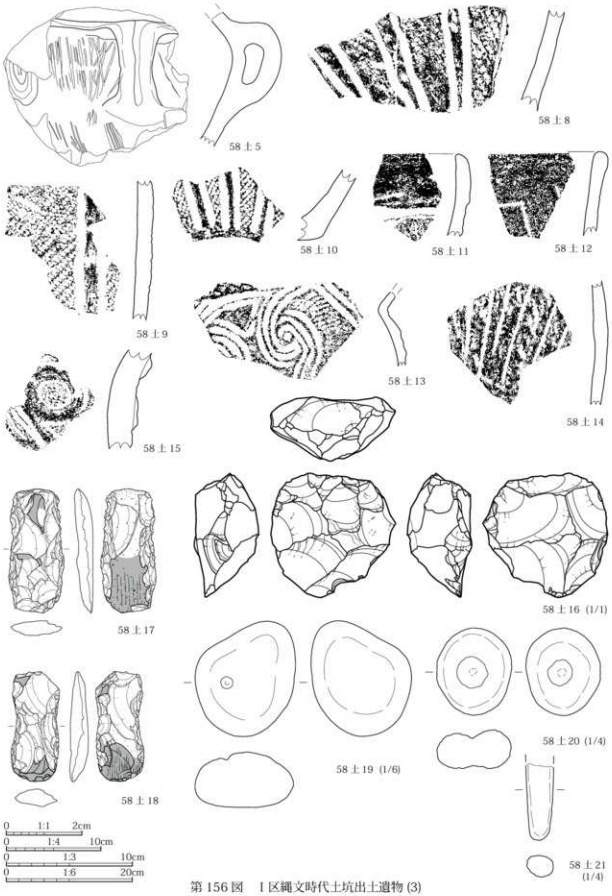
第 153 図　Ⅰ区縄文時代土坑 (6)



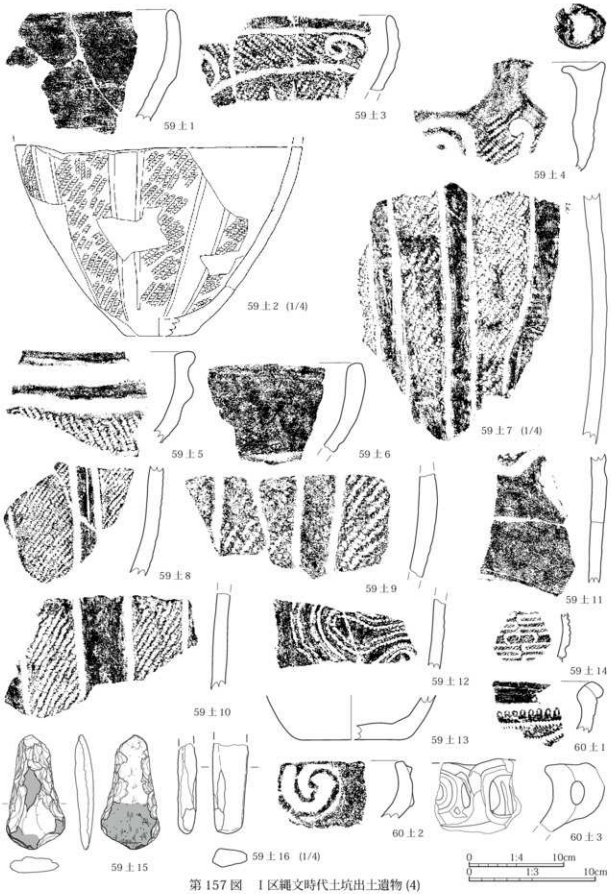
第 154 図　Ⅰ区縄文時代土坑出土遺物 (1)



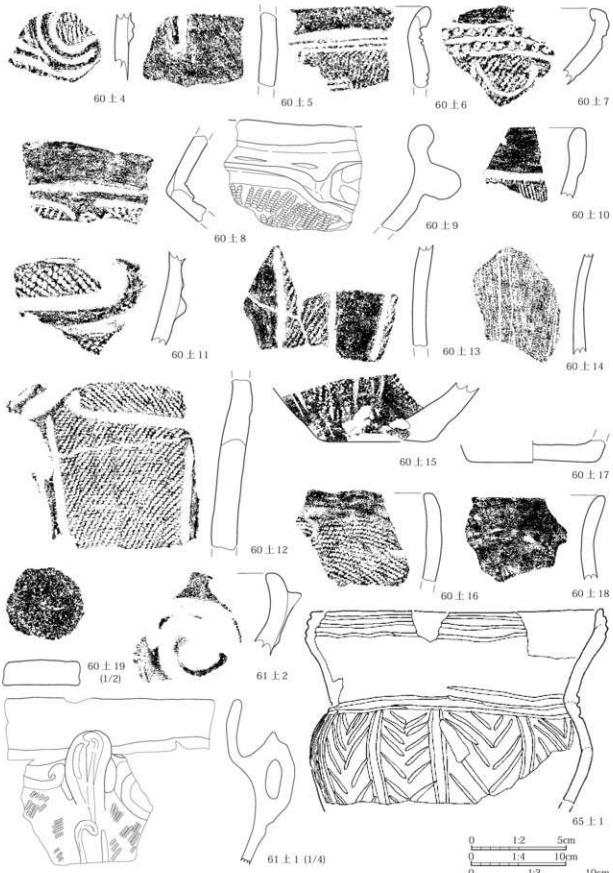
第 155 図　Ⅰ区縄文時代土坑出土遺物 (2)



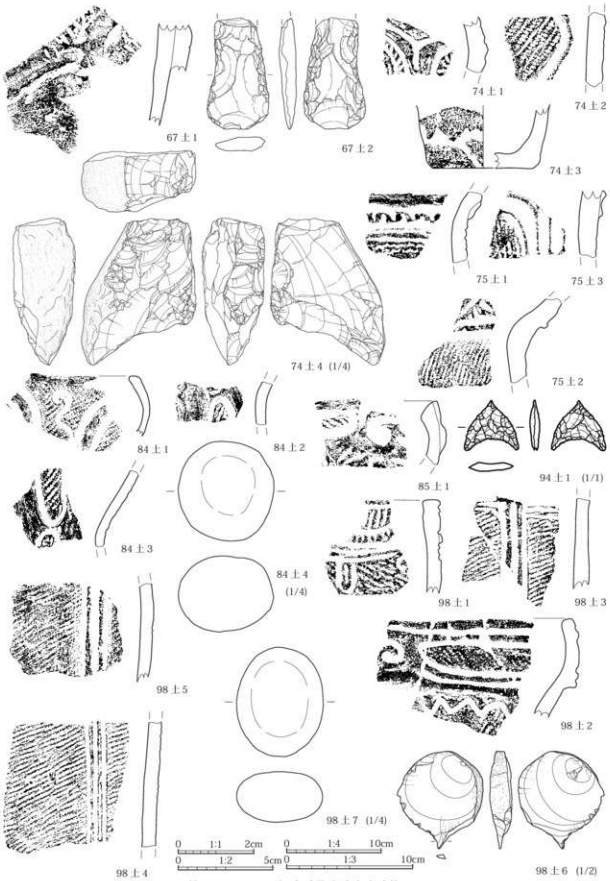
第 156 図　Ⅰ区縄文時代土坑出土遺物 (3)



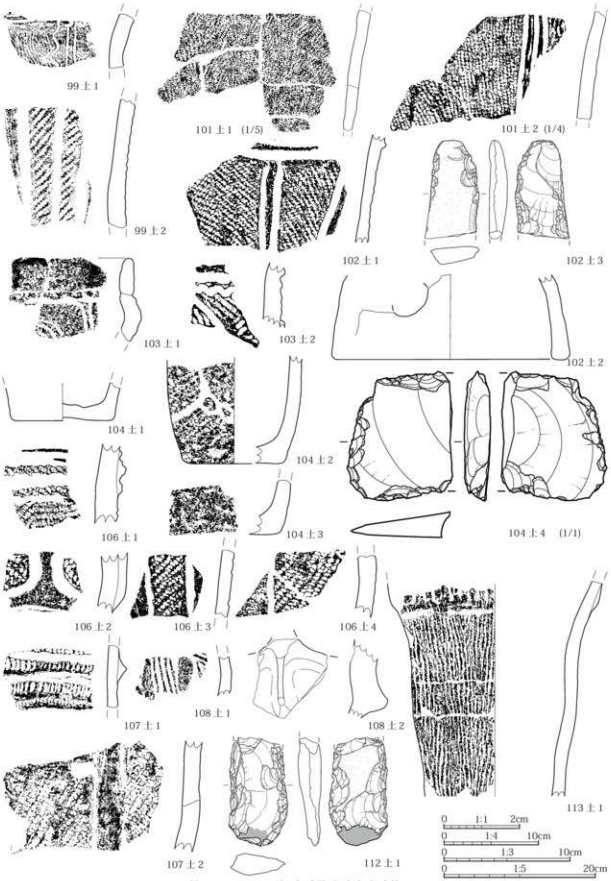
第 157 図　Ⅰ区縄文時代土坑出土遺物 (4)



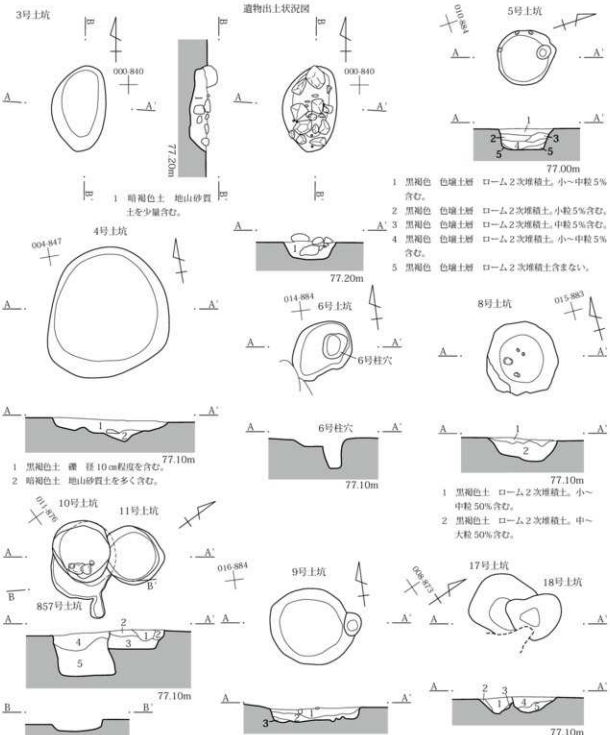
第158図　Ⅰ区縄文時代土坑出土遺物(5)



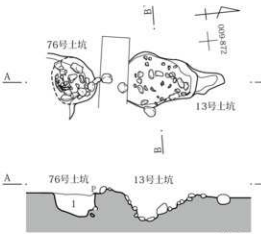
第 159 図　Ⅰ区縄文時代土坑出土遺物 (6)



第160図　Ⅰ区縄文時代土坑出土遺物(7)

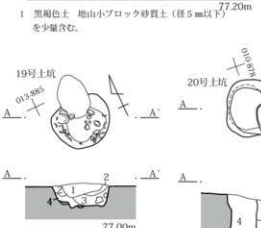


第161図　Ⅱ区縄文時代土坑(1)



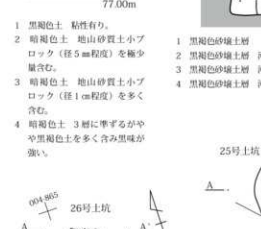
1　黒褐色土　地山小ブロック砂質土（径5㎜以下）を少量含む。

1　黒褐色土　粘性あり。礫（10㎝以下）を少量含む。



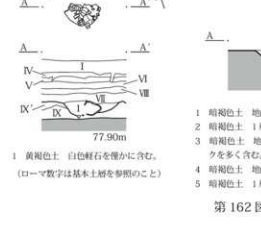
1　黒褐色土　粘性有り。
2　暗褐色土　地山砂質土小ブロック（径5㎜程度）を極少量含む。
3　暗褐色土　地山砂質土小ブロック（径1㎝程度）を多く含む。
4　暗褐色土　3層に準ずるがやや黒褐色土を多く含み黒味が強い。

1　黒褐色砂壌土層
2　黒褐色砂壌土層　河原石とローム大粒10%含む。
3　黒褐色砂壌土層　河原石とローム大粒5%含む。
4　黒褐色砂壌土層　河原石のみ含む。



1　暗茶褐色粘質土　ローム粒（径1～2㎜）混入。
2　暗茶褐色粘質土　黒色土混じる。ローム粒（径1㎜程度）混入。
3　暗茶褐色粘質土　黒色土混じる。ローム粒（径1㎜程度）、ロームブロック（径5～10㎜）混入。
4　暗茶褐色粘質土　4層と似るが黒色土は混じらない。
5　茶褐色粘質土　ローム粒（径1㎜）、ロームブロック（径5～10㎜）混入。
6　茶褐色粘質土　ロームの混入6層よりも多い。他は6層と同じ。
7　茶褐色粘質土　地山混じる。

1　暗茶褐色粘質土　ロームブロック（径10～30㎜）混入。
2　暗茶褐色粘質土　灰色砂質土ブロック（径20～30㎜）混入。



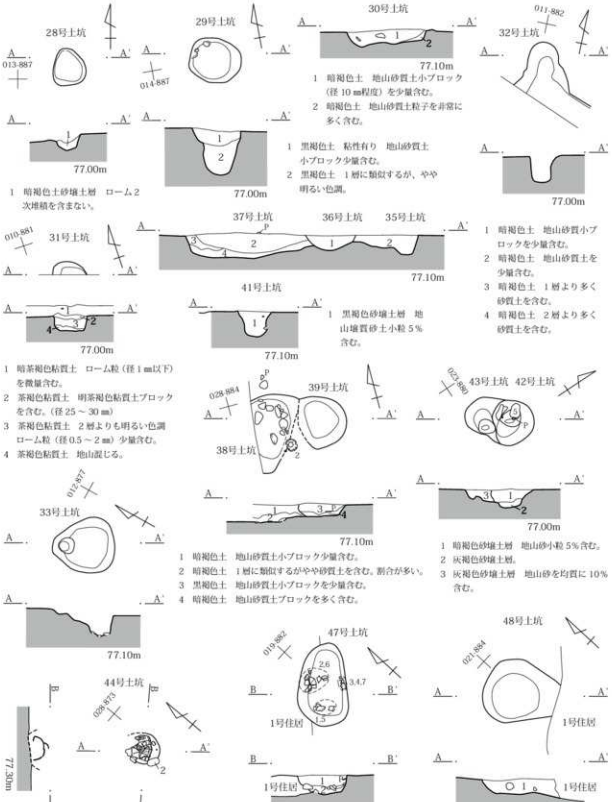
1　暗褐色土　地山　砂質土を少量含む。
2　暗褐色土　1層に類似するが砂質土をより多く含む。
3　暗褐色土　地山砂質土を多く含み、地山砂質土小ブロックを多く含む。
4　暗褐色土　地山砂質土　極少量含む。
5　暗褐色土　1層に類似するがより多く砂質土を含む。

1　黄褐色土　白色軽石を僅かに含む。

（ローマ数字は基本土層を参照のこと）

0　1:60　1.5m

第162図　Ⅱ区縄文時代土坑(2)



第 163 図　Ⅱ区縄文時代土坑 (3)

56号土坑遺物分布図

49号土坑

1　黒褐色土　地山砂質土粒を少量含む。

56号土坑

57号土坑

58号土坑

1　黒褐色土　地山砂質土小ブロック（径5㎜程度）少量含む。
2　暗褐色土　地山砂質土粒を少量含む。
3　黒褐色土　1層に類似するがやや多く砂質土を含む。
4　暗褐色土　地山砂質土を非常に多く含む。
5　暗褐色土　地山砂質土ブロック（30㎜程度）少量含む。
6　暗褐色土　地山砂質土粒子を非常に多く含む。

51号土坑

1　暗褐色土　ローム土ブロック（径10～15㎜）を含む。
2　暗褐色土　1層よりも細粒の土　ローム土ブロック（径10～15㎜）を含む。ローム粒（径1～2㎜）を含む。
3　暗褐色土　ローム土を全体に含む。

52号土坑

53号土坑

1　暗褐色土　地山砂質土を少量含む。
2　暗褐色土　1層に類似するがやや多く砂質土を含む。
3　暗褐色土　地山砂質土を少量含む。
4　暗褐色土　1層に類似するがやや多く砂質土を含む。

60号土坑　59号土坑

1　暗褐色土　C下の砂層を含む。
2　暗褐色土　ローム粒「小」5%含む。
3　暗褐色土　ローム粒均一に10%含む。
4　暗褐色土　ローム粒均一に5%含む。
5　暗褐色土　ローム粒やや不均一に10%含む。6層に比してやや黒味が強い
6　暗褐色土　ローム粒やや不均一に10%含む。

54号土坑

55号土坑

61号土坑

19柱穴

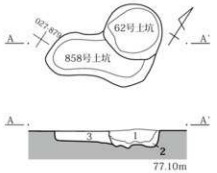
1　暗褐色粘質土　ローム粒（径0.5～1㎜）混入。
2　暗褐色粘質土　ローム粒（径0.5～1㎜）1層よりもローム粒なく混じる。
3　暗褐色粘質土　1層よりも明るい色調。

63号土坑

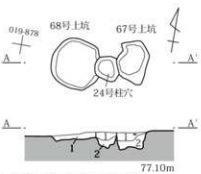
1　黒褐色土　地山砂質土小ブロックを少量含む。
2　黒褐色土　1層に類似するがより多く砂質土を含む。

0　1:60　1.5m

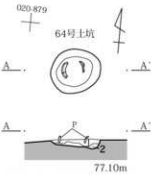
第164図　Ⅱ区縄文時代土坑(4)



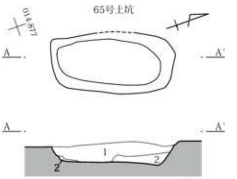
1　暗褐色土　ローム粒（径１～２㎜）を全体的に均一にロームブロック（径10～15㎜）を含む。
2　暗褐色土　砂質　1層にローム土を均一に含む。
3　暗褐色土　2層よりも灰白色味が強い。ロームブロック（径10～20㎜）を多量に含む。



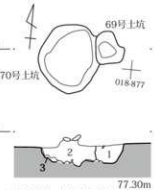
1　暗褐色土　地山砂質土粒を多く含む。
2　暗褐色土　1層に類似するがややや多く砂質土粒を含む。



1　暗褐色土　地山砂質土粒を多く含む。
2　暗褐色土　地山砂質土を非常に多く含む。



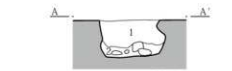
1　暗褐色土　地山砂質土粒を多く含む。
2　暗褐色土　1層に類似するがやや多く砂質土粒を含む。



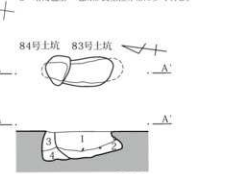
1　黒褐色土　地山砂質土小ブロック（径５㎜程度）を多く含む。
2　黒褐色土　地山砂質土ブロック（径20㎜程度）を少量含む。
3　黒褐色土　地山砂質土粒を多く含む。

1　黒褐色土　地山砂質土ブロック（径10㎜程度）少量含む。
2　黒褐色土　1層に類似するがやや多く砂質土ブロックを含む。
3　暗褐色土　地山砂質土粒を多く含む。

1　暗褐色土　地山砂質土粒子を少量含む。
2　暗褐色土　1層に類似するがより多く砂質を含む。
3　暗褐色土　地山砂質土小ブロックを少量含む。
4　暗褐色土　1層に類似するがやや多く小ブロック含む。
5　暗褐色土　地山砂質土粒子を少量含む。
6　5層に類似するがより多く砂質を含む。
7　暗褐色土　地山砂質土粒子を少量含む。
8　7層に類似するがより多く砂質を含む。



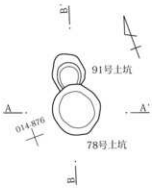
1　暗褐色土　粘質小、ロームブロック（径５～８㎜）わずかに含む。
2　暗褐色土　地山砂質土粒非常に多く含む。

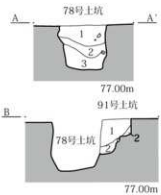


1　暗褐色土　粘質小、白色軽石（径１～２㎜）全体に均一に混入。ローム粒（径５～６㎜）微量混入。
2　暗褐色土　ローム全体に混じる。
3　暗褐色土　ローム全体に微量混じる。
4　暗褐色土　ローム全体に混じる。

0　1:60　1.5m

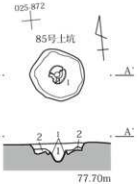
第165図　Ⅱ区縄文時代土坑(5)



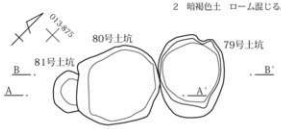


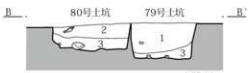
1　暗褐色土　粘質小、ロームブロック(径5～10㎜)混入。
2　暗褐色土　ローム混じる。

1　暗褐色土　粘質中。ロームブロック（径15～20㎜）をわずかに含む。
2　暗褐色土　粘質中。ロームブロック（径15～20㎜）をわずかに含む。1層よりも褐色が強い
3　黒褐色土　粘質中。ローム混じる。

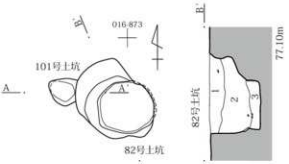


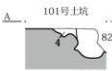
1　暗褐色土　粘質小（砂質）。ローム粒（径1～3㎜）微量混入。
2　暗褐色土　粘質小（砂質）。ローム混じる。



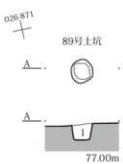


1　暗褐色土　地山砂質土小ブロック（径5㎜程度）を少量含む。
2　暗褐色土　地山砂質土粒子を多く含む。
3　暗褐色土　地山砂質土小ブロック（径20㎜程度）を極少量含む。
4　暗褐色土　粘質小、ロームブロック（径15～20㎜）を含む。
5　暗褐色土　粘質小、ロームブロック（径15～20㎜）をわずかに含む。
6　暗褐色土　粘質小、1層よりも黒い　ロームブロック（径10～20㎜）を含む。
7　暗褐色土　粘質小、1層よりも黒い　ロームなし。

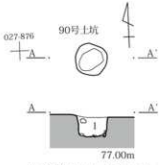




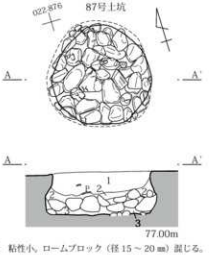
1　暗褐色土　粘質小、ローム（径20～30㎜）わずかに混じる。
2　暗褐色土　粘質小、ロームブロック(径10～20㎜）混じる。
3　暗褐色土　粘質小、ローム混じる。
4　暗褐色土　地山の砂質土ブロック（径5～30㎜）を含む。



1　暗褐色土　ロームブロック（径5～20㎜）混入。



1　暗褐色土　ロームブロック（径5～20㎜）混入。



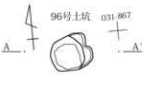
1　暗褐色土　粘性小、ロームブロック（径15～20㎜）混じる。
2　暗褐色土　地山砂質土小ブロック（径5㎜程度）多く含む。
3　暗褐色土　地山砂質土粒を非常に多く含む。

0　1:60　1.5m

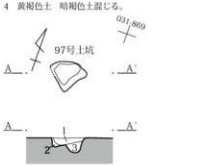
第166図　Ⅱ区縄文時代土坑(6)

1　暗褐色土　ローブロック（径５～30㎝）混入。
2　暗褐色土　粘質小、ローム粒（径１～３㎝）混入。
3　暗褐色土　ローム混じる。
4　黄褐色土　暗褐色土混じる。

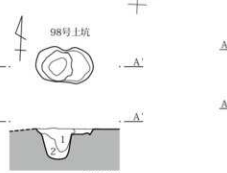
1　暗褐色土　粘質小、ローム ブロック（径５～10㎝）混入。
2　暗褐色土　地山砂質土粒を多く含む。



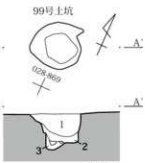
1　黒褐色土　地山砂質土小ブロック（径５㎝程度）少量含む。
2　黒褐色土　地山砂質土小ブロック（径10㎝程度）多く含む。



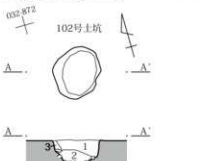
1　暗褐色土　ローム粒（径２～５㎝）混入。
2　暗褐色土　ローム混じる。
3　黄褐色土　暗褐色土混じる。



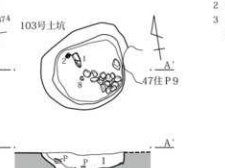
1　暗褐色土　地山の砂質土ブロック（径５～30㎝）を含む。
2　暗褐色土



1　暗褐色土　地山の砂質土ブロック（径５～50㎝）を含む。
2　暗褐色土
3　黄褐色土　地山の砂質土を主体とし暗褐色土を含む。

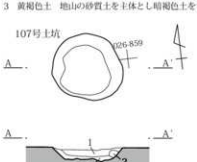


1　暗褐色土　地山の砂質土ブロック（径５～50㎝）を含む。
2　暗褐色土
3　黄褐色土　地山の砂質土を主体とし暗褐色土を含む。

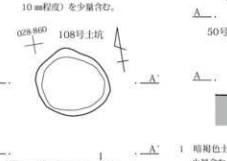


1　暗褐色土　地山砂質土粒を少量含む。
2　暗褐色土　地山砂質土小ブロック（径10㎝程度）を少量含む。

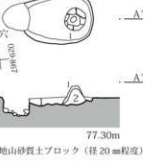
1　暗褐色土　粘質小、黄褐色土ブロック（径５～10㎝）混入。黄褐色土　一様に混じる。



1　暗褐色土　地山砂質土粒を多く含む。
2　黄褐色土　地山砂質土ブロック。
3　暗褐色土　地山砂質土粒を非常に多く含む。



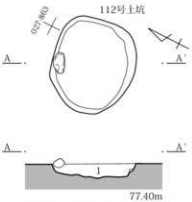
1　暗褐色土　地山砂質土粒を多く含む。



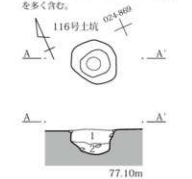
1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径20㎝程度）少量含む。
2　暗褐色土　１層に類似するが小円礫（径10㎝程度）を極少量含む。

0　1:60　1.5m

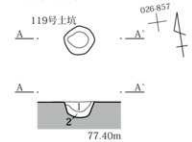
第167図　Ⅱ区縄文時代土坑(7)



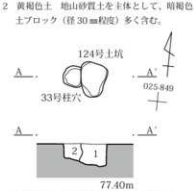
1　暗褐色土　地山中の小礫（径20㎜程度）を多く含む。



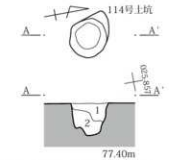
1　暗褐色土　地山砂質土小ブロック（径30㎜）を少量含む。
2　暗褐色土　地山砂質土小ブロック（径30㎜）を多く含む。



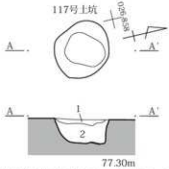
1　暗褐色土　地山砂質土小ブロック（径5㎜程度）少量含む。
2　黄褐色土　地山砂質土を主体として、暗褐色土ブロック（径30㎜程度）多く含む。



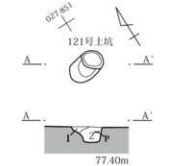
1　暗褐色土　地山砂質土小ブロック（径5㎜程度）少量含む。
2　黄褐色土　地山砂質土を主体として、暗褐色土ブロック（径30㎜程度）多く含む。



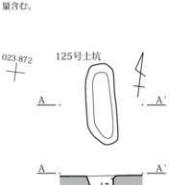
1　暗褐色土　地山砂質土小ブロック（径30㎜）を少量含む。
2　暗褐色土　地山砂質土小ブロック（径30㎜）を多く含む。



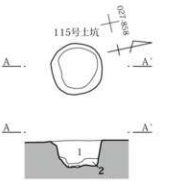
1　暗褐色土　地山砂質土小ブロック（径30㎜）を少量含む。
2　暗褐色土　地山砂質土小ブロック（径30㎜）を多く含む。



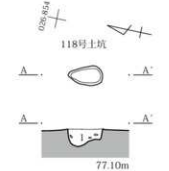
1　暗褐色土　地山砂質土粒を多く含む。
2　暗褐色土　地山砂質土小ブロック（径5㎜程度）少量含む。



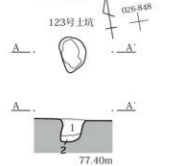
1　暗褐色土　小礫（径50㎜程度）を多く含む。



1　暗褐色土　地山砂質土小ブロック（径30㎜）を少量含む。
2　暗褐色土　地山砂質土小ブロック（径30㎜）を多く含む。

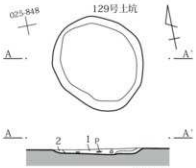


1　暗褐色土　小礫（径20㎜程度）を多く含む。

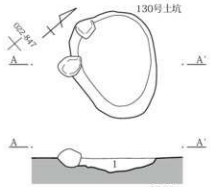


1　暗褐色土　地山砂質土小ブロック（径5㎜程度）少量含む。
2　黄褐色土　地山砂質土を主体として、暗褐色土ブロック（径30㎜程度）多く含む。

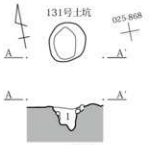
第168図　Ⅱ区縄文時代土坑(8)



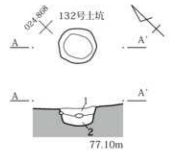
1　暗褐色土　地山砂質土小ブロック（径５㎝程度）少量含む。
2　黄褐色土　地山砂質土を主体として，暗褐色土ブロック（径30㎝程度）多く含む。



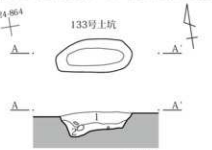
1　黒褐色土　地山砂質土小ブロック（径５㎝程度）少量含む。



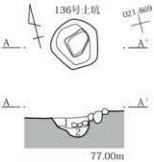
1　暗褐色土　地山砂質土粒を少量含む。



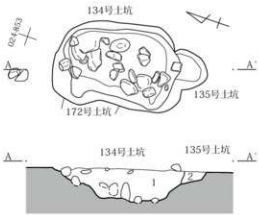
1　暗褐色土　地山砂質土粒を少量含む。
2　暗褐色土　地山砂質土小ブロック（径10㎝程度）少量含む。



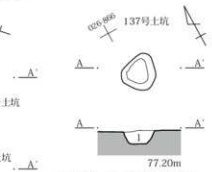
1　暗褐色土　地山砂質土粒を少量含む。
2　暗褐色土　地山砂質土小ブロック（径10㎝程度）少量含む。



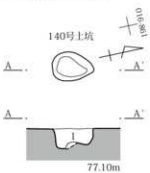
1　暗褐色土層　粘質小，地山砂質土を少量含む。
2　暗褐色土層　粘質小，１層よりも褐色土多い，地山砂質土を少量含む。



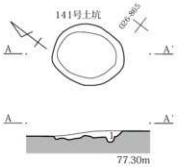
1　黒褐色土　地山砂質土小ブロック（径５㎝程度）少量含む。
2　暗褐色土　地山砂質土粒を非常に多く含む。



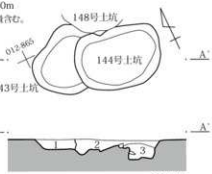
1　暗褐色土　地山砂質土粒を多く含む。小礫（径５㎝程度）多く含む。



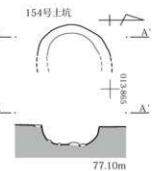
1　暗褐色土　地山砂質土粒を多く含む。



1　暗褐色土　地山小礫（径２㎝以下）を多く含む。

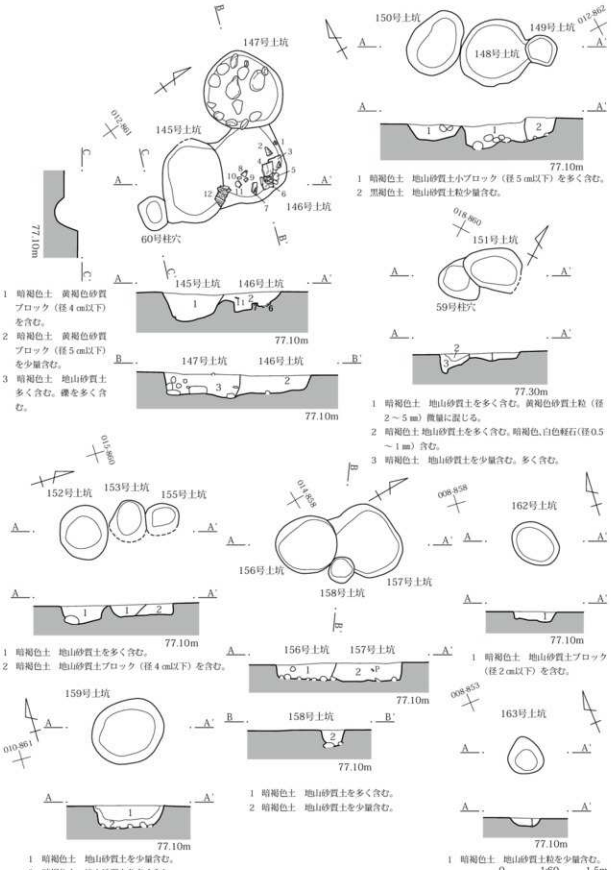


1　暗褐色土　黄褐色土ブロック（径３㎝以下）を含む。
2　暗褐色土　黄褐色砂質土粒を含む。
3　暗褐色土　黄褐色砂質土粒を多く含む。

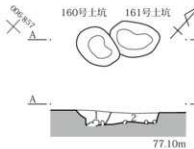


0　1:60　1.5m

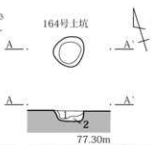
第169図　Ⅱ区縄文時代土坑(9)



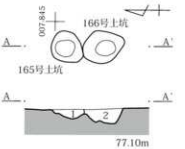
第170図　Ⅱ区縄文時代土坑(10)



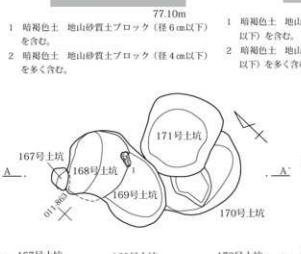
1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径６㎝以下）を含む。
2　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径４㎝以下）を多く含む。



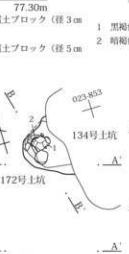
1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径３㎝以下）を含む。
2　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径５㎝以下）を多く含む。



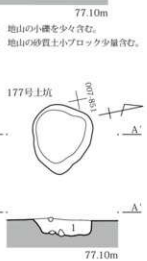
1　黒褐色土　地山の小礫を少々含む。
2　暗褐色土　地山の砂質土小ブロック少量含む。



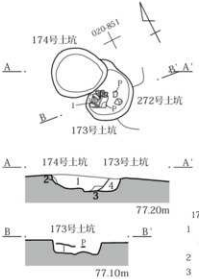
1　暗褐色土　地山砂質土を含む。地山砂質土ブロック（径５～20㎜）混入。
2　暗褐色土　地山砂質土粒（径１～４㎜）混入。
3　暗褐色土　地山砂質土を含む。地山砂質土ブロック（径30㎜）混入。地山砂質土粒（径１～５㎜）混入。
4　暗褐色土　地山砂質土を多量に含む。



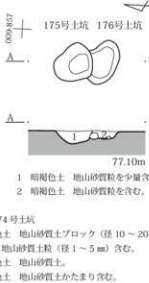
172号土坑
1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径20㎜）を含む。
2　暗褐色土　１層よりも明るい。地山砂質土粒（径５～８㎜）を含む。地山砂質土ブロック（径20～30㎜）含む。
3　暗褐色土　１層よりも明るい。地山砂質土を多量に含む。



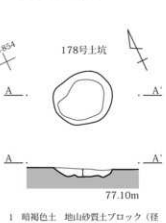
1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径３㎝以下）を含む。



173、174号土坑
1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径10～20㎜）含む。地山砂質土粒（径１～５㎜）含む。
2　黄褐色土　地山砂質土。
3　暗褐色土　地山砂質土かたまり含む。
4　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径20～30㎜）含む。地山砂質土粒（径１～５㎜）含む。



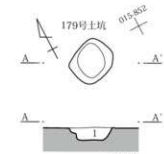
1　暗褐色土　地山砂質粒を少量含む。
2　暗褐色土　地山砂質粒を含む。



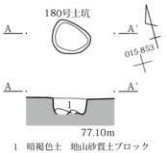
1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径３㎝以下）を含む。

0　1:60　1.5m

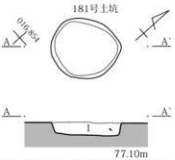
第171図　Ⅱ区縄文時代土坑(11)



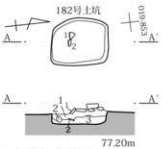
1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径3㎝以下）を含む。



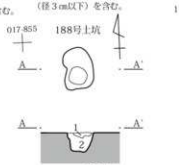
1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径3㎝以下）を含む。



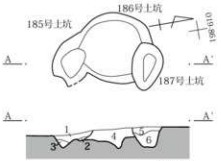
1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径3㎝以下）を含む。



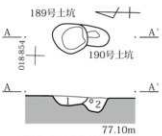
1　暗褐色土　地山砂質土を含む。
2　灰褐色土　砂質。地山砂質土を含む。
3　暗褐色土　地山砂質土を含む。地山砂質土ブロック（径5～20㎜）含む。



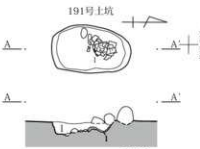
1　暗褐色土　地山砂質土小ブロック（径5㎜程度）少量含む。
2　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径5㎝以下）多く含む。



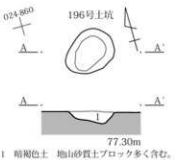
1　暗褐色土　地山砂質土混じる。
2　暗褐色土　地山砂質土混じる。（多量）
3　黄褐色土（砂質土）暗褐色砂質土少量混じる。
4　暗褐色土　地山砂質土まじり。地山砂質土ブロック（径8～12㎜）混じる。
5　暗褐色土　地山砂質土少量混じる。
6　暗褐色土　地山砂質土多量混じる。



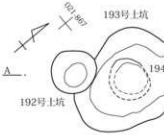
1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径3㎝以下）を含む。
2　暗褐色土　地山砂質粒を含む。

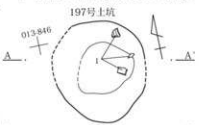


1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径3㎝以下）を少量含む。



1　暗褐色土　地山砂質土ブロック多く含む。





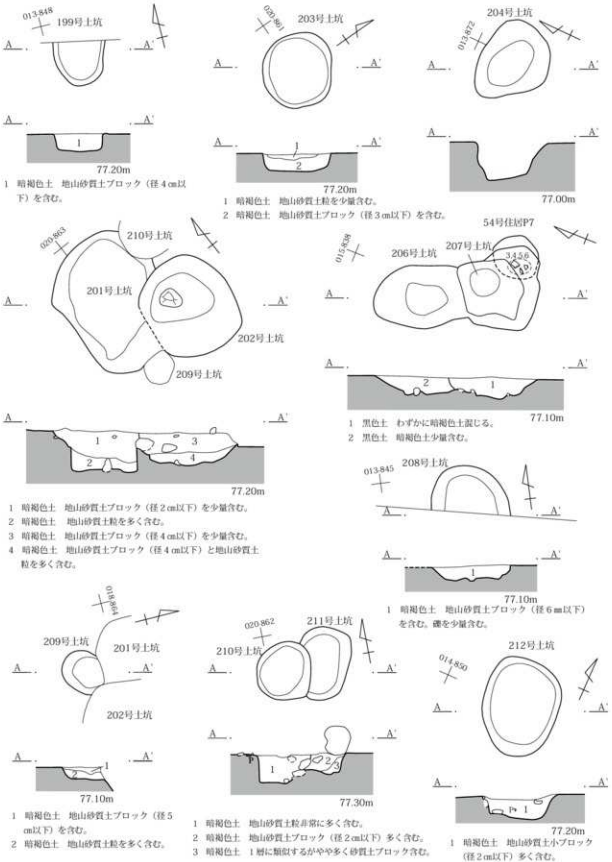
1　暗褐色土　砂礫を多く含む。
2　暗褐色土　砂礫を非常に多く含む。
3　黒褐色土　砂礫をやや多く含む。
4　黒褐色土　砂礫を少量含む。

1　黒褐色土　地山砂質土ブロック（径2㎝以下）を少量含む。
2　黒褐色土　炭を少量含む。
3　暗褐色土　赤褐色土ブロック（径3㎝以下）を少量含む。

1　暗褐色土　地山砂質土。小礫混じりの層を主体とし、暗褐色土小ブロックを多く含む。全体的に地山砂礫層に非常に類似した土層である。

0　1:60　1.5m

第172図　Ⅱ区縄文時代土坑(12)



1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径４cm以下）を含む。

1　暗褐色土　地山砂質土粒を少量含む。
2　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径３cm以下）を含む。

1　黒色土　わずかに暗褐色土混じる。
2　黒色土　暗褐色土少量含む。

1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径２cm以下）を少量含む。
2　暗褐色土　地山砂質土粒を多く含む。
3　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径４cm以下）を少量含む。
4　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径４cm以下）と地山砂質土粒を多く含む。

1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径６mm以下）を含む。礫を少量含む。

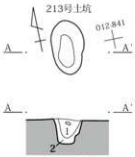
1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径５cm以下）を含む。
2　暗褐色土　地山砂質土粒を多く含む。

1　暗褐色土　地山砂質土粒非常に多く含む。
2　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径２cm以下）多く含む。
3　暗褐色土　１層に類似するがやや多く砂質土ブロック含む。

1　暗褐色土　地山砂質土小ブロック（径２cm以下）多く含む。

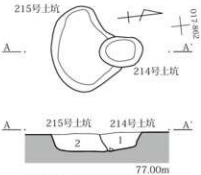
第173図　Ⅱ区縄文時代土坑(13)

213号土坑

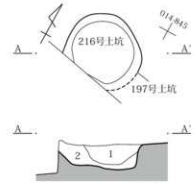


1　黒褐色土　地山砂質土ブロック（径5㎝以下）多く含む。
2　暗褐色土　地山砂質土ブロック・粒子を非常に多く含む。

215号土坑

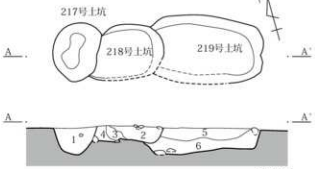


1　暗褐色土　地山砂質土粒を多く含む。
2　1層に類似するがやや黒色味が強い。

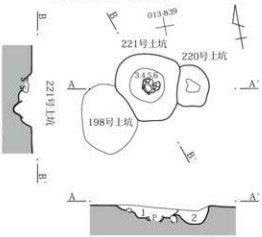


1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径10～20㎜）を含む。
2　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径5～8㎜）を含む。全体に地山砂質土を30%含む。

217号土坑

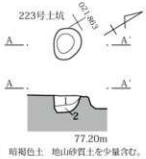


1　暗褐色土　地山砂質土を少量と礫を含む。
2　暗褐色土　地山砂質土（径2～3㎜）を含む。
3　レキ
4　暗褐色土　礫を多く含む。
5　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径10～12㎜）を少量含む。
6　暗褐色土　地山砂質土を均一に30%程度含む。

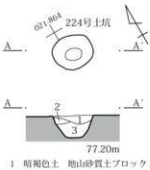


1　221号土坑に類似するがやや多く砂質土ブロックを含む。
2　黒褐色土　地山砂質土小ブロック（径6㎜程度）少量含む。

223号土坑

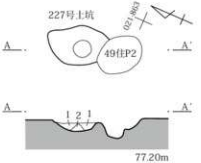


1　暗褐色土　地山砂質土を少量含む。
2　暗褐色土　地山砂質土を40%含む。



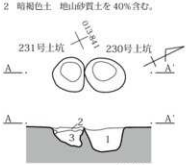
1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径30㎜以下）を含む。礫含む。
2　暗褐色土　地山砂質土を多量に含む。
3　暗褐色土　地山砂質土を40%程度含む。

227号土坑

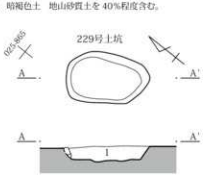


1　暗褐色土　地山砂質土を少量含む。
2　礫　地山砂質土の中に礫含む。

231号土坑

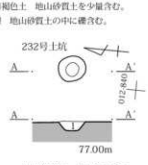


1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（中3㎝以下）、礫を少量含む。
2　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径5㎜以下）、礫を多く含む。
3　地山砂礫層。



1　暗褐色土　地山砂質土少量混じる。礫を多量に含む。

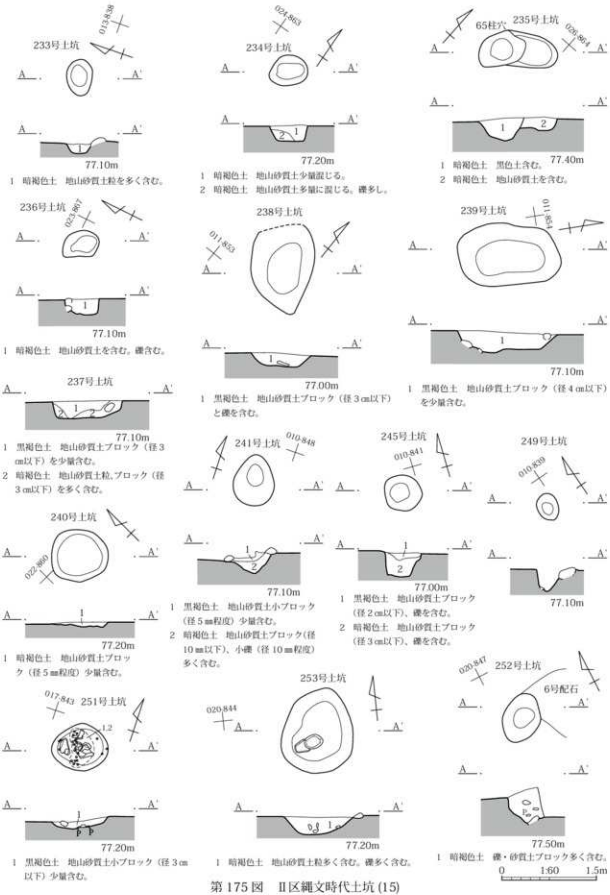
232号土坑



1　暗褐色土　礫を多く含む。

0　1:60　1.5m

第174図　Ⅱ区縄文時代土坑(14)



233号上坑
1　暗褐色土　地山砂質土粒を多く含む。

234号上坑
1　暗褐色土　地山砂質土少量混じる。
2　暗褐色土　地山砂質土多量に混じる。礫多し。

65柱穴　235号上坑
1　暗褐色土　黒色土含む。
2　暗褐色土　地山砂質土を含む。

236号上坑
1　暗褐色土　地山砂質土を含む。礫含む。

238号上坑
1　黒褐色土　地山砂質土ブロック（径３cm以下）と礫を含む。

239号上坑
1　黒褐色土　地山砂質土ブロック（径４cm以下）を少量含む。

237号上坑
1　黒褐色土　地山砂質土ブロック（径３cm以下）を少量含む。
2　暗褐色土　地山砂質土粒、ブロック（径３cm以下）を多く含む。

241号上坑
1　黒褐色土　地山砂質土小ブロック（径５mm程度）少量含む。
2　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径10mm以下）、小礫（径10mm程度）多く含む。

245号上坑
1　黒褐色土　地山砂質土ブロック（径２cm以下）、礫を含む。
2　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径３cm以下）、礫を含む。

249号上坑

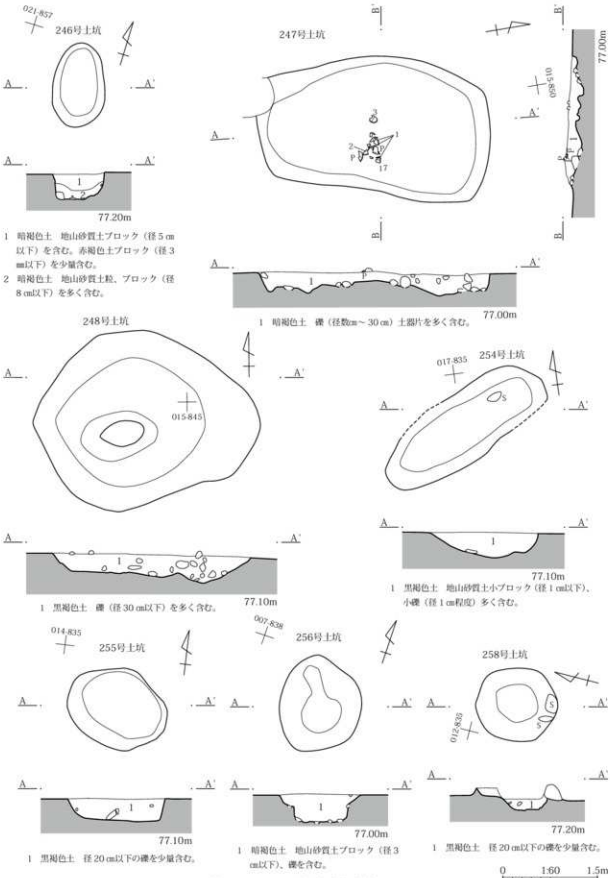
240号上坑
1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径５mm程度）少量含む。

251号上坑
1　黒褐色土　地山砂質土小ブロック（径３cm以下）少量含む。

253号上坑
1　暗褐色土　地山砂質土粒多く含む。礫多く含む。

252号上坑
6号配石
1　暗褐色土　礫・砂質土ブロック多く含む。

第175図　Ⅱ区縄文時代土坑(15)



1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径5㎝以下）を含む。赤褐色土ブロック（径3㎜以下）を少量含む。
2　暗褐色土　地山砂質土粒、ブロック（径8㎝以下）を多く含む。

1　暗褐色土　礫（径数㎝～30㎝）土器片を多く含む。

1　黒褐色土　礫（径30㎝以下）を多く含む。

1　黒褐色土　地山砂質土小ブロック（径1㎝以下）、小礫（径1㎝程度）多く含む。

1　黒褐色土　径20㎝以下の礫を少量含む。

1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径3㎝以下）、礫を含む。

1　黒褐色土　径20㎝以下の礫を少量含む。

第176図　Ⅱ区縄文時代土坑(16)

259号土坑　260号土坑

1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径１cm程度）多く含む。
2　暗褐色土　地山砂質土粒多く含む。

261号土坑

1　暗褐色土　径 10 cm以下の礫を非常に多く含む。

272号土坑

1　黒褐色土　地山砂質土小ブロック（径５mm程度）を少量含む。

270号土坑

1　暗褐色土　地山砂質土小ブロック（径２mm以下）少量含む。
2　暗褐色土　地山砂質土小粒非常に多く含む。

263号土坑　262号土坑　265号土坑　264号土坑　270号土坑

262号土坑　263号土坑　264号土坑　265号土坑

1　暗褐色土　地山砂質土小ブロック少量含む。
2　暗褐色土　1 層に類似するがやや多く砂質土ブロック含む。
3　暗褐色土　地山砂質土ブロック多く含む。

268号土坑　267号土坑　260号土坑

1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径４cm以下）を含む。
2　暗褐色土　地山砂質土粒を含む。

271号土坑

1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径５mm以下）を少量含む。

275号土坑　276号土坑

273号土坑　3号住居5号埋甕

1　黒褐色土　地山砂質土小ブロック（５mm程度）を少量含む。1 層に類似するがやや黒味におとる。

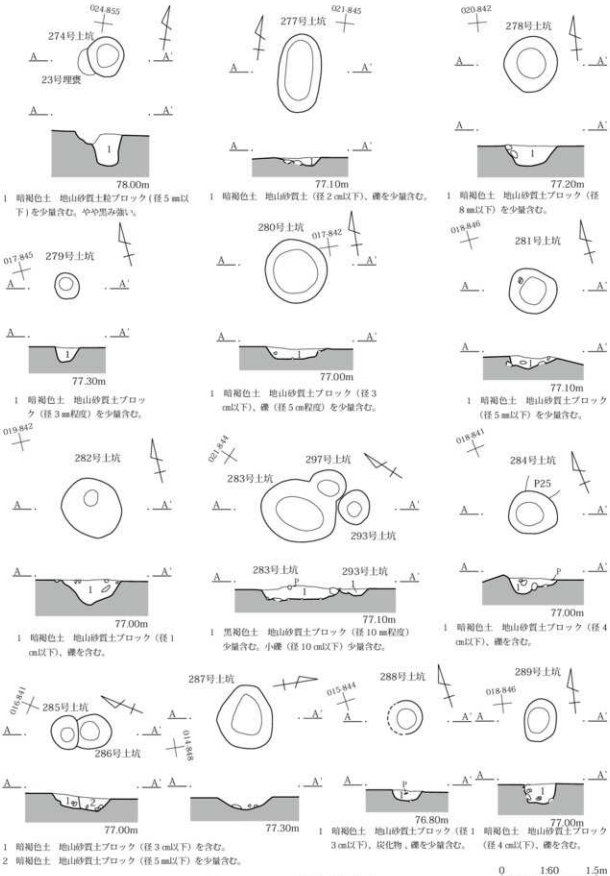
地山レキ

地山レキ

1　黒褐色土　円礫（径 20 cm以下）を多く含む。

0　1:60　1.5m

第 177 図　Ⅱ区縄文時代土坑 (17)



第178図　Ⅱ区縄文時代土坑(18)

290号土坑
76.90m
1　褐色土　礫（径５㎝程度）を多く含み、硬く締まっている。

291号土坑
77.10m
1　暗褐色土　礫（径 10 ㎝以下）を多く含む。

292号土坑
77.00m
1　暗褐色土　礫（径 10 ㎝以下）を多く含む。

294号土坑　295号土坑　296号土坑
77.00m
1　暗褐色土　地山砂質土粒、小ブロック多く含む。小礫（径２㎝程度）少量含む。
2　暗褐色土　１層に類似するがより多く砂質土粒含む。

298号土坑
76.80m
1　暗褐色土　小礫（径５㎝以下）多く含む。

299号土坑
77.10m
1　黒褐色土　礫（径 10 ㎝以下）多く含む。

300号土坑
77.00m
1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径３㎝以下）、礫（径５～10 ㎝程度）を含む。

301号土坑　282号土坑
77.10m
1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径４㎝以下）、礫（径５㎝程度）を多く含む。

302号土坑
77.00m
1　黒褐色土　地山砂質土ブロック（径２㎝以下）、礫を少量含む。

304号土坑　6住P12
77.00m
1　暗褐色土　地山砂質土小ブロック（径５㎜程度）少量含む。

305号土坑　258号土坑
77.00m
1　黒褐色土　礫（５㎝以下）多く含む。

306号土坑
77.00m
1　暗褐色土　地山砂質土少量混じる。地山砂質土ブロック（径５～10 ㎜）混じる。

0　1:60　1.5m

第 179 図　Ⅱ区縄文時代土坑 (19)

307号土坑

308号土坑

77.10m

1　暗褐色土　地山砂質土を少量含む。黒色土を少量含む。
2　暗褐色土　地山砂質土を含む。地山砂質土ブロック（径5～20㎜）を含む。

312号土坑

49号住P4

77.10m

1　暗褐色土　地山砂質土粒、礫（径5㎝以下）を含む。
2　1層に類似するが、やや明るい色調である。

320号土坑

77.00m

1　黒褐色土　礫（径5㎝以下）を含む。

339号土坑

77.50m

1　暗褐色粘質土　白色軽石（径0.5～1㎜）微量混入。

314号土坑

77.20m

1　暗褐色土　地山砂質土を含む。礫（径4～5㎝）を含む。

317号土坑

77.10m

1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径3㎝以下）、礫（径5㎝以下）を含む。

321号土坑

77.00m

1　黒褐色土　地山砂質土ブロック（径3㎝以下）少量含む。
2　暗褐色土　地山砂質土粒、礫（径3㎝～10㎝程度）を多く含む。

357号土坑　356号土坑

76.90m

1　暗褐色土　地山砂質土粒を多く含む。

316号土坑

315号土坑

77.00m

1　暗褐色土　地山砂質土粒　ブロック（径5㎝以下）を多く含む。
2　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径2㎝以下）を少量含む。

319号土坑

77.10m

1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径5㎝以下）、礫（径6㎝以下）を含む。

324号土坑

76.90m

1　暗褐色土　地山砂質土粒、礫（径10㎝以下）を多く含む。

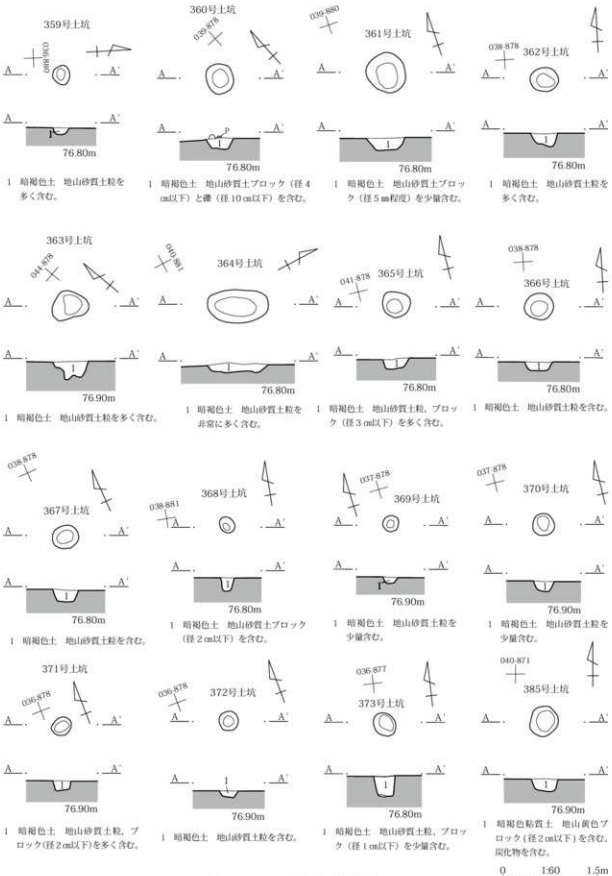
358号土坑

76.80m

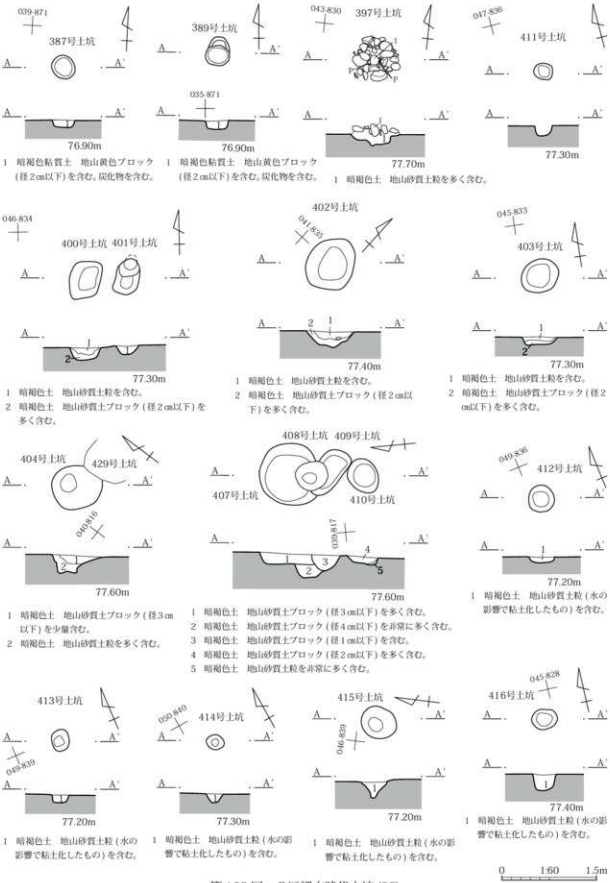
1　暗褐色土　地山砂質土粒を多く含む。

0　1:60　1.5m

第180図　Ⅱ区縄文時代土坑(20)



第181図　Ⅱ区縄文時代土坑(21)



第182図　Ⅱ区縄文時代土坑(22)

417号土坑

044.828

77.40m

1　暗褐色土　地山砂質土粒（水の影響で粘土化したもの）を含む。
2　黒褐色土　地山砂質土粒少量含む。

424号土坑

036.824

77.30m

1　暗褐色土　地山砂質土小ブロック（径１cm以下）少量含む。

425号土坑

036.822

77.30m

1　暗褐色土　地山砂質土小ブロック（径１cm以下）少量含む。

427号土坑

040.827

77.30m

1　暗褐色土　地山砂質土小ブロック（径５mm以下）少量含む。

419号土坑

420号土坑

77.40m

423号土坑

422号土坑

426号土坑

421号土坑

431号土坑

043.832

421号土坑　422号土坑　423号土坑

77.40m

426号土坑

77.40m

431号土坑

77.40m

1　暗褐色土　地山砂質土粒多量含む。
2　暗褐色土　地山砂質土粒多量含む。
3　暗褐色土　地山砂質土粒（径３cm以下）を含む。

428号土坑

038.827

77.40m

1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径２cm以下）を少量含む。
2　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径４cm以下）、地山砂質土粒を多く含む。

404号土坑

041.816

429号土坑

77.50m

1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径４cm以下）を含む。

428号土坑

037.827

432号土坑

77.40m

1　暗褐色土　地山砂質土小ブロック（径２cm以下）少量。円礫（径５cm以下）少量含む。

433号土坑

048.845

77.50m

435号土坑

045.837

77.10m

1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径３mm以下）を含む。

440号土坑

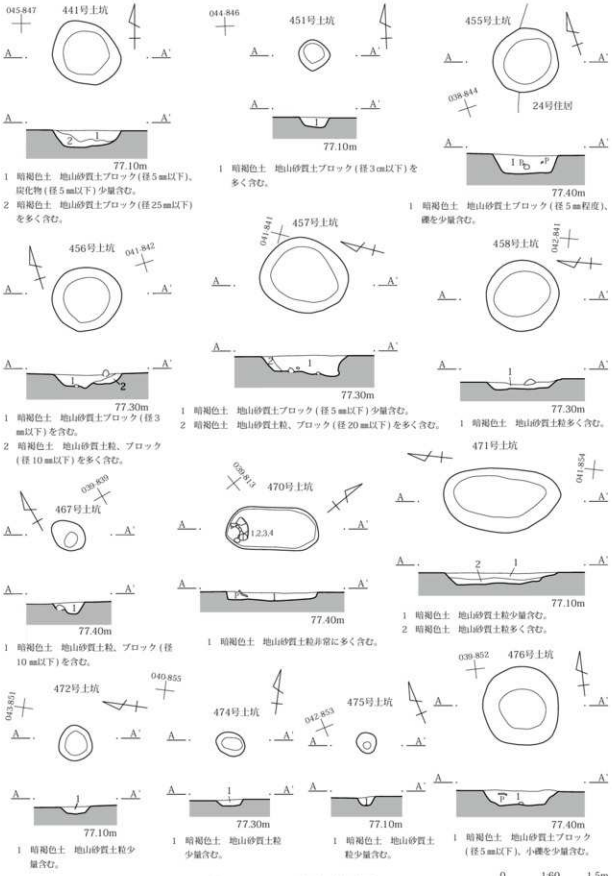
047.841

77.00m

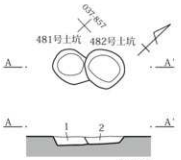
1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径５mm以下）、炭化物（径３mm以下）少量含む。

0　1:60　1.5m

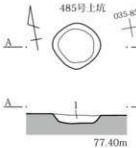
第183図　Ⅱ区縄文時代土坑(23)



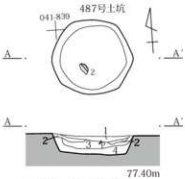
第184図　Ⅱ区縄文時代土坑(24)



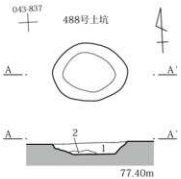
1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径 10 ㎜以下）、炭化物を含む。
2　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径 15 ㎜以下）を多く含む。



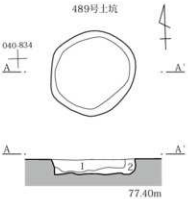
1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径 15 ㎜以下）を少量含む。



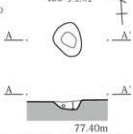
1　黒褐色土　地山砂質土粒少量含む。
2　暗褐色土　地山黄色ブロック多く含む。
3　黒褐色土　地山砂質土粒少量含む。
4　暗褐色土　地山砂質土粒多く含む。



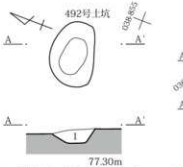
1　暗褐色土　地山砂質土粒少量含む。
2　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径 15 ㎜以下）を多く含む。



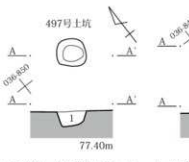
1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径 15 ㎜以下）を含む。
2　暗褐色土　地山砂質土粒、ブロック（径 30 ㎜以下）を非常に多く含む。



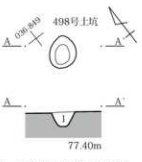
1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径 10 ㎜以下）を含む。



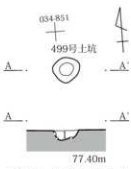
1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径 25 ㎜以下）を含む。



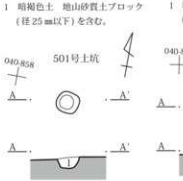
1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径 8 ㎜以下）を少量含む。



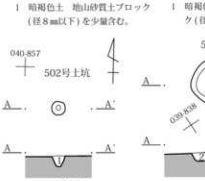
1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径 5 ㎜以下）、小礫を含む。



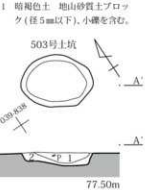
1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径 30 ㎜以下）を多く含む。



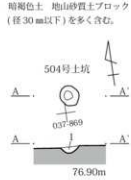
1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径 5 ㎜以下）を含む。



1　暗褐色土　地山砂質土粒を含む。



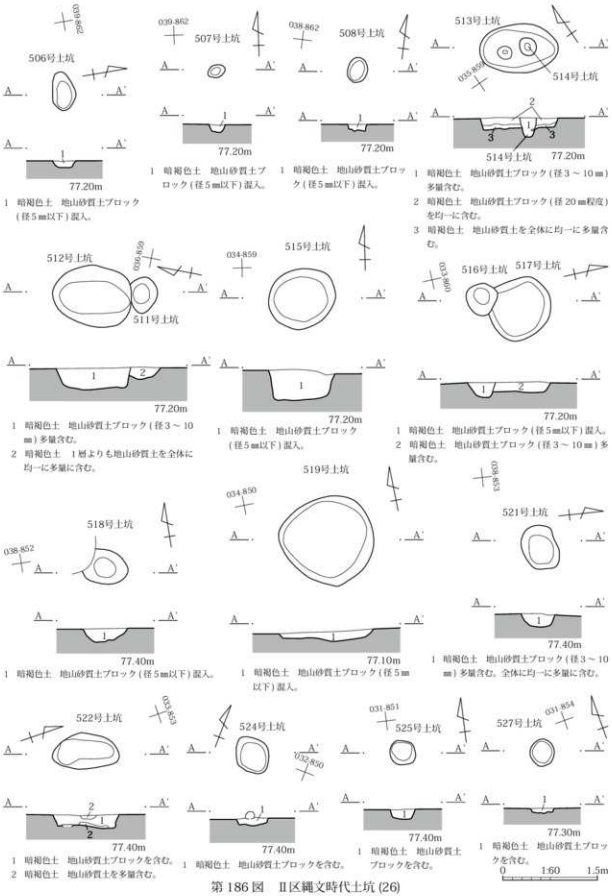
1　暗褐色土　地山砂質土ブロックを少量含む。
2　暗褐色土　地山砂質土粒を多く含む。



1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径 5 ㎜以下）を含む。

0　1:60　1.5m

第 185 図　Ⅱ区縄文時代土坑 (25)



第186図　Ⅱ区縄文時代土坑(26)

528号土坑

1　暗褐色土　地山砂質土ブロックを含む。

530号土坑　529号土坑

1　暗褐色土　地山砂質土ブロックを含む。
2　暗褐色土　地山砂質土を多量含む。

531号土坑

1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径２cm以下）、礫を少量含む。
2　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径３cm以下）を多く含む。

535号土坑

1　暗褐色土　地山砂質土を含む。

533号土坑

1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径10mm以下）を少量含む。
2　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径30mm以下）を含む。

852号土坑　534号土坑

1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径10mm以下）を少量含む。
2　暗褐色土　地山砂質土粒、ブロック（径５cm以下）を多く含む。

536号土坑

537号土坑　538号土坑

1　暗褐色土　地山砂質土を含む。
2　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径30～50mm）を含む。礫を多く含む。

542号土坑

1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径10～5mm）を少量含む。礫多い。

540号土坑　539号土坑

1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径30～10mm）を含む。
2　暗褐色土　地山砂質土を多量含む。

541号土坑

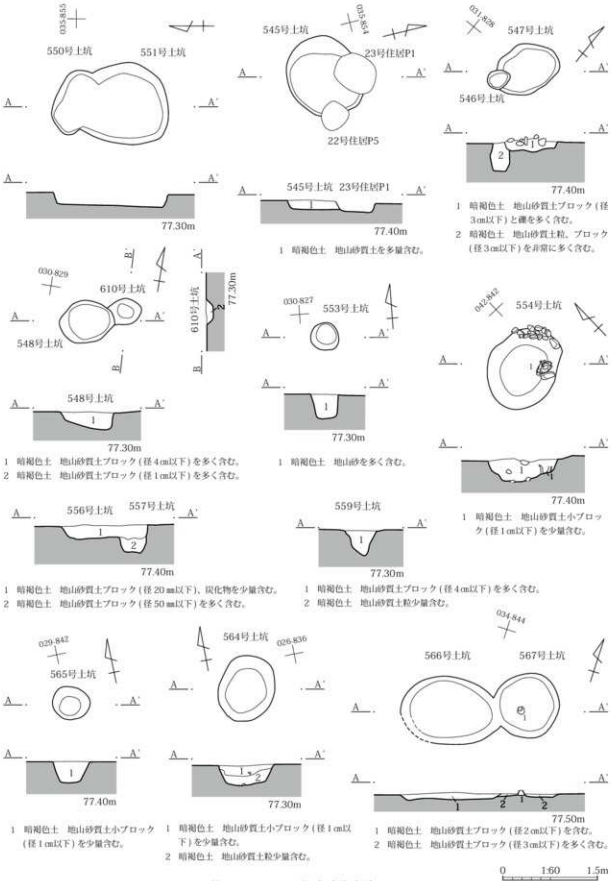
1　暗褐色土　地山砂質土を含む。

543号土坑

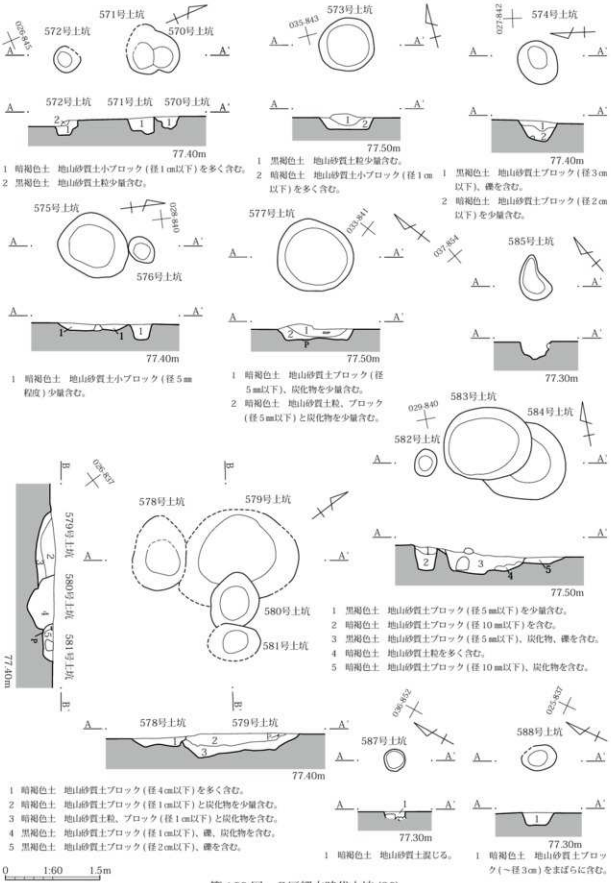
1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径３cm以下）と礫を含む。

0　1:60　1.5m

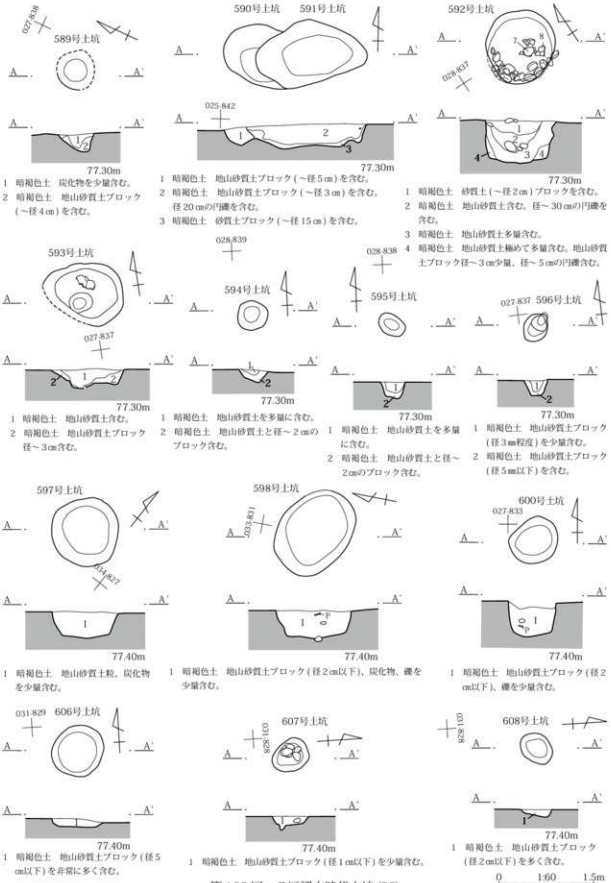
第187図　Ⅱ区縄文時代土坑(27)



第188図　Ⅱ区縄文時代土坑(28)



第189図　Ⅱ区縄文時代土坑(29)



1　暗褐色土　炭化物を少量含む。
2　暗褐色土　地山砂質土ブロック（～径4㎝）を含む。

1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（～径5㎝）を含む。
2　暗褐色土　地山砂質土ブロック（～径3㎝）を含む。径20㎝の円礫を含む。
3　暗褐色土　砂質土ブロック（～径15㎝）を含む。

1　暗褐色土　砂質土（～径2㎝）ブロックを含む。
2　暗褐色土　地山砂質土含む。径～30㎝の円礫を含む。
3　暗褐色土　地山砂質土多量含む。
4　暗褐色土　地山砂質土極めて多量含む。地山砂質土ブロック径～3㎝少量、径～5㎝の円礫含む。

1　暗褐色土　地山砂質土含む。
2　暗褐色土　地山砂質土ブロック径～3㎝含む。

1　暗褐色土　地山砂質土を多量に含む。
2　暗褐色土　地山砂質土と径～2㎝のブロック含む。

1　暗褐色土　地山砂質土を多量に含む。
2　暗褐色土　地山砂質土と径～2㎝のブロック含む。

1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径3㎜程度）を少量含む。
2　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径5㎜以下）を含む。

1　暗褐色土　地山砂質土粒、炭化物を少量含む。

1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径2㎝以下）、炭化物、礫を少量含む。

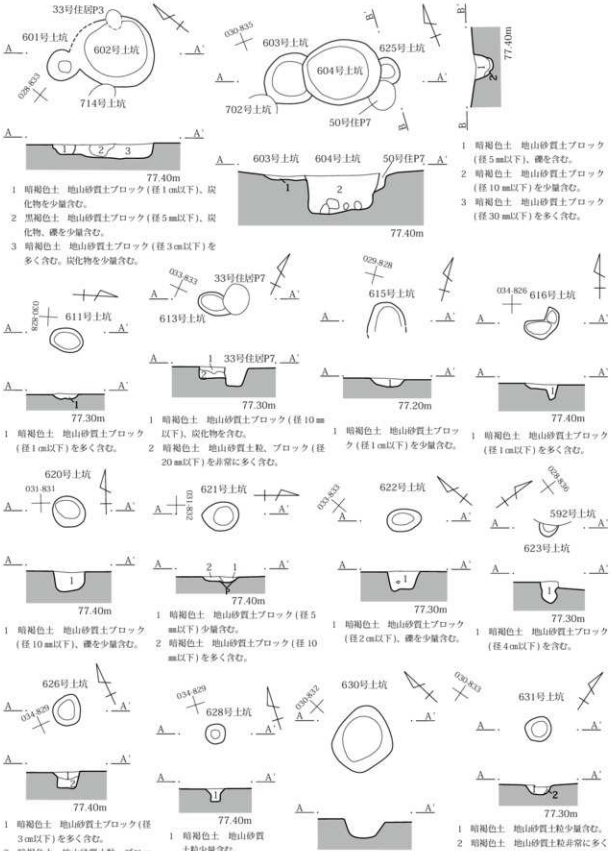
1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径2㎝以下）、礫を少量含む。

1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径5㎝以下）を非常に多く含む。

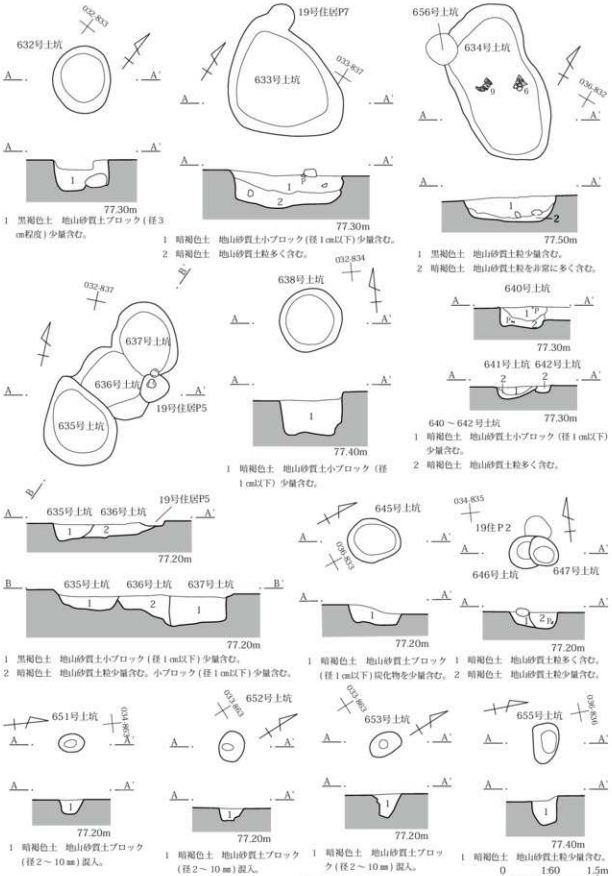
1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径1㎝以下）を少量含む。

1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径2㎝以下）を多く含む。

第190図　Ⅱ区縄文時代土坑(30)



第 191 図　Ⅱ区縄文時代土坑 (31)



第192図　Ⅱ区縄文時代土坑(32)

634号土坑
656号土坑
035.835
77.30m
1　暗褐色土　地山砂質土粒ブロック（径２cm以下）を多く含む。

19号住居P9
035.836
659号土坑
77.30m
1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径５mm以下）炭化物、礫を少量含む。全体的にややや明るい。

660号土坑
033.832
77.30m
1　暗褐色土　地山砂質土粒を少量含む。
2　暗褐色土　地山砂質土粒を非常に多く含む。

663号土坑
034.837
77.40m
1　暗褐色土　地山砂質土粒を含む。

664号土坑
035.864
77.20m
1　暗褐色土　地山砂質土粒（径３mm以下）少量含む。
2　暗褐色土　地山砂質土を少量含む。

669号土坑
030.835
77.30m
1　暗褐色土　地山砂質土粒を多く含む。

671号土坑
031.844
77.40m
1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径５mm以下）を少量含む。

728号土坑
032.840
670号土坑

672号土坑
033.863
77.20m
1　暗褐色土　地山砂質土粒（径２～４mm）少量混入。

673号土坑
033.864
77.20m
1　暗褐色土　地山砂質土粒（径２～４mm）少量混入。

674号土坑
032.843
77.40m
1　暗褐色土　地山砂質土粒、ブロック（径１cm以下）を多く含む。

670号土坑
77.40m
728号土坑
670号土坑
77.50m
1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径３cm以下）、炭化物、礫を少量含む。
2　暗褐色土　地山砂質土粒（径２～３mm）微量混入。

675号土坑
037.832
77.10m
1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径３cm以下）を少量含む。

860号土坑
037.831
28号住居P25
677号土坑
28号住居P22
678号土坑
77.10m

677号土坑
678号土坑
P22
77.40m
1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径５mm以下）、小礫、炭化物を含む。
2　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径５mm以下）、炭化物を含む。

682号土坑
033.836
77.20m
1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径５mm以下）を少量含む。炭化物、焼土粒を少量含む。

0　1:60　1.5m

第193図　Ⅱ区縄文時代土坑(33)

684号土坑

687号土坑

021.844

77.20m

1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径2cm以下）、礫（径10cm以下）を含む。

688号土坑

022.843

77.20m

689号土坑

025.842

77.30m

1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径5mm以下）、礫（径10cm以下）を少量含む。

690号土坑

022.841

77.20m

696号土坑

032.829

77.40m

692号土坑

031.832

77.40m

1　暗褐色土　地山砂質土粒、ブロック（径5cm以下）を多く含む。

700号土坑

030.829

77.30m

1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径5mm以下）を含む。

704号土坑

023.842

687号土坑

684号土坑

77.20m

1　黒褐色土　地山砂質土ブロック（径5mm以下）、小礫（径10mm以下）を少量含む。
2　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径5cm以下）、礫（径15cm以下）、炭化物を含む。

697号土坑

031.838

606号土坑

77.40m

1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径1cm以下）　炭化物を含む。

704号土坑

023.841

687号土坑

687号土坑

77.30m

1　黒褐色土　地山砂質土ブロック（径3mm以下）、小礫（径10mm以下）、炭化物を少量含む。
2　暗褐色土　1層に似るが、色調明るい。

701号土坑

029.836

702号土坑

77.30m

1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径3mm以下）、炭化物を含む。
2　暗褐色土　地山砂質土粒を含む。
3　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径30mm以下）を多く含む。

703号土坑

026.844

77.20m

1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径1cm以下）、礫（径3cm程度）を少量含む。
2　暗褐色土　地山砂質土粒、ブロック（径2cm以下）を非常に多く含む。

709号土坑

034.822

77.30m

1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径5mm以下）を含む。

710号土坑

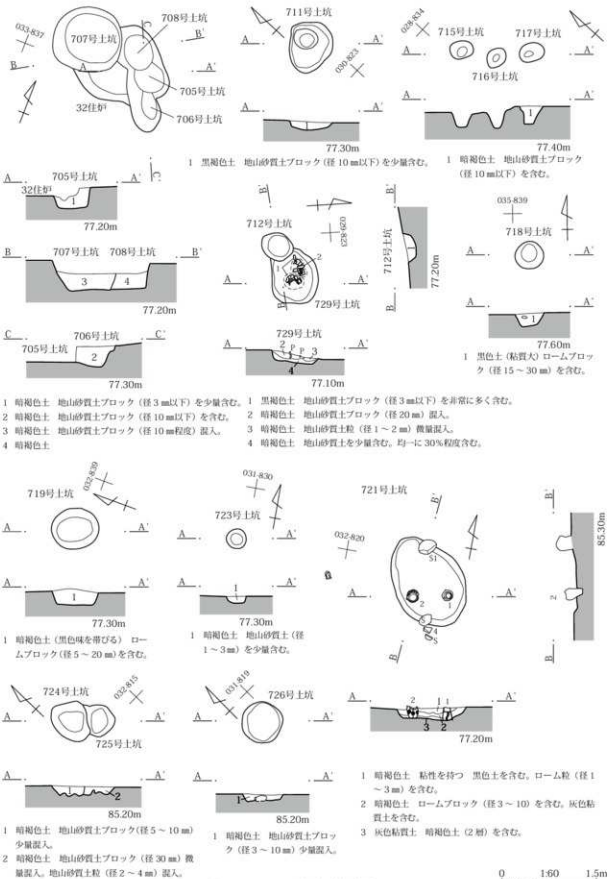
033.823

77.30m

1　黒褐色土　地山砂質土ブロック（径10mm以下）を少量含む。

0　1.60　1.5m

第194図　Ⅱ区縄文時代土坑(34)



1　黒褐色土　地山砂質土ブロック（径 10 ㎝以下）を少量含む。

1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径 10 ㎝以下）を含む。

1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径 3 ㎜以下）を少量含む。
2　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径 10 ㎝以下）を含む。
3　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径 10 ㎝程度）混入。
4　暗褐色土

1　黒褐色土　地山砂質土ブロック（径 3 ㎜以下）を非常に多く含む。
2　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径 20 ㎝）混入。
3　暗褐色土　地山砂質土粒（径 1 ～ 2 ㎝）微量混入。
4　暗褐色土　地山砂質土を少量含む。均一に 30％程度含む。

1　暗褐色土（黒色味を帯びる）　ロームブロック（径 5 ～ 20 ㎝）を含む。

1　暗褐色土　地山砂質土（径 1 ～ 3 ㎝）を少量含む。

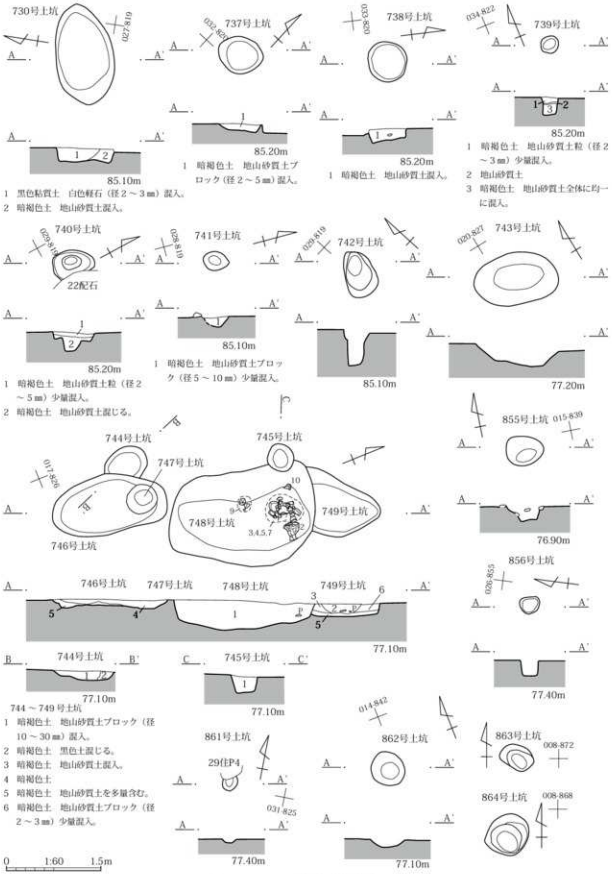
1　黒褐色土（粘質大）ロームブロック（径 15 ～ 30 ㎝）を含む。

1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径 5 ～ 10 ㎝）少量混入。
2　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径 30 ㎝）微量混入。地山砂質土粒（径 2 ～ 4 ㎝）混入。

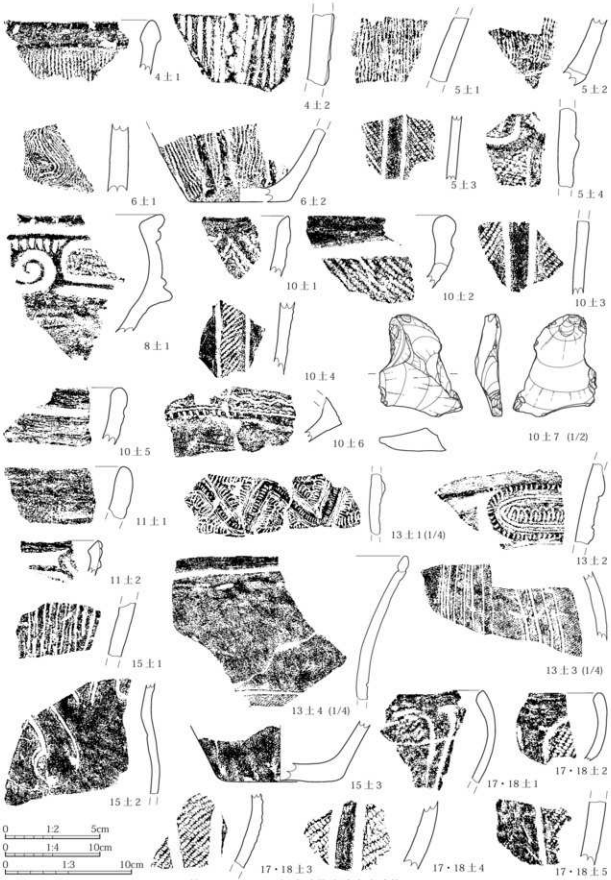
1　暗褐色土　地山砂質土ブロック（径 3 ～ 10 ㎝）少量混入。

1　暗褐色土　粘性を持つ　黒色土を含む。ローム粒（径 1 ～ 3 ㎝）を含む。
2　暗褐色土　ロームブロック（径 3 ～ 10）を含む。灰色粘質土を含む。
3　灰色粘質土　暗褐色土（2 層）を含む。

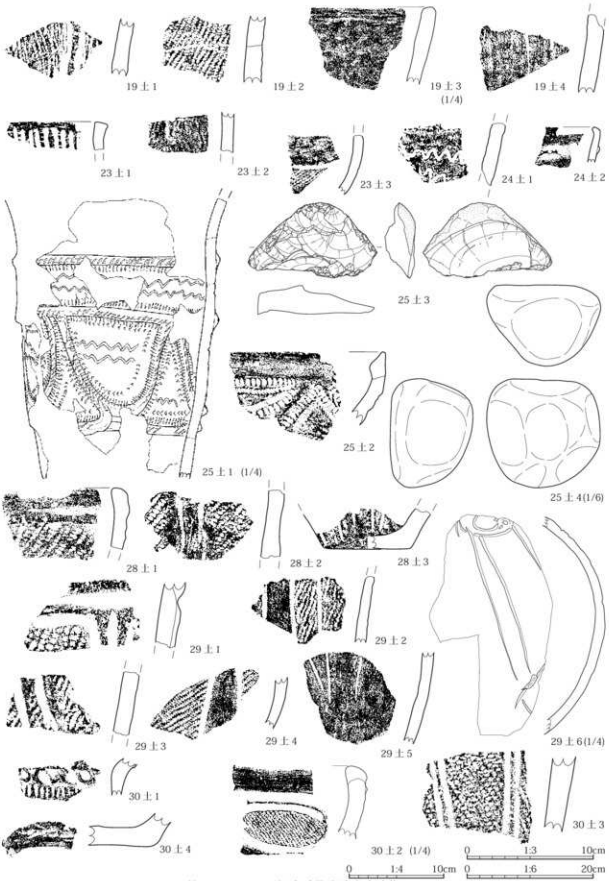
第 195 図　Ⅱ区縄文時代土坑 (35)



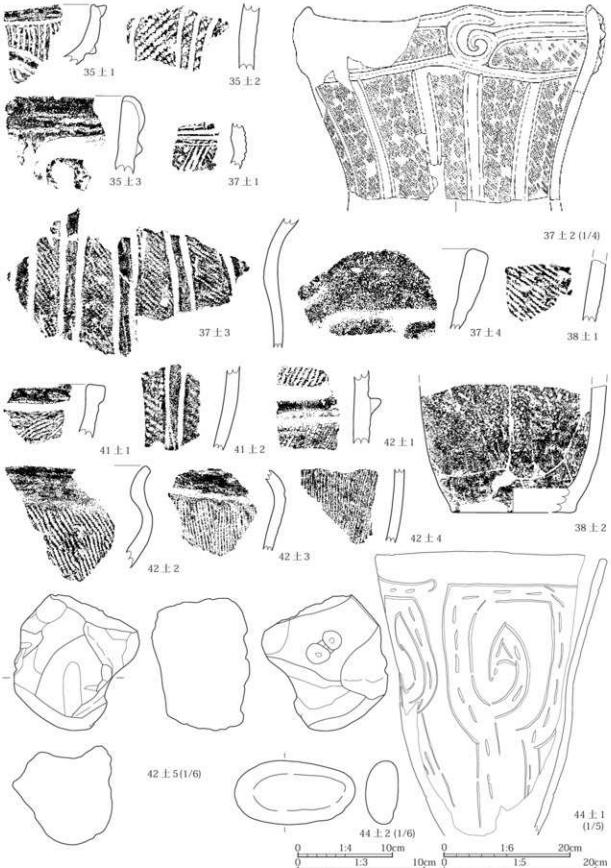
第196図　Ⅱ区縄文時代土坑(36)



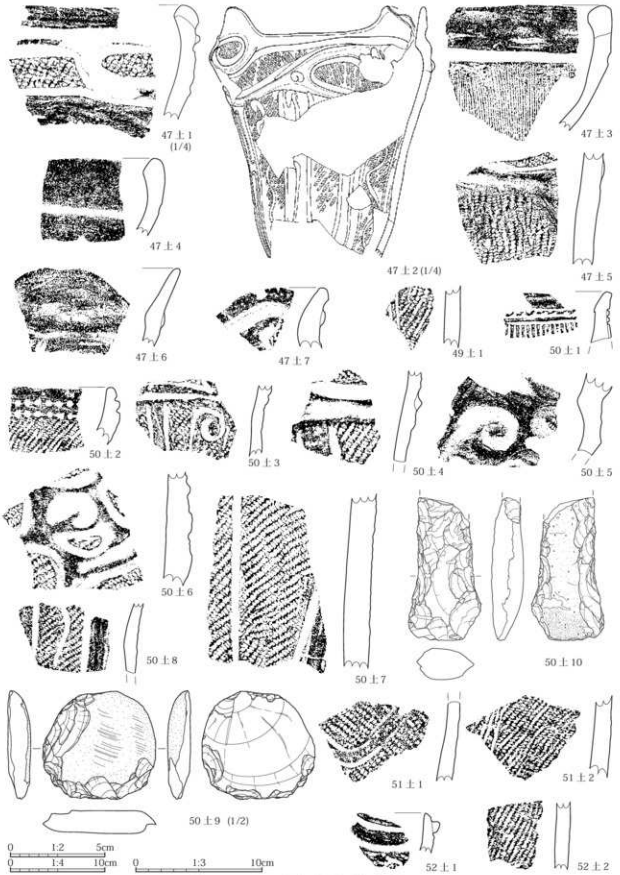
第 197 図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物 (1)



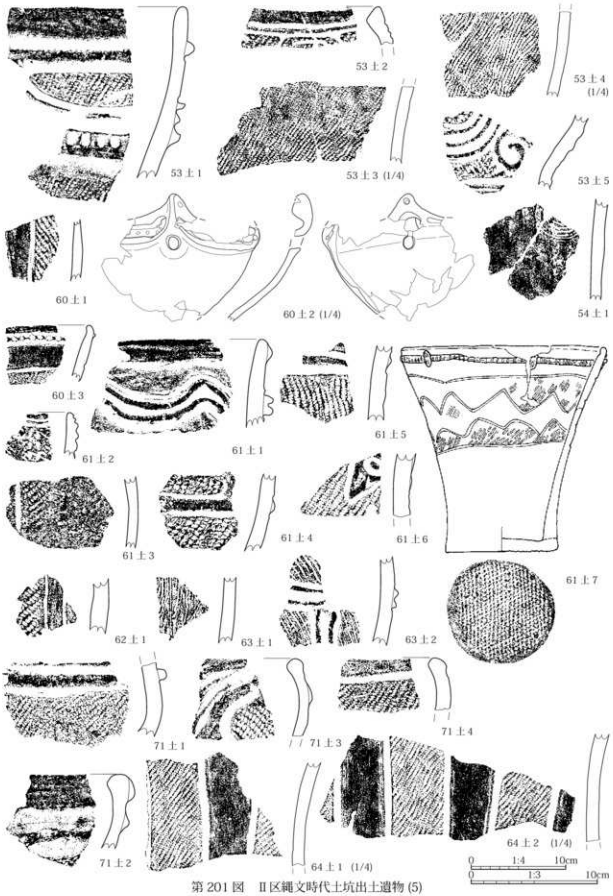
第198図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物(2)



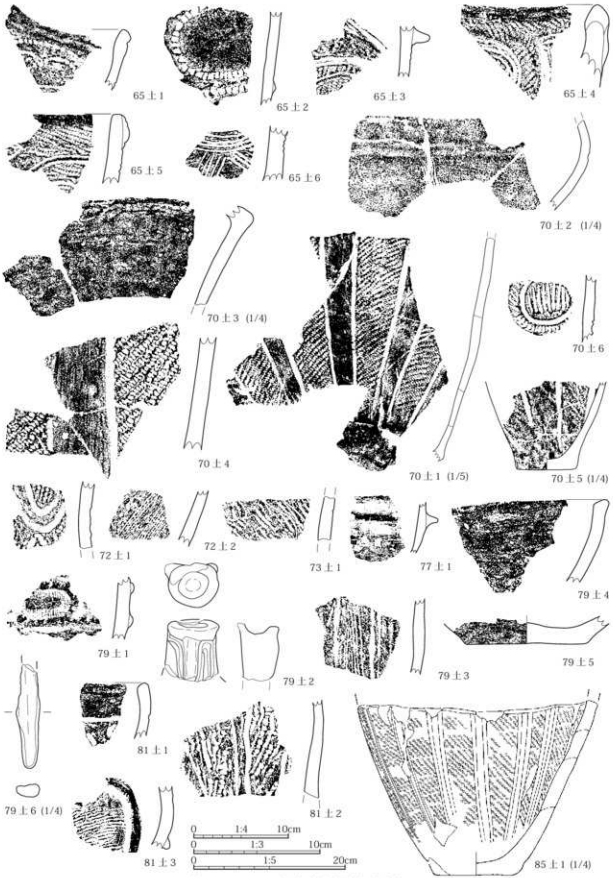
第 199 図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物 (3)



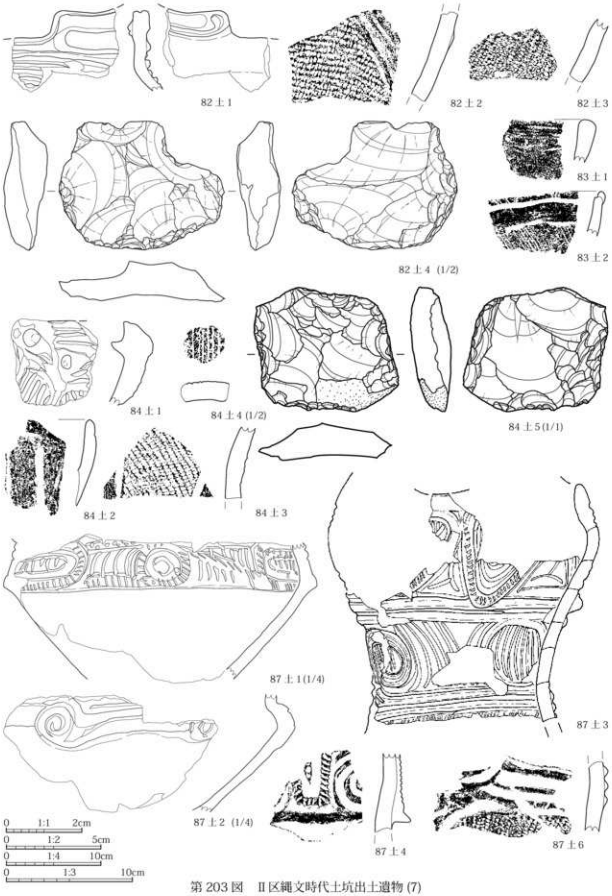
第 200 図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物 (4)



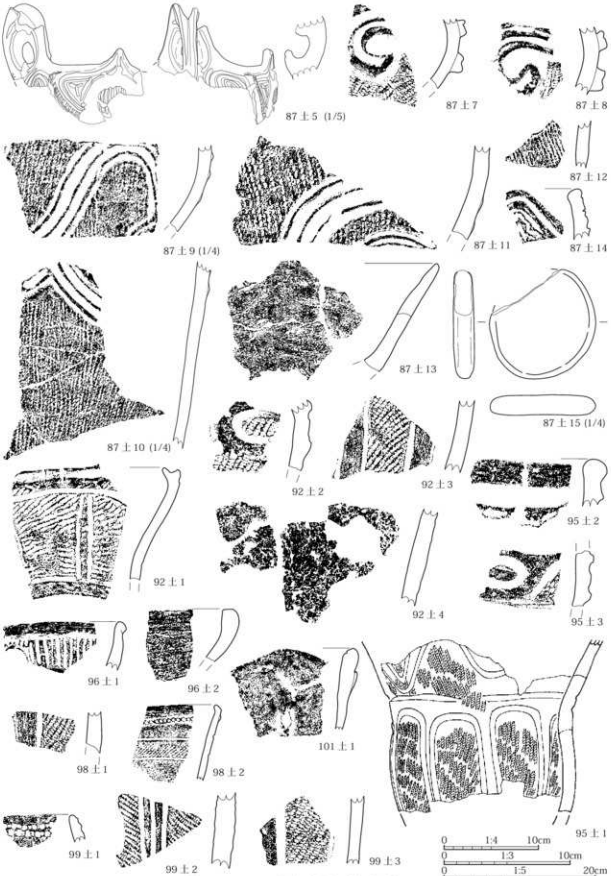
第 201 図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物 (5)



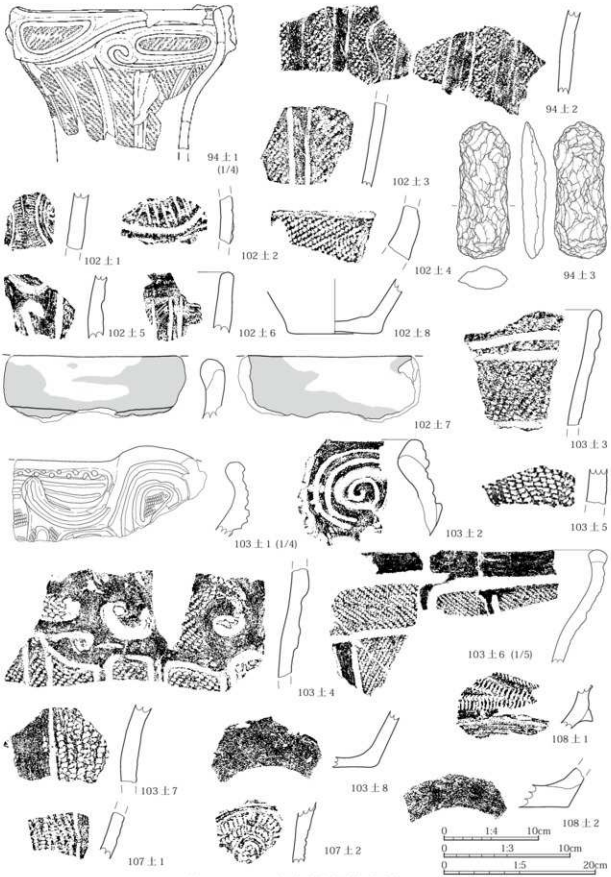
第202図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物 (6)



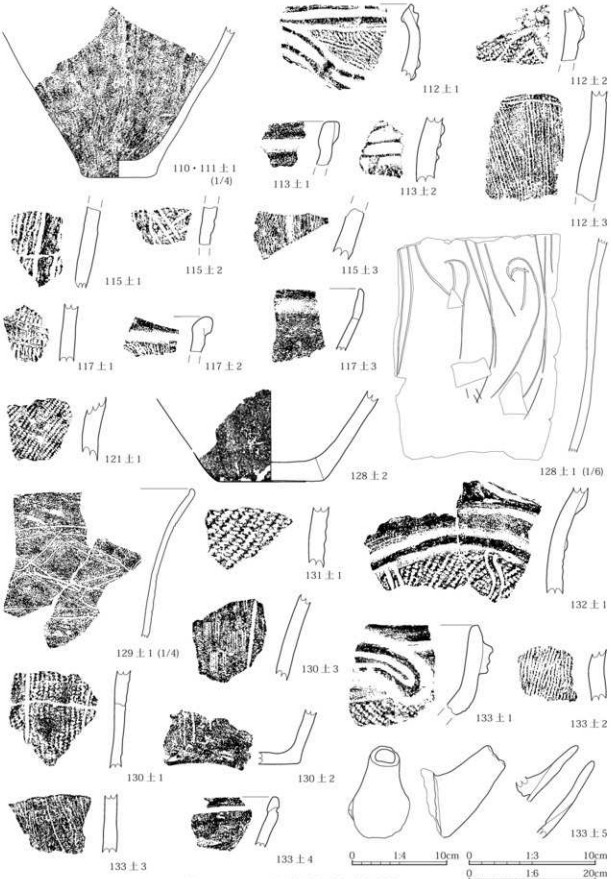
第 203 図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物 (7)



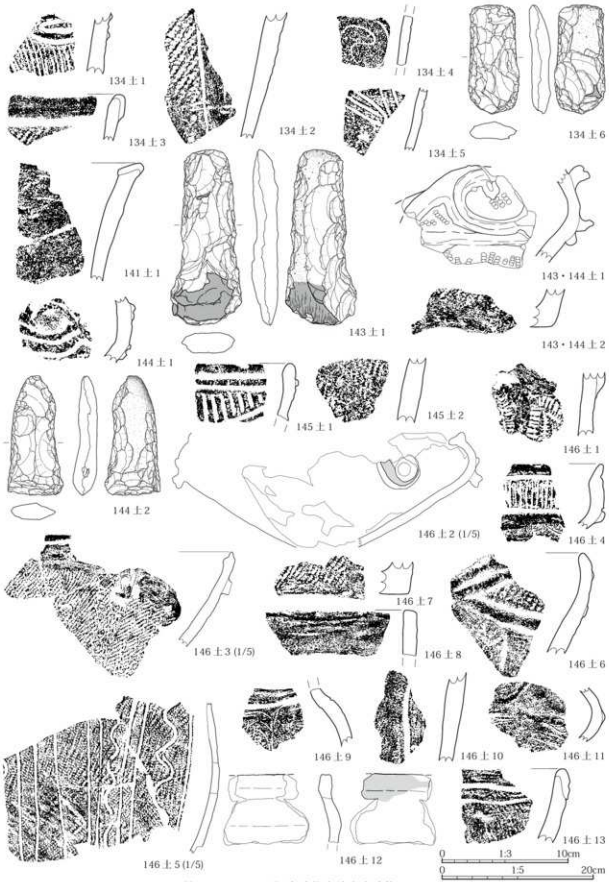
第 204 図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物 (8)



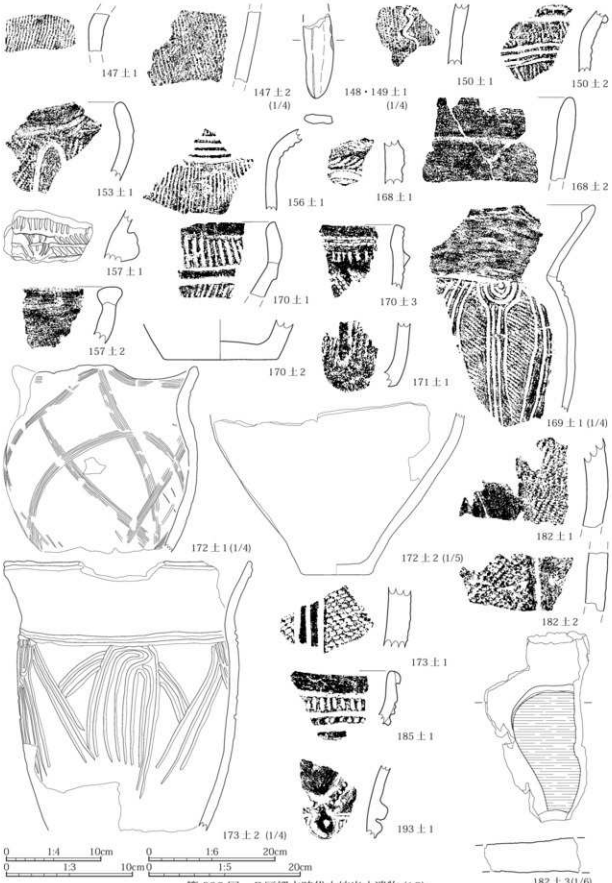
第 205 図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物 (9)



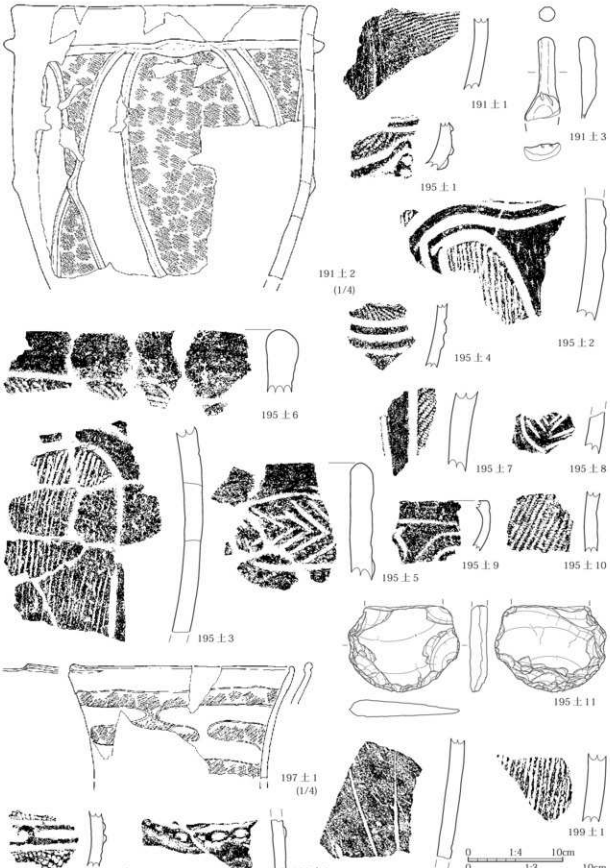
第 206 図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物 (10)



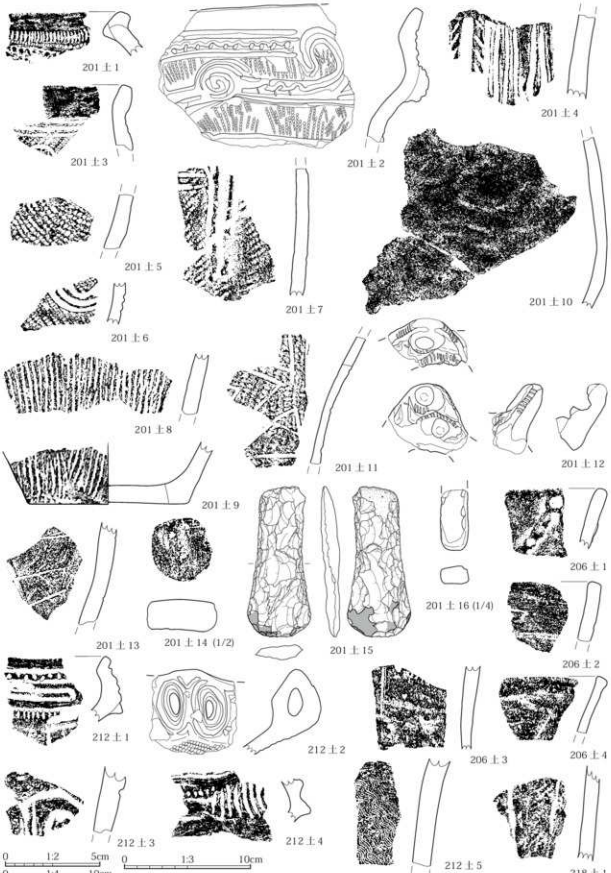
第 207 図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物 (11)



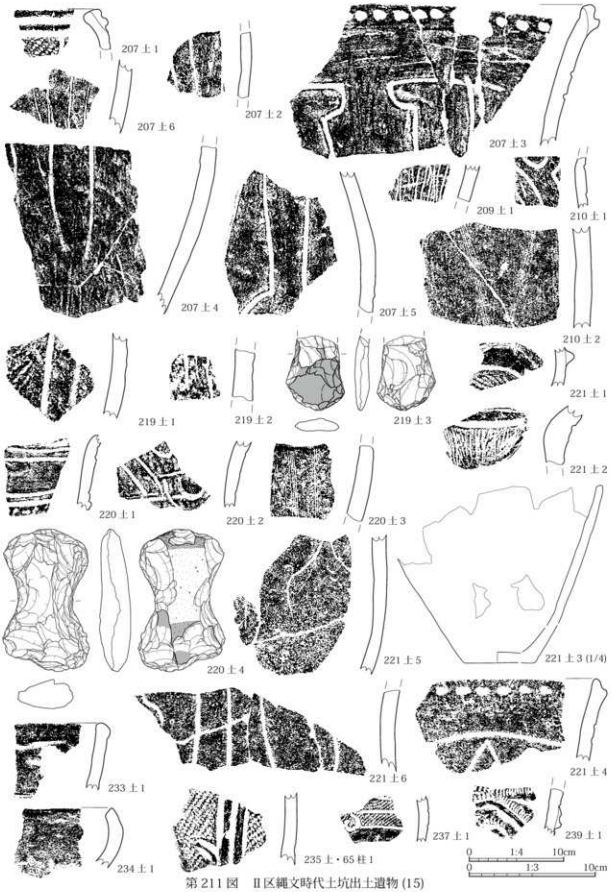
第 208 図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物 (12)



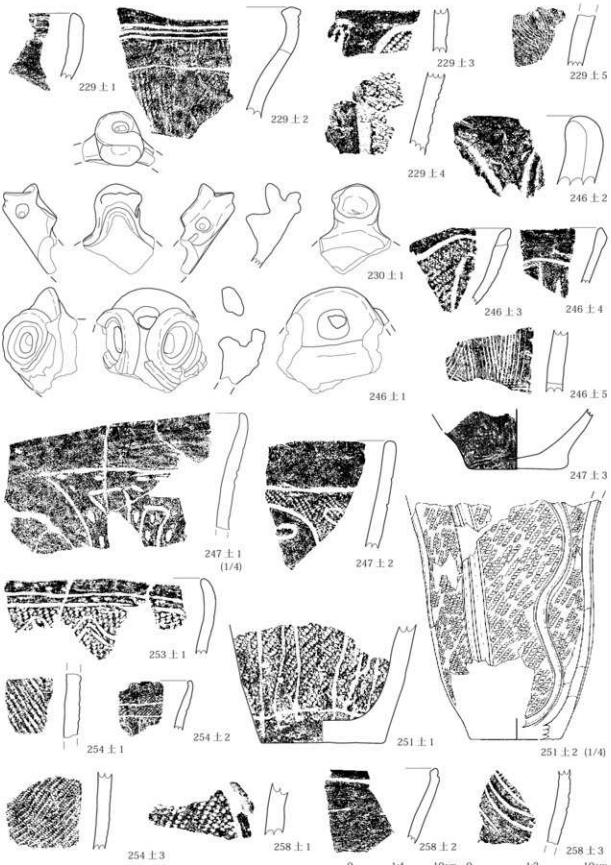
第 209 図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物 (13)



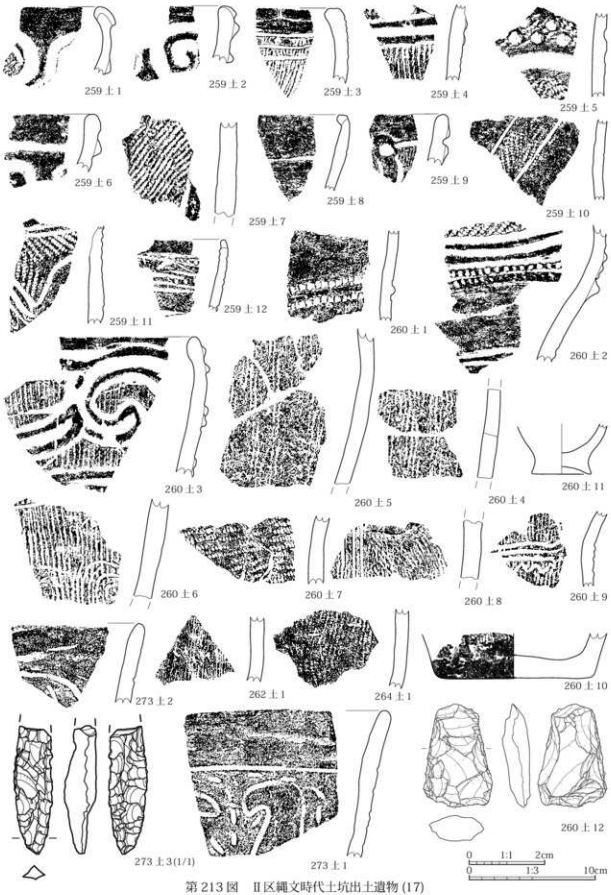
第 210 図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物 (14)



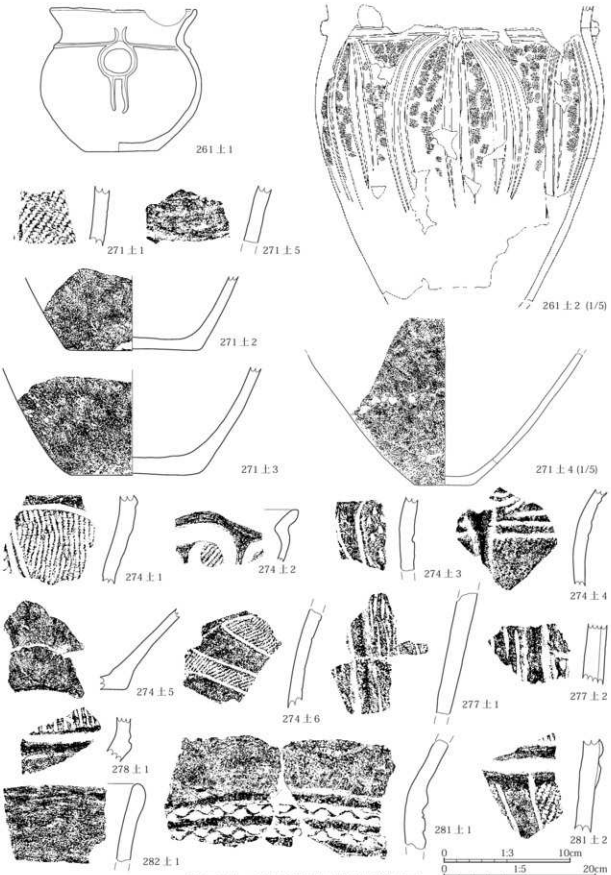
第 211 図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物 (15)



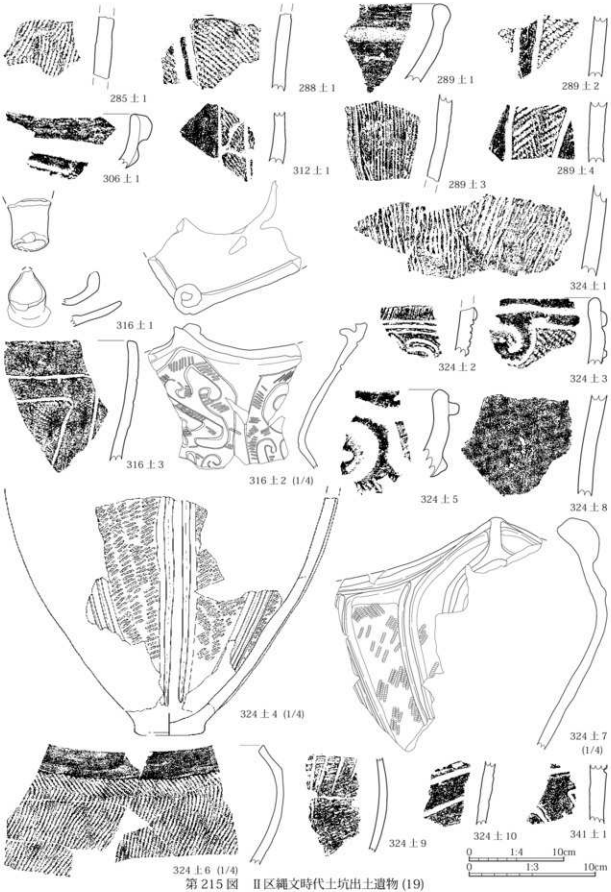
第 212 図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物 (16)



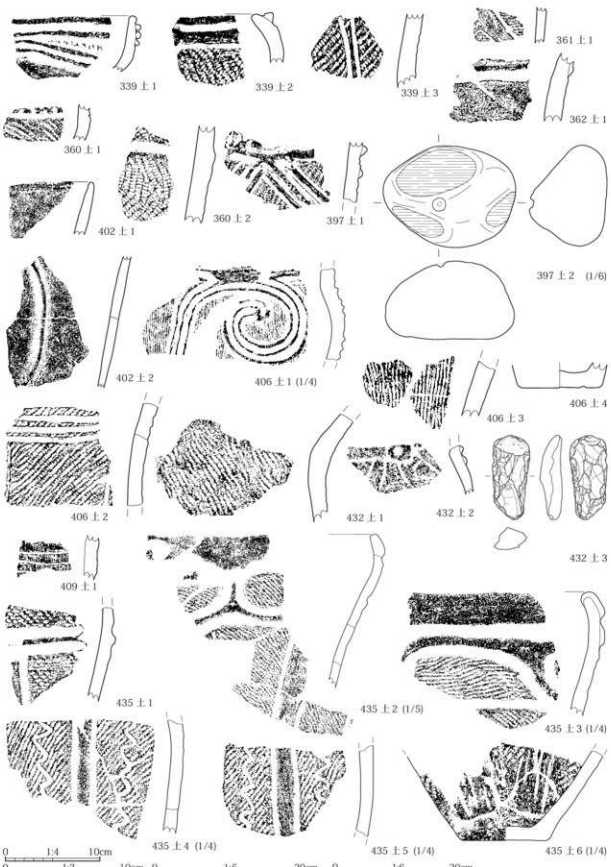
第 213 図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物 (17)



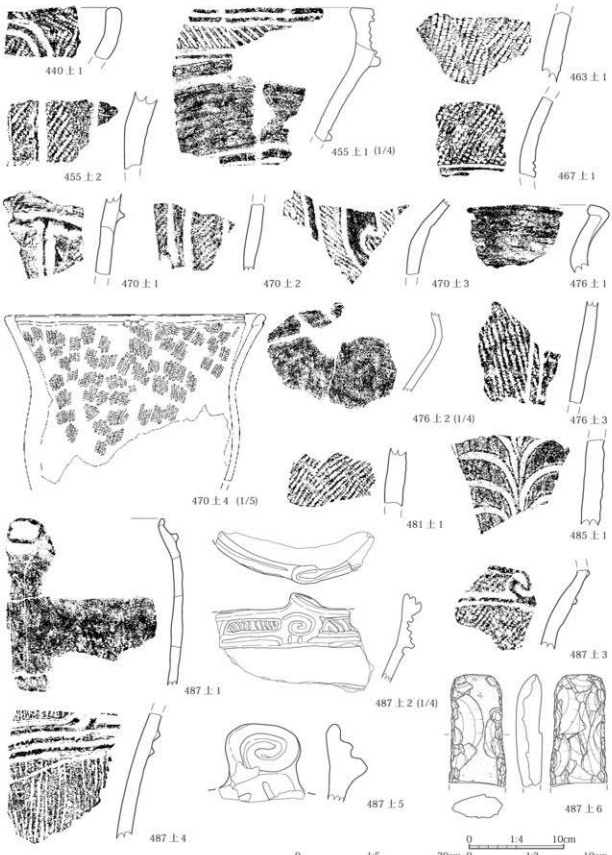
第214図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物(18)



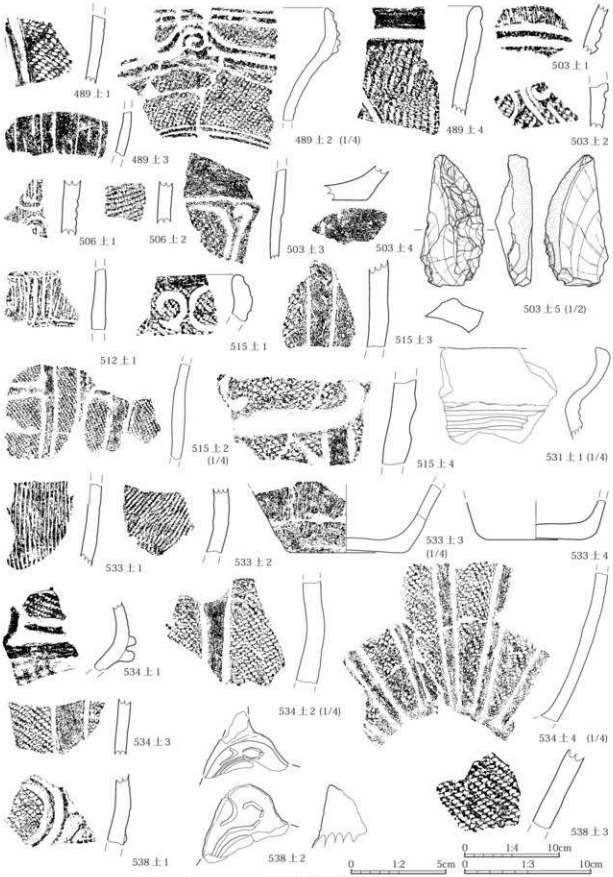
第 215 図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物 (19)



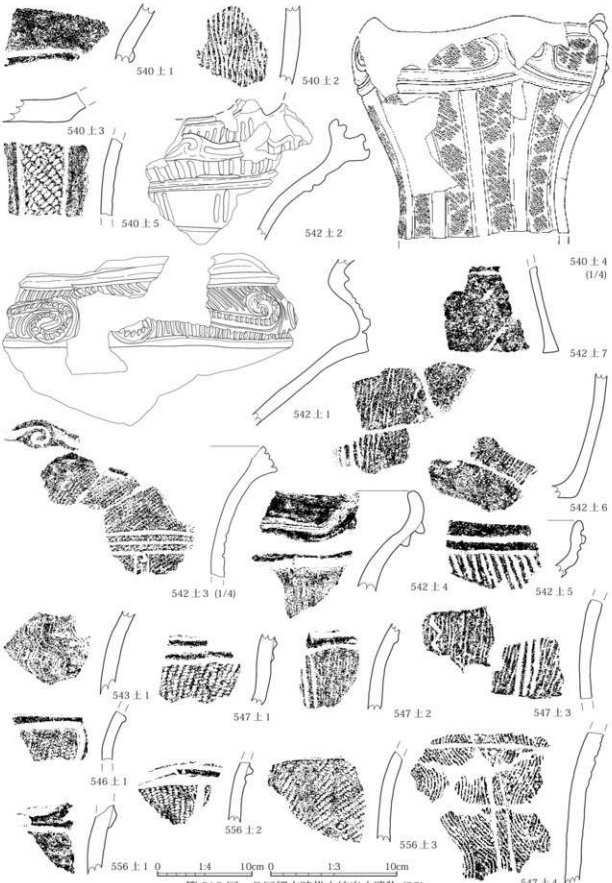
第 216 図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物 (20)



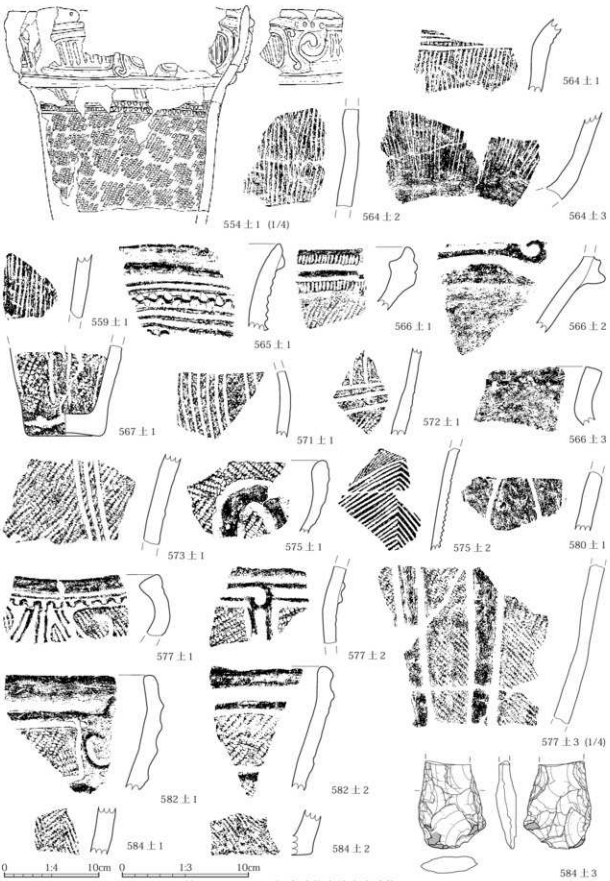
第 217 図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物 (21)



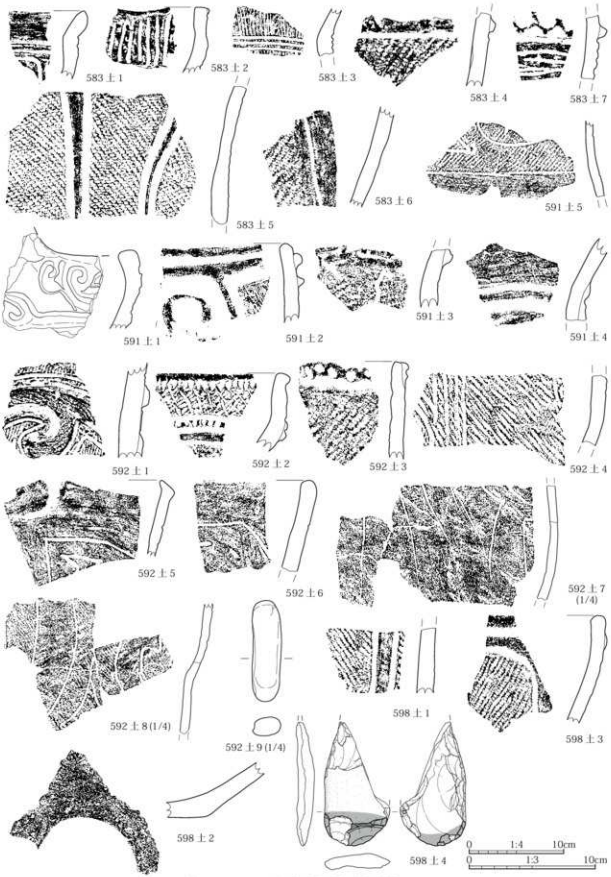
第 218 図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物 (22)



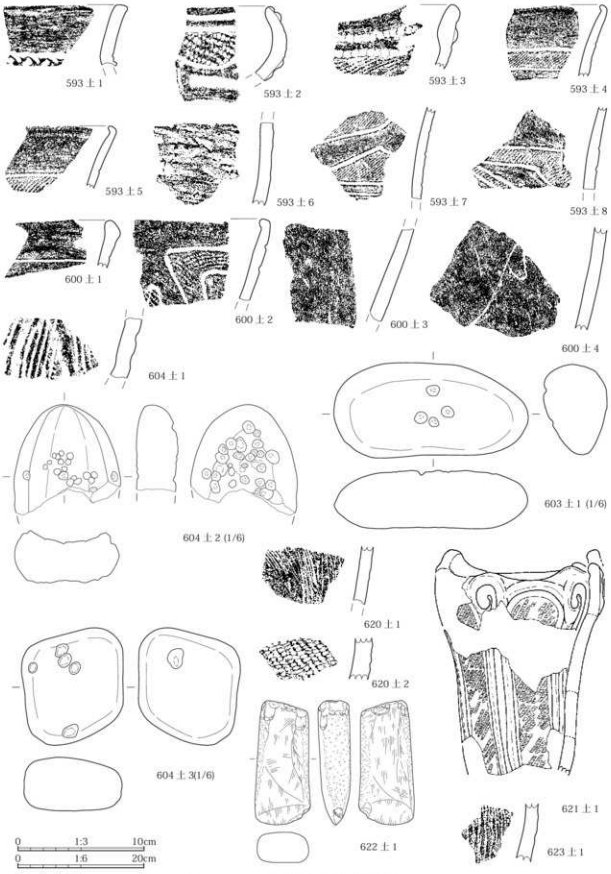
第 219 図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物 (23)



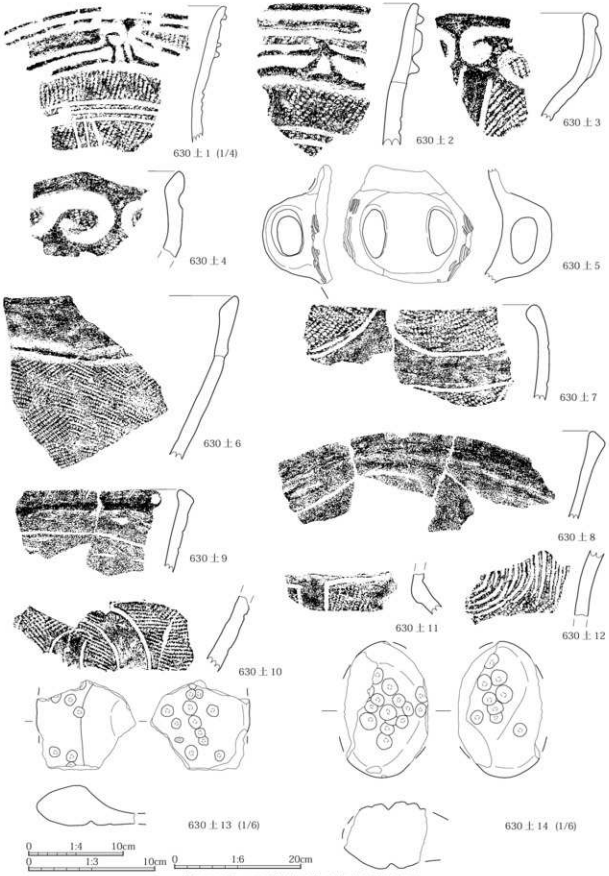
第 220 図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物 (24)



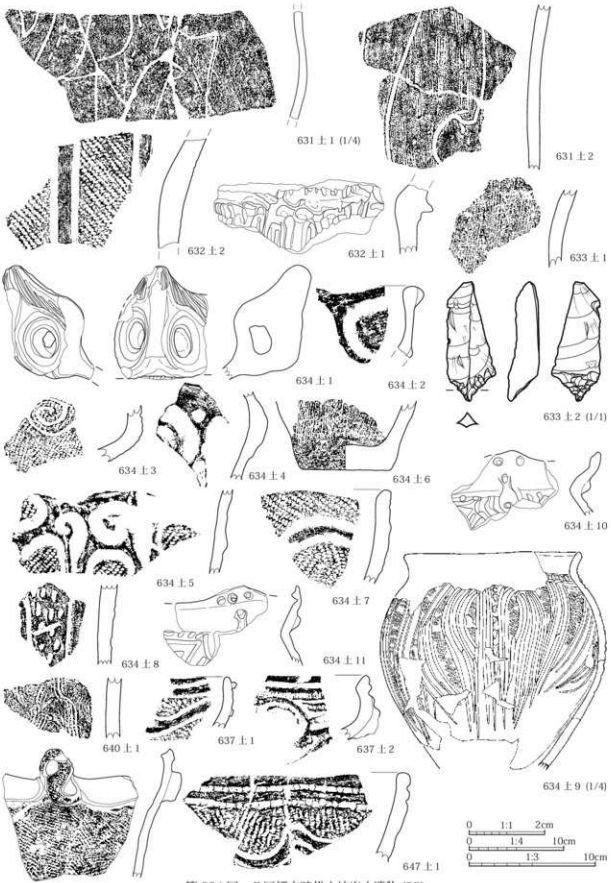
第 221 図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物 (25)



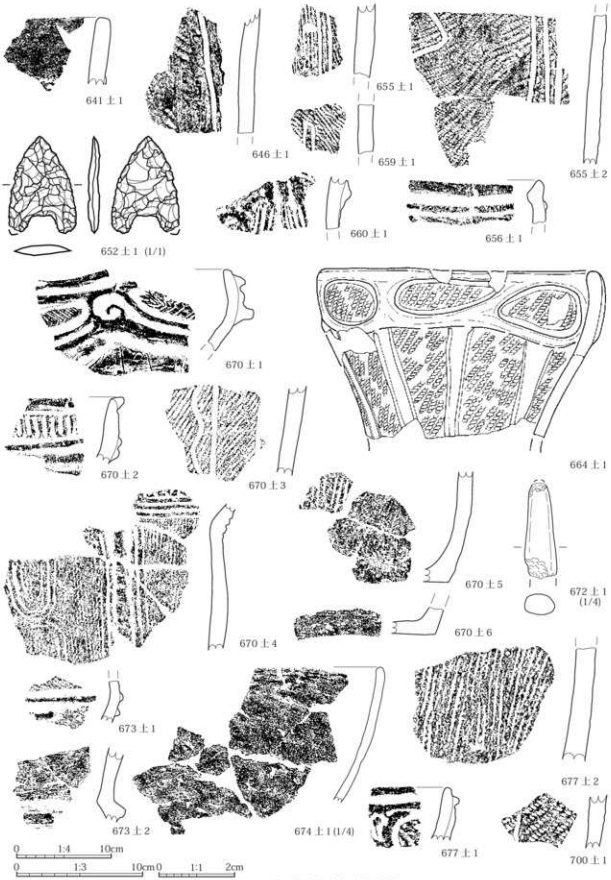
第 222 図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物 (26)



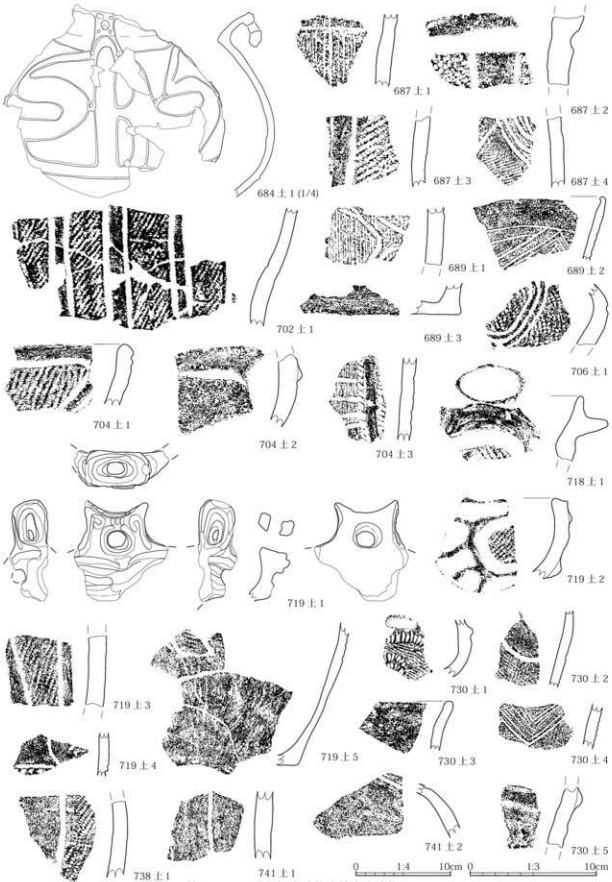
第 223 図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物 (27)



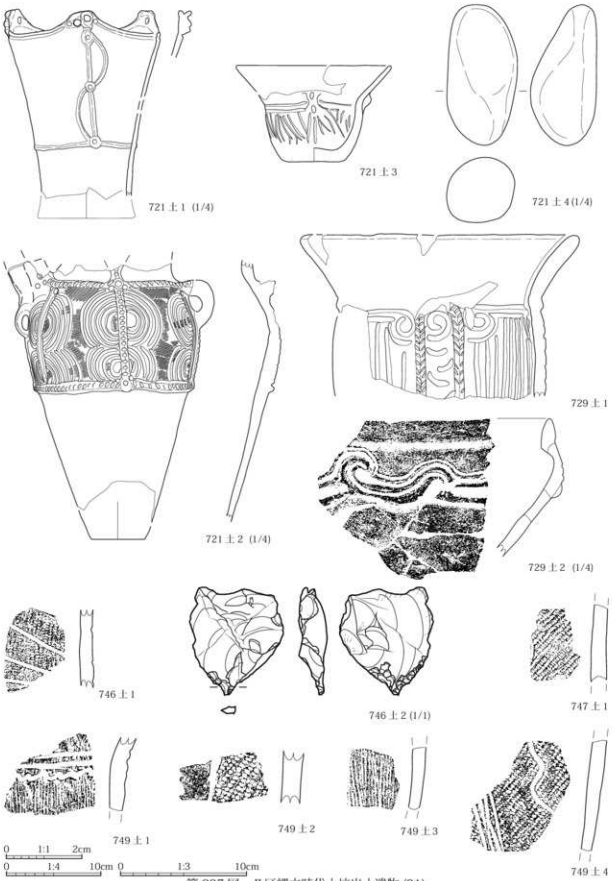
第 224 図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物 (28)



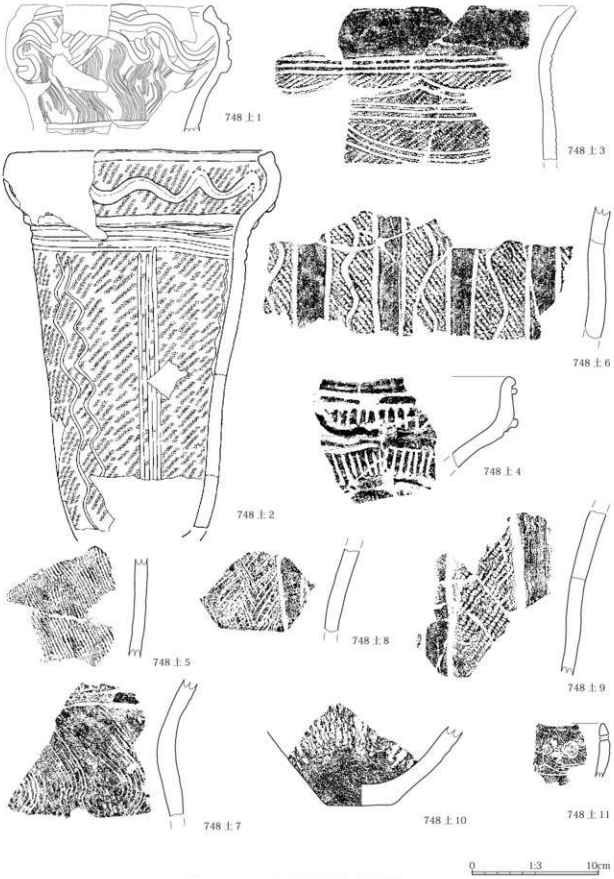
第 225 図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物 (29)



第 226 図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物 (30)



第 227 図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物 (31)



第 228 図　Ⅱ区縄文時代土坑出土遺物 (32)